

平成 23 年度

川崎市立中学校
学習状況調査
報告書

川崎市教育委員会・川崎市立中学校長会

はじめに

川崎市教育委員会
教育長 金井 則夫

川崎市立中学校学習状況調査（川崎市立中学校学習診断テスト）は、「かわさき教育プラン」の「学校の教育力を高め、確かな学力を育成する」という重点施策に則り、平成17年度より市立中学校の全生徒を対象に実施しております。調査の目的は、生徒の学習状況及び生活や学習についての意識を客観的に把握し、指導方法等の改善に役立てること、生徒の学習状況を保護者に伝え、家庭での学習の在り方の改善に役立てることです。

調査は、国語、社会、数学、理科、英語の各教科に関するテストとともに、2年生においては生活や学習についてのアンケートをあわせて実施しております。

アンケートの結果について、平成17年度のもの和本年度のものを比較いたしますと、学校生活や学習に対する生徒の意識が少しずつ改善していることが読み取れます。具体的には「学校生活は、楽しいですか」という設問に対して「楽しい」と回答した生徒の割合が5.2ポイント、「勉強は、好きですか」という設問に対して「好きだ」と回答した生徒の割合が1.1ポイント、「勉強をすることは、大切なことだと思いますか」という設問に対して「大切だ」と回答した生徒の割合が10.2ポイント、いずれも上昇しております。

このことは、各学校におけるさまざまな取組の成果の表れであると確信しております。今後とも、生徒の意識の向上が図られますようお願いいたします。

各教科の問題作成にあたりましては、基礎的・基本的な知識・技能に関する問題とともに思考力、判断力、表現力等に関する問題について、これまで以上に質の高い出題ができるよう、各教科の作問委員の皆様にご協力いただき内容を検討を重ねていただきました。また、調査が日頃の指導の改善に役立てられるよう、本報告書の作成にもご尽力いただきました。感謝申し上げます。

各学校におかれましては、本調査の趣旨をご理解のうえ、調査結果を指導方法や教育課程編成の改善等にご活用いただきたく存じます。

最後になりますが、本調査の運営・実施にあたってご尽力いただきました中学校現職教育委員会をはじめとする中学校校長会に厚くお礼申し上げます。

平成 23 年度「川崎市立中学校学習診断テスト」のまとめにあたって

川崎市立中学校長会長
深澤 恵

この4月より新しい学習指導要領が全面実施となります。新しい学習指導要領では、確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成の双方が重要であることが述べられております。各学校におかれましては、このような趣旨の実現に向けて教育課程の編成等に取り組まれていることと存じます。

川崎市では、本年度より「かわさき教育プラン」第4期実行計画が実施されています。確かな学力の育成は「かわさき教育プラン」においても大きな柱であり、川崎市立中学校学習状況調査は、本市の子どもたちの確かな学力の育成のための事業の一つとして位置付けられております。

川崎市立中学校学習診断テストは、昭和43年度より校長会の委託事業として市内の全中学生を対象に毎年実施されております。平成17年度からは「かわさき教育プラン」に則り、2年生については川崎市立中学校学習状況調査として5教科のテストとともに、生活や学習についてのアンケートもあわせて実施しています。

5教科のテストの内容につきましては、各教科の基礎的・基本的な事項について出題していますが、新しい学習指導要領に円滑に移行できるよう思考力・判断力・表現力等を問う問題についても盛り込んでおります。各教科の作問委員の皆様には問題作成にあたり、多大なご尽力をいただきました。

本報告書は、5教科に関する調査について出題の趣旨や正答および今後の指導にあたっての留意点等をまとめております。また、生活や学習のアンケートによる本市の生徒の状況の調査結果と分析を掲載いたしました。各学校におかれまして、市全体の結果や分析をもとに、自校の結果や分析を行うことで、教育課程の編成や指導方法の改善等に生かし、生徒の学力向上に結び付けていただきたいと思います。

最後になりますが、学習診断テストの実施に際しまして、ご尽力いただきました川崎市教育委員会、校長会、現職教育委員会及び教育研究会の各教科部会、教頭会の皆様には多大な労苦をおかけしました。心より感謝申し上げます。

目次

I 調査の概要

| | |
|------------------|---|
| 1. 調査の目的 | 5 |
| 2. 調査の内容 | 5 |
| 3. 調査の対象 | 5 |
| 4. 調査実施日及び調査対象人数 | 5 |
| (1) 調査実施日 | 5 |
| (2) 調査対象人数 | 5 |

II 調査結果の概要

| | |
|---------------|----|
| 1. 国語 | 9 |
| 誤答分析と学習指導上の考察 | 9 |
| 2. 社会 | 29 |
| 誤答分析と学習指導上の考察 | 29 |
| 3. 数学 | 49 |
| 誤答分析と学習指導上の考察 | 49 |
| 4. 理科 | 69 |
| 誤答分析と学習指導上の考察 | 69 |
| 5. 英語 | 93 |
| 誤答分析と学習指導上の考察 | 93 |

III 生活や学習についてのアンケート

| | |
|-------------|-----|
| 調査の概要 | 111 |
| 調査結果と分析 | 112 |
| 単純集計 | 112 |
| クロス集計 | 121 |
| 各教科の正答率との相関 | 129 |
| 資料 調査結果集計表 | 132 |

IV 問題用紙・解答用紙・アンケート質問紙

| | |
|-----------------|-----|
| 国語 | 141 |
| 社会 | 168 |
| 数学 | 200 |
| 理科 | 214 |
| 英語 | 248 |
| 生活や学習についてのアンケート | 278 |

I 調査の概要

1. 調査の目的

全市的な規模で生徒の学習状況を調査することにより、学習指導上の課題を明らかにする。その結果を、各学校においては、今後の学習指導法の改善や教育課程編成の工夫等、生徒の基礎学力の向上に役立てる。

2. 調査の内容

○国語・社会・数学・理科・英語

調査の目的に基づき、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項について、各教科の出題範囲に基づいて、全学年を対象とする調査を実施した。

○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

生徒の生活や学習に対する意識等について明らかにするために、第2学年の生徒を対象とする調査を実施した。

3. 調査の対象

市内全市立中学校の全学年の生徒

4. 調査実施日及び調査対象人数

| | | |
|-----------|-----------------|--------|
| (1)調査実施日 | 平成23年11月8日（火） | |
| (2)調査対象人数 | 中学校第1学年 | 9,571人 |
| | 中学校第2学年 | 9,143人 |
| | 中学校第3学年 | 9,077人 |
| | 生活や学習についてのアンケート | 8,680人 |

Ⅱ 調査結果の概要

平成 23 年度

川崎市立中学校 学習診断テスト 国語科

誤答分析と学習指導上の考察

川崎市教育委員会
川崎市立中学校長会
国語科調査委員会

国語

I. 作成方針と構成

1. 作問にあたって

今年度も「調査の目的」に即し、ペーパーテストで問える許容範囲で、国語科学習の全領域にわたって出題するよう努めた。作問にあたっては、中学校学習指導要領をふまえた上で「平成22年度川崎市立中学校学習診断テスト・誤答分析と学習指導上の考察」にあらわれた問題点をはじめ、PISA 調査、全国学力・学習状況調査問題等の出題のねらいも考慮した。

全国学力・学習状況調査は、『主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題の二種類からなる』とある。

①主として「知識」に関する問題は、

- a 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- b 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などの内容

②主として「活用」に関する問題は、

- a 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力に係る内容
- b 様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力に係る内容

となっている。本市診断テストの作問にあたっては、問題作成の基本理念として意識した。

出題範囲・内容については、各学年とも10月末までに学習する内容を主体として、漢字の読み・書き、語句の知識や文法、書写、韻文（詩・短歌・俳句）、文学的文章（小説）、説明的文章（説明文・論説文）、古典（古文）から出題した。ただし、1学年の古典、2・3学年の書写については出題しなかった。また、全学年でそれぞれの履修内容に照らして聞き取りテストを実施した。

平成19年度より、語句や文法などの「言語事項」を扱う大問を各学年とも問二にまとめ、より客観的に「言語事項」に関する力を測れるようにしたが、その出題形式は今年度も踏襲した。

また、PISA 型読解力に沿った出題ができる素材を、説明的文章を中心に意識的に選定した。ただ1学年においては、各学校で使用する教科書の差異（光村図書では図や表を用いた文章は2学年からである）を考慮し、あえて資料などを用いた作問はしなかった。なお、文学的文章と説明的文章の選定にあたっては、出題された部分の続きがその後読みたくなるような文章を意識した。

2. 出題のねらい[国語]

| | 1 年 | 2 年 | 3 年 |
|----|--|--|---|
| 問一 | <ul style="list-style-type: none"> ●校内放送の内容を的確に聞き取ることができるか。 ・内容の理解、把握ができるか。 ・校内放送をするときの工夫を理解できるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ●インタビューの内容を的確に聞き取ることができるか。 ・インタビューするときの工夫を理解できるか。 ・内容の理解、把握ができるか。 ・話題や方向をとらえて聞くことができるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ●話し合いの内容を的確に聞き取ることができるか。 ・内容の理解、把握ができるか。 ・話題や話し合いの工夫をとらえて聞くことができるか。 ・話題とグラフの関係をとりえて聞くことができるか。 |
| 問二 | <ul style="list-style-type: none"> ●言語事項に関する基礎的な知識が身に付いているか。 ・既習の漢字について読字、書字ができるか。 ・漢字の部首が理解できるか。 ・言葉の単位(文節)が理解できるか。 ・漢字の画数が理解できるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ●言語事項に関する基礎的な知識が身に付いているか。 ・既習の漢字について読字、書字ができるか。 ・和語や漢語、外来語が理解できるか。 ・言葉の単位(単語)が理解できるか。 ・類義の関係にある熟語を理解できるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ●言語事項に関する基礎的な知識が身に付いているか。 ・既習の漢字について読字、書字ができるか。 ・慣用句が理解できるか。 ・品詞の識別ができるか。 ・漢字の異なる意味について理解できるか。 |
| 問三 | <ul style="list-style-type: none"> ●毛筆・硬筆における楷書と行書の書き方を理解しているか。 ・筆順のきまりについて理解できるか。 ・楷書の書き方について理解できるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ●短歌の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。 ・句切れが理解できるか。 ・内容理解と的確な鑑賞ができるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ●俳句の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。 ・表現上の特色が理解できるか。 ・季語、季節を理解できるか。 ・内容理解と的確な鑑賞ができるか。 |
| 問四 | <ul style="list-style-type: none"> ●詩の読解ができるか。 ・情景が読み取れるか。 ・詩中の語句の使い方について理解できるか。 ・主題が読み取れるか。 ・表現上の特色が理解できるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ●文学的文章の読解ができるか。 ・登場人物を取り巻く状況を的確に把握できるか。 ・登場人物の心情を読み取ることができるか。 ・文章中での語句の使い方について理解できるか。 ・内容の理解、把握ができるか。 ・人物像を正しく把握できるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ●文学的文章の読解ができるか。 ・登場人物を取り巻く状況を的確に把握できるか。 ・文章中での語句の使い方について理解できるか。 ・登場人物の心情を読み取ることができるか。 ・内容の理解、把握ができるか。 ・文章中での表現上の特色が理解できるか。 |
| 問五 | <ul style="list-style-type: none"> ●文学的文章の読解ができるか。 ・内容の理解、把握ができるか。 ・登場人物の心情を読み取ることができるか。 ・タビ(猫)を取り巻く状況を的確に把握できるか。 ・文章中での語句の使い方について理解できるか。 ・タビ(猫)像を正しく把握できるか。 ・文章中での表現上の特色が理解できるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ●説明的文章の読解ができるか。 ・内容の理解、把握ができるか。 ・文章の内容を元に図を読み取ることができるか。 ・段落相互の関係が理解できるか。 ・要旨が把握できるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ●説明的文章の読解ができるか。 ・段落相互の関係が理解できるか。 ・内容の理解、把握ができるか。 ・要旨が把握できるか。 ・文章とグラフとの関係を読み取ることができるか。 |
| 問六 | <ul style="list-style-type: none"> ●説明的文章の読解ができるか。 ・内容の理解、把握ができるか。 ・段落相互の関係が理解できるか。 ・要旨が把握できるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ●古典の読解ができるか。 ・歴史的仮名遣いを正しく理解しているか。 ・内容の理解、把握ができるか。 ・主語の把握ができるか。 ・地の文と会話文を識別できるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ●古典の読解ができるか。 ・内容の理解、把握ができるか。 ・歴史的仮名遣いを正しく理解しているか。 ・主語の把握ができるか。 ・地の文と会話文を識別できるか。 |

Ⅱ. 第1学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[国語第1学年]

| 問題番号 | | 話・聞 | 読 | 言 | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | | |
|------|-----|-----|---|----------------|-----------------|----------------------------|--------|-----|----|
| 大問 | 小問 | | | | | | 正答率 | 無答率 | |
| 1 | ア | ◎ | | | ①聞き取り (校内放送) | 校内放送するときの工夫をとらえて聞くことができるか。 | | 69 | 1 |
| | イ 1 | ◎ | | | | 校内放送の内容を的確に聞き取ることができるか。 | | 91 | 1 |
| | 2 | ◎ | | | | 校内放送の内容を的確に聞き取ることができるか。 | | 73 | 1 |
| | 3 | ◎ | | | | 校内放送の内容を的確に聞き取ることができるか。 | | 82 | 1 |
| | ウ | ◎ | | | | 校内放送の内容を的確に聞き取ることができるか。 | | 81 | 1 |
| | エ | ◎ | | | | 校内放送の内容を的確に聞き取ることができるか。 | | 91 | 1 |
| 2 | ア 1 | | ◎ | | ②漢字の読み | 既習の漢字について、正しく音読みできるか。 | | 75 | 1 |
| | 2 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく音読みできるか。 | | 91 | 2 |
| | 3 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく音読みできるか。 | | 83 | 5 |
| | 4 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく訓読みできるか。 | | 95 | 1 |
| | 5 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく訓読みできるか。 | | 95 | 2 |
| | イ 1 | | ◎ | | ③漢字の書き | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 46 | 13 |
| | 2 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 34 | 13 |
| | 3 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 61 | 21 |
| | 4 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 70 | 13 |
| | 5 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 73 | 18 |
| | ウ | | ◎ | | ④言葉に関する知識 | 漢字の部首を理解しているか。 | | - | - |
| | エ | | ◎ | | | 言葉の単位(文節)を理解できるか。 | | 82 | 0 |
| オ | | ◎ | | 漢字の画数を理解しているか。 | | | 91 | 0 | |
| 3 | ア | | ◎ | | ⑤書写に関する知識 | 筆順の決まりについて理解しているか。 | | 45 | 0 |
| | イ | | ◎ | | | 楷書の書き方について理解しているか。 | | 64 | 0 |
| 4 | ア | ◎ | | | ⑥詩の読み取り | 内容や情景を的確に読み取ることができるか。 | | 87 | 0 |
| | イ | ◎ | | | | 詩中での語句の使い方について理解できるか。 | | 78 | 0 |
| | ウ | ◎ | | | | 内容や情景を的確に読み取ることができるか。 | | 73 | 0 |
| | エ | ◎ | | | | 内容や情景を的確に読み取ることができるか。 | | 84 | 0 |
| | オ | ◎ | | | | 内容や情景を的確に読み取ることができるか。 | | 86 | 0 |
| | カ | ◎ | | | | 主題を的確に読み取ることができるか。 | | 86 | 0 |
| | キ | ◎ | | | | 表現上の特色を理解できるか。 | | 58 | 2 |
| 5 | ア | ◎ | | | ⑦文学的文章の読み取り | 内容や登場人物を取り巻く状況を的確に把握できるか。 | | 79 | 0 |
| | イ | ◎ | | | | 登場人物の心情を読み取ることができるか。 | | 83 | 0 |
| | ウ | ◎ | | | | タビ(猫)の心情を読み取ることができるか。 | | 85 | 0 |
| | エ | ◎ | | | | 文章中での語句の使い方について理解できるか。 | | 85 | 0 |
| | オ | ◎ | | | | タビ(猫)の心情を読み取ることができるか。 | | 33 | 14 |
| | カ | ◎ | | | | タビ(猫)の心情を読み取ることができるか。 | | 68 | 2 |
| | キ | ◎ | | | | タビ(猫)像を正しく把握できるか。 | | 73 | 2 |
| | ク | ◎ | | | | 表現上の特色を理解できるか。 | | 72 | 3 |
| 6 | ア | ◎ | | | ⑧説明的文章の読み取り | 内容の理解・把握ができるか。 | | 57 | 3 |
| | イ | ◎ | | | | 文脈を正しく把握しているか。 | | 68 | 3 |
| | ウ | ◎ | | | | 内容の理解・把握ができるか。 | | 57 | 4 |
| | エ | ◎ | | | | 文脈を正しく把握しているか。 | | 63 | 7 |
| | オ | ◎ | | | | 内容の理解・把握ができるか。 | | 73 | 3 |
| | カ | ◎ | | | | 内容の理解・把握ができるか。 | | 51 | 3 |
| | キ | ◎ | | | | 段落相互の関係を理解できるか。 | | 72 | 3 |
| | ク | ◎ | | | | 要旨を把握できるか。 | | 79 | 3 |

◎…主たる観点

2. 主な誤答と分析〔国語第1学年〕

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて | |
|----|----|--------|--------|-----|-------------|-----------------------------------|---|---|
| 1 | ア | 3 | 69 | 1 | 4 2 1 | 16 | 「1年生のオリエンテーション」についての校内放送の内容を、的確に聞き取ることができるかを問うものであった。小問アの「よくなかった点」を問う設問での誤答が比較的多くみられたが、全般的には高い正答率であり、内容をよく捉えていた。 (平均正答率 81.2%) | |
| | イ | 1 | × | 91 | 1 | ○ 表記の誤り | | 6 2 |
| | | 2 | ○ | 73 | 1 | × | | 24 2 |
| | | 3 | ○ | 82 | 1 | × | | 15 2 |
| | ウ | 1 | | 81 | 1 | 4 2 3 | | 8 7 3 |
| | エ | 45 (分) | | 91 | 1 | 40 15 50, 55 | | 4 2 2 |
| 2 | ア | 1 | ふりよく | 75 | 1 | うりよく ふうりよく ふりゅうりよく、いんりよく、など | 17 3 4 | 漢字の読みは、小問ア1での正答「ふりよく」に対して、「うりよく」という誤答が突出して多かった。他は全般的に高い正答率であった。 (平均正答率 87.8%) |
| | | 2 | こうない | 91 | 2 | 表記の誤り かんない きない、しゃない | 3 2 2 | |
| | | 3 | じょこう | 83 | 5 | よこう 表記の誤り とこう、ぎょこう、じゅぎょう、など | 4 3 5 | |
| | | 4 | しず(む) | 95 | 1 | 表記の誤り しづ しす | 2 1 1 | |
| | | 5 | うす(まる) | 95 | 2 | そ ふか | 2 1 | |
| | イ | 1 | 福祉 | 46 | 13 | 表記の誤り 福祉 副止、復子、福士、など | 25 2 14 | 漢字の書きは、正答となる漢字をイメージすることはできたものの、部首やつくりの部分の誤る例が目立った。学校生活の様々な場面で正しい字形を意識して書かせることが必要である。 (平均正答率 56.8%) |
| | | 2 | 専門 | 34 | 13 | 表記の誤り 専門 専文、博問、専門、専門 | 34 15 4 | |
| | | 3 | 豊富 | 61 | 21 | 表記の誤り 富豊 農富、登富、喜富、幸豊、など | 2 2 14 | |
| | | 4 | 縮(まる) | 70 | 13 | 表記の誤り 短 縦 | 12 4 1 | |
| | | 5 | 防(ぐ) | 73 | 18 | 表記の誤り 尽 | 8 1 | |
| | ウ | 廃問 | | | | | | 「言葉の単位」としての文節の理解や画数に関する設問は、高い正答率であった。 (平均正答率 86.5%) |
| | エ | 5 | | 82 | 0 | 6 7 4 | 13 3 2 | |
| | オ | 2 | | 91 | 0 | 4 1 | 7 2 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|---------|-----|-----|----------------------------------|----------------|---|
| 3 | ア | 2 | 45 | 0 | 4 3 1 | 26 21 8 | 毛筆における楷書の書き方と、筆順について出題した。楷書の書き方については、誤答にばらつきがあった。行書の書き方と混同している、あるいは書写的用語が定着していないなどが原因として考えられる。 |
| | イ | 1 | 64 | 0 | 3 4 2 | 15 12 9 | また、筆順の問題でも50%を下回る正答率となり、書写の授業だけではなく、日頃から正しい筆順を意識して書かせる必要性を感じた。 (平均正答率 54.5%) |
| 4 | ア | 4 | 87 | 0 | 1 2 3 | 8 4 1 | 全般的に正答率は高く、詩に描かれている情景は読み取っていると思われる。人物の心情や語句の使い方も理解できていた。 ただし、小問キについては正答率が58%とやや低い。人物の心情を読み取る問題であったが、誤答にもばらつきがあり、細部の内容の読み取りは不十分であると思われる。授業の中でも、教科書掲載作品以外の詩に触れることで、一つ一つの言葉がもっている意味を、より深く考える姿勢を身に付けさせたい。 (平均正答率 78.9%) |
| | イ | 2 | 78 | 0 | 3 1 4 | 14 4 4 | |
| | ウ | 3 | 73 | 0 | 2 1 4 | 16 6 5 | |
| | エ | 1 | 84 | 0 | 3 2 4 | 9 4 3 | |
| | オ | 4 | 86 | 0 | 2 1 3 | 8 5 1 | |
| | カ | 2 | 86 | 0 | 1 3 4 | 6 5 3 | |
| | キ | 3 | 58 | 2 | 4 1 2 | 17 13 10 | |
| 5 | ア | 1 | 79 | 0 | 3 2 4 | 16 4 1 | 中学生に人気がある作家で、親しみやすい題材であることを考慮して作品を選定したためか、全般的に正答率が高かった。登場人物を取り巻く状況を的確に把握し、内容を読み取っていると思われる。 ただし、小問オについては、正答率33%とかなり低く、無答率も14%である。「何が、どう問われているのか」を正確に理解する習慣を付けさせたい。 (平均正答率 72.3%) |
| | イ | 4 | 83 | 0 | 2 3 1 | 10 4 3 | |
| | ウ | 2 | 85 | 0 | 1 3 4 | 11 2 2 | |
| | エ | 3 | 85 | 0 | 4 2 1 | 12 2 1 | |
| | オ | エミち～かない | 33 | 14 | もしも～のなら だがそ～けない エミち～ないか、など | 15 5 33 | |
| | カ | 3 | 68 | 2 | 1 2 4 | 15 9 6 | |
| | キ | 2 | 73 | 2 | 4 1 3 | 10 8 7 | |
| | ク | 4 | 72 | 3 | 3 1 2 | 11 7 7 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|----|-----|-----|-------------|----------------|--|
| 6 | ア | 3 | 57 | 3 | 2 4 1 | 21 11 8 | <p>昨今話題になっている「節電」について、「環境問題」を絡めた作品を選定した。他の大問と比較し、全般的に無答率が高かったのは、解答に要する時間に余裕がなかったのだろう。誤答にもばらつきがあり、文章全体の内容を捉えきれていないと思われる。接続語や各段落の役割を把握したうえで、本文の内容を正確に理解する力を身に付けさせたい。 (平均正答率 65.0%)</p> |
| | イ | 4 | 68 | 3 | 3 2 | 22 7 | |
| | ウ | 1 | 57 | 4 | 4 2 3 | 16 12 11 | |
| | エ | C | 63 | 7 | b a d | 18 7 5 | |
| | オ | 2 | 73 | 3 | 4 1 3 | 13 7 4 | |
| | カ | 3 | 51 | 3 | 4 1 2 | 24 14 8 | |
| | キ | 1 | 72 | 3 | 3 2 4 | 11 9 5 | |
| | ク | 4 | 79 | 3 | 2 1 3 | 9 6 3 | |

Ⅲ. 第2学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[国語第2学年]

| 問題番号 | | 話・聞 | 読 | 言 | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | | |
|------|-----|-----|---|--------------------|-------------------|------------------------------|--------|-----|----|
| 大問 | 小問 | | | | | | 正答率 | 無答率 | |
| 1 | ア | ◎ | | | ①聞き取り (インタビュー) | インタビューするときの工夫をとらえて聞くことができるか。 | | 81 | 1 |
| | イ 1 | ◎ | | | | インタビューの内容を的確に聞き取ることができるか。 | | 91 | 1 |
| | 2 | ◎ | | | | インタビューの内容を的確に聞き取ることができるか。 | | 77 | 3 |
| | 3 | ◎ | | | | インタビューの内容を的確に聞き取ることができるか。 | | 88 | 3 |
| | ウ | ◎ | | | | インタビューの内容を的確に聞き取ることができるか。 | | 95 | 1 |
| | エ | ◎ | | | | インタビューの内容を的確に聞き取ることができるか。 | | 88 | 1 |
| 2 | ア 1 | | ◎ | | ②漢字の読み | 既習の漢字について、正しく音読みできるか。 | | 31 | 15 |
| | 2 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく音読みできるか。 | | 73 | 8 |
| | 3 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく音読みできるか。 | | 67 | 10 |
| | 4 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく訓読みできるか。 | | 78 | 4 |
| | 5 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく訓読みできるか。 | | 66 | 6 |
| | イ 1 | | ◎ | | ③漢字の書き | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 72 | 7 |
| | 2 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 25 | 19 |
| | 3 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 51 | 24 |
| | 4 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 44 | 35 |
| | 5 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 53 | 30 |
| | ウ | | ◎ | | ④言葉に関する知識 | 和語・漢語・外来語を理解できるか。 | | 54 | 1 |
| | エ | | ◎ | | | 言葉の単位(単語)を理解できるか。 | | 86 | 1 |
| オ | | ◎ | | 類義の関係にある熟語を理解できるか。 | | | 78 | 1 | |
| 3 | ア | ◎ | | | ⑤短歌の鑑賞 | 句切れを理解できるか。 | | 48 | 1 |
| | イ | ◎ | | | | 内容や情景を読み取り、季節感を理解できるか。 | | 31 | 1 |
| | ウ A | ◎ | | | | 内容や情景を読み取り、的確な鑑賞ができるか。 | | 83 | 1 |
| | B | ◎ | | | | 内容や情景を読み取り、的確な鑑賞ができるか。 | | 54 | 2 |
| | C | ◎ | | | | 内容や情景を読み取り、的確な鑑賞ができるか。 | | 55 | 1 |
| | D | ◎ | | | | 内容や情景を読み取り、的確な鑑賞ができるか。 | | 70 | 1 |
| 4 | ア | ◎ | | | ⑥文学的文章の読み取り | 登場人物の心情を読み取ることができるか。 | | 94 | 1 |
| | イ | ◎ | | | | 文章中での語句の使い方について理解できるか。 | | 65 | 1 |
| | ウ | ◎ | | | | 内容や登場人物を取り巻く状況を的確に把握できるか。 | | 67 | 1 |
| | エ | ◎ | | | | 登場人物の心情を読み取ることができるか。 | | 68 | 1 |
| | オ | ◎ | | | | 登場人物の心情を読み取ることができるか。 | | 58 | 1 |
| | カ | ◎ | | | | 登場人物の心情を読み取ることができるか。 | | 78 | 1 |
| | キ | ◎ | | | | 内容や登場人物を取り巻く状況を的確に把握できるか。 | | 45 | 12 |
| | ク | ◎ | | | | 人物像を正しく把握できるか。 | | 80 | 2 |
| 5 | ア | ◎ | | | ⑦説明的文章の読み取り | 文脈を正しく把握しているか。 | | 67 | 1 |
| | イ | ◎ | | | | 内容の理解・把握ができるか。 | | 90 | 1 |
| | ウ | ◎ | | | | 内容の理解・把握ができるか。 | | 90 | 1 |
| | エ | ◎ | | | | 内容の理解・把握ができるか。 | | 73 | 1 |
| | オ | ◎ | | | | 文章の内容を元に図を読み取ることができるか。 | | 42 | 2 |
| | カ | ◎ | | | | 段落相互の関係を理解できるか。 | | 43 | 2 |
| | キ | ◎ | | | | 内容の理解・把握ができるか。 | | 37 | 2 |
| | ク | ◎ | | | | 要旨を把握できるか。 | | 27 | 2 |
| 6 | ア | ◎ | | | ⑧古文の読解 | 歴史的仮名遣いを正しく理解しているか。 | | 78 | 6 |
| | イ | ◎ | | | | 内容の理解ができるか。 | | 58 | 2 |
| | ウ | ◎ | | | | 主語の把握ができるか。 | | 45 | 2 |
| | エ | ◎ | | | | 地の文と会話文を識別できるか。 | | 30 | 10 |
| | オ | ◎ | | | | 内容の把握ができるか。 | | 56 | 3 |

◎…主たる観点

2. 主な誤答と分析[国語第2学年]

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて | |
|----|----|-------|-------|-----|------------------|----------------------------|---|--|
| 1 | ア | 2 | 81 | 1 | 1 3 4 | 10 5 3 | 「盲導犬訓練所への訪問」を想定し、中学生が職員へインタビューするという場面を設定した。全体的に高い正答率であった。 今後は、さらに相手の立場を考えたよりよい質問の方法を、実践の場である職場体験などで指導する必要がある。 (平均正答率 86.7%) | |
| | イ | 1 | ○ | 91 | 1 | × | | 2 |
| | | 2 | × | 77 | 3 | 1 2 | | 5 1 |
| | | 3 | × | 88 | 3 | ○ 3 4 | | 16 3 1 |
| | ウ | 4 (割) | 95 | 1 | ○ 2 3、4 | 3 2 4 | | |
| | エ | 1 | 88 | 1 | 1 2 3 4 | 1 1 2 | | |
| 2 | ア | 1 | みとう | 31 | 15 | みふみ みけつ みたく、みかい、など | 2 2 50 | 漢字の読みは、例年に比べて正答率が低かった。 特に小問アの1「みとう」については31%と低く、誤答も多岐に及び無答も多かった。 読書活動を通して語彙力を高め、学習した漢字を積極的に活用するように指導したい。 (平均正答率 63.0%) |
| | | 2 | はっかん | 73 | 8 | はっこう はっせい はっと、はっか、など | 1 1 17 | |
| | | 3 | てんか | 67 | 10 | つか ふか そうか、ぞうか、など | 3 1 19 | |
| | | 4 | ぬ(って) | 78 | 4 | そ くぐ しば、お、たど、など | 3 1 14 | |
| | | 5 | ひとふさ | 66 | 6 | いちぼう いっとう いったん、など | 6 2 20 | |
| | イ | 1 | 磁石 | 72 | 7 | 表記の誤り 石磁 滋石、など | 10 1 10 | 漢字の書きは、低い正答率であった。漢字のもつ意味を考えず、同音だけで誤った漢字を書いている。 近年の生活環境の変化により、漢字を「書く」よりも「選ぶ」ことが多いなかで、漢字の組み立てや字形を正確に意識させる指導が必要である。 (平均正答率 49.0%) |
| | | 2 | 患者 | 25 | 19 | 表記の誤り 看者 貴者、など | 12 9 35 | |
| | | 3 | 暗幕 | 51 | 24 | 案幕 暗模 暗膜、悪幕、など | 3 2 20 | |
| | | 4 | 沸(かす) | 44 | 35 | 表記の誤り 蒸 温、湯、添、など | 9 2 10 | |
| | | 5 | 埋(める) | 53 | 30 | 掘 理 狸、穴、宇、など | 1 1 15 | |
| | ウ | 2 | 2 | 54 | 1 | 1 3 4 | 25 8 12 | 語句や文法に関する設問は、正答率が高かった。 小問エは正答率が高く、言葉の単位の学習が定着していることがわかる。 (平均正答率 72.7%) |
| | エ | 9 | 86 | 1 | 5 6、7、8 10 | 6 6 1 | | |
| | オ | 4 | 78 | 1 | 1 2 3 | 6 6 9 | | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて | |
|----|----|-----------|-----|-------------------|---------------------------------------|---------------------|--|----------------|
| 3 | ア | 2 | 48 | 1 | 1 3 4 | 8 38 5 | <p>小問イの短歌の四季に関する設問では、「2」と「3」の誤答が合わせて66%であった。短歌④にある「桜」という言葉だけで春の歌と判断したと考えられる。</p> <p>内容理解については、全体的に描かれている情景や作者の思いを理解・鑑賞することはできるが、細部まで読み取る力は十分とはいえない。今後は、語彙力を高めさせ、比喩などの表現に着目して読み理解する力の育成を図りたい。 (平均正答率 56.8%)</p> | |
| | イ | 4 | 31 | 1 | 1 2 3 | 2 42 24 | | |
| | ウ | A | 6 | 83 | 1 | 1、2、3 4、5 7、8 | | 8 6 2 |
| | | B | 3 | 54 | 2 | 1、2 4、5、6 7、8 | | 16 9 19 |
| | | C | 8 | 55 | 1 | 1、2、3 4、5 6、7 | | 15 16 13 |
| D | 7 | 70 | 1 | 1 3、4、5 6、8 | 10 16 3 | | | |
| 4 | ア | 1 | 94 | 1 | 2 3 4 | 3 1 1 | <p>登場人物が学習者にとって共感しやすい設定であったためか、全体的に高い正答率だった。</p> <p>しかし、小問キでは55%が誤答あるいは無答であった。登場人物の心情を読み取ることはできるが、内容や登場人物を取り巻く状況を把握することはできていないと思われる。</p> <p>また、比喩的な表現や抽象的な表現を読み取る力が求められる。それぞれの表現が何を表しているのかを捉えさせたい。 (平均正答率 69.4%)</p> | |
| | イ | 3 | 65 | 1 | 1 2 4 | 7 14 13 | | |
| | ウ | 2 | 67 | 1 | 1 3 4 | 21 8 3 | | |
| | エ | 2 | 68 | 1 | 1 3 4 | 7 7 17 | | |
| | オ | 4 | 58 | 1 | 1 2 3 | 4 23 14 | | |
| | カ | 1 | 78 | 1 | 2 3 4 | 5 9 7 | | |
| | キ | 無責任な～ぎない。 | 45 | 12 | これは屈～的なもの 優しい親～てきた。 屈辱だ。～ぎない。など | 43 | | |
| | ク | 3 | 80 | 2 | 1 2 4 | 10 6 2 | | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|-------|-----|-----|--|----------------|--|
| 5 | ア | 4 | 67 | 1 | 1 2 3 | 2 25 5 | <p>小問イの正答率が高いことから、指示語が指し示す内容の理解は定着していると思われる。</p> <p>しかし、小問オの図を読み取る設問では正答率が42%と低かった。図を読み取ることと、文章の内容と図を関連させて読むことができていないと考えられる。</p> <p>また、小問クでは43%が「3」と選び誤った。20段落の一部を読み、判断してしまったと考えられる。文章の内容と選択肢の内容を比較する力が必要である。</p> <p>今後、ポスターセッションやプレゼンテーションなどの活動を積極的に取り入れ、図表を用いて説明する能力の向上を図ることに関連づけて指導していきたい。</p> <p>(平均正答率 58.6%)</p> |
| | イ | 2 | 90 | 1 | 1 3 4 | 3 2 4 | |
| | ウ | 3 | 90 | 1 | 1 2 4 | 3 2 4 | |
| | エ | 2 | 73 | 1 | 1 3 4 | 16 7 3 | |
| | オ | 1 | 42 | 2 | 2 3 4 | 20 29 7 | |
| | カ | 3 | 43 | 2 | 1 2 4 | 23 13 19 | |
| | キ | 4 | 37 | 2 | 1 2 3 | 25 13 23 | |
| | ク | 1 | 27 | 2 | 2 3 4 | 17 43 11 | |
| 6 | ア | よりあい | 78 | 6 | よいあし、いった、 よりあう、よりあへ、 きました、など | 16 | <p>小問アでは、現代仮名遣いに直すという設問の意図を理解していない誤答があった。授業の中で現代語訳との違いを再度確認させる必要がある。</p> <p>また、小問エの会話文の識別の正答率も低い。古典特有の表現に注意して会話や引用を捉えさせたい。</p> <p>全体を通して無答が多くみられる。これは古典作品を読むことに慣れていないことが原因の一つであると思われる。教科書以外の作品を紹介するなどして古典の面白さを味わわせ、関心をもって古典作品を読めるように工夫したい。</p> <p>(平均正答率 53.4%)</p> |
| | イ | 3 | 58 | 2 | 1 2 4 | 22 9 9 | |
| | ウ | 1 | 45 | 2 | 2 3 4 | 33 14 6 | |
| | エ | いづ～ずる | 30 | 10 | さう～どに、 いづ～るか、 ある～いふ、 茶碗～いふ、など | 60 | |
| | オ | 4 | 56 | 3 | 1 2 3 | 9 12 20 | |

IV. 第3学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[国語第3学年]

| 問題番号 | | 話・聞 | 読 | 言 | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | 無答率 | |
|------|-----|-----|---|------------------------|---------------------|---------------------------|--------|-----|----|
| 大問 | 小問 | | | | | | | | |
| 1 | ア 1 | ◎ | | | ①聞き取り (話し合い) | 話し合いの内容を的確に聞き取ることができるか。 | | 37 | 0 |
| | 2 | ◎ | | | | 話し合いの内容を的確に聞き取ることができるか。 | | 75 | 0 |
| | 3 | ◎ | | | | 話し合いの内容を的確に聞き取ることができるか。 | | 94 | 0 |
| | イ | ◎ | | | | 話し合いの工夫をとらえて聞くことができるか。 | | 79 | 0 |
| | ウ | ◎ | | | | 話題とグラフの関係をとりえて聞くことができるか。 | | 65 | 0 |
| 2 | ア 1 | | ◎ | | ②漢字の読み | 既習の漢字について、正しく音読みできるか。 | | 79 | 8 |
| | 2 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく音読みできるか。 | | 62 | 7 |
| | 3 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく音読みできるか。 | | 87 | 6 |
| | 4 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく訓読みできるか。 | | 72 | 9 |
| | 5 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく訓読みできるか。 | | 78 | 2 |
| | イ 1 | | ◎ | | ③漢字の書き | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 38 | 16 |
| | 2 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 9 | 18 |
| | 3 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 26 | 23 |
| | 4 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 38 | 37 |
| | 5 | | ◎ | | | 既習の漢字について、正しく書くことができるか。 | | 37 | 33 |
| ウ | | ◎ | | ④言葉に関する知識 | 慣用語を理解できるか。 | | 96 | 0 | |
| エ | | ◎ | | | 品詞の識別ができるか。 | | 31 | 0 | |
| オ | | ◎ | | | 漢字の異なる意味について理解できるか。 | | 90 | 0 | |
| 3 | ア | | ◎ | | ⑤俳句の鑑賞 | 表現上の特色を理解できるか。 | | 32 | 0 |
| | イ | | ◎ | | | 季語・季節を理解できるか。 | | 50 | 0 |
| | ウ A | | ◎ | | | 内容や情景を読み取り、的確な鑑賞ができるか。 | | 66 | 0 |
| | B | | ◎ | | | 内容や情景を読み取り、的確な鑑賞ができるか。 | | 45 | 0 |
| | C | | ◎ | | | 内容や情景を読み取り、的確な鑑賞ができるか。 | | 25 | 0 |
| D | | ◎ | | 内容や情景を読み取り、的確な鑑賞ができるか。 | | 91 | 0 | | |
| 4 | ア | | ◎ | | ⑥文学的文章 の読み取り | 内容や登場人物を取り巻く状況を的確に把握できるか。 | | 75 | 0 |
| | イ | | ◎ | | | 文章中での語句の使い方について理解できるか。 | | 50 | 0 |
| | ウ | | ◎ | | | 登場人物の心情を読み取ることができるか。 | | 91 | 0 |
| | エ | | ◎ | | | 内容や登場人物を取り巻く状況を的確に把握できるか。 | | 73 | 11 |
| | オ | | ◎ | | | 登場人物の心情を読み取ることができるか。 | | 80 | 0 |
| | カ | | ◎ | | | 登場人物の心情を読み取ることができるか。 | | 69 | 0 |
| | キ | | ◎ | | | 登場人物の心情の変化を読み取ることができるか。 | | 86 | 0 |
| ク | | ◎ | | 表現上の特色を理解できるか。 | | 72 | 0 | | |
| 5 | ア | | ◎ | | ⑦説明的文章 の読み取り | 段落相互の関係を理解できるか。 | | 67 | 2 |
| | イ | | ◎ | | | 内容の理解・把握ができるか。 | | 73 | 1 |
| | ウ | | ◎ | | | 文脈を正しく把握しているか。 | | 68 | 1 |
| | エ | | ◎ | | | 内容の理解・把握ができるか。 | | 89 | 1 |
| | オ | | ◎ | | | 内容の理解・把握ができるか。 | | 55 | 14 |
| | カ | | ◎ | | | 要旨を把握できるか。 | | 74 | 2 |
| キ | | ◎ | | 文章とグラフの関係を読み取ることができるか。 | | 67 | 2 | | |
| 6 | ア | | ◎ | | ⑧古典の読み 取り | 内容の理解ができるか。 | | 65 | 0 |
| | イ | | ◎ | | | 歴史的仮名遣いを正しく理解しているか。 | | 70 | 2 |
| | ウ | | ◎ | | | 主語の把握ができるか。 | | 64 | 0 |
| | エ | | ◎ | | | 地の文と会話文を識別できるか。 | | 22 | 8 |
| オ | | ◎ | | 内容の把握ができるか。 | | 67 | 2 | | |

◎…主たる観点

2. 主な誤答と分析 [国語科第3学年]

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて | | | |
|----|----|----|-------|-----|------|---------------------------|----------------|---|---|--|
| 1 | ア | 1 | × | 37 | 0 | ○ 表記の誤り | 62 1 | 小問アの1は「○」という誤答が62%と多かった。話を最後までしっかり聞き取り、発言の内容を自らの中でまとめつつ理解する力を身に付けさせたい。 小問ウの正答率は65%と低くない。今後も、話題と図やグラフの関係を捉えながら聞く力の育成を図りたい。 (平均正答率 70.0%) | | |
| | | 2 | × | 75 | 0 | ○ 表記の誤り | 24 1 | | | |
| | | 3 | ○ | 94 | 0 | × | 5 1 | | | |
| | イ | 3 | | 79 | 0 | 4 2 1 | 10 8 3 | | | |
| | ウ | 2 | | 65 | 0 | 4 1 3 | 24 7 4 | | | |
| 2 | ア | 1 | こんせつ | 79 | 8 | しんせつ こんぜつ けんせつ、など | 2 1 10 | 漢字の読みは、極端に正答率の低いものはなかった。 ただし、「追随」を「ついづい」と誤って書くなど、「ず」と「づ」の正確な区別がついていない。日常の漢字学習の中で、より丁寧な指導をしていきたい。 (平均正答率 75.6%) | | |
| | | 2 | ついづい | 62 | 7 | ついづい ついじ おいじ、など | 5 4 22 | | | |
| | | 3 | けんきょ | 87 | 6 | けんぎゃく けんじつ げんじゅう、など | 2 1 4 | | | |
| | | 4 | あらい | 72 | 9 | あさ もろ そ、など | 3 2 14 | | | |
| | | 5 | うる(む) | 78 | 2 | にじ かす いた、など | 8 2 10 | | | |
| | イ | 1 | 赴任 | 38 | 16 | 不妊 不任 付任、など | 19 7 20 | | 漢字の書きは、全般的に正答率が低く、すべて40%以下にとどまった。 特に「名簿」の正答率が9%と低く、「簿」を「薄」と書いたり、「」がなかったりするなど字形の誤りが多かった。今後は、漢字の成り立ちを考えながら正しく書くように指導していきたい。 (平均正答率 29.6%) | |
| | | 2 | 名簿 | 9 | 18 | 名簿 名簿(「」がない) 明簿、など | 30 10 33 | | | |
| | | 3 | 貯蓄 | 26 | 23 | 貯畜 貯築 預蓄、など | 13 3 35 | | | |
| | | 4 | 砕(く) | 38 | 37 | 破 壊 裂、など | 6 2 17 | | | |
| | | 5 | 惜(しむ) | 37 | 33 | 借 推 終、など | 14 3 13 | | | |
| | ウ | 4 | | 96 | 0 | 1 3 | 2 2 | | | 小問エの品詞に関する設問については、用言の連体形と連体詞の正確な区別がついておらず、31%という正答率にとどまった。品詞に関する指導をくり返し行う必要がある。 (平均正答率 72.3%) |
| | エ | 3 | | 31 | 0 | 2 1 4 | 52 14 3 | | | |
| | オ | 1 | | 90 | 0 | 4 2 | 8 2 | | | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 (%) | 授業改善への手だて | | |
|----|----|--------------|-----|----------------|--|----------------|---|----------------|
| 3 | ア | 4 | 32 | 0 | 8 6 5、など | 55 5 8 | <p>平均正答率が51.5%と、やや低い結果となった。</p> <p>特に、小問アの正答率が32%と低い。「体言止め」の正しい理解が必要である。</p> <p>また、小問ウのCについても、正答率が25%とかなり低かった。事実を読み取るとともに多様な感動があることに気付かせたい。 (平均正答率 51.5%)</p> | |
| | イ | 2 | 50 | 0 | 4 1 3 | 37 8 5 | | |
| | ウ | A | 8 | 66 | 0 | 2 1 4、など | | 12 10 12 |
| | | B | 3 | 45 | 0 | 2 5 7、など | | 43 9 3 |
| | | C | 5 | 25 | 0 | 3 1 6、など | | 24 19 32 |
| D | 7 | 91 | 0 | 8 5 4、など | 5 2 2 | | | |
| 4 | ア | 2 | 75 | 0 | 1 4 3 | 19 4 2 | <p>二人の少年少女が会話をしていく場面を読み、二人の心情や取り巻く状況について考えさせる問題を設定した。全体的な正答率は高く、特に主人公の心情を読み取ることはできている。</p> <p>ただし、小問カは「4」という誤答が20%を超えた。より注意深く文章を読み、内容をしっかりと把握させる指導が必要であろう。</p> <p>また、小問イは50%の正答率にとどまったことから、文脈の中で正確に語句を使い分ける力が不足していると思われる。今後は読書などを通して、より多くの語彙を身に付けさせるよう心掛けていきたい。 (平均正答率 74.5%)</p> | |
| | イ | 4 | 50 | 0 | 1 2 3 | 41 6 3 | | |
| | ウ | 3 | 91 | 0 | 1 2 4 | 3 3 3 | | |
| | エ | 多恵が急に真顔になった。 | 73 | 11 | それだけは勘弁してくれ 君たち母子の凄惨なところ 少し暗くなりかけている | 5 2 9 | | |
| | オ | 1 | 80 | 0 | 3 4 2 | 10 7 3 | | |
| | カ | 1 | 69 | 0 | 4 2 3 | 22 7 2 | | |
| | キ | 2 | 86 | 0 | 3 4 1 | 5 5 4 | | |
| ク | 4 | 72 | 0 | 1 3 2 | 21 5 2 | | | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|------------|-----|-----|---|---------------|--|
| | | | | | | | |
| 5 | ア | 3 | 67 | 2 | 2 1 4 | 18 9 4 | <p>難易度の高い題材であったが、結果として極端に正答率の低いものはなかった。内容の理解・把握はできていると考えられる。</p> <p>ただ、小問オは要旨を捉えるだけでなく、それが正確に表現された部分を文章の中から探し出すため、正答率が低かった。今後は、より丁寧な読み方を日頃の授業の中で身に付けさせる必要がある。 (平均正答率 70.4%)</p> |
| | イ | 4 | 73 | 1 | 1 2 3 | 14 7 5 | |
| | ウ | 1 | 68 | 1 | 3 4 2 | 18 8 5 | |
| | エ | 2 | 89 | 1 | 1 3 | 7 3 | |
| | オ | 安定して存在する液体 | 55 | 14 | 液体の水が存在するか すむことができる環境 液体の存在に着目して、など | 7 2 22 | |
| | カ | 3 | 74 | 2 | 1 2 4 | 14 6 4 | |
| | キ | 4 | 67 | 2 | 3 2 1 | 17 11 3 | |
| 6 | ア | 2 | 65 | 0 | 1 3 4 | 24 8 3 | <p>小問エ以外の正答率は、60%を超えるという比較的高い結果となった。</p> <p>ただ、小問イでは、現代仮名遣いに直すという設問の意図を理解していない誤答があった。現代語訳との違いを再度確認させる必要がある。</p> <p>また、小問エは正答率が22%と低かった。今後は主語を確実に捉えることを念頭に置きつつ、古典への読みの力を定着させたい。 (平均正答率 57.6%)</p> |
| | イ | いだきいる | 70 | 2 | いだきぬる だいている いだいている、など | 4 3 21 | |
| | ウ | 1 | 64 | 0 | 4 3 2 | 20 13 3 | |
| | エ | さて～るよ | 22 | 8 | かた～るよ 弟子～るよ 弟子～よと、など | 8 7 55 | |
| | オ | 3 | 67 | 2 | 2 4 1 | 24 4 3 | |

V. 全体の考察と今後に向けて[国語]

1. 全体の考察

各学年とも昨年度とほぼ同様の問題量で、時間的にも概ね適切であったと思われる。

今年度の結果から判断して、基礎的・基本的な知識を問う設問については正答率が高く、定着していると考えられる。反面、課題として今後の指導において育成していくことが必要な力は、

- ①目的や場に応じた話し方を工夫する力
- ②文脈に即して漢字を読んだり書いたりする力
- ③文章の構成を理解し、全体の内容を把握する力
- ④文章と図表とを関連付けて読み取る力

だと思われる。新学習指導要領の全面实施に向けて、国語科における言語活動の充実の意義について再確認したい。

また、今年度の問題形式は昨年度と同様、選択式と短答式（語句や短い文、数値などで解答するもの）としたが、来年度は記述式の設問も検討しなければならないだろう。

なお、1学年の部首の問題において不適切な出題があった。改めてお詫びすると同時に、来年度以降十分な見直しと正答の根拠の徹底を図るよう申し送りたい。

2. 出題内容ごとの考察

(1) 聞き取り

全体的に正答率は高く、正確に情報を聞き取り、内容を把握する力は身に付いている。ただ、話し方の工夫を捉える設問については、やや正答率が低い傾向がみられる。聞き手にとって分かりやすい話し方の工夫や、話し合いが効果的に展開するような進行の仕方などを再確認したい。3学年では、話し合いの際に提示した資料(グラフ)を選ぶという設問も立てた。自分の考えを相手に正確に伝えたい時、その根拠となる資料(図やグラフなど)を提示する方法は、より分かりやすくなり、効果的である。ぜひ生徒への解説の中で触れておきたい。

なお、アンケートでは配点に対して分量が多いという意見が寄せられた。聞き取りの時間配分については来年度の課題としたい。

(2) 言語事項

昨年度同様、既習の漢字からの出題としたうえで、なるべく日常生活の中で用いる漢字、文意に沿って用いるべき漢字という要素を視野に入れた。

各学年とも漢字の読みの正答率は高かった。特に、使用頻度の高い語句については、正しく読む力の定着がみられた。一方、漢字の書きの正答率は全体的に低く、設問によっては無答率が高いものもある。だいたいの字形は分かっているが正確さに欠けて誤答となっているものも少なくない。日常の指導の中で、漢字の持つ意味や成り立ちを考えさせ、文脈に即して漢字を正しく書くことができるように意識させたい。また、ひらがなの字形についても、丁寧に整えて書くことの大切さをより一層指導していくことが必要であろう。なお、漢字の許容範囲については数年前と変化しているものもあり、毎年細かく検討する必要がある。

語句や文法の知識に関する設問は、各学年とも高い正答率であった。1学年は文法(文節)・部首・画数、2学年は文法(単語)・類義語・和語漢語外来語の識別、3学年は文法(品詞の識別)・慣用句・熟語の意味を出題した。使用教科書の差異から、該当学年の出題範囲だけでは共通項が少なく、履修済みの範囲も出題対象とした。正答率が特に低かった設問は、3学年の文法(品詞の識別)である。言葉の単位における学習は定着しているようだが、品詞についてはくり返し学習する時間をとって、知識の定着を図りたい。

書写は1学年のみで、筆順のきまりと楷書の書き方についての出題であった。筆順については50%を下回る正答率であり、書写の授業だけではなく日頃から意識して書かせる必要性を感じる。筆順は字形を整えて書くための大切な要素であり、正しい筆順で書くことの「書きやすさ」を実感させたい。

(3) 韻文(詩・短歌・俳句)

1学年は詩、2学年は短歌、3学年は俳句という形は従来どおりである。1学年の詩の読解については高い正答率であったが、2学年の短歌、3学年の俳句については正答率にばらつきがみられた。大まかな内容をつかむ力に比べ、細部にわたって読み取る力が不足しているためだと思われる。言葉を実感をもって受けとめるためには、身の回りの事象や体験を意識的に言葉と結びつけていく活動が必要である。また、図書館などの資料を活用して、多くの韻文に触れさせることも大切であろう。

なお、アンケートでご指摘のあった短歌および俳句の鑑賞の難易度については、来年度の反省事項としたい。

(4) 文学的文章

中学生が親しみやすい題材であることを念頭において作品を選定し、登場人物の内面が変化していく場面を取り上げた。全般的に正答率が高く、文章の展開に即して内容を捉えることや登場人物の心情について理解することは概ねできていると考えられる。ただ、文脈における語句の意味を的確に捉える設問は、やや正答率が低い結果となった。前後の文脈を読んで語句の意味を的確に捉えられるよう指導したい。また、近年、生徒の語彙量が減少しているように感じる。豊かな読書体験をさせたり、よい文章に触れる機会を増やしたりすることによって、語彙力の向上を図る必要がある。

(5) 説明的文章

全般的に、文学的文章に比べて正答率が低い。特に、文章と図表・資料との関係にかかわる設問での正答率が低かった。ここ数年正答率の低さが課題となっていたこの設問で、昨年度は改善がみられたが、今年度のデータを見るとまだ定着していないようである。図表が文章のどこに対応しているのかという基本的なことから、見直していかなければならない。また、段落相互の関係にかかわる設問も正答率が低かった。説明的文章を読む際には段落の役割に注意して論理の展開を捉え、書き手の意図を考えることが大切である。段落相互の関係を理解し、文章の展開や内容を的確に捉えることを意識させたい。

(6) 古典

全般的に、正答率は低い。2・3学年ともに、会話文と地の文の識別に関する設問での正答率が低かった。歴史的仮名遣いや主語の理解など基礎的な知識は定着しているが、文章全体を通じてどのような内容が書かれているかということを理解する力がまだ身につけていないようである。全体の意味を捉え、登場人物相互のやりとりをつかむような読み方を指導したい。

3. 「川崎市立中学校学習診断テストアンケート」のまとめ(抜粋)

アンケートへのご協力ありがとうございました。来年度以降の参考にさせていただきます。

(1) 全般的事項について

- 聞き取り問題を含め、国語の力を問うバランスの良い出題であった。
- 基礎・基本的な学力の定着をみる上で適切な内容であると感じました。
- 聞き取りのグラフを始め、情報を読む課題の出題など、子どもの資料活用能力を問う作問の工夫がみられる。
- △新学習指導要領、新しい入試、全国学力状況調査などに対する川診の位置づけを見直し、新しい川診を模索していく時期なのではないかという気もします。
- △来年度の入試に即した問題になるよう検討していただきたい。

(2) 出題量と時間の関係について

- 見直しの時間が確保できる程度の出題量で、適当であると思います。
- △聞き取りテストの時間が配点のわりには長いと感じました。

(3) 出題内容の妥当性について

【第1学年】

- 1年生 書字、読字については昨年度より難易度が上がっておりよいと思った。
- △言語事項と書写、両方に筆順の問題がある。重複は避けるべきだと思う。
- △問二のイは実用性のある漢字で良いが、やや難易度が高いように思われる。
- △問二のウは、選択肢3がほかの選択肢と比べて問いの内容が異なっていたことも問題点だったのではないか。
- △問四は、イを問うために「B」として言葉を抜いてしまうと、ウ、エを問うことはできないのではないか。(もしイが間違えてしまうと、ウ、エに影響する、と考えたら)また、キは選択肢の各文末に特徴を表すことばがないと、設問に対する正答とはならないと思います。
- △問五は、選択肢の正答以外のものが正答とかけ離れていた。

【第2学年】

- 問四の素材は良かった。
- △問二のウは、この設問の書き方であると、3を誤答にする根拠がうまく説明できない。(組み合わせの「順」としなくてはいけないのでは)
- △問三の4「桜のもみじ」は中学生にとって難解。季節感を大切にす意味でもいじりすぎないで欲しい。
- △問六の古文が現代の中学2年の生徒にとっては分かりにくいのではないか。茶器や「五分」などイメージしにくいと感じられた。
- △問六のウは、選択肢中の「みな」は人ではないし、登場人物が二人の題材で主語を問うのは難しい。また、オは、選択肢をもっと練ったものになると良かった。

【第3学年】

- 問二のエや、問三のアのように、きちんと読まねば正答できない問題はよく考えられている。
- 問五のキの問題は、作問に工夫がみられる。
- △問二のウ、エ、オは、学年配当を考えた方がよいと思われます。
- △問二のエは、4の選択肢に明らかな誤字があるが、事前指示があっても良かった。
- △問三のアの設問が、難しく感じました。「8」の色彩を主題とする句を選んだ生徒が多かった。
- △問三のウ「A」の鑑賞文は、「日々変化する作者の心」というところまで中学3年生が読みとるのは難しいのではないか。
- △問四の選択肢がすぐに正解がわかるようなものであった。もう少し工夫していただけると・・・。
- △問四のエ、カは、正答の記述に疑問をもった。
- △問五論理的文章のキは、3年生の設問としては平易すぎる。

【全体】

- 各学年とも復習の内容が出題され、学習の振り返りをすることができ、よかった。
- △説明文が3学年とも、理科系であった。広い範囲からの出題を望みます。

(4) 配点の妥当性について

- どの学年についても妥当であると思われます。
- △難易度に応じて配点を考えていただいていると思いますが、正答率・誤答率を調べてみると必ずしもそれが適切ではないことがあるかと思えます。誤答分析の冊子をまた参考にさせていただきます。

(5) その他

- 生徒が、自己の学習状況、課題を把握することができるような内容でした。
- △疑義について、新しい書写一(東京書籍)では、“ころもへん”で掲載されていました。正解しているものは、そのまま良かったのではないかと思います。
- △文法が「1年 文節分け」「2年 単語分け」「3年 品詞」となっているが、1、2年で「文の成分」を出題しても良い。

4. 今後に向けて

(1) 話すこと・聞くこと

聞くことの指導では、実際の生活場面を意識した学習活動を行いたい。他の生徒に伝達する設定や校内放送を聞くなどの目的や場面に応じてメモを取りながら聞く大切さを指導したい。相手が言いたいことを確かめ、足りない情報を聞き出すなど、確実に伝達できるように聞き取らせることが大切である。また、必要に応じて質問させる場面を設定することも有効である。

(2) 書くこと

難しい課題ではあるが、今後は記述式の設定問も検討が必要であろう。また、文章の推敲や構成を問う選択肢の出題も考えられるだろう。授業では、文章の内容を要約したり、感じたことや考えたことを分かりやすく記述したりする活動を多く取り入れたい。

なお国語辞典を活用することは、語句の意味、表記の仕方や品詞、用例、対義語や類義語など様々な情報から言語感覚を豊かにすることにつながる。文脈の中で国語辞典に記載された語釈や用例を参考にして理解していくことは、記述する際によりふさわしい表現を選ぶことにも役立つだろう。

(3) 読むこと

文学的文章を読む際には、登場人物の内面を描写している部分、情景描写、場面の展開に注意して内容を読み取ることが大切である。主人公だけでなく他の登場人物の心情に着目させ、それぞれの立場から物語を読みすすめる学習活動も取り入れたい。また、くり返し使われる語句や指示語、副詞、オノマトペ、比喩、文末などの表現の特色にも着目させ、読みを深めることにつなげたい。

説明的文章を読む際には、文章の構成を理解し、全体の内容を把握する力を育てたい。また、文章の展開に即して内容を捉え、目的や必要に応じて要約する力も育てる必要がある。

なお、近年の本市診断テストで取り上げている文章中の図やグラフなどの資料をもとに必要な情報を得ることは、国語科のみならず各教科などでも重要である。日常生活で触れる多くの書物の中には、図表などが用いられていることが少なくない。図やグラフなどから読み取ったことを言葉で分かりやすく説明する学習活動に関連づけて指導していきたい。

韻文の指導では、韻文に触れる機会を多く作り、豊かな感性を育めるように心がけたい。表現された言葉のもつ意味や作者の思いを読み味わおうとする姿勢を培うことが重要である。そして、言葉のつながりや意味のまとまりを捉えたり、語句の効果的な使い方や表現上の工夫に着目したりして、作者の気付きや感動を捉えさせたい。日常生活において四季を感じる機会を増やすことも大切である。

(4) 言語に関する事項

漢字は、文脈に即して使えるようにすることが大切である。近年、パソコンやメールの使用頻度が高く、同音異義語や同訓異字などもパソコンの学習機能が適宜選んでくれるため、漢字の意味を考えなくてすむようになった。読み手に意味が正しく伝わるように適切な漢字を選んで書くことを、より意識させるようにしたい。また、同音異義語の意味の違いについて考えたり、類義語を相手や場面に応じて使い分けたりする学習活動も語彙力を豊かにすると思われる。

言葉のきまり(文法)については、知識として理解するだけではなく、日常生活で適切に使えるようにする必要がある。授業で、実際の使用場面を取り上げて指導する機会も作りたい。

書写の授業では、書きやすく読みやすい字のために字形を整えること、正しい筆順で書くこと、漢字と仮名の調和などの指導を充実させたい。また、短歌や俳句の学習に関連させて短冊を書いたり手紙を書いたりするなど、授業形態も工夫したい。

(※) 古典(伝統的な言語文化)

古典の指導では、古文特有のリズムに慣れさせることから始めたい。そのためには、音読や暗誦などの学習活動が重要である。また、古文と現代語訳を対応させて文章の内容をおおまかに捉えることも大切である。来年度は、新設される「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を踏まえ、古典についての指導をさらに充実していく必要がある。多くの古典を読み親しませることで、古典の世界を味わい楽しむことができれば、理解力を高めることにも結びつくと思われる。

平成 23 年度

川崎市立中学校 学習診断テスト 社会科

誤答分析と学習指導上の考察

川崎市教育委員会
川崎市立中学校長会
社会科調査委員会

社会

I. 作成方針と構成

1. 作問にあたって

- (1) 学習指導要領に示されている社会科の目標および内容の、基礎的・基本的な事項について、いかに生徒に定着しているかを、観点別に調査・診断することを意図して問題を作成した。
- (2) 作問は、本市使用の教科書を中心に行った。
- (3) 出題の傾向
 - ◎ 第1学年は、平成24年度に全面実施される学習指導要領に示されているもののうち、その移行期間の措置として本年度4月から10月までの学習内容について出題した。
 - ◎ 第2学年は、平成24年度に全面実施される学習指導要領に示されているもののうち、その移行期間の措置として前年度11月から本年度10月までの学習内容について出題した。
 - ◎ 第3学年は、学習指導要領に示されているもののうち、前年度11月から本年度10月までの学習内容について出題した。時事的事項も取り入れた。

なお、出題範囲の決定にあたり、各学校より提出された学習指導に関するアンケート調査の集計結果を参考にした。

<誤答分析の表記について>

「考察」について、80%以上を「十分」、60～79%を「一応」、35～59%を「やや不十分」、34%以下を「不十分」の言葉を用いて表記した。また、各問題の観点・内容にあわせた文章を作成し、特別な間違いについても記述した。

問題用紙写真提供

アマナイメーجز／AFP／慈照寺／中尊寺／DPA／東大寺蔵 財団法人美術院／長崎歴史文化博物館／
日光東照宮宝物館／PANA／悠工房

2. 出題のねらい[社会]

| | 1 年 | 2 年 | 3 年 |
|-----|---|--|---|
| 問 1 | <p>●原始・古代の日本と世界 原始・古代までの日本と東アジアの特徴やできごとを、資料を読み取り、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> | <p>●中世の日本 中世の日本について、政権の移り変わりや、外国との関係、武士と民衆の間に広まっていった文化について、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> | <p>●移り変わる社会とわたしたちの暮らし ●社会の中で生きる 移り変わる社会と私たちの暮らしについて、高度経済成長・NGO・現代社会の諸問題を適切に判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> |
| 問 2 | <p>●古代の日本 飛鳥時代から平安時代までの各時代の特徴やしぐみを、資料を読み取り、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> | <p>●中世の日本の文化 中世の日本の文化について、正しく判断し、適切に資料を選択し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> | <p>●暮らしの中に生きる憲法 暮らしの中に生きる憲法について、その内容を資料から正しく読み取り、内容を適切に判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> |
| 問 3 | <p>●古代から中世にかけての日本と東アジア 武家の政治が展開された平安時代の末期から鎌倉時代までの特徴やしぐみを資料を読み取り、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> | <p>●武家政治の発展と世界の動き 武家政治の発展と世界の動きについて、外国との関係が日本に与えた影響と、国内での政治のようすを正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> | <p>●暮らしとつながる政治 国会・内閣・地方自治について、その内容を適切に判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> |
| 問 4 | <p>●世界の地域構成 世界の地域構成に関して、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、地域区分などについて、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> | <p>●近世の日本 江戸時代の政治や外交、社会のようす、文化などについて、正しく判断し、適切に資料を選択し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> | <p>●暮らしとつながる政治 暮らしとつながる政治について、その内容を資料から正しく読み取り、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> |
| 問 5 | <p>●世界各地の人々の生活と環境 世界各地の人々の生活と環境に関して、世界各国における人々の生活のようすとその変容について、自然および社会的条件と関連付けて、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> | <p>●世界の諸地域 世界の諸地域(州)の地域的特色と人々の生活のようす、統計資料の読み取りについて、基礎的な知識や技能、考察する力をみることをねらいとしている。</p> | <p>●二つの世界大戦と日本 第一次世界大戦から第二次世界大戦までの日本の動きを、世界との関係や人々の生活と絡めて考察し、資料を正しく読み取っているかをみることをねらいとしている。</p> |
| 問 6 | <p>●世界の諸地域(アジア) 世界の諸地域に関して、アジア州に暮らす人々の生活のようすを的確に把握できる地理的事象を取り上げ、地域的特色について、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> | <p>●世界のさまざまな地域の調査 オーストラリアについて、基礎的な知識や様々な資料を適切に読み取り、地図を有効に活用して事象を説明する力をみることをねらいとしている。</p> | <p>●現代の日本と世界 第二次世界大戦後の日本のようすや国際社会について、正しく判断し、適切に考察し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> |
| 問 7 | <p>●世界の諸地域(ヨーロッパ) 世界の諸地域に関して、ヨーロッパ州に暮らす人々の生活のようすを的確に把握できる地理的事象を取り上げ、地域的特色について、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p> | <p>●世界と比べた日本の地域的特色 自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結び付きの視点からとらえた日本の地域的特色についての基礎的な知識や技能、考察する力をみることをねらいとしている。</p> | <p>●世界と比べてみた日本 日本の地形・気候・文化・産業や、世界とくらべてみた日本について、資料を正しく読み取り、適切に理解しているかをみることをねらいとしている。</p> |
| 問 8 | | <p>●世界各地との時差 日本の位置と世界各地との時差についての基礎的な知識や技能、考察する力をみることをねらいとしている。</p> | |
| 問 9 | | <p>●日本の地域構成 日本の位置と範囲、都道府県の構成と地域区分についての基礎的な知識や技能、考察する力をみることをねらいとしている。</p> | |

Ⅱ. 第1学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[社会第1学年]

| 問題番号 | | 思 | 技 | 知 | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | 無答率 |
|------|-----|---|---|---|---------------------|--|--------|-----|
| 大問 | 小問 | | | | | | | |
| 1 | (ア) | ◎ | | | ①原始・古代の日本と世界 | 古墳時代のようすについて、正しく判断し理解しているかを問う。 | 75 | 0 |
| | (イ) | | ◎ | ○ | | 人類の進化について、資料を活用する力を問う。 | 89 | 0 |
| | (ウ) | | ○ | ◎ | | 弥生時代の建物について、正しく理解しているかを問う。 | 72 | 7 |
| | (エ) | ◎ | | | | 弥生時代に使われたものについて、正しく判断し理解しているかを問う。 | 62 | 5 |
| | (オ) | | ○ | ◎ | | 縄文時代につくられたものについて、正しく理解しているかを問う。 | 60 | 0 |
| | (カ) | | | ◎ | | 古代の東アジアのようすについて、正しく理解しているかを問う。 | 50 | 1 |
| | (キ) | | ◎ | ○ | | 古代文明の発祥地について、資料から適切に選択する力を問う。 | 50 | 1 |
| | (ク) | ◎ | | ○ | | 原始・古代のできごとについて、正しい順に並び替えることができるかを問う。 | 36 | 0 |
| 2 | (ア) | ◎ | | ○ | ②古代の日本 | 律令制度の成立過程のできごとについて、正しい順に並び替えることができるかを問う。 | 32 | 1 |
| | (イ) | | | ◎ | | 奈良時代の仏教について、正しく理解しているかを問う。 | 70 | 0 |
| | (ウ) | | | ◎ | | 聖徳太子の政治について、正しく理解しているかを問う。 | 77 | 0 |
| | (エ) | | | ◎ | | 遣唐使について、正しく理解しているかを問う。 | 16 | 0 |
| | (オ) | | | ◎ | | 奈良時代の農民の生活について、正しく理解しているかを問う。 | 72 | 1 |
| | (カ) | | | ◎ | | 天平文化について、正しく理解しているかを問う。 | 32 | 0 |
| | (キ) | | ○ | ◎ | | 平安京の所在地について、正しく理解しているかを問う。 | 80 | 0 |
| | (ク) | | | ◎ | | 摂関政治について、正しく理解しているかを問う。 | 67 | 1 |
| | (ケ) | ○ | | ◎ | | 奈良時代の開墾政策について、正しく理解しているかを問う。 | 57 | 3 |
| 3 | (ア) | | | ◎ | ③古代から中世にかけての日本と東アジア | 院政について、正しく理解しているかを問う。 | 28 | 30 |
| | (イ) | | | ◎ | | 東北地方での武士の台頭について、正しく理解しているかを問う。 | 33 | 0 |
| | (ウ) | | | ◎ | | 平清盛による日宋貿易について、正しく理解しているかを問う。 | 50 | 0 |
| | (エ) | | | ◎ | | 源頼朝の政治について、正しく理解しているかを問う。 | 45 | 1 |
| | (オ) | | ◎ | ○ | | 鎌倉時代の封建制度について、資料から適切に読み取れるかを問う。 | 86 | 0 |
| | (カ) | ◎ | | ○ | | 北条氏による政治について、正しく判断し理解しているかを問う。 | 49 | 0 |
| | (キ) | | ◎ | | | 北条氏の勢力拡大について、資料から適切に読み取れるかを問う。 | 78 | 1 |
| | (ク) | | | ◎ | | 鎌倉仏教について、正しく理解しているかを問う。 | 53 | 1 |
| 4 | (ア) | | ◎ | ○ | ④世界の地域構成 | 北極点付近を中心にながめた地球のようすについて、資料を活用する力を問う。 | 47 | 1 |
| | (イ) | | | ◎ | | 正距方位図法について、資料を活用する力を問う。 | 70 | 3 |
| | (ウ) | | | ◎ | | 資料にあてはまる国を、正しく理解しているかを問う。 | 55 | 1 |
| | (エ) | | ○ | ◎ | | 資料にあてはまる地域の国境について、正しく理解しているかを問う。 | 61 | 0 |
| | (オ) | ◎ | | ○ | | 地図上の2点間の最短ルートについて、資料を活用し、判断する力を問う。 | 38 | 7 |
| | (カ) | ◎ | | ○ | | 南半球、島国、面積について正しく理解した上で、判断する力を問う。 | 47 | 0 |
| | (キ) | | | ◎ | | 大まかな世界地図を描く技術を、活用する力を問う。 | 58 | 3 |
| 5 | (ア) | ○ | ◎ | | ⑤世界各地の人々の生活と環境 | 寒い地域の伝統衣装について、資料を活用する力を問う。 | 70 | 4 |
| | (イ) | | | ◎ | | イタリアの食文化について、正しく理解しているかを問う。 | 68 | 0 |
| | (ウ) | ◎ | ○ | | | 乾燥している地域の家屋について、資料を活用し、判断する力を問う。 | 85 | 0 |
| | (エ) | ◎ | ○ | | | アフリカ中部の気候と植生について、資料を活用し、判断する力を問う。 | 14 | 5 |
| | (オ) | | ◎ | ○ | | 東南アジアの宗教について、資料を活用する力を問う。 | 44 | 0 |
| | (カ) | ◎ | | | | 高地の生活について、資料を活用し、判断する力を問う。 | 39 | 0 |
| 6 | (ア) | | | ◎ | ⑥世界の諸地域(アジア) | 人口が多い国について、正しく理解しているかを問う。 | 49 | 0 |
| | (イ) | | | ◎ | | 世界人口について、資料を活用する力を問う。 | 48 | 1 |
| | (ウ) | | | ◎ | | 西アジアで産出される資源について、正しく理解しているかを問う。 | 60 | 0 |
| | (エ) | ○ | ◎ | | | アジアの人口密度について、資料を活用する力を問う。 | 49 | 1 |
| | (オ) | ◎ | ○ | | | アジアの人口が急増している国のようすについて、資料を活用し、判断する力を問う。 | 73 | 0 |
| | (カ) | | | ◎ | | 東南アジアの輸出品の変化について、資料を活用する力を問う。 | 60 | 1 |
| 7 | (ア) | | | ◎ | ⑦世界の諸地域(ヨーロッパ) | ヨーロッパの主な国の首都名を、正しく理解しているかを問う。 | 70 | 0 |
| | (イ) | | | ◎ | | ヨーロッパ連合の略称を、正しく理解しているかを問う。 | 49 | 0 |
| | (ウ) | | | ◎ | | ヨーロッパ連合の旗を、正しく理解しているかを問う。 | 66 | 0 |
| | (エ) | | ○ | ◎ | | ヨーロッパ連合に加盟すると可能になることについて、正しく理解しているかを問う。 | 40 | 1 |
| | (オ) | ◎ | ○ | | | ヨーロッパ連合の現状について、資料を活用し、判断する力を問う。 | 60 | 2 |
| | (カ) | ◎ | ○ | | | ヨーロッパの経済と労働者の移動について、資料を活用し、判断する力を問う。 | 54 | 1 |

◎…主たる観点、○…従たる観点

2. 主な誤答と分析[社会第1学年]

(1) 歴史的分野

| 大問 | 小問 | 小問の内容 | 応答率% | | | | 考 察 |
|----|------------|----------------|------|------|------|--|--|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 1 | ア | 古墳時代のようす | (75) | 8 | 7 | 10 | 古墳時代のようすについての判断が、一応できている。 |
| | イ | 人類の進化 | 4 | 1 | (89) | 6 | 人類の進化について、資料を読み取る技能が十分身についている。 |
| | ウ | 弥生時代の建物 | 高床倉庫 | その他 | 無答 | | 弥生時代の代表的な建物についての理解が、一応できている。誤答例 たて穴(式)住居 |
| | | | (72) | 21 | 7 | | |
| | エ | 弥生時代に使われたもの | 4 | 13 | 16 | (62) | 弥生時代に使われたものについての判断が、一応できている。 |
| | オ | 縄文時代につくられたもの | 2 | (60) | 4 | 34 | 縄文時代につくられたものについての理解が、一応できている。 |
| | カ | 古代の東アジアのようす | 34 | 9 | (50) | 6 | 古代の東アジアのようすについての理解が、やや不十分である。 |
| キ | 古代文明の発祥地 | (50) | 25 | 21 | 3 | 古代文明の発祥地について、資料から読み取る技能がやや不十分である。 | |
| ク | 原始・古代のできごと | 15 | 19 | 30 | (36) | 原始・古代のできごとについて、流れの理解が、やや不十分である。 | |
| 2 | ア | 律令制度の成立過程のできごと | 26 | (32) | 24 | 17 | 律令制度の成立過程のできごとについて、流れの理解が、不十分である。 |
| | イ | 奈良時代の仏教 | 2 | 1 | (70) | 27 | 奈良時代の仏教についての理解が、一応できている。 |
| | ウ | 聖徳太子の政治 | 5 | (77) | 4 | 14 | 聖徳太子の政治についての理解が、一応できている。 |
| | エ | 遣唐使 | 13 | 68 | 3 | (16) | 遣唐使についての理解が、不十分である。 |
| | オ | 奈良時代の農民の生活 | (72) | 9 | 15 | 3 | 奈良時代の農民の生活のようすについての理解が、一応できている。 |
| | カ | 天平文化 | (32) | 9 | 19 | 40 | 天平文化についての理解が、不十分である。 |
| | キ | 平安京の所在地 | 3 | 11 | (80) | 6 | 平安京の所在地についての理解が、十分できている。 |
| ク | 摂関政治 | 17 | 2 | 13 | (67) | 摂関政治についての理解が、一応できている。 | |
| ケ | 奈良時代の開墾政策 | 6 | (57) | 20 | 14 | 奈良時代の開墾政策についての理解が、やや不十分である。 | |
| 3 | ア | 院政 | 院政 | その他 | 無答 | | 院政についての理解が、不十分である。 誤答例 摂関政治、上皇政治 |
| | | | (28) | 42 | 30 | | |
| | イ | 東北地方での武士の台頭 | 27 | 34 | (33) | 6 | 東北地方での武士の台頭についての理解が、不十分である。 |
| | ウ | 平清盛による日宋貿易 | 15 | 19 | 16 | (50) | 平清盛による日宋貿易についての理解が、やや不十分である。 |
| | エ | 源頼朝の政治 | (45) | 23 | 18 | 13 | 源頼朝の政治についての理解が、やや不十分である。 |
| | オ | 鎌倉時代の封建制度 | 8 | 2 | (86) | 4 | 鎌倉時代の封建制度について、資料を読み取る技能が十分身についている。 |
| | カ | 北条氏による政治 | 16 | (49) | 17 | 18 | 北条氏による政治についての判断が、やや不十分である。 |
| キ | 北条氏の勢力拡大 | (78) | 9 | 8 | 4 | 北条氏の勢力拡大のようすについて、資料から読み取る技能が一応身についている。 | |
| ク | 鎌倉仏教 | 5 | (53) | 6 | 35 | 鎌倉仏教についての理解が、やや不十分である。 | |

(2) 地理的分野

| 大問 | 小問 | 小問の内容 | 応答率% | | | | 考 察 |
|----|----|----------------------|-------------|-----------|----------|------|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 4 | ア | 北極点を中心に見た地球 | (47) | 16 | 14 | 22 | 北極点を中心にながめた地球で、国名と海洋名を読み取る技能が、やや不十分である。 |
| | イ | 正距方位図法 | 9 | (70) | 9 | 9 | 正距方位図法を活用する技能が、一応身についている。 |
| | ウ | 世界の建造物 | (55) | 7 | 22 | 15 | 世界の有名な建造物についての理解が、やや不十分である。 |
| | エ | 国境線 | 23 | 11 | (61) | 5 | 国境線の基準となるものについての理解が、一応できている。 |
| | オ | 最短ルート | (38) | 45 | 8 | 2 | メルカトル図法上の2点間の最短ルートの判断が、やや不十分である。 |
| | カ | 半球、島国、面積 | 33 | 8 | 12 | (47) | 半球、島国、面積をヒントにした国名の判断が、やや不十分である。 |
| | キ | 略地図 | 24 | (58) | 10 | 5 | 略地図を描く技能が、やや不十分である。 |
| 5 | ア | 伝統的な衣装 | 15 | 3 | 8 | (70) | 寒い地域の伝統的な衣装について、資料を活用する技能が、一応身についている。 |
| | イ | 伝統的な食べ物 | (68) | 27 | 1 | 4 | イタリアの伝統的な食べ物についての理解が、一応できている。 |
| | ウ | 伝統的な家屋 | 2 | 7 | 6 | (85) | 乾燥地域の伝統的な家屋について、資料を用いた判断が、十分できている。 |
| | エ | 雨温図、植生 | 2・え (14) | その他 81 | 無答 5 | | アフリカ中部の気候区分と植生について、資料を用いた判断が、不十分である。 |
| | オ | 宗教 | 12 | 21 | (44) | 23 | 東南アジアの宗教について、資料を読み取る技能が、やや不十分である。 |
| | カ | 伝統的な衣装と気候 | 9 | 36 | (39) | 16 | 南アメリカの高地の伝統的な衣装と気候の関係についての判断が、やや不十分である。 |
| 6 | ア | 人口が多い国 | 37 | 9 | 5 | (49) | 人口が世界で二番目に多い国(インド)についての理解が、やや不十分である。 |
| | イ | 統計資料の読み取り | 14 | (48) | 34 | 3 | 統計資料から割合を計算で求める技能が、やや不十分である。 |
| | ウ | 西アジアの鉱産物 | (60) | 16 | 12 | 12 | 西アジアで産出される鉱産物についての理解が、一応できている。 |
| | エ | 地図の読み取り | 23 | (49) | 9 | 18 | 3つの地図を活用する技能が、やや不十分である。 |
| | オ | 資料の読み取り | 16 | 4 | 7 | (73) | アジアのようすを述べた文章から類推し判断することが、一応できている。 |
| | カ | 統計資料の読み取り | 6 | 22 | (60) | 11 | 統計資料から輸出品の変化を読み取る技能が、一応できている。 |
| 7 | ア | 首都名 | 9 | (70) | 13 | 8 | 2012年に夏季オリンピックが開催されるイギリスの首都の理解が、一応できている。 |
| | イ | ヨーロッパ連合の略称 | EU (49) | その他 31 | 無答 20 | | ヨーロッパ連合の略称の理解が、やや不十分である。 誤答例 TPP、ASEAN、USA |
| | ウ | ヨーロッパ連合の旗 | 11 | 14 | 9 | (66) | ヨーロッパ連合の旗の理解が、一応できている。 |
| | エ | ヨーロッパ連合に加盟することができること | (40) | 22 | 20 | 17 | ヨーロッパ連合に加盟することについての理解が、やや不十分である。 |
| | オ | ヨーロッパ連合の現状 | 15 | 12 | (60) | 11 | ヨーロッパ連合について、3つの資料を活用し判断することが、一応できている。 |
| | カ | ヨーロッパ統合と労働者の移動 | 17 | 16 | (54) | 12 | ヨーロッパ連合について、2つの資料を活用し判断することが、やや不十分である。 |

Ⅲ. 第2学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[社会第2学年]

| 問題番号 | 大問 | 小問 | 思 | 技 | 知 | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | | |
|------|----|-----|---|---|---|-----------------|--|--------|-----|----|
| | | | | | | | | | 無答率 | |
| 1 | | (ア) | | | ◎ | ①中世の日本 | 建武の新政について、正しく理解しているかを問う。 | | 58 | 0 |
| | | (イ) | | | ◎ | | 室町幕府のしくみについて、正しく理解しているかを問う。 | | 47 | 0 |
| | | (ウ) | | ◎ | ○ | | 勘合貿易について、内容を理解し、資料から読み取れるかを問う。 | | 64 | 0 |
| | | (エ) | | | ◎ | | 琉球王国の場所について、正しく理解し、地図中から読み取れるかを問う。 | | 79 | 0 |
| | | (オ) | | | ◎ | | アイヌとの交易で栄えた貿易港について、正しく理解しているかを問う。 | | 43 | 0 |
| | | (カ) | ◎ | | ○ | | 応仁の乱後の社会のようすについて、内容を正しく理解し、適切に判断できるかを問う。 | | 58 | 1 |
| | | (キ) | ◎ | | | | 南北朝の争乱について、適切に判断し、年表中から読み取れるかを問う。 | | 34 | 1 |
| 2 | | (ア) | | | ◎ | ②中世の日本の文化 | 中世の仏教について、正しく理解しているかを問う。 | | 58 | 1 |
| | | (イ) | | ◎ | ○ | | 鎌倉時代の代表的な彫刻について、正しく理解し、資料から読み取れるかを問う。 | | 46 | 0 |
| | | (ウ) | | ◎ | ○ | | 室町時代の建築様式について、正しく理解し、資料から読み取れるかを問う。 | | 56 | 16 |
| 3 | | (ア) | | | ◎ | ③武家政治の発展と世界の動き | 新航路の発見について、正しく理解しているかを問う。 | | 56 | 0 |
| | | (イ) | | | ◎ | | 鉄砲の伝来について、正しく理解しているかを問う。 | | 79 | 11 |
| | | (ウ) | ◎ | | ○ | | 戦国大名について、内容を正しく理解し、適切に判断できるかを問う。 | | 43 | 1 |
| | | (エ) | | | ◎ | | ザビエルの来航地について、正しく理解し、地図中から読み取れるかを問う。 | | 33 | 1 |
| | | (オ) | | ○ | ◎ | | 織田信長の政策について、資料を活用し、適切に判断できるかを問う。 | | 83 | 0 |
| | | (カ) | ◎ | | ○ | | 豊臣秀吉の政策について、内容を正しく理解し、適切に判断できるかを問う。 | | 71 | 1 |
| | | (キ) | ◎ | | ○ | | 安土桃山文化の特色について、内容を正しく理解し、適切に判断できるかを問う。 | | 50 | 1 |
| 4 | | (ア) | | | ◎ | ④近世の日本 | 幕藩体制について、正しく理解しているかを問う。 | | 75 | 1 |
| | | (イ) | | ◎ | ○ | | 鎖国下での貿易について、正しく理解し、資料から読み取れるかを問う。 | | 62 | 12 |
| | | (ウ) | | | ◎ | | 江戸時代の身分別の人口構成について、正しく理解しているかを問う。 | | 72 | 1 |
| | | (エ) | ◎ | | ○ | | 徳川吉宗の政治改革について、内容を正しく理解し、適切に判断できるかを問う。 | | 38 | 1 |
| | | (オ) | | | ◎ | | 江戸時代の都市について、正しく理解しているかを問う。 | | 80 | 1 |
| | | (カ) | | ○ | ◎ | | 江戸時代の文化について、資料を活用し、適切に判断できるかを問う。 | | 44 | 1 |
| | | (キ) | ◎ | | | | 江戸時代の農村のようすについて、適切に判断できるかを問う。 | | 69 | 1 |
| | | (ク) | ◎ | | | | 江戸時代のできごとについて、適切に判断できるかを問う。 | | 44 | 1 |
| 5 | | (ア) | ○ | ◎ | | ⑤世界の諸地域 | アフリカの気候の特色について、資料を選択できるかを問う。 | | 73 | 1 |
| | | (イ) | | | ◎ | | アフリカの経済の特色について、理解しているかを問う。 | | 28 | 47 |
| | | (ウ) | | ◎ | ○ | | 南アメリカの地形の特色について、資料を活用する力を問う。 | | 32 | 1 |
| | | (エ) | ◎ | ○ | | | 北アメリカの国々の貿易について、資料をもとに判断できるかを問う。 | | 47 | 2 |
| | | (オ) | | | ◎ | | 南北アメリカの人種・民族について、理解しているかを問う。 | | 63 | 1 |
| | | (カ) | ◎ | ○ | | | アメリカ合衆国の農業の特色について、資料をもとに判断できるかを問う。 | | 49 | 1 |
| | | (キ) | | | ◎ | | アメリカの工業地域について、理解しているかを問う。 | | 33 | 1 |
| | | (ク) | | | ◎ | | 南アメリカの農業と環境について、理解しているかを問う。 | | 35 | 1 |
| 6 | | (ア) | | ◎ | | ⑥世界のさまざまな地域の調査 | オーストラリアの貿易相手国について、資料を活用する力を問う。 | | 52 | 1 |
| | | (イ) | | ○ | ◎ | | オーストラリアの鉱産資源について、資料を読み取り、理解しているかを問う。 | | 69 | 1 |
| | | (ウ) | | | ◎ | | オーストラリアの国際関係について、正しく理解しているかを問う。 | | 52 | 1 |
| 7 | | (ア) | | | ◎ | ⑦世界と比べた日本の地域的特色 | 日本の自然災害について、理解しているかを問う。 | | 56 | 1 |
| | | (イ) | ◎ | ○ | | | 日本の人口構成について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。 | | 50 | 1 |
| | | (ウ) | ○ | ◎ | | | 日本の農業の特色・課題について、資料を読み取り、選択できるかを問う。 | | 71 | 1 |
| | | (エ) | | ◎ | ○ | | 日本の気候の特色について、資料を読み取り、理解しているかを問う。 | | 51 | 1 |
| | | (オ) | | | ◎ | | 日本の人口問題について、理解しているかを問う。 | | 27 | 19 |
| | | (カ) | | ◎ | | | 日本の交通の変化について、資料を読み取る力を問う。 | | 69 | 2 |
| | | (キ) | ◎ | | ○ | | 日本と世界の発電について、理解し、適切に判断しているかを問う。 | | 46 | 1 |
| | | (ク) | | ○ | ◎ | | 日本のエネルギー輸入について、資料を読み取り、理解しているかを問う。 | | 51 | 1 |
| 8 | | (ア) | ◎ | ○ | | ⑧世界各地との時差 | 世界各地との時差について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。 | | 54 | 2 |
| | | (イ) | | ◎ | ○ | | 時差について、資料を活用し、正しく理解しているかを問う。 | | 27 | 2 |
| 9 | | (ア) | | | ◎ | ⑨日本の地域構成 | 日本の位置と範囲について、理解しているかを問う。 | | 79 | 1 |
| | | (イ) | | ◎ | | | 日本の地域構成について、理解し、資料を読み取る力を問う。 | | 72 | 2 |
| | | (ウ) | | | ◎ | | 日本の都道府県と都道府県庁所在地について、理解しているかを問う。 | | 65 | 1 |

◎…主たる観点、○…従たる観点

2. 主な誤答と分析[社会第2学年]

(1) 歴史的分野

| 大問 | 小問 | 小問の内容 | 応答率% | | | | 考 察 |
|----|----|--------------|--------------|-----------|----------|------|--|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 1 | ア | 建武の新政 | 19 | (58) | 10 | 12 | 建武の新政についての理解が、やや不十分である。 |
| | イ | 室町幕府のしくみ | 13 | 28 | (47) | 12 | 室町幕府のしくみについての理解が、やや不十分である。 |
| | ウ | 勘合貿易 | (64) | 24 | 8 | 4 | 勘合貿易についての資料の読み取りが、一応できている。 |
| | エ | 琉球王国の場所 | 4 | 8 | (79) | 9 | 琉球王国の場所についての地図中からの読み取りが、一応できている。 |
| | オ | アイヌとの交易 | 23 | 23 | 11 | (43) | アイヌとの交易で栄えた貿易港についての理解が、やや不十分である。 |
| | カ | 応仁の乱後の社会 | (58) | 8 | 25 | 9 | 応仁の乱後の社会のようすについての判断が、やや不十分である。 |
| | キ | 南北朝の争乱 | (34) | 28 | 17 | 21 | 南北朝の争乱についての年表中からの読み取りが、不十分である。 |
| 2 | ア | 中世の仏教 | 22 | (58) | 9 | 11 | 中世の仏教についての理解が、やや不十分である。 |
| | イ | 鎌倉時代の彫刻 | 32 | (46) | 17 | 5 | 鎌倉時代の代表的な彫刻についての資料の読み取りが、やや不十分である。 |
| | ウ | 室町幕府の建築様式 | 書院 (56) | その他 28 | 無答 16 | | 室町時代の建築様式についての資料の読み取りが、やや不十分である。誤答例 寝殿 |
| 3 | ア | 新航路 | 14 | 25 | (56) | 5 | 新航路の発見についての理解が、やや不十分である。 |
| | イ | 鉄砲の伝来 | 鉄砲 (79) | その他 10 | 無答 11 | | 鉄砲の伝来についての理解が、一応できている。誤答例 てつはう |
| | ウ | 戦国大名 | 14 | 24 | 19 | (43) | 戦国大名についての判断が、やや不十分である。 |
| | エ | ザビエルの来航地 | 14 | 12 | 41 | (33) | ザビエルの来航地について地図中からの読み取りが、不十分である。 |
| | オ | 織田信長の政策 | (83) | 4 | 5 | 7 | 織田信長の政策について資料を活用しての判断が、十分できている。 |
| | カ | 豊臣秀吉の政策 | 9 | 8 | (71) | 12 | 豊臣秀吉の政策についての判断が、一応できている。 |
| | キ | 安土桃山文化の特色 | 12 | (50) | 13 | 25 | 安土桃山文化の特色についての判断が、やや不十分である。 |
| 4 | ア | 幕藩体制 | 7 | 14 | (75) | 4 | 幕藩体制についての理解が、一応できている。 |
| | イ | 鎖国下での貿易 | オランダ (62) | その他 26 | 無答 12 | | 鎖国下での貿易について資料からの読み取りが、一応できている。誤答例 イギリス ドイツ |
| | ウ | 江戸時代の身分別人口構成 | 14 | (72) | 12 | 2 | 江戸時代の身分別の人口構成についての理解が一応できている。 |
| | エ | 徳川吉宗の政治改革 | 13 | 25 | 24 | (38) | 徳川吉宗の政治改革についての判断が、やや不十分である。 |
| | オ | 江戸時代の都市 | (80) | 12 | 5 | 3 | 江戸時代の都市についての理解が、十分である。 |
| | カ | 江戸時代の文化 | 13 | 12 | 31 | (44) | 江戸時代の文化についての資料をもとにした判断が、やや不十分である。 |
| | キ | 江戸時代の農村 | 4 | 6 | (69) | 20 | 江戸時代の農村のようすについての判断が、一応できている。 |
| | ク | 江戸時代のできごと | 15 | (44) | 27 | 14 | 江戸時代のできごとについての判断が、やや不十分である。 |

(2) 地理的分野

| 大問 | 小問 | 小問の内容 | 応答率% | | | | 考 察 |
|----|----|---------------|--------------------------------|--------------------------|-------------------------|------|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 5 | ア | アフリカの気候 | 5 | 7 | 15 | (73) | 気候の特色について資料を選択する力が一応できている。 |
| | イ | アフリカの経済 | <small>モノカルチャー</small> (28) | 25 | 47 | | アフリカの経済の特色についての理解が不十分である。誤答例 カルチャー プランテーション |
| | ウ | 南アメリカの地形 | 23 | 29 | (32) | 14 | 南アメリカの地形の特色について、資料を活用することが不十分である。 |
| | エ | 北アメリカの国々の貿易 | (47) | 17 | 21 | 14 | 北アメリカの国々の貿易について、資料をもとに判断する力がやや不十分である。 |
| | オ | 南北アメリカの人種・民族 | 5 | (63) | 22 | 9 | 南北アメリカの人種・民族についての理解が一応できている。 |
| | カ | アメリカ合衆国の農業 | (49) | 41 | 5 | 3 | アメリカ合衆国の農業について、資料をもとに判断する力がやや不十分である。 |
| | キ | アメリカの工業地域 | (33) | 24 | 20 | 21 | アメリカの工業地域についての理解が不十分である。 |
| | ク | 南アメリカの農業と環境 | 49 | (35) | 9 | 6 | 南アメリカの農業と環境についての理解がやや不十分である。 |
| 6 | ア | オーストラリアの貿易相手国 | 4 | 38 | (52) | 5 | オーストラリアの貿易相手国について、資料を活用する力がやや不十分である。 |
| | イ | オーストラリアの鉱産資源 | 9 | (69) | 13 | 7 | オーストラリアの鉱産資源について、資料を読み取る力が一応ついている。 |
| | ウ | オーストラリアの国際関係 | 12 | 24 | 11 | (52) | オーストラリアの国際関係についての理解がやや不十分である。 |
| 7 | ア | 日本の自然災害 | (56) | 12 | 18 | 13 | 日本の自然災害についての理解が、やや不十分である。 |
| | イ | 日本の人口構成 | 27 | (50) | 20 | 2 | 日本の人口構成について資料を読み取り判断することが、やや不十分である。 |
| | ウ | 日本の農業の特色・課題 | 5 | 14 | 9 | (71) | 日本の農業の特色・課題について資料を読み取り選択することが一応できている。 |
| | エ | 日本の気候 | 17 | 11 | (51) | 20 | 日本の気候の特色について、資料を読み取る技能がやや不十分である。 |
| | オ | 日本の人口問題 | <small>過密</small> (27) | <small>その他</small> 54 | <small>無答</small> 19 | | 日本の人口問題についての理解が不十分である。誤答例 少子高齢 高齢 過疎 人口増 |
| | カ | 日本の交通の変化 | 11 | 10 | 7 | (69) | 日本の交通の変化について、資料を読み取ることが一応できている。 |
| | キ | 日本と世界の発電 | 8 | (46) | 35 | 9 | 日本と世界の発電について、理解し適切に判断する力がやや不十分である。 |
| | ク | 日本のエネルギー輸入 | (51) | 27 | 10 | 10 | 日本のエネルギーの輸入について、資料を読み取る技能がやや不十分である。 |
| | ケ | 日本の工業の変化 | 9 | 7 | 13 | (68) | 日本の工業の変化について資料を読み取り適切に判断することが一応できている。 |
| 8 | ア | 世界各地との時差 | 21 | 5 | (54) | 19 | 世界各地との時差について、資料を読み取り適切に判断する力がやや不十分である。 |
| | イ | 時差の求め方 | 6 | 38 | 27 | (27) | 時差について理解し、資料を活用する力が不十分である。 |
| 9 | ア | 日本の位置と範囲 | (79) | 5 | 9 | 6 | 日本の位置と範囲についての理解が一応できている。 |
| | イ | 日本の地域構成 | 4 | 12 | (72) | 10 | 日本の地域構成について理解し、資料を適切に読み取ることが一応できている。 |
| | ウ | 都道府県と都道府県庁所在地 | (65) | 8 | 12 | 14 | 都道府県と都道府県庁所在地について一応理解できている。 |

IV. 第3学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[社会第3学年]

| 問題番号 大問 小問 | 思 | 技 | 知 | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | | 無答率 |
|-----------------|-----|---|--------------------------------|--------------------------------|--|--------|-----|-----|
| | | | | | | 正答率(%) | 無答率 | |
| 1 | (ア) | ◎ | ○ | ①移り変わる社会とわたしたちの暮らし 社会の中で生きる | 日本の高度成長について、内容を正しく判断する力を問う。 | 80 | 1 | |
| | (イ) | | ◎ | | NGOがどのような組織なのか、理解しているかを問う。 | 59 | 1 | |
| | (ウ) | | ◎ | | 高度経済成長期に合わせた電化製品の普及について、理解しているかを問う。 | 74 | 1 | |
| | (エ) | ◎ | ○ | | 高度経済成長の影響について、内容を正しく判断する力を問う。 | 64 | 1 | |
| | (オ) | | ◎ | | 核家族世帯の範囲について、理解しているかを問う。 | 84 | 1 | |
| | (カ) | | ◎ | | 世帯の構成割合の推移について、資料から正しく読み取る力を問う。 | 86 | 1 | |
| | (キ) | | ◎ | | 現代の介護や家事、育児の問題について、資料から正しく読み取る力を問う。 | 67 | 1 | |
| 2 | (ア) | | ◎ | ②暮らしの中に 生きる憲法 | 世界人権宣言について、理解しているかを問う。 | 48 | 1 | |
| | (イ) | | ◎ | | 日本国憲法の三大原則の一つである基本的人権の尊重を、理解しているかを問う。 | 27 | 10 | |
| | (ウ) | | ◎ | | 天皇の国事行為について、理解しているかを問う。 | 24 | 1 | |
| | (エ) | | ◎ | | 憲法の改正について、理解しているかを問う。 | 45 | 1 | |
| | (オ) | | ◎ | | 生存権について、理解しているかを問う。 | 91 | 1 | |
| | (カ) | | ◎ | | 国民の三大義務である子女に普通教育を受けさせる義務を、理解しているかを問う。 | 81 | 1 | |
| | (キ) | ○ | ◎ | | 自己決定権について、資料から正しく読み取る力を問う。 | 63 | 1 | |
| (ク) | ○ | ◎ | 公共の福祉について、理解しているかを問う。 | 25 | 17 | | | |
| 3 | (ア) | ◎ | ○ | ③暮らしとつながる政治 | 国会の種類について、内容を正しく判断する力を問う。 | 77 | 1 | |
| | (イ) | ○ | ◎ | | 法律案の提出から採決までの流れを、理解しているかを問う。 | 29 | 1 | |
| | (ウ) | | ◎ | | 国務大臣の任命について、理解しているかを問う。 | 62 | 1 | |
| | (エ) | | ◎ | | 内閣の仕事について、理解しているかを問う。 | 40 | 1 | |
| | (オ) | ○ | ◎ | | 衆議院の選挙について、理解しているかを問う。 | 73 | 1 | |
| | (カ) | ○ | ◎ | | 地方公共団体の仕事について、理解しているかを問う。 | 48 | 1 | |
| | (キ) | | ◎ | | 地方公共団体のしくみについて、理解しているかを問う。 | 53 | 1 | |
| (ク) | ◎ | ○ | 地方公共団体のしくみについて、内容を正しく判断する力を問う。 | 29 | 1 | | | |
| 4 | (ア) | ○ | ◎ | ④暮らしとつながる政治 | 裁判員制度について、資料から正しく読み取る力を問う。 | 66 | 1 | |
| | (イ) | | ○ | | 三種のかかわりを示しているものの組み合わせについて、理解しているかを問う。 | 58 | 1 | |
| 5 | (ア) | | ◎ | ⑤二つの世界大戦と日本 | 第一次世界大戦について、理解しているかを問う。 | 48 | 2 | |
| | (イ) | ◎ | ○ | | 第二次世界大戦までのできごとについて、正しい順に並び替えることができるかを問う。 | 45 | 1 | |
| | (ウ) | | ◎ | | 第一次世界大戦における日本の外交について、理解しているかを問う。 | 62 | 1 | |
| | (エ) | ◎ | ○ | | 第一次世界大戦のころの国内のようすについて、適切に判断しているかを問う。 | 28 | 1 | |
| | (オ) | | ◎ | | 国際連盟について、理解しているかを問う。 | 65 | 1 | |
| | (カ) | ○ | ◎ | | 世界恐慌に対する各国の対応について、理解しているかを問う。 | 58 | 1 | |
| | (キ) | | ◎ | | 国家総動員法について、理解しているかを問う。 | 65 | 2 | |
| (ク) | ◎ | ○ | 原子爆弾について、資料を読み取り、理解しているかを問う。 | 82 | 6 | | | |
| 6 | (ア) | | ◎ | ⑥現代の日本と世界 | 戦後の民主化政策について、資料を読み取る力を問う。 | 83 | 1 | |
| | (イ) | ◎ | ○ | | 戦後の世界のできごとについて、適切に判断しているかを問う。 | 34 | 1 | |
| | (ウ) | | ◎ | | サンフランシスコ講和会議について、理解しているかを問う。 | 72 | 2 | |
| | (エ) | ○ | ◎ | | 日中共同声明について、資料を読み取り、理解しているかを問う。 | 95 | 2 | |
| (オ) | ◎ | ○ | 冷戦後の世界のできごとについて、適切に判断しているかを問う。 | 50 | 1 | | | |
| 7 | (ア) | | ◎ | ⑦世界と比べてみた日本 | 世界の地形について、資料を読み取る力を問う。 | 82 | 1 | |
| | (イ) | | ◎ | | 特色ある地形について、理解しているかを問う。 | 55 | 2 | |
| | (ウ) | ○ | ◎ | | 世界の気候について、資料を読み取り、雨温図を選択する力を問う。 | 55 | 2 | |
| | (エ) | | ◎ | | 日本の人口について、資料を読み取る力を問う。 | 87 | 1 | |
| | (オ) | ◎ | ○ | | 世界の宗教について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。 | 52 | 2 | |
| | (カ) | | ◎ | | 日本の伝統文化について、資料を読み取る力を問う。 | 68 | 2 | |
| | (キ) | | ◎ | | エネルギーについて、資料を読み取る力を問う。 | 79 | 2 | |
| | (ク) | ○ | ◎ | | 新しいエネルギーについて、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。 | 62 | 2 | |
| | (ケ) | | ◎ | | 加工貿易について、理解しているかを問う。 | 25 | 30 | |
| | (コ) | ◎ | ○ | | 日本の工業について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。 | 74 | 3 | |
| | (サ) | | ◎ | | 促成栽培について、理解しているかを問う。 | 78 | 2 | |
| | (シ) | ◎ | ○ | | 日本の人口について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。 | 79 | 2 | |

◎…主たる観点、○…従たる観点

2. 主な誤答と分析[社会第3学年]

(1) 公民的分野

| 大問 | 小問 | 小問の内容 | 応答率% | | | | 考 察 |
|----|-------|-----------------|-------|------|------|---|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 1 | ア | 高度経済成長 | 9 | (80) | 4 | 6 | 高度経済成長について、内容を正しく判断する力が、十分身についている。 |
| | イ | NGO | 23 | 7 | (59) | 10 | NGOについての理解が、やや不十分である。 |
| | ウ | 高度経済成長期の電化製品の普及 | 6 | 5 | 14 | (74) | 高度経済成長期の生活についての理解が、一応できている。 |
| | エ | 高度経済成長の影響 | (64) | 30 | 0 | 5 | 高度経済成長の影響について、内容を正しく判断する力が、一応身についている。 |
| | オ | 核家族 | 1 | 13 | (84) | 1 | 核家族についての理解が、十分できている。 |
| | カ | 高齢社会 | (86) | 8 | 2 | 3 | 家族の中の65歳以上の人の数と割合について、資料を読み取る技能が、十分身についている。 |
| | キ | 介護・家事・育児の問題 | 12 | 10 | 10 | (67) | 現代の問題について、資料を読み取る技能が、一応身についている。 |
| 2 | ア | 世界人権宣言 | 3 | 42 | 6 | (48) | 世界人権宣言の理解が、やや不十分である。 |
| | イ | 基本的人権 | 基本的人権 | その他 | 無答 | | 基本的人権についての理解が、不十分である。 誤答例：人権、公共の福祉、権利、自由 |
| | | | (27) | 63 | 10 | | |
| | ウ | 国事行為 | 33 | 15 | (24) | 27 | 天皇の国事行為についての理解が、不十分である。 |
| | エ | 憲法改正 | (45) | 28 | 13 | 13 | 憲法改正についての理解が、やや不十分である。 |
| | オ | 生存権 | 3 | 3 | 2 | (91) | 生存権についての理解が、十分できている。 |
| | カ | 国民の三大義務 | 6 | (81) | 11 | 1 | 国民の三大義務(子女に普通教育を受けさせる義務)の理解が、十分できている。 |
| | キ | 自己決定権 | 15 | (63) | 11 | 10 | 新しい権利の自己決定権について、資料から読み取る技能が、一応身についている。 |
| ク | 公共の福祉 | 公共の福祉 | その他 | 無答 | | 公共の福祉についての理解が、不十分である。 誤答例：社会権、法律、精神活動の自由、生存権 | |
| | | (25) | 58 | 17 | | | |
| 3 | ア | 国会の種類 | (77) | 16 | 2 | 4 | 国会の種類について、内容を正しく判断する力が、一応身についている。 |
| | イ | 法律案 | 13 | (29) | 17 | 40 | 法律案の提出から採決までの流れの理解が、不十分である。 |
| | ウ | 国務大臣 | 16 | 6 | (62) | 15 | 国務大臣の任命についての理解が、一応できている。 |
| | エ | 内閣の仕事 | (40) | 16 | 34 | 9 | 内閣の仕事についての理解が、やや不十分である。 |
| | オ | 衆議院議員の選挙 | 9 | (73) | 12 | 5 | 衆議院議員の選挙の方法についての理解が、一応できている。 |
| | カ | 地方公共団体の仕事 | 7 | 27 | (48) | 17 | 地方公共団体の仕事についての理解が、やや不十分である。 |
| | キ | 地方公共団体のしくみ | (53) | 10 | 23 | 13 | 地方公共団体のしくみ(解職請求)についての理解が、やや不十分である。 |
| 11 | | | 35 | 24 | (29) | 地方公共団体のしくみについて、内容を正しく判断する力が、不十分である。 | |
| 4 | ア | 裁判員制度 | 10 | 4 | 19 | (66) | 裁判員制度について、資料から読み取る技能が、一応身についている。 |
| | イ | 三権分立 | 30 | (58) | 5 | 6 | 三権のかかわりについての理解が、やや不十分である。 |

(2) 歴史・地理的分野

| 大問 | 小問 | 小問の内容 | 応答率% | | | | 考 察 |
|----|---------------|--------------------|--------------|-----------|----------|-----------------------------|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 5 | ア | 第一次世界大戦 | (48) | 5 | 13 | 32 | 第一次世界大戦の理解が、やや不十分である。 |
| | イ | 第二次世界大戦までのできごと並び替え | 7 | 16 | 31 | (45) | 第二次世界大戦までのできごとの判断が、やや不十分である。 |
| | ウ | 二十一カ条の要求 | 8 | 13 | 16 | (62) | 第一次世界大戦における、日本の外交が一応理解されている。 |
| | エ | 第一次世界大戦の頃の国内のようす | 46 | (28) | 24 | 1 | 第一次世界大戦の頃の国内のようすの判断が不十分である。 |
| | オ | 国際連盟の説明 | 5 | 15 | (65) | 14 | 国際連盟について、一応理解されている。 |
| | カ | 世界恐慌の対策 | 17 | 18 | 6 | (58) | 世界恐慌に対する各国の対応への理解が、やや不十分である。 |
| | キ | 国家総動員法 | 11 | (65) | 22 | 0 | 国家総動員法について、一応理解されている。 |
| | ク | 資料から原子爆弾を導き出す | 原子爆弾 (82) | その他 12 | 無答 6 | | 地図上の都市から、原子爆弾を十分に理解できる。 誤答例 原子力爆弾、爆弾 |
| 6 | ア | 選挙に関する資料の読み取り | 2 | 7 | (83) | 7 | 民主化に関する資料を十分に読み取ることができる。 |
| | イ | 戦後の日本のできごと | (34) | 37 | 16 | 12 | 戦後の日本のできごとについての判断が、不十分である。 |
| | ウ | ワシントン講和会議と日米安全保障条約 | 11 | 6 | 9 | (72) | サンフランシスコ講和会議について一応理解している。 |
| | エ | 日中共同声明とパンダ | 0 | 2 | (95) | 1 | 資料から、日中共同声明について十分に理解できている。 |
| | オ | 冷戦後のできごと | (50) | 27 | 8 | 14 | 冷戦後の世界のできごとに対する判断が、やや不十分である。 |
| 7 | ア | 世界の地形に関する資料の読み取り | 7 | 9 | (82) | 1 | 資料から、世界の地形について十分に読み取ることができる。 |
| | イ | フォッサマグナの位置 | 13 | (55) | 12 | 18 | フォッサマグナの位置についての理解が、やや不十分である。 |
| | ウ | 雨温図の読み取り | 27 | 14 | 2 | (55) | 雨温図の読み取りが、やや不十分である。 |
| | エ | 人口ピラミッドの読み取り | (87) | 0 | 5 | 7 | 人口ピラミッドの読み取りが十分にできている。 |
| | オ | 宗教分布図 | (52) | 36 | 9 | 1 | 資料から、世界の宗教を判断する能力がやや不十分である。 |
| | カ | 食べ物の違いの資料読み取り | 12 | (68) | 9 | 9 | 資料から、地域ごとの食べ物の違いを一応読み取ることができる。 |
| | キ | 発電量と電力消費量の資料の読み取り | 6 | 3 | 10 | (79) | エネルギーに関する資料を一応読み取ることができる。 |
| | ク | 資料から風力発電を導き出す | 2 | 18 | (62) | 16 | 資料から、風力発電を読み取ることが一応できる。 |
| | ケ | 加工貿易 | 加工 (25) | その他 45 | 無答 30 | | 加工貿易に対する理解が不十分である。 誤答例 勘合、資源、輸入 |
| | コ | 石油化学工場の分布理由 | 4 | 14 | (74) | 5 | 資料から石油化学工場の分布を一応判断できる。 |
| | サ | 促成栽培の説明 | (78) | 8 | 7 | 5 | 促成栽培について、一応理解している。 |
| シ | 日本の人口の資料の読み取り | 4 | (79) | 6 | 9 | 資料から、日本の人口について一応判断することができる。 | |

V. 全体の考察と今後に向けて[社会]

1. 各分野の作問の意図と考察

(1) 第1学年

①歴史的分野

「原始・古代までの日本と東アジアの特徴やできごと」については、テレビ画面形式の資料をもとに、資料を読み取り、正しく判断しているかをみることをねらいとして出題した。国内の個々の歴史的事象は概ね理解できているようだが、全体的な流れや、東アジアや古代文明といった世界のようなすについての理解はやや不十分であった。

「飛鳥時代から平安時代までの各時代の特徴やしぐみ」については、略年表をもとに、主な歴史的事象を正しく理解しているかをみることをねらいとして出題した。奈良時代、平安時代のようなすについては知識が定着しているようだが、律令制度の成立までの流れや、遣唐使、天平文化の特色については、正答率が低かった。

「武家の政治が展開された平安時代の末期から鎌倉時代までの特徴やしぐみ」については、カード形式の資料をもとに、資料を適切に選択し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。グラフから当時のようなすを読み取る技能については一応身につけているようだが、北条氏による政治についての判断や、院政や鎌倉仏教の理解が不十分であった。

全般的に、個々の歴史的事象については理解されているが、歴史の流れや、東アジアや古代文明、日宋貿易といった世界とのかかわりについての理解が不十分であると考えられる。また、中尊寺や平泉といった時事問題にかかわるものについても、正答率が低かった。このことから、①レポートの作成などの言語活動を通して、歴史的事象同士の関係性をとらえ、流れを理解し、自分の言葉で説明できるようにしていくこと、②映像資料等を活用して世界のできごとにも注目させ、日本とのかかわりを考え判断させること、③歴史的事象が過去のものでなく、現在とつながっていることを理解するために、日頃からニュースなどを見て時事問題にも目を向けさせること、を学習活動にさらに取り入れていく必要があると考えられる。

②地理的分野

「世界の地域構成」では、地球や地図に関する基礎的な知識や技能、考察する力をみることをねらいとして出題した。国名や地図の読み取り方など基礎的な知識や技能は身につけているが、授業や日常生活の中で見慣れているものとは違った角度から地球や地図を眺めると、理解が難しくなるようであった。また、メルカトル図法における東京・ロサンゼルス間の最短ルートが曲線状になるという理解も、やや不十分であった。

「世界各地の人々の生活と環境」では、伝統的な衣食住、雨温図と植生、宗教について、基礎的な知識や技能、考察する力をみることをねらいとして出題した。伝統的な衣装、食事、住居についての基礎的な知識や、資料を活用して判断する力は、身につけているといえる。しかしアフリカ中部が熱帯雨林気候であることへの理解は不十分であった。また東南アジアの宗教、高地の衣装と気候の関係については、理解がやや不十分であった。

「世界の諸地域」に関しては「アジア州」と「ヨーロッパ州」を取り上げた。

「アジア州」については、「人口急増と多様な民族・文化」という主題から、基礎的な知識や技能、考察する力をみることをねらいとして出題した。基本的な統計資料からの読み取りは身につけているが、統計資料から割合を計算したり、3つの資料を同時に活

用し読み取ったりする技能は、やや不十分であった。また、インドの人口が世界2位であるという理解が不十分であった。

「ヨーロッパ州」については、「EUの発展と地域間格差」という主題から、基礎的な知識や技能、考察する力をみることをねらいとして出題した。首都名や国旗などの知識はおおよそ身につけているが、EUについての基本的な知識の定着が、やや不十分であった。

全体的に、基本的な知識は定着しているが、多角的に事象をとらえたり、複数の情報を活用したり、資料をもとに考え判断したりする力が、まだ不十分であると思われる。

今後の授業の中で、「世界の地域構成」に関しては、日本が中心の世界地図だけでなく、地球儀や、違う国が中心の地図など、さまざまな地図に慣れ親しむことで、地球の全体像をとらえ、さまざまな地図を使う技能を高めることにつながるであろう。

「世界各地の人々の生活と環境」、「世界の諸地域」に関しても、基礎となる知識を身につけると同時に、「人々の暮らしと、自然および社会的条件にはどのような関連があるのか」を生徒たちに思考させ、発見させるような、探究的な課題を与えていきたい。「なぜそうなのか」を、自ら考え、話し合い活動などを通して共有し、深めていくような授業展開を心がけていく必要があるだろう。

(2) 第2学年

①歴史的分野

「中世の日本」について、年表をもとに、政権の移り変わりや、外国との関係について正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。全体的に理解がやや不十分であった。

「中世の日本の文化」について、会話文をもとに、適切に資料を選択し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。問題全てでの理解度が、やや不十分であった。

「武家政治の発展と世界の動き」について、外国との関係が日本に与えた影響と、国内での政治のようすを正しく判断し、理解しているかをレポート形式の問題で出題した。織田信長の政策については知識の定着がみられたが、全体的な正答率は低く、ザビエルの来航地についての理解は不十分であった。

「江戸時代」について、政治や外交、社会のようす、文化などについての新聞形式の出題では、徳川吉宗の政治改革、江戸時代の文化、できごとに関する理解がやや不十分であった。

全体的に正答率が低く、15問でやや不十分といった結果が出た。特に年表からの読み取り、歴史の流れや特色をつかむ、思考判断を問う問題での正答率が低かった。歴史の流れを大観し、時代の特色や背景をとらえる視点にやや欠けている結果となった。今後の学習において、それぞれの時代の特色をつかみ、「その時代を大観し、自分の言葉で表現する」ための資料の精選、資料から生徒自身が考え判断していく授業構成の構築が必要であると考えられる。

②地理的分野

「世界の諸地域」に関して、「アフリカ州」「北アメリカ州」「南アメリカ州」を取り上げた。地形と気候の関係について資料をもとに適切に理解し、人種・民族に関しても一応理解されているが、工業や農業など産業の特色について地図や統計資料などを読み取り判断していくことに関しては、理解が不十分であった。世界の諸地域(州)の地域的特色と人々の生活の様子について学習をすすめる上で、設定するテーマによってベースとなる知識が異なる中、さまざまな資料を読み取る力、また、その情報をもとに地域の特色を考察し適切に判断していく力を育てていくことが必要であると考えられる。

「世界のさまざまな地域の調査」に関して「オーストラリア」を取り上げた。基礎的な知識もあり、資料を適切に読み取り判断することも概ねできている。

「世界と比べた日本の地域的特色」に関して、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結び付きの視点から捉えた基礎的な知識や資料を読み取る技能、考察する力をみることをねらいとして出題した。さまざまな資料を正しく読み取り、適切に判断していく力は一応定着していると思われるが、語句の記述になると正答率が低く、知識の理解については十分とはいえない。

「日本の様々な地域 日本の地域構成」に関して、「時差」についての基礎的な知識や技能、考察する力をみることをねらいとして出題したが、理解はまだ不十分であった。「日本の位置と範囲」「地域構成」「都道府県と都道府県庁所在地」については概ね理解されていた。

全体的に資料を読み取る問題は正答率が高くなるが、資料を活用し判断する問題、学んだ知識を活用して判断していく問題については正答率が低くなる傾向が見られる。学習の中で複数の資料を比較検討するなど「資料活用の技能」を高め、多くの視点から地理的事象を捉えていく「思考・判断」力を伸ばしていく必要があると考えられる。

(3) 第3学年

①公民的分野

「戦後から高度経済成長期を経ての生活の変化、NGO の活動、現代社会の諸問題」などについてカード形式の資料をもとに、資料を適切に選択し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。教科書を中心とした語句の知識は概ね定着しているが、高度経済成長の影響についての内容の判断や、新聞をつかった資料の読み取りについては正答率がやや低く、今後の課題となった。

「暮らしのなかに生きる憲法」について、授業の板書をイメージした資料をもとに、資料を適切に選択し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。語句や権利を答える問題については比較的高い正答率であった。しかし語句ではなく、その語句の説明や事例にあてはまる問題になると正答率が低下する傾向がみられる。

「国会・内閣・地方自治の仕事や役割、三権分立」などについて、新聞のテレビ欄形式の資料をもとに、その内容を適切に判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。知識の問題を多く出題したが語句の定着に比べ、その内容を問う知識の問題になると理解が不十分であった。資料の読み取りについては課題である。

全体的に、教科書にある基礎的・基本的な知識を問う問題は、概ね理解されている。しかし、文章を読み取る力を問う問題や語句が意味している内容を問う問題では、正答率が低下する傾向がみられた。今後は、実際の社会生活の中で学習課題を設定して、知識としてだけでなく、実生活に結びつけた問題としてとらえるような学習活動を設定していくことが大切になってくる。そのためには、社会でおきている様々な出来事を教材化する工夫が必要になってくると思われる。また、その事例を通して自分の考えをまとめ、表現する活動を通して多くの視点から探究する力につながる学習が必要になってくると思われる。

②歴史的分野

「2つの世界大戦と日本」では、第一次世界大戦の構図や国内の生活のようす、外交のようす、戦後の世界の動きについて、また、第二次世界大戦までのながれや国内のようすについての基本的な知識や技能、考察する力を見ることをねらいとして出題した。国際連盟や二十一カ条の要求などの外交面、国家総動員法や原子爆弾などの国内の問題については一応理解されていると思われるが、第一次世界大戦のころの国内のようすや、

第二次世界大戦までのできごとなどを考察し、判断する力は不十分であった。

「現代の日本と世界」では、戦後日本の民主化や冷戦下の国際関係や冷戦後の世界の動きに関する基本的な知識や技能、資料の読み取る力をみることをねらいとして出題した。民主化に関する資料の読み取りや、日中共同声明とパンダの関係については十分に理解されていた。戦後の日本と世界のできごとについては理解が不十分であると思われる。

歴史的分野では、基本的な知識を問う問題では概ね知識が定着し、理解できていると思われる。しかし、第二次世界大戦までの事件を並び替える問いや、その当時の国内の国民の生活を問う問題といった、歴史の流れを問う問題や、歴史的背景をもとに社会のようすを考察する問題など、資料や情報をもとに知識を利用して物事を思考し、判断するといった思考判断に関する力は不十分であると思われる。教材や発問、板書なども工夫し、知識をもとに歴史的な背景を考察したり、歴史的な事象を結びつけて、社会のようすを判断していくような活動を、授業に取り入れていく必要があると思われる。

③地理的分野

「世界と比べてみた日本」では、資料を中心にして世界の地形や気候や人口や文化、エネルギーや資源などに関する基本的な知識と資料の読み取りを行う力を見ることをねらいとして出題した。世界の地形や人口ピラミッド、エネルギーや促成栽培など、多くの項目では、与えられた資料を読み取り、判断して解答することが一応できていると感じられた。しかし、地形ではフォッサマグナの位置、文化では宗教の分布を資料から読み取り、考察する力がやや不十分であったように思われる。また、加工貿易という言葉に関しては、無回答も多く、知識を問う問題についての定着は不十分であったと感じる。

地理的分野では、資料を読み取ったり、複数の資料を比較したりする資料活用の技能については、概ねできていると感じられた。一方、雨温図から気候を判断し、知識をいかして同じ気候を結び付ける問いや、写真資料から宗教を特定し、場所を判断する問いなど、資料を読み取ってから、持っている知識をいかし、物事を考察したり判断したりして、新たな知識と結びつけるといった、思考判断に関する作業はやや苦手なように感じられる。資料を読み取るだけでなく、読み取れたことから考えられることや、複数の資料を比較検討して考えられることなどといった、資料から考察できることを問うような授業の展開、発問や資料の精選を行う必要があると思われる。

2. 指導にあたって

平成23年度の学習診断テストの結果を分析して、学習指導の課題として見えてくることと、その改善のための指導の留意点を、分野別に記したい。

(1) 歴史的分野

- ①指導の留意点としては、それぞれの時代の特色をつかませ、歴史の流れを大観させるために、授業の構成の工夫や、資料から読み取った情報や既習の知識をもとに生徒が考え判断していく指導の充実をはかることが求められる。また、探究した内容を言葉や図式で表現し、意見交換する中で学習内容が深まり、多面的に捉える視点も培われると考える。
- ②作問においても、時代区分にとらわれず、政治史・経済史・文化史などテーマに沿った問題や、各種資料をもとに諸外国との関係や歴史的因果関係を問う問題など、さまざまな視点から時代の特色をつかむ学習活動を踏まえた出題が求められる。

(2) 地理的分野

- ①指導の留意点としては、複数の資料・教材を用いて比較検討させ、読み取った情報をもとに適切に判断し、考察する力を伸ばしていく必要があると考える。また、既習の知識や他分野での学習内容と結びつけさせることで、より多面的・多角的な視野が養われると考える。さらに、基礎的・基本的な知識・技能の定着にとどめず、「なぜ疑問」を活用し、生徒自らが探求していくような学習活動も随時設定していくよう心掛けたい。
- ②作問においても、地域の特色を大観させられるよう、資料や地図を複数提示し、読み取った情報を結びつけて考えさせるような出題が求められる。

(3) 公民的分野

- ①指導の留意点としては、基礎的・基本的な知識について、「自分の言葉」で説明できる力を養う必要があると考えられる。また、身近な話題や問題をテーマとした課題解決学習をより多く取り入れることで、「自分に関わる課題」として捉える視点が培われると考える。さらに、自分の考えを文章や図式にまとめるといった表現活動が、様々な視点から探求する力を養う上で大切になってくると考える。
- ②作問においても、時事的な問題を取り上げながら、現代社会でおきている事柄を身近なものとして捉えることができるような出題が求められる。

3. 授業改善にむけて

どの分野でも、「単元目標を達成するためにどのような順で学習活動を展開していくか」という単元構成の工夫が大切であると考え。そのためには、単元目標に照らし合わせて、理解させるべき学習内容やとりあげる社会的事象を精選することが必要となってくる。

また、思考力・判断力・表現力の基盤として「資料等から情報を読み取る技能」は不可欠であり、低学年のうちに随時機会を設定し、技量を高めていく必要がある。

資料等から読み取った情報や既習の知識など、様々な事象を結びつけながら、相違点や関連性などを考察し、まとめ表現していく学習活動なども組み込んでいきたい。表現活動については、論述・文章記述のほかにも、図式化や描画とその説明発表、話し合い活動における発言など様々な方法が考えられる。分野・単元にあった方法を選択し、「自分の言葉で語る生徒」を育てていきたい。

平成 23 年度

川崎市立中学校 学習診断テスト 数 学 科

誤答分析と学習指導上の考察

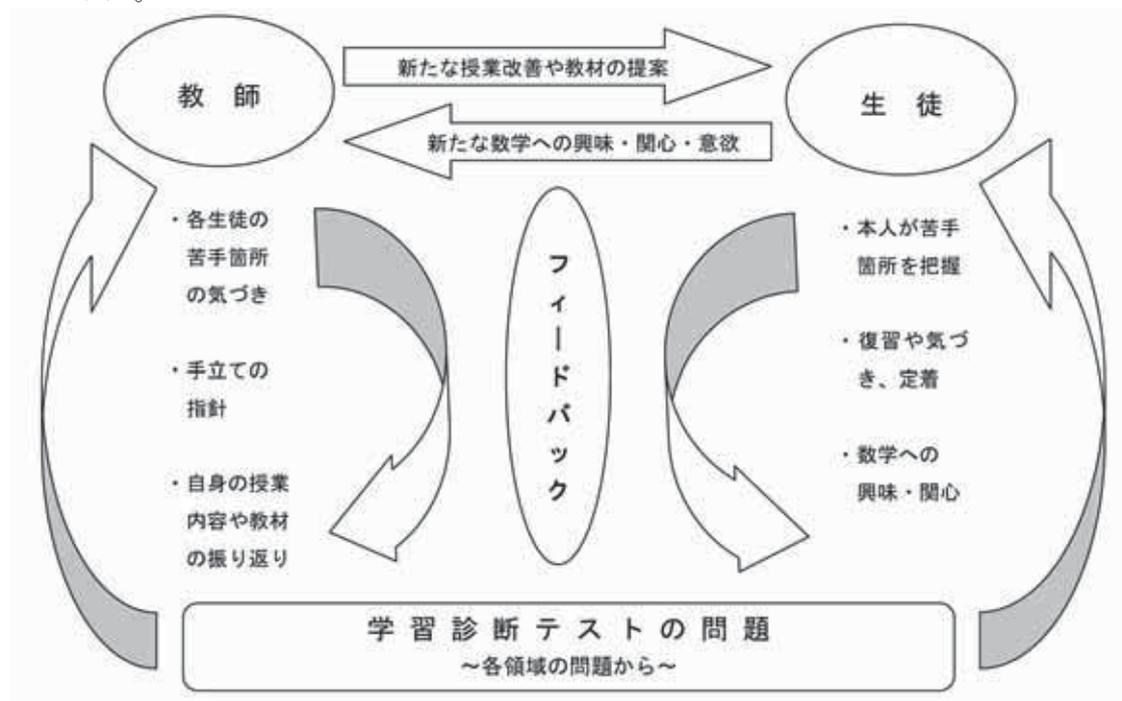
川崎市教育委員会
川崎市立中学校長会
数学科調査委員会

数 学

I . 作成方針と構成

1. 作問にあたって

- (1) 学習診断テストの趣旨をふまえて学習指導要領にある各領域の内容について、
- ①生徒は、基本的な事項がどの程度理解されているのか。
 - ②生徒は、理解が不十分であるならば、どこで、どのようなつまずきがあるのか。
 - ③教師は、どのように教えているのか。
 - ④教師は、どのように単元を扱っているのか。
- の、上記4点が生徒・教師の双方から診断できるよう留意した。
- (2) 問題の難易度については幅広く出題し、単に知識として覚えているからできるというものではなく、なぜそのようになるのかという根拠を表現することも大事にした。また、数学的な見方や考え方がどの程度自らの言葉で説明して表現・処理ができるのかを見られるようにした。
- (3) 形式については、今までの傾向を重んじながらも新学習指導要領も意識し、今求められている数学の力が身につけられるようにした。また、文章表現は、現在使用している教科書に準ずることにした。
- (4) 範囲については、例年と同様に前学年の既習事項と現学年の履修事項とし、無理なく各学校で学習できるようにした。また、移行措置で学習している内容も新しく出題した。
- (5) 数学への関心・意欲・態度については、ペーパーテストからのみ評価するのは困難と考え、出題や観点として入れなかった。
- (6) 「復習の手立て」としてプリントを作成して、年度内に再度定着ができるようにした。



2. 出題のねらい[数学]

| | 1 年 | 2 年 | 3 年 |
|-----|--|---|--|
| 問 1 | <ul style="list-style-type: none"> ●正の数・負の数の計算 ・正の数・負の数の四則計算をすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●文字式の計算 ・単項式や多項式の四則計算ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●展開 ・乗法公式を使って、式を展開することができる。 |
| 問 2 | <ul style="list-style-type: none"> ●数の大小・絶対値 ・正の数・負の数の大小関係を、不等号を用いて表すことができる。 ・絶対値の意味を理解している。 ●数の集合 ・数の集合と四則計算の可能性を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ●等式の変形・式の値 ・数量の間の関係を表す式を目的に応じて変形することができる。 ・与えられた文字式を的確に処理し、式の値を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●因数分解 ・式の形に着目して、共通因数による因数分解・公式による因数分解、及びその利用ができる。 |
| 問 3 | <ul style="list-style-type: none"> ●正の数・負の数の意味 ・正の数・負の数の表す意味を、日常生活の具体的な場面と結びつけて理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ●連立方程式の解法 ・加減法や代入法を用いて、連立方程式を解くことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●平方根の計算 ・平方根の四則計算ができる。 ・分母に根号を含む式を、分母に根号を含まない形に直すことができる。 |
| 問 4 | <ul style="list-style-type: none"> ●文字式の約束 ・文字を用いた式を約束にしたがって適切に表すことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●連立方程式の利用 ・文章題から2元1次方程式を立式することができる。 ・2元1次方程式において、与えられた条件に適した解を求めることができる。 ・立式した連立方程式を解き、その解が問題に適しているか判断し、問題の答えを求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●2次方程式の解き方 ・2次方程式を、平方根の考えや因数分解を使って、問題に適した方法で解くことができる。 ・2次方程式を、解の公式を使って解くことができる。 |
| 問 5 | <ul style="list-style-type: none"> ●文字式の計算 ・文字式の四則計算ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●中1の内容－比例・反比例 ・比例の特徴を表・式・グラフを関連づけて考えることができる。 ・反比例の関係を式に表すことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●2次方程式の利用 ・2次方程式について理解し、それを用いて考察することができる。 ・2次方程式の意味を理解し、具体的な場面で活用することができる。 |
| 問 6 | <ul style="list-style-type: none"> ●文字式の立式 ・事象の中にある数量や、数量の関係を見出し、それを文字式で表し、式の意味を読み取ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●中1の内容－空間図形・平面図形 ・基本的な立体の体積を求めることができる。 ・空間図形を平面図形上に表現して性質を読み取ったりすることができる。 ・基本的な作図のしかたとその性質を理解し問題解決に活用できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●円周角と中心角 ・円周角と中心角の関係をj用いて、角の大きさを求めることができる。 |
| 問 7 | <ul style="list-style-type: none"> ●式の値 ・式の値の意味や代入の意味を理解している。 ・式の値を求めることができる。 ・簡単な比例式を解くことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●平行線と角・多角形の角 ・平行線や三角形の角、多角形の角に関する性質を利用して、角の大きさを求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●中2の内容－確率 ・樹形図や表を利用して、場合の数を順序よく整理し、簡単な場合について確率を求めることができる。 |
| 問 8 | <ul style="list-style-type: none"> ●1次方程式の解法 ・等式の性質を使って、1次方程式を解くことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●三角形の合同 ・三角形の合同条件を用いて、2つの三角形が合同であることを証明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●中2の内容－1次関数の利用 ・1次関数のグラフを的確に読み取ることができる。 ・1次関数のグラフから具体的な事象を読み取ることができる。 ・1次関数で表される事象を、グラフで表すことができる。 |
| 問 9 | <ul style="list-style-type: none"> ●1次方程式の利用 ・文章題から1次方程式を立式することができる。 ・解が問題に適しているか判断し、問題の答えを求められる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●資料の活用 ・度数分布表から分かることを理解し、その意味を捉えられる。 ・資料の傾向を読み取り、説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●中2の内容－平行四辺形に関する論証 ・平行四辺形の性質や平行四辺形になるための条件を利用して、図形の性質を証明することができる。 |
| 問10 | <ul style="list-style-type: none"> ●小学校の内容－比例・図形の計量 ・比例関係にある2つの数量について、それらの関係を考察することができる。 ・比例のグラフをかくことができる。 ・基本的な図形の面積の求め方を理解し、それを用いて図形の面積を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●課題学習（読解力を問う問題） ・与えられた情報から推論・比較して意味を理解し、自らの知識や経験に位置づけて理解・評価することができる。 ・数学的な表現を用いて、自分の考えを述べるることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●相似な図形 ・2つの三角形が相似であることを証明することができる。 ・相似な図形の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。 |
| 問11 | <ul style="list-style-type: none"> ●課題学習（読解力を問う問題） ・与えられた情報から推論・比較して意味を理解し、自らの知識や経験に位置づけて理解・評価することができる。 ・数学的な表現を用いて、自分の考えを述べることができる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ●課題学習（読解力を問う問題） ・与えられた情報から推論・比較して意味を理解し、自らの知識や経験に位置づけて理解・評価することができる。 ・数学的な表現を用いて、自分の考えを述べることができる。 |

Ⅱ. 第1学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[数学第1学年]

| 問題番号 | | 観点 | | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | | |
|------|------|----|---|----------------|--|--------|-----|-----|
| 大問 | 小問 | 考 | 表 | | | 知 | 正答率 | 無答率 |
| 1 | ① | | ◎ | ①正の数・負の数の計算 | ・正の数・負の数の四則計算をすることができる。 | | 78 | 3 |
| | ② | | ◎ | | | | 81 | 4 |
| | ③ | | ◎ | | | | 68 | 3 |
| | ④ | | ◎ | | | | 72 | 4 |
| | ⑤ | | ◎ | | | | 56 | 14 |
| 2 | ① | | ◎ | ②数の大小・絶対値、数の集合 | ・正の数・負の数の大小関係を、不等号を用いて表すことができる。 ・絶対値の意味を理解している。 ・数の集合と四則計算の可能性を理解している。 | | 47 | 5 |
| | ② | | ◎ | | | | 76 | 6 |
| | ③ | | ◎ | | | | 60 | 2 |
| | ④ | | ◎ | | | | 73 | 2 |
| 3 | ① | | ◎ | ③正の数・負の数の意味 | ・正の数・負の数の表す意味を、日常生活の具体的な場面と結び付けて理解している。 | | 47 | 5 |
| | ② | | ◎ | | | | 46 | 6 |
| | ③ | | ◎ | | | | 32 | 15 |
| 4 | ① | | ◎ | ④文字式の約束 | ・文字を用いた式を約束にしたがって適切に表すことができる。 | | 60 | 9 |
| | ② | | ◎ | | | | 58 | 14 |
| 5 | ① | | ◎ | ⑤文字式の計算 | ・文字式の四則計算ができる。 | | 62 | 7 |
| | ② | | ◎ | | | | 31 | 14 |
| | ③ | | ◎ | | | | 39 | 20 |
| 6 | ① | | ◎ | ⑥文字式の立式 | ・事象の中にある数量や、数量の関係を見出し、それを文字式で表し、式の意味を読み取ることができる。 | | 81 | 8 |
| | ② | | ◎ | | | | 62 | 16 |
| | ③ | | ◎ | | | | 27 | 15 |
| 7 | ① | | ◎ | ⑦式の値 | ・式の値の意味や代入の意味を理解している。 ・式の値を求めることができる。 ・簡単な比例式を解くことができる。 | | 44 | 15 |
| | ② | | ◎ | | | | 67 | 13 |
| | ③ | | ◎ | | | | 50 | 16 |
| 8 | ① | | ◎ | ⑧1次方程式の解法 | ・等式の性質を使って、1次方程式を解くことができる。 | | 86 | 11 |
| | ② | | ◎ | | | | 46 | 14 |
| | ③ | | ◎ | | | | 73 | 12 |
| | ④ | | ◎ | | | | 40 | 30 |
| 9 | ① | | ◎ | ⑨1次方程式の利用 | ・文章題から1次方程式を立式することができる。 ・解が問題に適しているか判断し、問題の答えが求められる。 | | 10 | 22 |
| | ② | | ◎ | | | | 21 | 19 |
| 10 | ①ア | | ◎ | ⑩小学校—比例・図形の計量 | ・比例関係にある2つの数量について、それらの関係を考察することができる。 ・比例のグラフをかくことができる。 ・基本的な図形の面積の求め方を理解し、それを用いて図形の面積を求めることができる。 | | 80 | 7 |
| | ①イ | | ◎ | | | | 69 | 8 |
| | ①グラフ | | ◎ | | | | 65 | 13 |
| | ② | | ◎ | | | | 37 | 25 |
| 11 | ① | | ◎ | ⑪課題学習 | ・与えられた情報から推論・比較して意味を理解し、自らの知識や経験に位置付けて理解・評価することができる。 ・数学的な表現を用いて、自分の考えを述べるることができる。 | | 43 | 10 |
| | ② | | ◎ | | | | 20 | 36 |

◎…主たる観点、○…従たる観点

2. 主な誤答と分析[数学第1学年]

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|-------------------------------|-----|-----|-----------------------------------|---------------|--|
| 1 | ① | 9 | 78 | 3 | -1 -9 | 13 5 | <p>①, ②はおおむね正解していたが、全体的に符号の間違いや、計算順序の間違いが目立った。基礎計算については、3年間の基本となるので、日ごろの授業から繰り返し学習し、きちんと定着させたい。</p> <p>③の指数計算は、混乱する生徒が多いようである。$-3^2 = -9$ と $(-3)^2 = 9$ の違いは、特に注意を促すべきである。</p> <p>⑤については、正答率があまりよくなかった。分数に苦手意識を持っている生徒が多いようである。小学校で学習した内容とはいえ、分数に慣れさせることが必要である。</p> |
| | ② | -7 | 81 | 4 | -1 無答 -11 | 6 4 3 | |
| | ③ | -36 | 68 | 3 | 36 24 | 19 4 | |
| | ④ | -10 | 72 | 4 | -20 無答 -12 | 12 4 3 | |
| | ⑤ | -18 | 56 | 14 | 無答 -2 2 | 14 10 4 | |
| 2 | ① | $-\frac{1}{5} < -\frac{1}{6}$ | 47 | 5 | $-\frac{1}{6} < -\frac{1}{5}$ | 40 | <p>①では、不等号の記号を書けない生徒はあまりいなかったが、大小の比較が難しいようである。分数の大きさをしっかり理解させたい。</p> <p>「絶対値」や「整数」、「自然数」など、用語の意味を知らない生徒が多い。意味だけ教えるのではなく、用語を活用して説明をする学習に取り組む必要がある。</p> |
| | ② | BAC | 76 | 6 | 無答 ABC | 6 5 | |
| | ③ | エ | 60 | 2 | ア | 18 | |
| | ④ | イ | 73 | 2 | ウ | 16 | |
| 3 | ① | 8月3日の方が3人多い | 47 | 5 | 8月1日の方が3人多い | 36 | <p>①で、「8月1日の方が3人多い」と、間違えた生徒が非常に多かった。まず、問題文をしっかりと読み、題意を理解してほしい。正負の数で表わされた数を実際の人数に置き換えることができれば、問題の解決に大きく近づくことになる。</p> |
| | ② | 8月4日 | 46 | 6 | 無答 8月2日 | 45 6 | |
| | ③ | 10人 | 32 | 15 | 無答 6.8人 | 15 10 | |
| 4 | ① | $-ab^2$ | 60 | 9 | $-1ab^2$ 無答 | 15 9 | <p>①で、答えをアルファベット順に書くことはおおむねできていたが、文字の前に『1』を付ける生徒が多かった。</p> <p>②では、加減と乗除の区別ができなかったり、分子と分母を反対にしたりする誤答が目立った。</p> |
| | ② | $\frac{x}{3} + 2y$ | 58 | 14 | 無答 $5xy$ $\frac{3}{x} + 2y$ | 14 7 6 | |
| 5 | ① | $-5x+7$ | 62 | 7 | $2x$ 無答 | 8 7 | <p>かっこの付いている計算で、符号ミスによる誤答が多かった。いずれも文字式の基本的な計算なので、間違えやすいポイントを強調し、指導していく必要がある。</p> |
| | ② | $-3x+2$ | 31 | 14 | 無答 $15x+2$ | 14 10 | |
| | ③ | $6x-9$ | 39 | 20 | 無答 $6x+1$ | 20 16 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 (%) | 授業改善への手だて | |
|----|----------|--|-----|-----|--|-------------------|---|
| 6 | ① | $200a$ | 81 | 8 | 無答 $200 \times a$ | 8 4 | ①, ②では、式の意味は分かっているが、式の表し方の約束に従って表せない生徒がいた。 図形の授業で、「まわりの長さ」について取り扱う機会が少ないためか、③では、「面積」という誤答が、正答より多かった。 |
| | ② | $60x+100=y$ | 62 | 16 | 無答 $60x+100$ | 16 5 | |
| | ③ | まわりの長さ | 27 | 15 | 面積 無答 | 31 15 | |
| 7 | ① | 14 | 44 | 15 | 3 無答 | 25 15 | $-3x = -3 \times x$ ということを定着させたい。 比の計算は、解き方を理解している生徒は多いが、分数や小数が出てくる場合でも解けるようにしたい。 |
| | ② | $x=2$ | 67 | 13 | 無答 | 13 | |
| | ③ | 4.5 m | 50 | 16 | 無答 | 16 | |
| 8 | ① | $x=-1$ | 86 | 11 | 無答 -11 | 11 6 | 方程式の基本的な解き方を理解できている生徒は多いようであるが、分数が出てくると途端に正答率が下がった。また、④で、 $-x = -16$ まで計算できているのに、ここから答えを求められない生徒もいた。 |
| | ② | $x = \frac{2}{7}$ | 46 | 14 | 無答 $\frac{7}{2}$ | 14 9 | |
| | ③ | $x=3$ | 73 | 12 | 無答 -3 | 12 5 | |
| | ④ | $x=16$ | 40 | 30 | 無答 -16 | 30 4 | |
| 9 | ① | アの場合 $5x+6(x+4)=178$ イの場合 $5(x-4)+6x=178$ | 10 | 22 | 無答 | 22 | 方程式を立てることが苦手な生徒が多かった。しかし、①で方程式が立てられなくても、②が正解している生徒もいた。1次方程式を利用した問題の解く手順をしっかりと定着させたい。 |
| | ② | 5人の班の数 14班 6人の班の数 18班 | 21 | 19 | 無答 | 19 | |
| 10 | ① ア | 4 | 80 | 7 | 無答 6 3 | 7 3 2 | 小学校で学んできた比例の知識や表について、おおむね理解できている様子が見られる。しかし、アに比べ、イの正答率が下がることから、2つの数量について、表の見方や変数の関係の読み取りについて、再度確認したい。また、グラフをかくときにミスが多く見られるので、座標の目盛りを確認するなどの指導をする必要がある。中学校で学ぶ「比例・反比例」では、様々な事象を比例、反比例などの関数としてとらえ、表・式・グラフなどで表現し、その特徴を見いだす指導をしていきたい。 面積に関しては、例年と変わらない基本的な出題であるが、無答も多く理解は不十分であると思われる。 $10 \times 10 \times 3.14 - 10 \times 10 = 214$ とした生徒に見られるように、面積の公式を用いての計算だけではなく、図形を考察し、適切に判断する力を伸ばし理解につなげたい。 |
| | ① イ | 27 | 69 | 8 | 無答 18 9 | 8 7 6 | |
| | ① グラフ | (0, 0)、(6, 12)を結ぶ直線のグラフ | 65 | 13 | 無答 (0, 0)、(12, 20)を結ぶ直線 折れ線グラフをかいている 点と直線が少しずれている | 13 6 6 4 | |
| | ② | 114 cm^2 | 37 | 25 | 無答 214 cm^2 | 25 9 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|---|-----|-----|----------------------|---|
| 11 | ① | ア 18 イ 10 | 43 | 10 | ア 22 イ 6 ア 20 イ 8 | 19 6 はじめに、 $28 \div 2 = 14$ とし、一方には 8 を加え、他方からは 8 をひき、22 と 6 であると考えてしまう生徒が多い。一方を基準として、他方を考えていく表現法は、数学でも、日常生活においても多くの場面で使われることである。線分図等を用いて、丁寧に指導していきたい内容である。また、自分の考えを数学的な表現を用いて説明させる問題を授業で扱う必要がある。 |
| | ② | 126 度 説明 $360 \times 0.35 = 126$ または 1%は $360 \div 100 = 3.6$ 35%は $3.6 \times 35 = 126$ | 20 | 36 | 無答 125 度 145 度 | 36 4 3 日常生活の中で見るグラフや表などの資料から、情報を読み取る力を養うことと同時に、情報を伝えるために適切な資料を選択する力、作成・表現する力を身に付けさせたい。「資料の活用」の授業では、基本的な知識や用語の理解とともに、情報を表やグラフに整理し、的確にその傾向を表現させる授業を展開していく必要がある。 |

Ⅲ. 第2学年の結果と分析

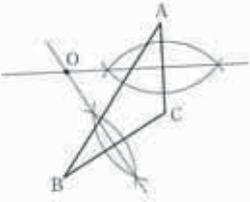
1. 小問別の問題内容と結果正答率[数学第2学年]

| 問題番号 | | 観点 | | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | | 無答率 | |
|------|----|----|---|------------|--|---|----|-----|----|
| 大問 | 小問 | 考 | 表 | | | 知 | | | |
| 1 | ① | | ◎ | ①文字式の計算 | ・単項式や多項式の四則計算ができる。 | | 84 | 2 | |
| | ② | | ◎ | | | | 78 | 3 | |
| | ③ | | ◎ | | | | 62 | 9 | |
| | ④ | | ◎ | | | | 51 | 18 | |
| 2 | ① | | ◎ | ②等式の変形・式の値 | ・数量の間の関係を表す式を目的に応じて変形することができる。 ・与えられた文字式を的確に処理し、式の値を求めることができる。 | | 59 | 17 | |
| | ② | | ◎ | | | | 45 | 23 | |
| 3 | ① | | ◎ | ③連立方程式の解法 | ・加減法や代入法を用いて、連立方程式を解くことができる。 | | 81 | 6 | |
| | ② | | ◎ | | | | 76 | 12 | |
| | ③ | | ◎ | | | | 70 | 10 | |
| 4 | ① | ◎ | ○ | ④連立方程式の応用 | ・文章題から2元1次方程式を立式することができる。 ・2元1次方程式において、与えられた条件に適した解を求めることができる。 ・立式した連立方程式を解き、その解が問題に適しているか判断し、問題の答えを求めることができる。 | | 56 | 14 | |
| | ② | ○ | ◎ | | | | 71 | 11 | |
| | ③ | ◎ | ○ | | | | 23 | 36 | |
| 5 | ① | ◎ | ○ | ⑤比例・反比例 | ・比例の特徴を表・式・グラフを関連付けて考えることができる。 ・反比例の関係を式に表すことができる。 | | 26 | 5 | |
| | ② | | ◎ | | | ○ | | 29 | 28 |
| 6 | ① | | ○ | ◎ | ⑥空間図形・平面図形 | ・基本的な立体の体積を求めることができる。 ・空間図形を平面図形上に表現して性質を読み取りたりすることができる。 ・基本的な作図のしかたとその性質を理解し、問題解決に活用できる。 | | 43 | 3 |
| | ② | | ○ | ◎ | | | | 83 | 2 |
| | ③ | ◎ | | ○ | | | | 18 | 34 |
| 7 | ① | | ◎ | ○ | ⑦平行線と角・多角形の角 | ・平行線や三角形の角、多角形の角に関する性質を利用して、角の大きさを求めることができる。 | | 65 | 6 |
| | ② | | ◎ | ○ | | | | 30 | 27 |
| 8 | | ◎ | | ○ | ⑧三角形の合同 | ・三角形の合同条件を用いて、2つの三角形が合同であることを証明することができる。 | | 16 | 23 |
| 9 | ① | | | ◎ | ⑨資料の活用 | ・度数分布表から分かることを理解し、その意味をとらえられる。 ・資料の傾向を読み取り、説明することができる。 | | 54 | 5 |
| | ② | ◎ | | ○ | | | | 45 | 5 |
| 10 | ① | ◎ | | ○ | ⑩課題学習 | ・与えられた情報から推論・比較して意味を理解し、自らの知識や経験に位置付けて理解・評価することができる。 ・数学的な表現を用いて、自分の考えを述べるることができる。 | | 41 | 10 |
| | ② | ◎ | | ○ | | | | 54 | 21 |

◎…主たる観点、○…従たる観点

2. 主な誤答と分析[数学第2学年]

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 (%) | 授業改善への手だて | |
|----|----|-----------------------|-----|-----|---|-----------|--|
| 1 | ① | $2x^2+4x$ | 84 | 2 | $2x^2+4y$ $6x^2$ | 3 2 | 分配法則を使ってかっこをはずすとき、多項式の2番目の項へのかけ忘れや符号の誤りがよく見られる。途中式を書かせ、定着を図りたい。 |
| | ② | $-x+11y$ | 78 | 3 | $-x+7y$ $-x+10y$ | 4 3 | 乗法と除法の混じった式の計算では、後の乗法から計算しているのので、除法でも前から順番に計算するように指導したい。 |
| | ③ | $36xy^2$ | 62 | 9 | x $-36xy^2$ | 8 5 | 分数を含む多項式の計算では、分母をはらってしまっているのので、等式との違いを確認したい。 |
| | ④ | $\frac{2x-y}{15}$ | 51 | 18 | $\frac{2x-11y}{15}$ $2x-y$ | 6 5 | |
| 2 | ① | $b = \frac{-4a+7}{5}$ | 59 | 17 | $b = -\frac{4a+7}{5}$ $b = \frac{4a+7}{5}$ | 5 2 | 等式の変形では、移項したときに必ず符号を変えるように指導したい。 単項式どうしの除法では、乗法に直すときにわる数を逆数にするが、係数だけを逆数にして文字を逆数にしていない。文字を含めて分母と分子をはっきりと分けた式を書いてから逆数にするように指導したい。 |
| | ② | 60 | 45 | 23 | 540 12 | 6 4 | |
| 3 | ① | $x=4, y=1$ | 81 | 6 | $x=4, y=\square$ | 5 | 加減法では、片方の値は求められているが、もう一方の値を求めるときに代入の計算を間違えているので、しっかりと定着させたい。 |
| | ② | $x=2, y=5$ | 76 | 12 | $x=3, y=7$ $x=\square, y=5$ | 7 2 | 代入法では、片方の式のみ成り立たせる値の組を解としているので、2つの方程式を成り立たせる値の組が連立方程式の解であることを理解させたい。 |
| | ③ | $x=3, y=-1$ | 70 | 10 | $x=3, y=1$ $x=-1, y=-7$ | 11 4 | |
| 4 | ① | $3x-2y=15$ | 56 | 14 | $x+y=15$ $7x+3y=15$ | 12 3 | 立式のときに、何を x, y としているのか理解していないので、学習の際に書くように習慣づけたい。また、表や線分図などを利用して、文章の読解力に必要な文章の意味の理解、条件の把握に重点をおいた指導が大切である。 |
| | ② | 3回 | 71 | 11 | 8回 6回 | 6 5 | |
| | ③ | 6回、8回 | 23 | 36 | 2回、2回 4回、5回 | 8 6 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|-----|--|--|-------|-----|-----|-----------------------------|----------|--|
| | | | | | | | | |
| 5 | ① | 表 | ウ | 26 | 5 | イ、ア、イ | 34 | ①では、表と式は同じものを選択できたが、式の a の値とグラフの傾きの関係を理解できていない。式や表、グラフの関係をしっかりと定着させたい。 |
| | | 式 | ウ | | | | | |
| グラフ | | イ | | | | | | |
| | ② | $y = \frac{18}{x}$ | | 29 | 28 | $y = \frac{1}{2}x$ | 14 | ②では、反比例の式の形を覚えていなかったり、比例と反比例の区別がつかっていなかったりする。反比例の式の特徴をしっかりと捉えさせたい。 |
| 6 | ① | ア | | 43 | 3 | エ ウ | 25 19 | ①では、球の体積の計算方法が分からず、見た目の大きさと答えを記入している生徒が多いと思われる。球の体積の計算方法を定着させたい。 |
| | | イ、エ | | | | | | |
| | ③ |  | | 18 | 34 | 角の2等分線をかいて解こうとする | 13 | ③では、垂直二等分線の作図方法だけでなく、線分ACの垂直二等分線上の点から、線分の両端の点A, Cまでの距離が等しいこともしっかりと理解させたい。 |
| 7 | ① | 53度 | | 65 | 6 | 74度 | 12 | 平行線の同位角や錯角の関係を図中より見出せるようにさせたい。また、多角形の内角の和など、基本的な知識を定着させ、②のように様々な図形が重なり合う問題に対する対応力を高めていきたい。 |
| | | 54度 | | | | | | |
| 8 | $\angle CAD = \angle BAE \dots \textcircled{5}$ ①, ②, ⑤より、 2組の辺(2辺)と その間の角がそれぞれ 等しいから、 | | 角のみ正解 | 17 | 23 | 合同条件のみ正解 | 34 | 証明するために示さなければいけない⑤の角が書けていない。また、すでに示されている①から④までを見て、1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいと間違えて記入している場合も多く見られた。 |
| | | | すべて正解 | 14 | | 合同条件を1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいと記入 | 29 | 三角形の合同条件にあてはめるために、辺や角が等しいことを示すことなど、証明の書き方をしっかりと理解させ、定着させたい。 |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 (%) | 授業改善への手だて | |
|----|----|---|-----|-----|----------------------|-----------|---|
| 9 | ① | ウ | 54 | 5 | エ | 18 | <p>中央値など、語句の意味をしっかりと理解するとともに、表からそれらを読み取る力を身につけさせたい。また、代表値は表から読み取れるものと表から読み取れないものがあることも理解させたい。</p> <p>②では、60点以上の生徒の人数はA中学校の方が多く、割合はB中学校の方が高い。このような問題を授業中に扱うことにより、割合を求めることの良さを理解させたい。</p> |
| | ② | エ | 45 | 5 | ア ウ | 18 24 | |
| 10 | ① | 89 日後 | 41 | 10 | 90 日 88 日 | 15 8 | <p>①では、計算すると 88.88... 日と答えが出る。小数をどのように処理するかを理解できていない。日常生活ではこのように小数を処理しなければいけない場合がよくあるため、授業でも扱っていききたい。</p> <p>②では、空欄アに正解を記入できているのに、説明が不十分である場合が多く見られた。授業にて、生徒どうして説明をするなどの経験をより増やしていききたい。</p> |
| | ② | <p>ア</p> <p>ペットボトルのキャップ全体の重さ</p> <hr/> <p>説明</p> <p>ペットボトルのキャップ全体の重さを 1 個分の重さでわることにより、個数を求められる。</p> | 54 | 21 | アは正解だが、説明で きずに不正解 | 14 | |

IV. 第3学年の結果と分析

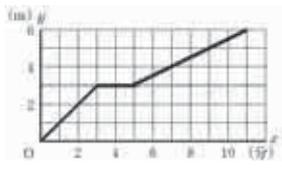
1. 小問別の問題内容と結果正答率[数学第3学年]

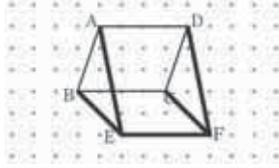
| 問題番号 | | 観点 | | | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | | 無答率 |
|------|------|----|---|---|--|--------|--------|----|-----|
| 大問 | 小問 | 考 | 表 | 知 | | | | | |
| 1 | ① | | ◎ | | ①展開 ・乗法公式を使って、式を展開することができる。 | | 78 | 1 | |
| | ② | | ◎ | | | | 70 | 1 | |
| | ③ | | ◎ | | | | 72 | 3 | |
| 2 | ① | | ◎ | | ②因数分解 ・式の形に着目して、共通因数による因数分解・公式による因数分解、及びその利用ができる。 | | 84 | 0 | |
| | ② | | ◎ | ○ | | | 94 | 2 | |
| | ③ | | ◎ | ○ | | | 68 | 11 | |
| 3 | ① | | ◎ | | ③平方根の計算 ・平方根の四則計算ができる。 ・分母に根号を含む式を、分母に根号を含まない形に直すことができる。 | | 89 | 1 | |
| | ② | | ◎ | | | | 79 | 4 | |
| | ③ | | ◎ | | | | 62 | 11 | |
| | ④ | | ◎ | | | | 77 | 4 | |
| 4 | ① | | ◎ | | ④2次方程式の解き方 ・2次方程式を、平方根の考えや因数分解を使って、問題に適した方法で解くことができる。 ・2次方程式を、解の公式を使って解くことができる。 | | 83 | 3 | |
| | ② | | ◎ | | | | 70 | 6 | |
| | ③ | | ◎ | | | | 81 | 3 | |
| | ④ | | ◎ | | | | 44 | 26 | |
| 5 | ① | ○ | ◎ | | ⑤2次方程式の利用 ・2次方程式について理解し、それをういて考察することができる。 ・2次方程式の意味を理解し、具体的な場面で活用することができる。 | | 18 | 34 | |
| | ② | ○ | ◎ | | | | 58 | 5 | |
| | ③ | ◎ | ○ | | | | 42 | 4 | |
| 6 | | | ◎ | ○ | ⑥円周角と中心角 ・円周角と中心角の関係をういて、角の大きさを求めることができる。 | | 55 | 22 | |
| 7 | ① | | ◎ | | ⑦確率 ・樹形図や表を利用して、場合の数を順序よく整理し、簡単な場合について確率を求めることができる。 | | 40 | 1 | |
| | ② | | ◎ | ○ | | | 35 | 3 | |
| 8 | ①グラフ | | ◎ | ○ | ⑧1次関数の利用 ・1次関数のグラフを的確に読み取ることができる。 ・1次関数のグラフから具体的な事象を読み取ることができる。 ・1次関数で表される事象を、グラフで表すことができる。 | | 40 | 11 | |
| | ①式 | ◎ | ○ | | | | 16 | 38 | |
| | ② | | ○ | ◎ | | | 51 | 2 | |
| 9 | ① | ◎ | | ○ | ⑨平行四辺形に関する論証 ・平行四辺形の性質や平行四辺形になるための条件を利用して、図形の性質を証明することができる。 | | 63 | 5 | |
| | ②a,b | ◎ | | ○ | | | 59 | 6 | |
| | ②理由 | ◎ | | ○ | | | 51 | 9 | |
| 10 | ① | ◎ | | ○ | ⑩相似な図形 ・2つの三角形が相似であることを証明することができる。 ・相似な図形の性質をういて、線分の長さを求めることができる。 | | 38 | 21 | |
| | ② | | ◎ | | | | 66 | 10 | |
| 11 | ① | ◎ | | | ⑪課題学習 ・与えられた情報から推論・比較して意味を理解し、自らの知識や経験に位置付けて理解・評価することができる。 ・数学的な表現をういて、自分の考えを述べるすることができる。 | | 70 | 5 | |
| | ② | ◎ | | | | | 23 | 4 | |

◎…主たる観点、○…従たる観点

2. 主な誤答と分析[数学第3学年]

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 (%) | 授業改善への手だて | |
|----|----|----------------------------------|-----|-----|---|-------------|--|
| 1 | ① | $2ab - a - 6b + 3$ | 78 | 1 | $2ab - a - 6b - 3$ $2ab - a - 6b + 4$ | 5 4 | <p>符号の処理を間違える、1×3 の計算を $1+3$ と勘違いする、2乗の指数を書き忘れる、乗法公式を使うときに2倍するのを忘れる、マイナスのかっこをはずすときに、符号の処理を間違える、展開する順番を間違える、暗算による係数の計算間違いなどが目立つ。正確に計算して答えを出す指導が必要である。</p> <p>また、確実に乗法公式を覚えていない誤りも見られたので、再度確実に使えるような指導が必要である。</p> |
| | ② | $4x^2 - 20xy + 25y^2$ | 70 | 1 | $4x^2 - 20xy + 25y$ $4x^2 - 20xy - 25y$ $4x^2 - 10xy + 25y$ | 6 4 2 | |
| | ③ | $-5x + 2$ | 72 | 3 | $-3x - 2$ $-5x - 2$ $-3x + 2$ | 6 4 3 | |
| 2 | ① | $3ab(2a - 1)$ | 84 | 0 | $3a(2ab - b)$ $3(2a^2b + ab)$ | 5 1 | <p>全体的に、公式により因数分解できるような基本的な問題はきちんと解けるようになってきている。しかし③で正答率が大きく下がることから、共通因数でくくることが、因数分解の第1段階であることを強調することが必要である。</p> |
| | ② | $(x+4)(x-7)$ | 94 | 2 | $(x-4)(x+7)$ $-30x$ | 2 1 | |
| | ③ | $x(y+6)(y-6)$ | 68 | 11 | $x(y^2 - 36)$ $(xy - 36)(xy + 36)$ | 7 1 | |
| 3 | ① | $2\sqrt{3}$ | 89 | 1 | $1\sqrt{3}$ 2 | 3 2 | <p>平方根の加減法で、根号の前の整数を計算した後、根号の部分をつけ忘れていいる。また、根号の中の数を根号の外に出すのが苦手な生徒が多く見られる。例えば、$3\sqrt{8} = 2\sqrt{2}$として、計算している。また、分数の形になったときの約分の仕方、有理化の仕方といった基礎基本における計算の誤りも多い。平方根の四則計算で、気をつけなければならないことを、見直す指導が必要である。</p> |
| | ② | $\sqrt{2}$ | 79 | 4 | $3\sqrt{8} - 5\sqrt{2}$ $-3\sqrt{2}$ | 3 2 | |
| | ③ | $3\sqrt{6}$ | 62 | 11 | $\sqrt{6}$ $\frac{3\sqrt{6}}{10}$ | 3 2 | |
| | ④ | $3\sqrt{5}$ | 77 | 4 | 20 $4\sqrt{5}$ $7\sqrt{5}$ | 4 3 2 | |
| 4 | ① | $x = \pm\sqrt{11}$ | 83 | 3 | $x=0, x=11$ $x = \pm 11$ | 8 2 | <p>誤答の大半は、2次方程式の解を求めるにあたり、平方根による考え方で解くのか、因数分解を利用して解くのかを理解していないことが原因であった。④に関しては、解の公式をしっかりと覚えておらず、解を導き出せない生徒が目立った。</p> |
| | ② | $x=0, x=6$ | 70 | 6 | $x=6$ $x=-6, x=0$ $x(x-6)=0$ | 9 6 2 | |
| | ③ | $x=3, x=-5$ | 81 | 3 | $x=3, x=5$ $x=3, x=-15$ | 2 1 | |
| | ④ | $x = \frac{-5 \pm \sqrt{17}}{4}$ | 44 | 26 | $x = \frac{-5\sqrt{17}}{4}$ | 2 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 (%) | 授業改善への手だて | |
|----|----------|--|-----|-----|--|---------------|--|
| 5 | ① | $110-2x$ | 18 | 34 | $110-x$ $110-x^2$ $x^2=110-55$ | 4 3 2 | <p>すべり降りる部分の幅イを x の式で表すときに、等式で答えている誤りが目立つ。数量を文字式と等式で表すことの意味をきちんとおさえる必要がある。</p> <p>方程式をつくるときに、題意を把握しないで、適当に文字の式を立てている答えが多く見られた。文章に忠実に式を立てる練習が必要である。また、解が、答えとして適しているかどうかの判断をするときに、判断した根拠を表現したり説明したりすることが苦手である。</p> |
| | ② | $x(110-2x)=1500$ | 58 | 5 | $x(110-x)=1500$ | 2 | |
| | ③ | 理由 すべり降りる部分の幅は 55cm 以上である。 $x=25$ のとき、すべり降りる部分の幅は 60cm となり、問題に適している。 $x=30$ cm のときの幅は 50cm となり、問題に適していない。 答え 25cm | 42 | 4 | $\cdot x=25$ とすると、ア= $25 \times 50=1250$ となるので、適さない \cdot 幅イは 55cm 以上 $x=25$ のとき、イ=50 で不適當 $x=30$ のとき、イ=60 で適する | 1 1 | |
| 6 | | 75 度 | 55 | 22 | 60 度 65 度 55 度 | 5 4 1 | <p>補助線をひくことで、円周角の定理を活用できる形に結びつける問題であるが、AE に補助線をひくことができず、正答にたどりつかない。補助線を BD や OD にひく生徒も多く見られた。円周角の定理の証明などで、補助線を使って問題を解決する能力を育みたい。</p> <p>また半円の弧に対する円周角が 90 度であることをすぐに気づくようにさせた。</p> |
| 7 | ① | 24 通り | 40 | 1 | 12 通り 16 通り 6 通り | 17 9 8 | <p>場合の数を求めるときに、感覚だけで式をつくって計算で求めたり、重複や数え忘れなどの確認がおろそかになったりしている。それは、題意を正しく把握できていないことが原因と考えられる。樹形図などの図をきちんとかいて考えることが大切である。さらに、その図を用いて確率を求めるという指導が必要である。</p> |
| | ② | $\frac{1}{3}$ | 35 | 3 | $\frac{1}{2}$ $\frac{1}{6}$ | 21 13 | |
| 8 | ① グラフ |  | 40 | 11 | (5, 3) と (8, 6) を結んでいる (5, 3) と (12, 6) を結んでいる | 16 14 | <p>(5, 3) と (8, 6) および (12, 6) を結んでいる生徒が多く見られた。水を入れていく途中で底面積が変化することを理解していない、底面積が変わることで水位の上昇に変化があることが理解できていない(A側に水を入れているときと傾きが変わらない)などが考えられる。またグラフから1次関数の式を求めることができない生徒が多く、文章問題からグラフを利用し、式を求めるような問題を扱う必要がある。②の問題では、排水管が B 側にあることに気づかず、水の高さが 0m になると考える誤答が多く見られた。</p> <p>教科書の問題だけではなく具体的な事象から、数量の関係を、実験などを基に、その変化や対応する様子を考察したり、予想したりする学習を授業に取り入れる必要がある</p> |
| | ① 式 | $y=\frac{1}{2}x+\frac{1}{2}$ | 16 | 38 | $y=\frac{1}{2}x$ $y=24x$ $y=5x$ | 6 2 1 | |
| | ② | イ | 51 | 2 | ア エ ウ | 29 13 5 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 (%) | 授業改善への手だて | |
|----|-------------|--|-----|-----|--|---------------|--|
| 9 | ① |  | 63 | 5 | AE と DF をひいていない E と F をかいていない | 8 8 | <p>題意をきちんとつかめておらず、AE と DF をひいていない、EF をかいていない、EF が逆になっているなどが見られた。題意をきちんとひとつずつ、丁寧に読み取らせることが大切である。</p> <p>また、図をかくことで、仮定となる事柄があいまいになっている生徒も多く見られた。常に、仮定と結論をはっきりさせ、証明問題を解く必要がある。</p> |
| | ② a b | AD//EF, AD=EF | 59 | 6 | AE=DF, AD=EF | 11 | |
| | ② 理由 | オ | 51 | 9 | イ ア | 17 16 | |
| 10 | ① | <p>$\triangle QBR$と$\triangle QCP$で、 対頂角は等しいから、 $\angle BQR = \angle CQP$ …① 仮定から、 $\angle BAR = \angle QBR$ 弧BRに対する円周角は等しいから、 $\angle BAP = \angle BCP$ よって、 $\angle QBR = \angle QCP$…② ①, ②より、2組の角がそれぞれ等しいから、 $\triangle QBR \sim \triangle QCP$</p> | 38 | 21 | <p>・弧BPに対する円周角は等しいから、 $\angle BRQ = \angle BCP$ または、 $\angle QBR = \angle CPQ$</p> <p>・BR//PCより、錯角は等しいので、 $\angle RBQ = \angle QCP$</p> <p>・相似条件 2組の辺の比とその間の角が等しいから</p> | 20 14 3 | <p>まだ、図形の角や辺を記号で表すことがきちんとできていない生徒が見られる。例えば、$\angle CP$などとしている。</p> <p>弧と円の内部の点を結んでできる角を円周角としている生徒が2割もいる。弧と円周上の点を結んでできる角が円周角であるという定義をおさえてほしい。</p> <p>見た目で、2つの線分が平行であるとか、2つの角度が等しいと判断している生徒が次に目立つ。判断する根拠が必要であることを繰り返し指導し、定着させる指導が必要である。</p> <p>相似条件と図がかみ合わないで、あいまいに使っている。対応する辺や角の確認を丁寧に扱う必要がある。</p> |
| | ② | $\frac{15}{2}$ cm | 66 | 10 | 8cm 4.8cm 6cm | 5 4 3 | |
| 11 | ① | エ | 70 | 5 | イ ウ ア | 14 7 3 | <p>線対称を利用した課題学習の問題であったが、無答率も低く関心を持ち取り組んでいた。しかし②の問題では、①の折る前の図を利用して解くことができなかつたように考えられる。</p> <p>切る部分を底辺に対して、垂直ではなく、斜めに切ることで、広げたときの模様が変わることを実際に行い、変化の様子を考察したりすることなどの指導が必要である。また、誤答の模様を扱うことで、正解者もより理解が深まると考える。</p> |
| | ② |  | 23 | 4 |  | 12 | |

V. 全体の考察と今後に向けて[数学]

1. 全体の考察

- ①基本的な計算問題、方程式では、比較的正答率が高く、定着している様子がうかがえる。
- ②符号ミスが全学年において見られた。特に分配法則を用いるところにミスが多かった。練習を徹底していく必要性が感じられる。
- ③今年から再び円周角を用いた問題を3年生で出題した。基本的な問題ではあるが約半数ができていなかった。補助線をかき加えることが苦手である様子がうかがえる。
- ④分数を含む計算問題の正答率が極端に低くなっている。分数計算の場面で、あきらめずに取り組むよう指導する必要がある。
- ⑤方程式を利用する文章題を各学年で出題したが、立式できない割合が高い。文章の意味を理解していないか、あるいは何を x と置いたらいいか分からないと思われる。繰り返し練習する必要がある。
- ⑥証明を中心とした論理的な問題の無答率が比較的高い。論理的な思考を育てる指導とともに、証明をはじめから終わりまで書くことができるように指導していくことが大切である。
- ⑦全体的な出題傾向は例年からの傾向を引き継ぎながらも、難易度は変えず、新学習指導要領の移行措置の学習内容を考慮して出題した。ただし、図形の移動、投影図は出題できなかったもので、検討していきたい。

2. 観点ごとの考察

(1) 数学的な見方や考え方

証明や文章題など、数学的な見方・考え方を通して解く問題の正答率は低かった。特に、記述を要する問題に関しては、自分の考えをどう相手に伝えたらいいのかわからない様子も見られる。引き続き、しっかりとした指導が必要である。

(2) 数学的な表現・処理

全学年を通して、数式などを処理する能力は高いと見られる。分配法則において符号のミスが見られる。符号についての指導を徹底的に行う必要がある。

(3) 数量、図形などについての知識・理解

基本的な用語を理解しているが、その用語が具体的に何を意味しているのかをしっかりとらえているのか多少疑問であり、数学の用語を自分の中で理解できるような授業の展開を考える必要がある。

3. 領域ごとの考察

(1) 数と式

1 学年

正負の数の計算は定着してきているが、累乗の計算の理解が不足している。 $3^2=6$ や、 $-2^2=4$ といった間違いをする生徒がまだ多く見られる。いかに定着させるかが課題である。また、問3に見られるように、正負の数の利用につまずく生徒も少なくない。分数や小数に関しても苦手意識がある。 $7x=2$ という方程式を解く際、 $7/2$ と答えるなど、分母と分子を逆にしてしまう例が多く見られる。

2 学年

例年同様、かなり正答率は高く、定着してきていることが分かる。しかし、文字式の計算と方程式との意味が分かっていないために、問1④のように分母を払ってしまう生徒が多く見られ、指導の徹底が必要と思われる。連立方程式の正答率は高くなってきており、生徒の定着が見られる。

3 学年

展開や因数分解の正答率は高く、定着してきていることが分かる。しかし、平方根の乗除や、根号の中の数を根号の外に出す計算が苦手である。2次方程式の解法は定着してきているが、新学習指導要領で新たに入った解の公式を使う問題は正答率が低い。

(2) 関数

1 学年

今回は、小学校で学習した比例の内容である。グラフが原点を通る直線であるという理解はできているが、中学1年生で学ぶ比例の意味理解まで十分にともなっているか疑問である。

2 学年

昨年に引き続き、表・式・グラフの相互の関連を理解しているかを問う問題を出題したが、正答率は上がっていない。特に、 $y=2x$ のグラフと $y=x/2$ グラフの違いを理解していない生徒が多いことが分かる。また、反比例の式を求めることができた生徒も少なく、指導の工夫などをしていきたい。

3 学年

切片が示されていない1次関数のグラフを求める問題を出題したが、正答率が低くなっている。切片が分数になったことも原因の一つと思われる。分数や小数が出てくると正答率が下がるのが、ここでも課題である。

(3) 図形

1 学年

小学校の内容であるが、正方形の対角線を使って面積を求める考え方が含まれていたためか、正答率が低く、無答率が高かった。また、間違えている生徒の中には、公式に、図の中にある適当な数字を当てはめて計算している例も見られた。公式の意味するところをしっかりと指導していくことが必要と思われる。

2 学年

立体の体積を比較する問題であったが、見た目で判断してしまう生徒が見られた。しっかりと計算で求められるようにしたい。また、作図の正答率が低く、無答率が高いのが課題である。基本的な作図の徹底と、反復した学習をしていきたい。

3 学年

今回は、問9で証明の意味を理解し、証明に必要な図をかく問題を出した。比較的正答率は高く、証明の意味を理解している生徒が多いように感じるが、今後もこのような問題を出して、さらに深く考えていくべきと思われる。また、相似は今年も全証明で出題したが、円周角の意味を理解していない生徒や、図を思いこみで見えてしまい勝手に仮定をつくってしまう生徒が見られた。

(4) 資料の活用

1 学年

出題なし。

2 学年

新学習指導要領の移行措置で新たに入ってきた内容で、今年で2年目。約5割しかできなかった。用語の理解とその利用ができつつあると思われるが、今後も継続して出題していきたい。

3 学年

今年も確率の問題を出したが、樹形図をかいて、場合の数を求められない生徒が見られるので、授業の中で樹形図をかく練習を一層徹底することが必要と思われる。

4. 指導にあたって

平成23年度の学習診断テストの結果を分析して、学習指導の課題として見えてくると、その改善のための指導の留意点を、いくつか記したい。

- ①単に計算ができる、公式を覚えればよい、機械的に手順に沿って解くだけの授業展開ではなく、数学的思考方や理論的に説明する授業を展開し、なぜそうなるのか、なぜそれが必要なのか、どうしてそれが成り立つのか等を考えさせ、説明できるような授業展開にしていきたい。
- ②身のまわりにある事柄と数学を結び付けられるような授業展開や、身のまわりの事柄を数学的に考察できるような題材を取り扱うために、日々の様々な事柄から常に教材研究の目線を忘れずに過ごしたい。
- ③評価の観点である「数学への関心・意欲・態度」を見とれるような授業展開をし、知識だけに頼らない力をつけさせたい。
- ④学校の定期テストでも説明させる問題や、式や図に限らず理論や見方を問う問題を出題することで表現力の向上につなげていきたい。

5. 授業改善にむけて

「教師が教える」から「課題から生徒が自ら学ぶ」授業へ変化をさせていきたい。そのためには課題選びや提示の仕方、教師の発問の仕方の工夫が大切である。常に教材研究や情報交換をし、教師がアンテナを張るところからすべてが始まる。しかし、急にすべてが改善されることはなく日々の努力を続けることになる。常に生徒が「自ら考え、表現すること」を授業の軸にして、先生が「教える」授業から、生徒が自分の意見で「説明できる」という授業に変えていくことが求められる。それを続けることで生徒主体の授業に改善される。「こうするとこうなる」と教えてきたものを、「こうするとこうなるのはなぜだと思う？」と発問し、理解することの楽しさを実感してもらいたい。

平成 23 年度

川崎市立中学校 学習診断テスト 理 科

誤答分析と学習指導上の考察

川崎市教育委員会
川崎市立中学校長会
理科調査委員会

理科

I. 作成方針と構成

1. 作問にあたって

- (1) 学習診断テストの趣旨をふまえ、学習指導要領に示されている内容の基礎的・基本的事項が理解されているかどうか、また、どこにつまずきがあるかを判断できる問題になるよう努めた。
- (2) 基本的な科学概念や自然のしくみの理解について、わかりやすい表現で診断できる問題となるよう心がけた。
- (3) 「自然事象についての知識・理解」、「科学的な思考」、「観察・実験の技能・表現」、「自然事象に対する関心・意欲・態度」の4つの観点について、それぞれの「基礎・基本」について診断できる問題づくりに努め、「知識・理解」に偏ることのないように配慮した。
- (4) 観察・実験の技能・表現に関して、器具や操作についての知識だけを問う問題にならないように配慮し、実際の観察・実験が想起できるような展開になるよう努めた。
- (5) 科学概念と身近な現象や日常での体験の関連を意識し、獲得した概念の応用、適用という観点から思考力をみる問題の作成に努めた。
- (6) 各単元の学習内容、順序に配慮し、下位概念から無理なく問題に取り組めるようストーリー性をもった問題になるよう心がけた。
- (7) 国際学力調査（PISA・TIMSS）の結果を受け、「読解力」について診断できる問題を出題した。
- (8) 学習診断テストの趣旨をふまえ、各学校におけるこれからの学習指導の見直しに役立てることのできる問題づくりに努めた。
- (9) 各単元の内容量、学習配当時間を考慮し、幅広くほぼ全内容を網羅するように問題数を調整した。なお、出題範囲は各学年とも昨年度11月から1年間（10月まで）の学習内容とした。
- (10) 小問どうしが関連し、連続的に正解をしないと解答できないような出題を避け、各小問が独立した問題となるように工夫した。
- (11) 新学習指導要領への移行期間になり、すべての学年で新しい指導内容が追加されたことをふまえ、追加項目は出題するように心がけた。

2. 出題のねらい[理科]

| | 1 年 | 2 年 | 3 年 |
|-----|--|---|---|
| 問 1 | ●光の性質 ・光の反射や屈折の実験を通して、光の進み方に規則性を見出すことができるか。 | ●物質のすがた ・身の回りの物質の性質について理解しているか。 | ●化学変化の規則性 ・炭酸水素ナトリウムの実験方法を正しく理解し、発生した物質について理解しているか。 |
| 問 2 | ●光の性質 ・凸レンズのはたらきによる、物体と像の関係を見出すことができるか。 | ●物質のすがた ・状態変化や沸点について理解しているか。 | ●力と運動 ・記録タイマーを使って運動の様子を調べる方法が理解できているか。 |
| 問 3 | ●音の性質 ・音の正体をつかみ、振動と音の高さ、大きさに関係性を見出すことができるか。 | ●物質のすがた ・気体の発生方法や性質について理解しているか。 | ●仕事とエネルギー ・仕事と仕事率について理解しているか。 |
| 問 4 | ●圧力の性質 ・圧力の大きさについて理解しているか。 | ●水溶液 ・物質の溶解について理解しているか。 | ●仕事とエネルギー ・エネルギーの変換効率と熱の伝わり方について理解しているか。 |
| 問 5 | ●力の性質 ・力は大きさや向きによって表されることがやグラフにもとづき、その関係性を見出すことができるか。 | ●電流 ・回路の電流や電圧の関係についての規則性を理解しているか。 | ●化学変化の規則性 ・金属資源と酸素の化学変化について理解しているか。 |
| 問 6 | ●身近な生物の観察 ・身のまわりの生物の観察を通して、環境による生物の生活場所の違いや顕微鏡の使い方を理解しているか。 | ●電流の利用 ・電流と磁界の関係について理解しているか。 | ●水溶液とイオン ・水溶液での変化をイオンの動きを通して説明することができるか。 |
| 問 7 | ●種子植物のつくり ・花のつくりとはたらきや、被子植物と裸子植物の違いを理解しているか。 | ●電流の利用 ・静電気の性質について理解しているか。熱量の求め方について理解しているか。電流が電子の流れだと理解しているか。 | ●水溶液とイオン ・酸とアルカリの性質について理解しているか。 |
| 問 8 | ●栄養分をつくるしくみ ・植物の呼吸と光合成について理解しているか。 | ●火山と地震 ・火山活動とその形態によって火山噴出物が異なることについて理解しているか。 | ●霧や雲の発生 ・霧や雲のでき方を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けてとらえることができるか。 |
| 問 9 | ●栄養分をつくるしくみ ・光合成が行われるときの条件や材料を理解しているか。 | ●火山と地震 ・地震の観測から何がわかるか理解しているか。地震を引き起こすプレートの動きについて理解しているか。 | ●大気中の水 ・気象観測の方法や記録の仕方が身に付いているか。気象要素の変化と天気との関係を見いだすことができるか。 |
| 問10 | ●栄養分を運ぶしくみ ・茎や葉のつくりとそのはたらきについて理解しているか。 | ●地層と過去のようす ・土砂のたい積の仕方とたい積物から過去の地殻変動を推察することができるか。 | ●大気の動きと変化 ・前線の通過に伴う天気の変化を、暖気、寒気と関連付けてとらえることができるか。 |
| 問11 | ●植物のなかまわけ ・植物をその特徴からなかま分けすることができるか。 | ●動物のなかま ・せきつい動物と無せきつい動物の体の特徴を理解しているか。 | ●大気の動きと変化 ・日本の天気の特徴や気象を日本付近の大気の動きや海洋の影響と関連付けてとらえることができるか。 |
| 問12 | | ●動物のからだのつくりと働き ・ヒトが外部からの刺激に対してどのように反応し、運動するかを理解しているか。 | ●細胞と生物の成長 ・細胞の分裂を生物の成長と関連付けてとらえることができるか。 |
| 問13 | | ●動物のからだのつくりと働き ・ヒトの消化について理解しているか。 | ●生物のふえ方 ・有性生殖と無性生殖の特徴を見いだし、親の形質が子に伝わることを見いだすことができるか。 |
| 問14 | | ●動物のからだのつくりと働き ・血液とその循環について理解しているか。 | ●生物のふえ方 ・交配実験の結果などに基づいて、親の形質が子に伝わるときの規則性を見いだすことができるか。 |

Ⅱ. 第1学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[理科第1学年]

| 問題番号 | 観点 | | | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | 無答率 |
|------|----|----|-----|-------------|--|--------|-----|
| | 大問 | 中間 | 思表理 | | | | |
| 1 | a | | ◎ | ①光の性質 | 光の反射の規則性を理解しているか。 | 28 | 8 |
| | b | | ◎ | | 光の反射の規則性と法則名を合わせて理解しているか。 | 62 | 14 |
| | c | ◎ | | | 光の反射を活用し、表現することができるか。 | 58 | 0 |
| | d | | ◎ | | 屈折率が異なる物質同士での光の進み方について理解しているか。 | 62 | 2 |
| | e | ◎ | | | 光の屈折について理解し、応用できるか。 | 20 | 2 |
| 2 | a | | ◎ | ②音の性質 | 凸レンズを通る光の道筋を作図することができるか。 | 36 | 16 |
| | b | | ◎ | | スクリーンに映る像の特徴を理解しているか。 | 60 | 0 |
| | c | | ◎ | | 実像と虚像の特徴を区別して理解しているか。 | 56 | 0 |
| | d | ◎ | | | 光の像について身近な例と合わせて考えることができるか。 | 46 | 0 |
| 3 | a | | ◎ | ③力の種類 | 音の高低や大きさを波として理解しているか。 | 78 | 0 |
| | b | | ◎ | | 振動数からヘルツを計算で求めることができるか。 | 4 | 4 |
| | c | ◎ | | | 音が伝わる時の特性を実験結果から考えることができるか。 | 90 | 0 |
| | d | ◎ | | | ギター之音の高低を知識と合わせて考えることができるか。 | 62 | 0 |
| 4 | a | | ◎ | ④力の性質 | 圧力を求める計算式を立てることができるか。 | 28 | 6 |
| | b | | ◎ | | 計算によって圧力を求めることができるか。 | 8 | 14 |
| | c | | ◎ | | 形や素材ではなく、圧力は面積や質量によって決まることを理解しているか。 | 54 | 0 |
| | d | ◎ | | | 水圧による勢いの違いを考察することができるか。 | 66 | 0 |
| | e | | ◎ | | 水圧はどのようにはたらくのかを理解しているか。 | 46 | 0 |
| | f | ◎ | | | ものが水に浮く理由を理解しているか。 | 44 | 0 |
| 5 | a | | ◎ | ⑤身近な植物の観察 | 提示されている数値からグラフを作成することができるか。 | 14 | 6 |
| | b | ◎ | | | フックの法則を活用し、ばねの伸びを推測することができるか。 | 72 | 2 |
| | c | | ◎ | | さまざまな種類の力を理解しているか。 | 38 | 12 |
| | d | ◎ | | | 力の表し方を理解しているか。 | 36 | 8 |
| 6 | a | | ◎ | ⑥種子植物の観察 | 顕微鏡の操作のしかたを理解しているか。 | 46 | 0 |
| | b | | ◎ | | 水中の生物と拡大倍率について理解しているか。 | 84 | 0 |
| | c | ◎ | | | 生物地図を見て、環境に応じて生息している生物が違うことを読み取ることができるか。 | 78 | 2 |
| 7 | a | | ◎ | ⑦種子植物の観察 | 被子植物の花のつくりを理解しているか。 | 76 | 8 |
| | b | | ◎ | | 裸子植物の花のつくりを理解しているか。 | 44 | 2 |
| | c | | ◎ | | 被子植物と裸子植物の花のつくりの違いを理解しているか。 | 48 | 2 |
| | d | | ◎ | | 受粉後の胚珠や子房の変化を理解しているか。 | 66 | 4 |
| 8 | a | | ◎ | ⑧栄養分をつくるしくみ | 対照実験について理解しているか。 | 58 | 0 |
| | b | ◎ | | | 呼吸によって出入りする気体について理解しているか。 | 48 | 0 |
| | c | | ◎ | | 植物は昼夜関係なく、呼吸していることを理解しているか。 | 70 | 0 |
| 9 | a | | ◎ | ⑨栄養分を運ぶしくみ | デンプンの確認にヨウ素溶液を使うことを理解しているか。 | 64 | 10 |
| | b | ◎ | | | 光合成には葉緑体と光が必要なことを理解しているか。 | 48 | 4 |
| | c | ◎ | | | 実験から、光合成に必要な材料を読み取ることができるか。 | 16 | 2 |
| | d | | ◎ | | 葉の付き方と日光の関係について理解しているか。 | 72 | 8 |
| 10 | a | | ◎ | ⑩植物のなかま分け | 蒸散の実験方法について理解しているか。 | 44 | 38 |
| | b | ◎ | | | 蒸散が葉の裏で盛んに行われることを実験から読み取ることができるか。 | 24 | 14 |
| | c | | ◎ | | 気体の出入り口である気孔について理解しているか。 | 70 | 26 |
| | d | | ◎ | | 道管のはたらきとその場所について理解しているか。 | 40 | 8 |
| 11 | a | | ◎ | ⑩植物のなかま分け | 植物の分類の観点について理解しているか。 | 48 | 4 |
| | b | ◎ | | | 身の周りの植物を、観点にそって分類することができるか。 | 48 | 10 |
| | c | | ◎ | | 双子葉類の体のつくりを理解しているか。 | 52 | 8 |
| | d | | ◎ | | 種子をつくらぬ植物がどのように仲間を増やすか理解しているか。 | 42 | 22 |
| | e | | ◎ | | シダ植物の体のつくりや特徴を理解しているか。 | 44 | 4 |

◎…主たる観点

2. 主な誤答と分析[理科第1学年]

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|-------------------------|-----|--------|-------------|----------------|---|
| 1 | a | (作図省略) | 28 | 8 | 線が途中まで | 22 | aでは光の性質を考慮して解答欄の端まで道筋を伸ばして欲しかったが、途中で終わってしまっている場合が多くみられた。 またdとeから、物体の見え方と屈折についての理解が結びついていないことがわかった。 |
| | b | 反射(の法則) | 62 | 14 | 光(の反射) | 16 | |
| | c | そち | 58 | 0 | ちそ | 22 | |
| | d | 2 | 62 | 2 | 4 3 | 18 14 | |
| | e | 3 | 20 | 2 | 2 | 76 | |
| 2 | a | (作図省略) | 36 | 16 | 1点減点 | 18 | 光の道筋の作図は、ここ数年来、正答率にほとんど変化がない。引き続き作図指導が必要と思われる。 その他の小問についてはaの作図をヒントに答えることも可能であり、それを一つのねらいとしていた。その結果、昨年よりわずかではあるが、正答率が上昇した。このことから、段階的思考が重要であることが明らかになった。今後、更なる定着を期待したい。 |
| | b | 1 | 60 | 0 | 2 | 30 | |
| | c | 3 | 56 | 0 | 2 | 28 | |
| | d | 4 | 46 | 0 | 2 3 1 | 26 16 12 | |
| 3 | a | (高い):1 | 78 | 0 | 2 | 18 | 音の振幅、振動数に関する知識はよく定着していることがaからわかる。しかし、bのように知識の活用となると計算問題ということもあって、正答率は著しく低下した。また、問4bでも述べるが、小数の計算問題には今後も課題が残っており、重点的に指導しなければならないものの一つと考えられる。 cは正答率が非常に高く、音の性質についてよく理解していることがわかった。 |
| | | (大きい):2 | 70 | 0 | 4 | 24 | |
| | b | 100(Hz) | 4 | 4 | 2(Hz) | 50 | |
| | c | 3 | 90 | 0 | 2 | 6 | |
| d | 4 | 62 | 0 | 1 2 | 16 16 | | |
| 4 | a | 5 | 28 | 6 | 1 3 | 28 12 | aでは単位を変換しての立式ということで難易度の高い問題となったためか正答率が低かった。単位の変換とともに立体図形の認識力も低いと考えられる。更にはaで正答しているにも関わらずbでの間違いも多く、実に20%の生徒が計算ミスをしている。問3b同様、計算力が身につけていないことがわかる。 新学習指導要領からの出題となった水圧、浮力についてはまずまずの正答率となっており、今後も実験や体験を通して指導していくことが必要である。 |
| | b | 1000(N/m ²) | 8 | 14 | 10 5 | 24 14 | |
| | c | 4 | 54 | 0 | 3 1 | 28 14 | |
| | d | 2 | 66 | 0 | 1 | 28 | |
| | e | 1 | 46 | 0 | 3 2 | 36 12 | |
| | f | 3 | 44 | 0 | 2 | 28 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|---------|-----|-----|--|---------------------|--|
| 5 | a | (作図省略) | 14 | 6 | 打点未記入あり | 42 | aのグラフでは、全ての打点が記入されていないケースが目立った。実験データである以上、全ての点を記録することが望ましい。 また、cでは同時期に学習した言葉との混同が見られる。 dの作図では力を1本の矢印で表すということが理解できていない。更なる定着が求められる。 |
| | b | 2 | 72 | 2 | 1 3 | 10 10 | |
| | c | 抗力 | 38 | 12 | まさつ力、抵抗力、 重力など多数 | | |
| | d | (作図省略) | 36 | 8 | 複数本記入 ボールの下部より 線を記入 | 18 14 | |
| 6 | a | 1 3 4 2 | 46 | 0 | 1 4 3 2 1 3 2 4 1 4 2 3 1 2 4 3 | 16 10 10 8 | 顕微鏡の操作では、ピントを合わせる前にプレパラートと接眼レンズを近づける操作を忘れている。この操作を忘れるとカバーガラスを割ってしまうことに繋がることもあり、正しい操作方法を身につけさせる必要がある。 身近な生物の生活環境や名前についてはよく理解できている。 |
| | b | 2 | 84 | 0 | イ 1 | 8 4 | |
| | c | 3 | 78 | 2 | 2 | 12 | |
| 7 | a | 柱頭 | 76 | 8 | 漢字間違い 雌花 | 6 4 | 被子植物の花のつくりについては、概ね理解できている。裸子植物のつくりや、被子植物と裸子植物の比較については、昨年度よりは正答率は上がっているが、まだ十分ではない。裸子植物については、観察を通して理解を深められるような指導が必要である。 |
| | b | 2 | 44 | 2 | 1 4 3 | 24 16 10 | |
| | c | 4 | 48 | 2 | 1 3 2 | 14 14 12 | |
| | d | 3 | 66 | 4 | 1 2 | 14 14 | |
| 8 | a | 1 | 58 | 0 | 1 3 2 | 18 14 8 | 実験手順や結果から何を比べているのかを理解できていない。 bでは、光合成を選択しているものも多く、実験の内容を理解していないことがわかる。実験の方法や、結果から読み取る力をつけていく必要がある。植物が光合成も呼吸も行っていることは、概ね理解できている。 |
| | b | 1 | 48 | 0 | 3 2 4 | 24 20 8 | |
| | c | 3 | 70 | 0 | 2 4 | 22 6 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|--------------|-----|-----|--|----------------------|--|
| 9 | a | ヨウ素溶液 | 64 | 10 | 漢字間違い エタノール デンプン | 8 4 4 | aのヨウ素溶液については、概ね答えられていたが、漢字の間違いが多いことが今後の課題である。 b、cより、光合成に必要な条件については概ね理解できているが、実験がどの条件について確認しているものなのかを読み取ることができていない。普段の実験レポートなどを利用して、実験から何がわかるのかを導きだす力をつける必要がある。 dの植物の工夫については、よく理解できていた。 |
| | b | (作図省略) | 48 | 4 | 光の当たらない部分 光の当たったふの部分 ふの部分 ふと日の当たらない部分 | 14 10 4 4 | |
| | c | 1、5 | 16 | 2 | 3を含む誤答 4を含む誤答 2を含む誤答 6を含む誤答 | 50 34 30 22 | |
| | d | 光を効率よく得るため | 72 | 8 | 光合成がしやすい | 8 | |
| 10 | a | 水面からの蒸発を防ぐため | 44 | 38 | 減った水の量をわかりやすくするため | 6 | 記述問題では、書いているものについては、正答率が高い。無回答が多いことが気になった。 bでは、蒸散が葉の裏で盛んであることは理解できているが、実験から導き出す力が不十分である。 dでは、水を吸い上げるのが道管であることは概ね理解できているが、その場所についてはあいまいである。観察を行って知識の定着を図りたい。 |
| | b | 3 | 24 | 14 | 2 1 4 | 32 16 12 | |
| | c | 気孔 | 70 | 26 | くき 師管 | 2 2 | |
| | d | 4 | 40 | 8 | 3 1 2 | 28 12 10 | |
| 11 | a | 1 | 48 | 4 | 4 3 2 | 22 16 10 | 植物の分類については、分類の観点やその植物の特徴などについて理解が不十分である。シダ植物、コケ植物は新指導要領の内容であるが、まだ理解度は高くなく、継続した指導が必要である。 bでは、ツツジを離弁花であると思っている生徒も多く、観察の必要性を感じる。 dでは、無回答が多く、記述問題へ苦手意識があることが読み取れる。 |
| | b | サクラ | 48 | 10 | ツツジ イネ イヌワラビ | 18 8 6 | |
| | c | 2 | 52 | 8 | 3 1 4 | 18 10 10 | |
| | d | 孢子 | 42 | 22 | 種子 | 16 | |
| | e | 4 | 44 | 4 | 1 3 2 | 22 20 10 | |

Ⅱ. 第2学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[理科第2学年]

| 問題番号 | 観点 | | | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | 無答率 |
|------|-----|----|-----|----------------|---|--------|-----|
| | 大問 | 中間 | 思表理 | | | | |
| 1 | a | | ◎ | ①物質のすがた | ガスバーナーの使い方を理解しているか。 | 60 | 0 |
| | b | ◎ | | | 有機物の特徴を理解しているか。 | 39 | 1 |
| | c | | ◎ | | 金属に共通な性質について理解しているか。 | 71 | 0 |
| 2 | a | | ◎ | | 状態変化での体積の変化、質量の変化について理解しているか。 | 56 | 1 |
| | b | | ◎ | | 沸とう石の役割について理解しているか。 | 40 | 8 |
| | c | ◎ | | | 沸点の違いにより、物質が分離できることを理解しているか。 | 52 | 1 |
| 3 | a | | ◎ | | 気体の適切な集め方を理解しているか。 | 75 | 1 |
| | b | | ◎ | | いろいろな気体の性質について理解しているか。 | 50 | 1 |
| | c | | ◎ | | いろいろな気体の発生方法を理解しているか。 | 35 | 1 |
| 4 | a | | ◎ | ②水溶液 | 物質が水にとけるようすについて理解しているか。 | 75 | 1 |
| | b①② | | ◎ | | 質量パーセント濃度について理解しているか。 | 21 | 14 |
| | ③ | | ◎ | | | 23 | 18 |
| | c | ◎ | | | 溶解度について理解しているか。 | 41 | 3 |
| 5 | a | | ◎ | ③電流 | 回路図をかくことができるか。 | 53 | 6 |
| | b | | ◎ | | 測定値からグラフをかくことができるか。 | 24 | 11 |
| | c | | ◎ | | 電圧と電流の関係の規則性を理解し、計算により電気抵抗を求めることができるか。 | 30 | 2 |
| | d | ◎ | | | 並列回路の電流、電圧の規則性を理解しているか。 | 31 | 4 |
| 6 | a | | ◎ | ④電流の利用 | コイルに流れる電流によって発生する磁界について理解しているか。 | 27 | 2 |
| | b | ◎ | | | 磁界中のコイルに電流を流すと力がはたらくことを理解しているか。 | 32 | 2 |
| | c | ◎ | | | コイルの中の磁界を変化させると、コイルに電流が流れることを理解しているか。 | 41 | 2 |
| 7 | a | | ◎ | ④電流の利用 | 静電気における規則性を理解しているか。 | 69 | 2 |
| | b | ◎ | | | 熱量の求め方について理解しているか。 | 21 | 14 |
| | c | ◎ | | | クルックス管のようすを見て、電子がどのような性質をもっているか考えることができるか。 | 61 | 2 |
| | d | | ◎ | | 直流と交流の違いを理解しているか。 | 69 | 2 |
| 8 | a | ◎ | | ⑤火山と地震 | マグマのねばりけと火山からの噴出物の関連性やマグマに含まれる鉱物の種類によって火成岩の色の違いがあることを理解しているか。 | 50 | 1 |
| | b | | ◎ | | 火山岩と深成岩の組織の違いについて理解しているか。 | 36 | 2 |
| | c | | ◎ | | 火山岩と深成岩の組織の違いがどのようにして起こるか理解しているか。 | 39 | 25 |
| 9 | a | | ◎ | ⑤火山と地震 | 地震のゆれと地震を引き起こす波について理解しているか。 | 73 | 7 |
| | b | ◎ | | | 初期微動継続時間と震源からの距離の関係性を理解しているか。 | 80 | 2 |
| | c | | ◎ | | 日本付近で起こる地震とプレートとの関係を理解しているか。 | 53 | 2 |
| | d | | ◎ | | 震度とマグニチュードの違いを理解しているか。 | 64 | 2 |
| | e | | ◎ | | 地震によって引き起こされる災害について理解しているか。 | 69 | 2 |
| 10 | a | | ◎ | ⑥地層と過去のようす | 地層のでき方を理解しているか。 | 32 | 2 |
| | b | ◎ | | | たい積岩の種類と特徴を理解しているか。 | 19 | 32 |
| | c | | ◎ | | 地層ができた時代や環境を推定する手がかりとなる化石について理解しているか。 | 40 | 26 |
| 11 | a | | ◎ | ⑦動物のなかま | せきつい動物の分類について理解しているか。 | 68 | 2 |
| | b | | ◎ | | 相同器官について理解しているか。 | 35 | 32 |
| | c | | ◎ | | 節足動物・軟体動物の体のつくりや特徴を理解しているか。 | 65 | 2 |
| 12 | a | | ◎ | ⑧動物のからだのつくりと働き | ヒトの体は細胞からできていることを理解しているか。 | 52 | 2 |
| | b | ◎ | | | 刺激に対して起こる運動について理解しているか。 | 33 | 2 |
| | c | | ◎ | | ヒトの感覚器官について理解しているか。 | 40 | 25 |
| | d | ◎ | | | 無意識に起こる運動のしくみを理解しているか。 | 66 | 2 |
| 13 | a | | ◎ | ⑧動物のからだのつくりと働き | 糖ができていることを確認する方法を理解しているか。 | 35 | 4 |
| | b | ◎ | | | ヒトのだ液のはたらきについて理解しているか。 | 71 | 3 |
| | c | | ◎ | | 栄養分の吸収について理解しているか。 | 31 | 14 |
| | d | | ◎ | | 柔毛のはたらきを理解しているか。 | 57 | 28 |
| 14 | a | | ◎ | ⑧動物のからだのつくりと働き | 血液のはたらきについて理解しているか。 | 70 | 11 |
| | b | | ◎ | | 血液の循環について理解しているか。 | 60 | 4 |
| | c | | ◎ | | じん臓のはたらきを理解しているか。 | 34 | 10 |

◎…主たる観点

2. 主な誤答と分析[理科第2学年]

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|---------|-----|-----|---|--------------------|---|
| 1 | a | 3 | 60 | 0 | 2 1 4 | 29 6 4 | aでは「炎を青くする」ことが理解されていたが、点火時の各ねじの使い方が理解されていない解答も多かった。 bでは、有機物の特徴が十分に理解されていなかった。 cでは、金属の共通の性質として「電気を通す」ことがよく理解されていたが、「磁石につく」もやや多く選ばれていた。 |
| | b | 1 | 39 | 1 | 2 4 3 | 34 17 9 | |
| | c | 4 | 71 | 0 | 3 1 2 | 16 8 4 | |
| 2 | a | 2 | 56 | 1 | 3 4 1 | 17 17 9 | aでは、一般に物質を沸騰させたときに質量が変わらないことは概ね理解されていた。 bでは、沸騰石の使用目的が十分に理解できていない。また、文章表現がうまくできていないものも多かった。 蒸留の実験の目的を理解し、沸点の違いによって物質が分離できることが概ね理解されていたが、実験中の変化について文章や表から読み取る力が必要であると考えられる。 |
| | b | 突沸を防ぐため | 40 | 8 | 沸騰しすぎないように沸騰させないため 沸騰しやすくするため フラスコが割れないため | 8 10 10 8 | |
| | c | 4 | 52 | 1 | 3 1 2 | 19 15 13 | |
| 3 | a | 1 | 75 | 1 | 3 2 | 15 9 | a, bでは、酸素を集めるときは水上置換法を使うということがよく理解されていた。しかし、いろいろな気体の性質を理解した上での気体の発生方法の理解が不十分であると考えられる。今後は、実験を通して体験し、より理解を深めていきたい。 |
| | b | 3 | 50 | 1 | 2 1 4 | 31 14 4 | |
| | c | 2 | 35 | 1 | 3 1 4 | 26 20 18 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|------------|-----|-----|--------------------------------|---------------------|--|
| 4 | a | 1 | 75 | 1 | 4 2 3 | 13 8 3 | aでは、物質が水にとけるようすについて、よく理解されている。 bでは、質量パーセント濃度の問題が昨年度との類似問題であるが、「溶液＝溶媒＋溶質」ということを理解されていないと考えられる。 cでは、グラフから正しい値を読み取ることはできるが、再結晶される物質がどれくらいなのかを、グラフを活用して導き出す力が不十分であるということが考えられる。 |
| | b | ① 25 ② 125 | 21 | 14 | ① 25 ② 100 ②100 ② 25 その他 | 24 21 20 | |
| | | ③ 20 | 23 | 18 | 25 その他 | 28 31 | |
| | c | 3 | 41 | 3 | 2 4 1 | 34 14 8 | |
| 5 | a | (作図省略) | 53 | 6 | 「導線の接続」なし その他 | 8 32 | aでは、回路図のかき方は概ね理解されていると思われる中、「導線の接続」の点が書かれていないものが見られた。 bでは、グラフのかき方については昨年度と比べ、正答率が下がった。中でも「原点なし」が多かった。 cでは、電圧と電流と電気抵抗の関係の理解が不十分であり、図や文章から情報を正しく読み取る力や、「mA」から「A」への変換の理解を深めていく必要があると考える。 dでは、抵抗器が2つで並列回路にするという、今までの知識を応用して考えていく力が不十分である。今後、観察・実験を通して、結果から考察する力をつけていくことが必要と考えられる。 |
| | b | (グラフ省略) | 24 | 11 | 原点なし 直線2本 その他 | 40 10 15 | |
| | c | 4 | 30 | 2 | 3 2 1 その他 | 31 19 17 1 | |
| | d | 3 | 31 | 4 | 2 1 4 | 31 22 12 | |
| 6 | a | 1 | 27 | 2 | 2 3 4 | 30 23 16 | 全体的に解答率が低い結果となった。 aでは、コイルの内部での磁界の向きが十分に理解されていなかった。 bでは、図や文章から実験の内容の理解をすることが不十分であるということが考えられる。 cでは、磁石の出し入れをする向きと電流の流れる向きとの関係に対する理解が不十分であった。 |
| | b | 2 | 32 | 2 | 1 3 4 | 10 28 28 | |
| | c | 5 | 41 | 2 | 1 2 3 4 | 17 11 22 7 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|-----------------------|-----|-----|---------------------------|--------------------------|--|
| 7 | a | 2 | 69 | 2 | 1 3 4 | 19 5 5 | aの静電気における規則性については、概ね理解している。 bの熱量を求める問題では、求める計算式(熱量=電力量×時間)を理解していない生徒が多く、設問に「6Vの電圧を5分間(300秒)」とあるから「 $6 \times 5 = 30$ 」、「 $6 \times 300 = 1800$ 」という答えが多かった。 |
| | b | 2700 | 21 | 14 | 1800 30 その他 | 16 26 23 | 「電子の性質」や、「直流や交流のちがいは、新しく追加された部分ではあるが、概ね理解されていると判断することができる。 |
| | c | 4 | 61 | 2 | 1 2 3 | 12 9 15 | |
| | d | 3 | 69 | 2 | 1 2 4 | 6 9 10 | |
| 8 | a | 4 | 50 | 1 | 2 3 | 20 20 | 火山噴出物の特徴や火成岩の成り方について、理解が不足している。 |
| | b | 2 | 36 | 2 | 1 3 | 29 18 | aでは、火山の形状とマグマのねばりけの関係について概ね理解をしているが、マグマのねばりけのちがいが火山噴出物に含まれる成分のちがいであることを資料を通して考えさせたい。 |
| | c | マグマが冷えて固まるまでの時間がちがうから | 39 | 25 | 固まる場所がちがう マグマのねばりけがちがう | 20 10 | bでは1、3の誤答が多く、「石基」「斑晶」についても理解されていない傾向が目立つ。 cでは、「場所が違うから」という誤答が多く、場所がちがうと、なぜ鉱物の結晶が大きく育つのか、理解が不十分のようである。 |
| 9 | a | S波 | 73 | 7 | 無答 | 7 | 東日本大震災の影響により各メディアの報道が多かったせい、地震についての関心が高く、どの設問に対しても昨年度に比べて高い正答率を示している。 |
| | b | Z | 80 | 2 | X Y | 8 10 | |
| | c | 3 | 53 | 2 | 1 3 | 25 18 | dでは、昨年度とほぼ同じ内容の出題をして経年変化を調べたが、正答率はそれほど上昇しなかった。 |
| | d | 4 | 64 | 2 | 2 | 26 | eの地震による災害について、津波と液状化現象を正しく理解していることがわかる。 |
| | e | 6 | 69 | 2 | 1 2 3 4 5 | 8 8 3 6 4 | |
| 10 | a | 1 | 32 | 2 | 2 3 4 5 6 | 14 9 13 12 9 | 水のはたらきによる土砂のたい積や、たい積岩についての理解が不足している。 |
| | b | 石灰岩 | 19 | 32 | 無答 石灰石 チャート | 32 10 4 | aでは、昨年度に引き続き出題したが、正答率が低く、誤答も偏りがないことから、知識として定着していないと考えられる。 |
| | c | 示相化石 | 40 | 26 | 無答 示準化石 | 26 12 | bも正答率が低く、間違いやすい「石灰石」を含めても、正答率は30%程度である。また、無答率は30%以上もあり、教科書で扱っている同じ生物の遺がいによるたい積岩の「チャート」での誤答率も低い。 |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|-----------------------------|-----|-----|--|---------------------------|---|
| 11 | a | 1 | 68 | 2 | 3 2 | 14 11 | 動物のくらしとなかまについては概ね理解していると思われる。 bでは、昨年度は図を用いて出題したが、今年度は文章表現による出題としても正答率はほぼ昨年度と変わらなかった。 cでは、節足動物や軟体動物は恒温動物である、と間違った認識をしている誤答が目立つ。 |
| | b | 相同器官 | 35 | 32 | 無答 運動器官 感覚器官 | 32 8 6 | |
| | c | 2 | 65 | 2 | 1 | 23 | |
| 12 | a | 3 | 52 | 2 | 2 1 | 26 20 | ヒトの体のしくみについて、概ね理解しているようである。 bでは、感覚器官が受けとった刺激は、すべて「せきずい」を通して脳に伝わる、と間違った認識をしている誤答が目立つ。 dでは、無意識に起こる反応があることを概ね理解していることがわかる。 |
| | b | 3 | 33 | 2 | 4 2 1 | 40 15 11 | |
| | c | 感覚器官 | 40 | 25 | 無答 感覚神経 | 25 8 | |
| | d | 2 | 66 | 2 | 1 | 27 | |
| 13 | a | 4 | 35 | 4 | 3 2 1 | 28 19 14 | だ液のはたらきについて、概ね理解していると思われる。しかし、aの誤答を見ると、だ液のはたらきを調べる実験において、その実験方法についての理解が不十分だと思われる。 cでは、栄養分がどこから吸収されるか理解しているが、分解されてできる栄養分についての理解が不十分である。また、デンプンが完全に分解されたものを「糖」と答える割合が多い。教科書で「糖」と「ブドウ糖」と使い分けをしている理由を授業でしっかりと抑えたい。 |
| | b | 6 | 71 | 3 | 5 4 2 1 3 | 7 6 5 4 4 | |
| | c | (栄養分)ブドウ糖 (記号)ウ | 31 | 14 | (栄養分)不正解－ (記号)正解 (栄養分)正解－ (記号)不正解 (栄養分)の誤答例 無答 糖 (記号)の誤答例 無答 | 38 2 38 14 14 | |
| | d | 表面積が大きくなるので 栄養分を吸収しやすくなる | 57 | 28 | | | |
| 14 | a | 赤血球 | 70 | 11 | 白血球、血小板など | | 血液とその循環について、概ね理解していると思われる。 しかし、cのじん臓のはたらきやじん臓の位置についての理解が不十分である。逆に、肝臓についての知識が定着していることが誤答から考えられる。 |
| | b | 1 | 60 | 4 | 3 4 | 16 11 | |
| | c | (記号)オ (名称)じん臓 | 34 | 10 | (記号)の誤答例 ウ 無答 (名称)の誤答例 肝臓 無答 | 28 10 34 16 | |

IV. 第3学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[理科第3学年]

| 問題番号 | 観点 | | | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | 無答率 |
|------|----|----|-----|---------------|---|--------|-----|
| | 大問 | 中間 | 思表理 | | | | |
| 1 | a | | ◎ | ①化学変化の規則性 | 炭酸水素ナトリウムの加熱方法について理解しているか。 | 68 | 0 |
| | b | | ◎ | | 発生した気体の化学式について理解しているか。 | 76 | 4 |
| | c | | ◎ | | 発生した液体の確認方法について理解しているか。 | 62 | 0 |
| | d | | ◎ | | 加熱後の物質の性質について理解しているか。 | 42 | 0 |
| 2 | a | | ◎ | ②力と運動 | 記録テープから、平均の速さを導き出すことができるか。 | 12 | 14 |
| | b | | ◎ | | 合力を分解し分力を作図することができるか。 | 30 | 4 |
| | c | ◎ | | | 斜面の傾きが大きくなったときの、力の大きさと速さの変化について理解しているか。 | 56 | 0 |
| | d | ◎ | | | 等速直線運動のグラフについて理解しているか。 | 32 | 4 |
| 3 | a | | ◎ | ③仕事とエネルギー | 重力に逆らってする仕事を計算で求めることができるか。 | 62 | 4 |
| | b | ◎ | | | 仕事の原理について理解しているか。 | 8 | 10 |
| | c | | ◎ | | 仕事率を計算で求めることができるか。 | 12 | 20 |
| 4 | a | | ◎ | ④化学変化とエネルギー | エネルギーの変換効率について理解しているか。 | 66 | 4 |
| | b | | ◎ | | いろいろな熱の伝わり方について理解しているか。 | 64 | 6 |
| 5 | a | | ◎ | ⑤金属資源と酸素の化学変化 | 酸化銅と銅の色について理解しているか。 | 60 | 0 |
| | b | ◎ | | | 酸化と還元を、モデルを用いて表すことができるか。 | 56 | 4 |
| | c | | ◎ | | 酸化と還元について理解しているか。 | 64 | 2 |
| 6 | a | ① | ◎ | ⑥水溶液とイオン | 塩化銅の電離の式を理解しているか。 | 24 | 8 |
| | | ② | ◎ | | 陰極での化学変化について理解しているか。 | 38 | 14 |
| | b | ◎ | | | 塩素の性質について理解しているか。 | 54 | 0 |
| | c | | ◎ | | 原子の構造について理解しているか。 | 60 | 0 |
| 7 | a | | ◎ | ⑦大気中の水 | 酸・アルカリの性質について理解しているか。 | 54 | 2 |
| | b | | ◎ | | 中和について理解しているか。 | 56 | 14 |
| | c | | ◎ | | イオンを使って中和を理解しているか。 | 28 | 2 |
| | d | | ◎ | | 塩化ナトリウムの結晶の形について理解しているか。 | 30 | 2 |
| 8 | a | | ◎ | ⑧大気の動き | 露点を計測する実験より、室内の湿度を求めることができるか。 | | |
| | b | ◎ | | | 気温の変化による飽和水蒸気量の変化より、水蒸気と水滴の変化を見いだすことができるか。 | | |
| | c | | ◎ | | 雲ができるしくみを、順序立てて理解しているか。 | 58 | 0 |
| | d | | ◎ | | 水の循環を、水の状態変化と関連付けて理解しているか。 | 54 | 0 |
| 9 | a | | ◎ | ⑨大気の動きと天気の变化 | 等圧線の図より、各地の気圧を読み取ることができるか。 | 56 | 4 |
| | b | | ◎ | | 天気図の記号から、天気、風向、風力を読み取ることができるか。 | 36 | 6 |
| | c | ◎ | | | 高気圧と低気圧の気圧配置より、風の吹く向きや強さを見いだすことができるか。 | 60 | 2 |
| 10 | a | ◎ | | ⑩細胞と生物の成長 | 気温、気圧、風向の変化のグラフから、前線の通過と天気の変化との関連性を見いだすことができるか。 | 56 | 0 |
| | b | ◎ | | | 前線の通過と天気の変化との関連性を、理由をもとに説明することができるか。 | 62 | 8 |
| | c | | ◎ | | 温暖前線、寒冷前線の特徴を理解し、発生する雲の種類や雨の降り方の違いを理解しているか。 | 58 | 0 |
| | d | | ◎ | | 停滞前線が発生する仕組みを、気団の特徴をふまえて理解しているか。 | 46 | 0 |
| 11 | a | ◎ | | ⑪生物のふえ方 | 太陽の光があたったときの地面と水面のあたたまり方の違いを、実験結果から見いだすことができるか。 | 62 | 0 |
| | b | ◎ | | | 海風と陸風の吹き方と、その仕組みについて理解しているか。 | 38 | 0 |
| | c | | ◎ | | 日本の四季の天気の特徴を理解しているか。 | 54 | 0 |
| | d | | ◎ | | 地球を取り巻く大気の動きを理解しているか。 | 48 | 10 |
| 12 | a | | ◎ | ⑫細胞と生物の成長 | 細胞分裂を観察するときの実験操作を理解しているか。 | 78 | 0 |
| | b | | ◎ | | 細胞分裂の過程を理解しているか。 | 72 | 0 |
| | c | ◎ | | | 細胞分裂がさかんに行われている部分を理解し、植物の成長の仕方を考えることができるか。 | 58 | 4 |
| 13 | a | | ◎ | ⑬生物のふえ方 | カエルの胚の発生過程を理解しているか。 | 90 | 2 |
| | b | | ◎ | | 植物の有性生殖の過程を理解しているか。 | 72 | 2 |
| | c | | ◎ | | 有性生殖のしくみを、減数分裂と関連付けて理解しているか。 | 60 | 2 |
| | d | | ◎ | | 生殖の具体的な例を、有性生殖と無性生殖に分けることができるか。 | 60 | 2 |
| 14 | a | | ◎ | ⑭生物のふえ方 | メンデルの遺伝の法則における、子の代の遺伝子を理解しているか。 | 72 | 2 |
| | b | ◎ | | | エンドウの交配実験から、孫の遺伝子の組み合わせの割合を見いだすことができるか。 | 44 | 2 |
| | c | | ◎ | | 遺伝子の本体の物質名を理解しているか。 | 88 | 6 |

◎…主たる観点

2. 主な誤答と分析[理科第3学年]

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|-----------------|-----|-----|-------------------------|--------------------|--|
| 1 | a | 4 | 68 | 0 | 3 2 1 | 16 14 2 | 炭酸水素ナトリウムの実験では、なぜその実験操作を行うのか、一つ一つを確認しながら実験するよう日頃から心掛けたい。また、発生する気体をどのように調べるのかについて理解させたい。 dの正答率が低いことから、加熱前と加熱後の物質の性質について正しく理解していないことがわかる。実験を通して確実に定着させるように心掛けたい。 |
| | b | CO ₂ | 76 | 4 | H ₂ O その他 | 10 10 | |
| | c | 2 | 62 | 0 | 1 4 | 26 12 | |
| | d | 1 | 42 | 0 | 3 2 4 | 28 16 14 | |
| 2 | a | 30(cm/秒) | 12 | 14 | 9 計算間違い | 8 66 | aの正答率が低いことから、記録タイマーの実験結果をもとに物体の速さを求めるやり方について理解が不十分であることがわかる。 bの作図の問題では作図間違いが多く、作図問題を苦手と考える生徒が多いことがわかる。 cより、斜面の角度が大きくなると台車にはたらく力の大きさが変化することや、速さが大きくなることについても理解させたい。 dのグラフの問題は、まさつのある水平面上での物体の運動と混同している生徒が多いことがわかる。 |
| | b | (作図省略) | 30 | 4 | 作図間違い | 66 | |
| | c | 2 | 56 | 0 | 3 5 4 1 | 18 16 6 4 | |
| | d | 1 | 32 | 4 | 2 4 3 | 30 20 14 | |
| 3 | a | 3 | 62 | 4 | 1 2 | 24 10 | aの仕事の計算は、力の単位変換ができていない生徒が多い。 b、cの計算の問題は、仕事の原理や、仕事率が理解されていない。このような計算問題の正答率が低いので、授業では公式を説明するだけにとどまらず、定着するまで何度も計算問題に取り組ませたい。 |
| | b | 5(N) | 8 | 10 | 120 10 その他 | 22 14 46 | |
| | c | 3(W) | 12 | 20 | 6 60 その他 | 12 8 48 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|---|-----|-------------|------------------------------|----------------|--|
| 4 | a | (番号)2 (ことば)熱 | 66 | 4 | 1 3 光、化学、運動など | 14 2 | 新しく追加された内容であるが、概ね理解していると思われる。 aは、現在問題になっているエネルギーに関する問題であり、節電などと結びつけて考えさせたい。 bは知識を身近な例と結びつけることができるかが求められる。 このように、知識と実生活を結びつける問題は今後も指導が必要である。 |
| | b | 3 | 64 | 6 | 1 2 | 18 12 | |
| 5 | a | 2 | 60 | 0 | 1 3 | 34 6 | 酸化還元の化学変化は、授業の中で実験を行い、その中で定着させたい。 また、酸化と還元をモデルで表すことは、化学反応式の理解にもつながるため、きちんと意味を理解させたい。 |
| | b |  | 56 | 4 | 作図間違い | 40 | |
| | c | 2 | 64 | 2 | 4 1 3 | 26 6 2 | |
| 6 | a | ①Cu ²⁺ | 24 | 8 | イオン式の間違い | 68 | イオン式を答える問題では、イオン式の書き方を間違える生徒が多く、授業での定着ができていないことがわかる。 bの水溶液中でのイオンの移動は、陽イオンと陰イオン、陽極と陰極を混同している生徒が多い。実験結果の考察をきちんと行うことで、正しく知識を定着させたい。 原子の基本的な構造について説明できるようにしたい。 |
| | | ②Cl ⁻ | 38 | 14 | イオン式の間違い | 48 | |
| | b | 1、3 | 54 | 0 | 3を含む誤答 1を含む誤答 2、4を含む誤答 | 24 16 6 | |
| | c | 3 | 60 | 0 | 2 4 1 | 26 10 4 | |
| d | 2 | 54 | 2 | 1 3 4 | 16 16 12 | | |
| 7 | a | 青(色) | 58 | 4 | 緑、赤、紫など | 38 | 酸・アルカリの性質と、指示薬の色の変化との関係についておさえておきたい。酸・アルカリの性質をイオンを使って理解し、中和の過程が説明できるようにしたい。 代表的な物質の結晶の形はおさえておきたい。 |
| | b | 中和(漢字2文字指定) | 56 | 14 | 中性、化合、酸化など | 30 | |
| | c | 1、4 | 28 | 2 | 2、3を含む誤答 1を含む誤答 4を含む誤答 | 32 24 14 | |
| | d | 3 | 30 | 2 | 4 1 2 | 30 20 18 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|-----------------------|-----|-----|---------------------------------------|----------------|--|
| 8 | a | | | | | | <p>天気の変化における水の状態変化と雲のでき方を、関連づけて理解しきれていない傾向が見られる。1年1分野の状態変化を含め、理解を深め、定着させていきたい。</p> |
| | b | | | | | | |
| | c | 4 | 58 | 0 | 2 5 | 16 14 | |
| | d | 2、4 | 54 | 0 | 2、3、4 1、4、5 | 8 6 | |
| 9 | a | 1004 | 56 | 4 | 1020 1012 | 10 6 | <p>天気図の図記号の読みとりに慣れていない。特に16方位が苦手であり、「東南」という解答も目立っていた。</p> <p>天気図の読みとりや、気象要素を観測して実際に天気図にまとめる等の実習を積極的に行っていきたい。</p> |
| | b | 南東、4、くもり | 36 | 6 | 南東のみ違っている くもりのみ違っている 「東南」と書いている | 16 10 6 | |
| | c | 3 | 60 | 2 | 4 1 | 20 10 | |
| 10 | a | 10～11時 | 56 | 0 | 9～12時 | 12 | <p>前線の通過は、図やモデルで理解していても、実際に気象要素にどのような変化がもたらされるのかが理解されていない。</p> <p>前線が通過する様子を撮影した視聴覚教材を活用するなど、モデルと実際の変化を関連づけて定着させていきたい。</p> <p>また、停滞前線の特徴を、日本の季節の変化と関連づけて理解させたい。</p> |
| | b | 気温が下がった 風向が北よりになった | 62 | 8 | 気温が上がった 雨に変わった | 8 6 | |
| | c | 1 | 58 | 0 | 2 3 4 | 22 12 8 | |
| | d | 3 | 46 | 0 | 4 2 1 | 34 14 6 | |
| 11 | a | 1 | 62 | 0 | 2 4 3 | 18 12 8 | <p>aは、地面と水面の比熱の違いを実験結果から判断させる問題であるが、知識として解答した生徒もいると考えられる。</p> <p>海風と陸風のモデルは定着度が低い。目に見えない風の流れを温度、気圧、気流の変化と関連づけて定着させることが必要である。</p> <p>新学習指導要領についての問いであり、今後の教材のあり方が問われる分野である。</p> |
| | b | 2 | 38 | 0 | 3 1 4 | 34 14 14 | |
| | c | 4 | 54 | 0 | 2 1 3 | 18 14 14 | |
| | d | 偏西風(ジェット気流) | 48 | 10 | 季節風 西風 | 10 8 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|-------------|-----|-----|------------------------|----------------|--|
| 12 | a | 6 | 78 | 0 | 1 5 2 | 6 6 4 | 例年の傾向通り、今年度もこの分野の定着度は高い。細胞分裂の順の問いbは、昨年度が80%に対して今年度が72%と、共に高い。 cは作図としたが、明らかな誤答と見える解答が比較的多い。特に真ん中の点の位置が理解されていない。実際に実験が行いにくい内容であるので、モデル図や視聴覚教材等でイメージをもたせたい。 |
| | b | 4 | 72 | 0 | 2 3 5 | 8 6 6 | |
| | c | (作図省略) | 58 | 4 | 真ん中の点のずれ 上と真ん中の点のずれ | 16 14 | |
| 13 | a | ア カ ウ エ イ オ | 90 | 2 | 誤答 | 8 | 問12と同じく、例年通り定着度の高い分野である。発生の順の問いaは、昨年度が94%、今年度が90%で、ほぼすべての生徒に定着がなされていると考えてよい。この分野で生徒に自信を持たせたい。 有性生殖と無性生殖を区別する問いdは、昨年度64%、今年度60%である。誤答の傾向としては、植物の種子をつくる過程が有性生殖であることが理解されていないので、しっかりと認識させたい。 |
| | b | 3 | 72 | 2 | 6 「キ〜コ」で答えている | 8 8 | |
| | c | 1 | 60 | 2 | 2 4 3 | 16 12 10 | |
| | d | 2、3 | 60 | 2 | 1, 2, 4 2, 3, 4 | 6 6 | |
| 14 | a | 2 | 72 | 2 | 1 3 | 22 2 | 新学習指導要領についての問いである。メンデルの遺伝の法則であるが、問いbでは遺伝子型の比と表現型の比を混同している傾向が見られる。組み合わせの概念よりも、3:1という数字として覚えていると考えられる。 メンデルの法則の例は多くあるので、様々な例を紹介したり、統計を取る実習などを通して、概念を定着させたい。 |
| | b | 5 | 44 | 2 | 2 4 | 34 12 | |
| | c | DNA | 88 | 6 | 誤答 | 6 | |

V. 全体の考察と今後に向けて[理科]

1. 全体の考察

- ①植物、地震、生物のふえ方の分野で、正答率が高いものが多い。逆に、力や圧力、化学変化の規則性の分野で正答率の低いものが多い。
- ②新たに追加された単元（孢子植物、運動する粒子のモデル化、地層と過去のようすなど）では、正答率が低い傾向が見られる。
- ③小数点を含む計算問題の正答率が極端に低い。公式の意味を理解していない場合と、単純に計算が苦手である場合が考えられる。
- ④グラフを作成する問題を各学年で出題したが、測定値とその値のグラフ化についてきちんと理解できていない。また、その値を読み取り活用する能力も低い傾向がみられる。
- ⑤PISA型の説明や表現を重視する問題での正答率は依然として低く、無解答率も高い。文章を読んだり書いたりする機会が減少していることも背景にあると思われる。
- ⑥問題量と時間の関係を見直した結果、時間内に問題を一通り終えるだけの配慮はできた。その反面、出題できずに残された範囲もあり、出題内容の精選は今後も必要である。
- ⑦正答率から見た分析については、70%以上を「よく理解している」、30%未満を「理解が不足している」とみることを目安とした。各校の分析にも応用してほしい。

2. 観点ごとの考察

(1) 自然事象への関心・意欲・態度

各学年で出題したが、正答率も高く比較的理解がされていた。身近な例と習得した知識を結びつけることは大切なので、今後も出題を続けたい。

(2) 科学的な思考

実験のねらいや操作の意味を問う設問での正答率が低かった。結果を知識としては理解していても、実験のデータから考察することは苦手としているようである。また、実験・観察のねらいを理解しないまま、操作や結果だけを暗記しているような実態も見える。また、公式を用いて計算するような問いでも、公式の意味を理解せずに計算ミスをする様子も見られるので注意が必要である。

(3) 観察・実験の技能・表現

グラフの作成については1、2学年で出題したが、正答率が下降した。今一度指導の徹底が求められる。また、小数点を含む計算でのミスが目立った。特に割り算を含む計算に無解答を含めて誤答が多い。実験操作を問う設問は正答率も改善されている。言葉による説明を苦手とする傾向は、従来同様に高い。他教科との連携も含めて、指導に工夫が必要である。

(4) 自然事象についての知識・理解

正答率からは、ほぼ理解できていると考えられるが、より考えさせ、言葉で表現する機会を与えたり、見えるモデルを導入するなど、指導に工夫が必要と思われる。

3. 領域ごとの考察

(1) 第1分野

①身近で起こる不思議な現象

この領域は身近で起こり、小学校から継続している学習であるが、実際、目に見えない現象であるため、生徒実験、演示実験、実体験を踏まえながら指導していくことが重要である。全体的に当たり前のようで不思議な現象に生徒は驚きを感じながらも興味をもって学習に取り組む。体験をもとに科学的に考察する力を育みつつ、知識へとつなげていきたい。また、全体的にこの領域では計算問題と作図がネックとなっている。これらの問題に対し、多くの生徒は苦手意識をもっており、これらを払拭するためには繰り返しの学習はもちろん深い理解と生徒間相互の学び合いを重視したい。光、音、力ともに知識を定着させ、「身近な現象」で考え、体験することにより培った考察力や思考力から2、3年生で学習する領域へとつなげていきたい。

②身のまわりの物質

有機物の特徴、気体の性質や発生方法、溶解度などの問題から、それらの理解には不安が残る結果となった。実験による問題が多かったが、全体的な正答率はそれほど高くないので、日頃の観察や実験の授業に、その目的や意味を考えながら取り組ませていく必要があると思われる。

③電流とその利用

グラフの書き方について、正答率が昨年度よりも下がっていた。実験の考察を通して習得させていきたい。電気抵抗が複数になった回路の電流や電圧の関係などがあやふやである。磁界については、図を見て考える問題が多かったが、正しい答えを選べていない。教科書にある観察や実験を通して理解を深めていきたい。新学習指導要領の追加項目については比較的理解されていると考えられる。

④化学変化と原子・分子

炭酸水素ナトリウムの分解では、加熱前と加熱後の炭酸水素ナトリウムの性質についての理解が不十分である。今後も実験を通して習得させるようにしたい。実験では一つ一つの実験操作を確認しながら丁寧に実験するように心掛けたい。

⑤運動とエネルギー

運動については、記録テープの実験結果をもとに平均の速さを正しく導きだすことができなかつたり、運動の様子をきちんととらえられていない。仕事の原理の意味を正しく理解できていない誤答が多くあった。仕事率も含めて、公式の意味を正確に理解させたい。エネルギーの変換は理解しているが、これからも身近な現象と結びつけて理解させたい。

⑥化学変化とその利用

化学反応で、酸化と還元が同時に起こることは理解されているが、それをモデルで表すのは難しいようである。分子数が足りなかつたり、原子同士が離れているなどの誤答が多く見られた。実験だけでなくモデルを使った演習をくり返し行い、定着させたい。

⑦水溶液とイオン

塩化銅水溶液に電気を通したときの電極付近の反応を問う設問については、まだ知識が定着していない生徒が多く、それぞれのイオンの動きを混同している誤答が多い。酸・アルカリについては、中和の概念をイオンを用いて自分の言葉で説明できるようにしたい。

(2) 第2分野

①生物のくらしとなかま

この単元は、概ね理解されているが、被子植物と裸子植物の共通したつくりを選ぶ設問は、毎年出題されているものの正答率が未だに低いので注意を要するべきである。また、知識は定着してきてはいるが、文章を読み取る力や、実験を通してなにがわかるのかを思考する力が不足している。知識を定着させることと同時に、普段の観察や実験を通して身につけさせていきたい。

②活きている地球

東日本大震災で注目されたプレート型の大規模地震への関心が高く、地震の問題に対する正答率は高くなったものの、それ以外は低い正答率となった。年度末に指導することが多い単元であるため、限られた時間の中で知識として抑えるだけとなってしまっているようである。具体的な資料の提示だけでなく、「なぜそのようなことになるのか」を考えさせるような授業の工夫が必要と考えられる。そのためにも、年間を通してしっかりとした授業計画に基づく指導が必要である。そして、火山やたい積岩などについても、地震のように関心が高まれば知識の定着も進む可能性が高いので、身近に感じられる現象として、視聴覚教材などを活用するなどの指導方法の改善が求められる。

③動物のくらしとなかま

身近に経験していることが多いためか、概ね理解できていると考えられる。ただ、「じん臓」についての知識が定着していないなど、部分的に低い正答率のものも見られた。また、だ液のはたらきの問題では、実験結果と実験方法が結びついていない誤答が多かった。ヒトのほおの内側の細胞を観察する実験においても、実験では自分で実験操作を行い、その結果をしっかりと自分で確認することの重要性を意識して指導していきたい。また、相同器官を答える設問では、昨年度に続いて低い正答率となった。生徒にとってイメージしにくく、言葉も混同しやすい可能性があるため、指導方法の工夫が必要である。

④天気の変化

天気図の読み取りや、大気の動きの理解があいまいである。この傾向は例年見られる。水の状態変化と雲のでき方、気温・気圧の変化と前線の動きなど、実験で得られる測定値と巨視的な概念がどのように関連づけられるのかを意識して授業づくりをしていきたい。モデル図や視聴覚教材、コンピュータ等を利用するのもよいと考えられる。

⑤生物の細胞と生殖

例年通り、この単元に関しての理解度、定着度は高い。だが、知識偏重になりがちであり、新学習指導要領で扱われているメンデルの遺伝の法則も、知識のみの定着が大きいように考えられる。減数分裂とあわせて遺伝の法則の概念を理解させ、生命の尊厳につながるような展開をしていきたい。

4. 類似問題についての経年観察およびその考察

<第1学年>

内容

| | | | |
|-----------------------|-------|-------|-------|
| 凸レンズの作図による 光の屈折の作図 | H 2 1 | H 2 2 | H 2 3 |
| | 問 2c | 問 2b | 問 2a |
| | 4 0 % | 4 0 % | 3 6 % |

考察

○3年連続での出題にもかかわらず、正答率はわずかに下がった。引き続き、指導の改善と工夫が必要と思われる。

内容

| | | | |
|------|-------|-------|-------|
| 力の作図 | H 2 1 | H 2 2 | H 2 3 |
| | 問 4c | 問 4e | 問 5d |
| | 4 4 % | 4 8 % | 3 6 % |

考察

○昨年同様、作用点、力の大きさを問う問題であったが、正答率は思うように伸びていない。今後も重点的に指導することが大切と思われる。

内容（前年、正答率の低かったもの）

| | | | |
|--------------------------|-------|-------|-------|
| 被子植物と裸子植物の 体のつくりとはたらき | H 2 1 | H 2 2 | H 2 3 |
| | 問 9 a | 問 8 d | 問 7 b |
| | 2 0 % | 3 2 % | 4 8 % |

考察

○正答率は上がってきてはいるが、被子植物と裸子植物の共通したつくりについての理解が十分ではない。被子植物の体のつくりについては概ね理解できているので、裸子植物と共通するつくりについての指導が引き続き必要である。

内容

| | | | |
|--------------------------|-------|-------|-------|
| シダ植物とコケ植物の からだのつくりと特徴 | H 2 1 | H 2 2 | H 2 3 |
| | 問12 e | 問10d | 問11 e |
| | 2 8 % | 4 % | 4 8 % |

考察

○新指導要領の内容である。昨年度は複数回答であったことから正答率は低かったが、シダ植物とコケ植物のからだのつくりについては定着されてきていることがわかる。今後は、さらなる定着を図りたい。

<第2学年>

内容

| | | |
|-----------|-------|---------|
| 身のまわりの物質 | H 2 2 | H 2 3 |
| 質量パーセント濃度 | 問 4a | 問 4b, c |
| | 9 % | 2 1 % |

考察

○昨年度よりも簡単な問題であったため正答率も高くなったが、「溶液＝溶媒＋溶質」を理解していない生徒が多いことがわかった。

内容

| | | |
|---------|---------|---------|
| 火山 | H 2 2 | H 2 3 |
| 火成岩のでき方 | 問 8a | 問 8b |
| | (記述)28% | 3 6 % |
| 火成岩の特徴 | 問 8b | 問 8c |
| | 5 4 % | (記述)39% |

考察

○火成岩のでき方について、鉱物の結晶の大きさのちがいがなぜ起こるのかを今年度は記述式で出題したが、記述式であることを考慮するとあまり大きな変化は見られない。また、昨年度の「等粒状組織」(記述式)を問う問題、今年度の「石基」「斑晶」(選択式)を問う問題の正答率の変化もあまりなく、引き続き基礎的な知識の定着を図る努力が必要である。

内容

| | | |
|------------|---------|---------|
| 地層と過去のようす | H 2 2 | H 2 3 |
| 土砂のたい積のしかた | 問 9a | 問 10a |
| | 2 6 % | 3 2 % |
| たい積岩の特徴 | 問 9b | 問 10b |
| | (記述)18% | (記述)19% |

考察

○水のはたらきによる土砂のたい積のしかたについて、たい積岩(石灰岩)の特徴について、昨年度に引き続き出題したが、正答率に変化はほとんど見られなかった。指導の改善が求められる。

内容

| | | |
|------------|---------|---------|
| 動物のくらしとなかま | H 2 2 | H 2 3 |
| 相同器官 | 問 14b | 問 11b |
| | (記述)27% | (記述)35% |

考察

○学習指導要領に新しく入ってきた「相同器官」について昨年度と同じ記述式で出題したが、低い正答率となった。引き続き知識の定着に努めたい。

〈第3学年〉

内容

| | | | |
|---------|-------|--------|--------|
| 細胞分裂の順番 | H 2 1 | H 2 2 | H 2 3 |
| | 問 12c | 問 10 d | 問 12 b |
| | 6 2 % | 8 0 % | 7 2 % |

考察

○細胞分裂の順に並べ替える問いは、毎年よく理解されている。実際の観察やモデル図を用いて、更なる定着を図りたい。

5. 指導にあたって

平成23年度の学習診断テストの結果を分析して、学習指導の課題として見えてくると、その改善のための指導の留意点を、分野別に記したい。

(1) 第1学年

- ①簡易光学台での実験については、観察者の位置に注意したい。また、実験に使用する道具が変わっても、結果は変わらないことにも十分にふれたい。レンズのつくる像の作図にも通じる大切な部分である。
- ②音速、圧力、浮力などの割り算が入る計算を苦手とする傾向があるので、計算力の向上に努めたい。ただ計算するだけでなく、身近な例や実験内容を取り上げて、様々なケースで問題演習に取り組むことが効果的である。
- ③新学習指導要領からの出題となった水圧・浮力については、まずまずの定着である。今後も体験を通じた定着を重ねたい。
- ④質量と重さの違いは、今までの生活での考え方とは違い、生徒はとらえにくい。体重計などは単位が「kg」のため特に誤解されやすい。質量は「その物の量＝構成している原子の量」であることを十分にイメージしながら指導する必要がある。
- ⑤植物は実際に実物に触れさせ、ルーペや顕微鏡などを利用して観察させる機会を増やすことが大切である。特に、シダ植物やコケ植物は維管束の有無や胞子のうや胞子については、実物を使って観察させると同時に、種子植物同様に身近に生息していることにも気づかせたい。
- ⑥プレパラートの作り方や光学顕微鏡などの実験・観察器具の正しい使い方の習慣は、より良い観察ができるだけでなく、生徒の知的好奇心を高めることにもつながるので、徹底した指導が必要と考えられる。また、生徒の安全面からも重要なので、日頃より正しい使い方をマスターさせたい。

- ⑦漢字の間違いによる誤答が多かった。以前に比べ、文字を書く機会が減少していることから、日頃から漢字で書く習慣をつけることと、漢字（言葉）の意味を教えることが必要となっていると考えられる。
- ⑧実験・観察において、そのねらいが重要であるのは周知のことだが、知識の定着を図る上でも、指導者側は「何を観察しているのか」「どの部分を見るのか」など、具体的な指示を出すだけでなく、話し合い活動や生徒との対話の中で確認する必要がある。
- ⑨対照実験の問題については「対照実験を行う理由」「対照実験を行うことで何がわかるのか」「対照実験をやらないとどんな不都合が生じるのか」などを理解させたい。

（2）第2学年

- ①表やグラフから実験結果を読み取ることや、結果から求める答えが導き出せるように、実験を通して、結果のまとめ方や、そこから何がわかるのかなど、考える力をつけていきたい。
- ②密度や質量パーセント濃度、オームの法則の利用など、計算力が必要な学習内容が多い。普段の授業を通して計算力も身につけさせたい。
- ③電流が作る磁界や電磁誘導について理解できていない生徒が多い。実験の内容をよく理解させる手だてが必要と考えられる。
- ④火山噴出物の特徴や火成岩のでき方についてあまり理解できていないので、授業の改善を積極的に行ってもらいたい。
- ⑤水のはたらきによる土砂の堆積や堆積岩についての理解が不足しているので、実物を観察したり、実験をしながら考えていく授業を実践してもらいたい。
- ⑥語句を答える問題については、空白が目立った。PISAと同様にわからないと諦めてしまう傾向を強く感じた。正しいことであっても、間違っていることであっても授業の中で言葉として出し、自分の考えを表明していく雰囲気作り、授業作りが重要であると考えられる。
- ⑦対照実験の問題については「対照実験を行う理由」「対照実験を行うことで何がわかるのか」「対照実験をやらないとどんな不都合が生じるのか」などを理解させたい。生徒の中には知識先行に偏ってしまい、実験結果から読み取るのではなく、知識として実験結果を活用してしまうケースも見られた。「実験結果からの考察、およびその活用」という指導が重要と考えられる。

（3）第3学年

- ①原子モデルを利用しながら、「化学反応の前後で原子の種類や数が変わったり、なくなったりしない」などの原子の基本概念と併せて定着させていく必要があると思われる。また酸化と還元の化学反応も、反応の意味を理解させながら原子モデルを組み立てさせると、酸化と還元、化学反応式の作り方の理解度がより上がるのではないかと考えられる。
- ②塩化銅水溶液の電気分解については、まず、原子の構造とイオンのでき方を確実に理解させることが重要と思われる。その上で、各電極から発生した物質は何なのか、なぜなのか、というところを考察させることで、考える力や理解が深まるのではないかとと思われる。
- ③中和について、イオンを使って説明することができていない。イオンを用いた説明ができるようにしたい。
- ④定着した知識と実験結果を考察する力とはすぐに結びつかないものである。実験を行う際に、「実験目的は何なのか」というところと、「目的に沿った考察をする」ということ、「習得した知識をどう活用して考察するのか」という部分を生徒に支援しながら考察する力を身につけさせていきたい。

- ⑤図の読み取り、作図の技能はあいまいな部分が多い。計算問題も苦手とする傾向が高い。繰り返し学習をすることで定着を図りたい。また知識の定着だけにならないように、実験や身近な現象を通して、直接的に体験する機会を増やしたい。
- ⑥天気図や風向・風力の表し方に慣れていない。気象要素の測定や、天気図を読みとる等の実習を積極的に行っていききたい。
- ⑦生物の細胞と生殖は、知識に偏りがちではあるものの、正答率の高い単元である。理科に苦手意識を持っている生徒に対して、自信が持てるように指導したい。

(4) 全体を通して

- ①正答率からは学年による理解度の差は認められなかった。実験・観察など、実体験を通じた理解ができていないところがあり、理科でつまづく発端となっているかもしれない部分なので、十分に注意する必要があると考える。
- ②すべての学年で計算力と文章表現力の不足を懸念する意見があった。他教科や小学校での学習にも関わるが、PISAが提唱する表現力の向上に欠かせない部分なので、他教科との連携も含めて、指導する際の重要な留意事項としたい。

6. 授業改善にむけて

「教師が教える」から「課題から生徒が自ら学ぶ」授業へ変化をさせていきたい。そのためには課題選びや提示の仕方、教師の発問の仕方にかかっている。常に教材研究や情報交換をし、教師がアンテナを張るところからすべてが始まる。しかし、急にすべてが改善されることはなく日々の努力を続けることになるが、まずは常に生徒が「自ら考え、表現すること」を授業の軸にして発問してはどうだろうか。「教える」から「説明してもらおう」という授業の主体を変え、それを続けることで現在の課題は多少改善されるのではないだろうか。こうするとこうなると教えてきたものを、こうするとこうなるのはなぜだと思おうかと発問し、理解することの楽しさを実感してもらいたい。

(1) 改善すべき点

- ・質量パーセント濃度の問題で、分母と分子に数字の穴埋めをするとき、分母と分子を逆に答える生徒が多かった。これについては、演習を通して理解を深めさせたい。

(2) 提案事項・その他

- ・PISAの結果をふまえ、今後も記述式の問題を各学年各分野に出題したい。
- ・実験のねらいや、結果から得られた情報を活用する問いなど、今回のテストで特に正答率が低かった設問については、引き続き出題し、理解の向上に努めたい。
- ・疑義やアンケートでいただいた意見をふまえて、今後の作問に活かしたい。

平成 23 年度

川崎市立中学校 学習診断テスト 英語科

誤答分析と学習指導上の考察

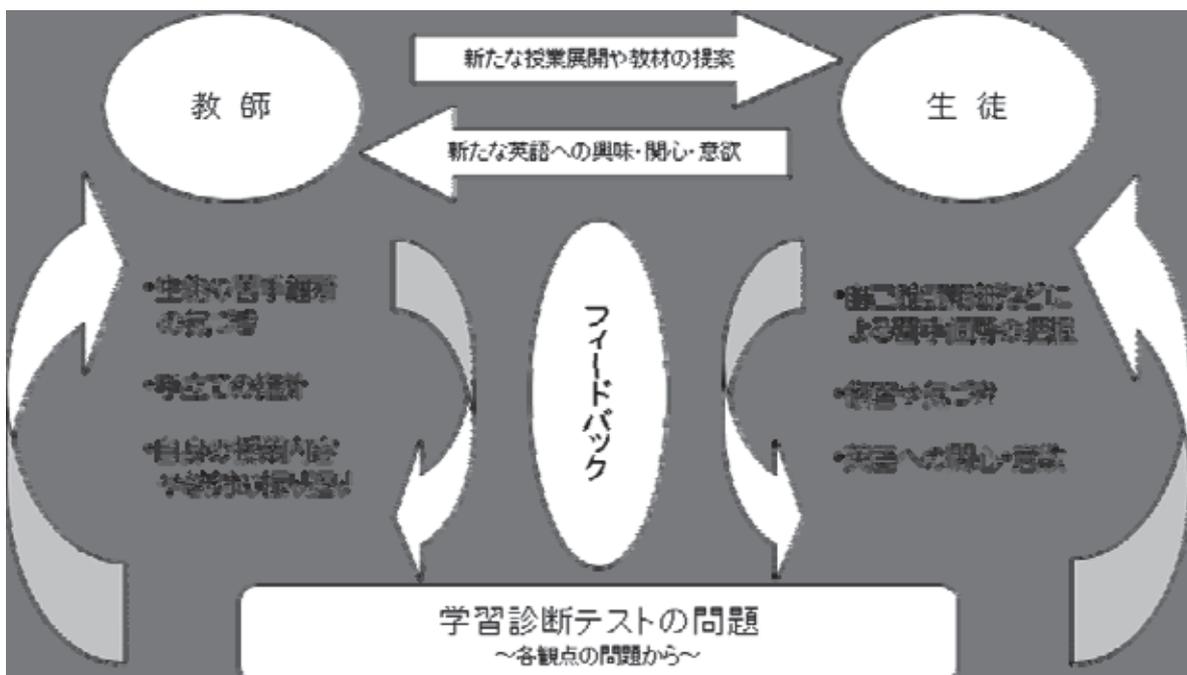
川崎市教育委員会
川崎市立中学校長会
英語科調査委員会

英 語

I. 作成方針と構成

1. 作問にあたって

- (1) 学習診断テストの目的・主旨にそって、学習指導要領に示されている各観点の基本事項について、10 月末までの学習の定着状況が把握できるように出題の範囲やバランスを十分に考慮して問題を作成した。
- (2) 問題の形式と整列を検討し、基本的な知識・理解を問うよう、より妥当性の高い形式にて作問した。
- (3) 総合的かつ統合的に思慮する能力を判断できるようにした。
- (4) 共通の言語材料を検討し、より公平に診断できる標準的なテストの作成を目指した。
- (5) 聞きとりテストは、音声の聞きとり能力とともに、より自然な英語が聞きとれるかどうかにも診断できるよう工夫した。
- (6) 「表現の能力に関する問題」については、一言表現や部分英作文形式の出題をし、より観点的のねらいを明確にした作問を工夫した。
- (7) 全学年で、「自己確認用紙」を作成し、各生徒が課題を確認できるよう工夫した。



2. 出題のねらい[英語]

| | 1 年 | 2 年 | 3 年 |
|------|--|---|--|
| 問 1 | ●会話文の組み立て 絵を見て、場面に合った適切な応答を選択することができる。 | ●会話文の組み立て 絵を見て状況を判断し、場面に合った適切な応答を選択することができる。 | ●会話文の組み立て 絵を見て状況を判断し、場面に合った適切な応答を選択することができる。 |
| 問 2 | ●会話文の組み立て 絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。 | ●語彙の知識 英文を読みとり、日本語に合った語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。 | ●語彙の知識 英文を読みとり、日本語に合った語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。 |
| 問 3 | ●語彙の知識 場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な代名詞を選択することができる。 | ●語彙の知識 会話文の内容を読みとり、それに当てはまる適切な語句を選択することができる。 | ●語彙の知識 場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。 |
| 問 4 | ●語彙の知識 場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な動詞を選択することができる。 | ●単語の並べ替え それぞれの語の意味と性質をつかみ日本語に合うように文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。 | ●単語の並べ替え それぞれの語の意味と性質をつかみ日本語に合うように文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。 |
| 問 5 | ●語彙の知識 文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。 | ●会話文の組み立て 会話の流れに注意しながら、その選択肢の内容を十分に理解し、その場面に合った対話を組み立てることができる。 | ●会話文の組み立て 会話の流れを理解するとともに、その選択肢の内容を十分に理解し、その場面に合った対話を組み立てることができる。 |
| 問 6 | ●単語の並べ替え それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。 | ●説明や対話文の読みとり パンフレットや説明文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する文や絵を選ぶことができる。 | ●説明や対話文の読みとり パンフレットや表などを活用しながら説明文や日記の文章などを読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する文や絵を選ぶことができる。 |
| 問 7 | ●説明や対話文の読みとり 会話文を読みとり、適切な絵を選ぶことができる。 | ●長い文章の読みとり 文章の内容を読みとることができる。文章の流れから、文章の概要を理解したり、話者の意図を読みとったりすることができる。 | ●長い文章の読みとり 文章の内容を読みとることができる。文章の流れから、文章の概要を理解したり、話者の意図を読みとったりすることができる。 |
| 問 8 | ●長い文章の読みとり 会話文の流れから適切な語を選んだり、話者の意図を読みとったりすることができる。 | ●英作文 与えられた場面の中で、適切な表現を内容が相手に伝わるように、正しく書くことができる。 | ●英作文 与えられた場面の中で、適切な表現を内容が相手に伝わるように、正しく書くことができる。 |
| 問 9 | ●英作文 与えられた場面の中で、適切な表現を内容が相手に伝わるように、正しく書くことができる。 | ●英作文 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿ってつながりのある文章を、正しく書くことができる。 | ●英作文 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿ってつながりのある文章を、正しく書くことができる。 |
| 問 10 | ●英作文 与えられた条件を満たし、ねらいに沿って文章を正しく書くことができる。 | | |
| 放送 1 | ●リスニング（絵を選ぶ） 短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。 | ●リスニング（絵を選ぶ） 短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。 | ●リスニング（絵を選ぶ） 短い英文を聞きとり、その内容を表す絵を選択することができる。 |
| 放送 2 | ●リスニング（絵を選ぶ） 対話を聞き、その場面や状況に合った絵を選択することができる。 | ●リスニング（会話内容） 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。 | ●リスニング（会話内容） 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。 |
| 放送 3 | ●リスニング（会話内容） 対話を聞き、その対話の流れから続く適切な表現を選択することができる。 | ●リスニング（絵を選ぶ） 短い会話文を聞き、その会話内容に対する質問の答えとなる適切な絵を選択することができる。 | ●リスニング（会話内容） 会話文の内容を理解し、その内容に対する質問に適切に答えることができる。 |
| 放送 4 | ●リスニング（絵を選ぶ） 会話文が示す情報を理解、整理しそれに当てはまる絵を選択することができる。 | ●リスニング（会話内容） まとまった長い英文を聞き、その内容と同じ内容を示す日本語を選択することができる。 | ●リスニング（会話内容） まとまった長い英文を聞き、その内容と同じ内容を示す日本語を選択することができる。 |
| 放送 5 | ●リスニング（会話内容） まとまった英文を聞き、その内容を理解することができる。 | | |

Ⅱ. 第1学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[英語第1学年]

| 問題番号 | | 表 | 理 | 言 | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | |
|------|----|---|---|---|-----------|--|--------|-----|
| 大問 | 小問 | | | | | | 正答率 | 無答率 |
| 1 | a | | ◎ | ◎ | ①会話文の組み立て | 絵を見て、場面に合った適切な応答を選択することができる。 | 87 | 0 |
| | b | | ◎ | | | | 88 | 1 |
| | c | | ◎ | | | | 91 | 1 |
| 2 | a | | ◎ | ◎ | ◎ | 絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。 | 72 | 0 |
| | b | | ◎ | | | | 75 | 0 |
| | c | | ◎ | | | | 79 | 1 |
| 3 | ① | | ◎ | ◎ | ◎ | 場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な代名詞を選択することができる。 | 83 | 0 |
| | ② | | ◎ | | | | 91 | 0 |
| | ③ | | ◎ | | | | 79 | 0 |
| 4 | a | | ◎ | ◎ | ◎ | 場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な動詞を選択することができる。 | 58 | 0 |
| | b | | ◎ | | | | 51 | 1 |
| | c | | ◎ | | | | 79 | 1 |
| 5 | a | | ◎ | ◎ | ◎ | 文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。 | 40 | 7 |
| | b | | ◎ | | | | 44 | 8 |
| | c | | ◎ | | | | 54 | 12 |
| | d | | ◎ | | | | 55 | 12 |
| 6 | a | | ◎ | ◎ | ◎ | それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。 | 42 | 4 |
| | b | | ◎ | | | | 71 | 5 |
| | c | | ◎ | | | | 54 | 4 |
| | d | | ◎ | | | | 53 | 6 |
| 7 | a | | ◎ | ◎ | ◎ | ④説明や対話文の読みとり | 79 | 1 |
| | b | | ◎ | | | | 86 | 1 |
| | c | | ◎ | | | | 76 | 1 |
| 8 | A | | ◎ | ◎ | ◎ | ⑤長い文章の読みとり | 56 | 1 |
| | B | | ◎ | | | | 73 | 2 |
| | C | | ◎ | | | | 74 | 3 |
| | D | | ◎ | | | | 61 | 4 |
| 9 | a | ◎ | | ◎ | ◎ | ⑥英作文 | 18 | 19 |
| | b | ◎ | | | | | 24 | 15 |
| 10 | ① | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | 与えられた条件を満たし、ねらいに沿って文章を正しく書くことができる。 | 47 | 7 |
| | ② | ◎ | ○ | | | | 29 | 18 |
| | ③ | ◎ | ○ | | | | 48 | 13 |
| | ④ | ◎ | ○ | | | | 27 | 17 |
| 放送1 | a | | ◎ | ◎ | ◎ | ⑦リスニング(絵を選ぶ) | 93 | 0 |
| | b | | ◎ | | | | 99 | 0 |
| | c | | ◎ | | | | 95 | 0 |
| 放送2 | a | | ◎ | ◎ | ◎ | 対話を聞き、その場面や状況に合った絵を選択することができる。 | 99 | 0 |
| | b | | ◎ | | | | 99 | 0 |
| | c | | ◎ | | | | 99 | 0 |
| 放送3 | a | | ◎ | ◎ | ◎ | ⑧リスニング(会話内容) | 80 | 2 |
| | b | | ◎ | | | | 78 | 1 |
| | c | | ◎ | | | | 78 | 0 |
| 放送4 | a | | ◎ | ◎ | ◎ | ⑦リスニング(絵を選ぶ) | 98 | 0 |
| | b | | ◎ | | | | 87 | 0 |
| | c | | ◎ | | | | 98 | 0 |
| 放送5 | | | ◎ | ◎ | ◎ | ⑧リスニング(会話内容) | 79 | 0 |

◎…主たる観点、○…従たる観点

2. 主な誤答と分析[英語第1学年]

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|---------|-----|-----|----------------------------|-----------------------------|---|
| 1 | a | 2 | 87 | 0 | 1 3 | 8 4 | 概ね絵の状況を理解し、場面に対応する適切な表現を選ぶことができている。 |
| | b | 2 | 88 | 1 | 3 1 | 6 5 | |
| | c | 3 | 91 | 1 | 1 2 | 4 4 | |
| 2 | a | 4 | 72 | 0 | 3 2 1 | 17 6 5 | 絵の中の人物について丁寧に読みとる力が必要である。また What(疑問詞)を使った質問の答え方を理解していない生徒や Yes/No で答えるべき質問を理解していない生徒が 20%いた。 視覚的な情報を使いながら疑問文と答え方を定着させたい。 |
| | b | 4 | 75 | 0 | 1 2 3 | 14 6 5 | |
| | c | 1 | 79 | 1 | 3 4 | 14 6 | |
| 3 | ① | 1 | 83 | 0 | 3 2 | 9 8 | 代名詞は概ね理解している。 |
| | ② | 2 | 91 | 0 | 3 | 6 | |
| | ③ | 1 | 79 | 0 | 3 2 | 14 7 | |
| 4 | a | 7 | 58 | 0 | 4 2 3 | 24 6 6 | 一般動詞と be 動詞の使い分けができていない。さらに疑問文の作り方もしっかりと定着していないように見受けられる。三単現についても同様である。 be 動詞と一般動詞の違いや人称によって動詞の使い方が変わることを理解させたい。 |
| | b | 6 | 51 | 1 | 1 4 2 3 5 7 | 18 7 6 6 6 5 | |
| | c | 2 | 79 | 1 | 3 6 | 8 4 | |
| 5 | a | fine | 40 | 7 | | | 正しい単語の綴りを書くことができず発音を手がかりにローマ字表記を用いて単語を書こうとする傾向が見られた。授業内で反復練習する時間を確保したい。 |
| | b | Tuesday | 44 | 8 | | | |
| | c | eight | 54 | 12 | | | |
| | d | brother | 55 | 12 | | | |
| 6 | a | 3412 | 42 | 4 | 3142 4312 | 18 17 | 語順が理解できていない。特に、形容詞の位置や使い方で間違いが見られた。 |
| | b | 4132 | 71 | 5 | 2413 4123 | 6 6 | |
| | c | 1324 | 54 | 4 | 2143 1243 | 15 12 | |
| | d | 2431 | 53 | 6 | 2341 2314 | 8 7 | |
| 7 | a | 4 | 79 | 1 | 3 2 | 12 7 | 英語の水曜日 (Wednesday) と木曜日 (Thursday) が理解できていない。1年生のうちすべての曜日の読み、書き、発音を定着させたい。 |
| | b | 3 | 86 | 1 | 2 | 7 | |
| | c | 2 | 76 | 1 | 4 1 | 12 8 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 (%) | 授業改善への手だて | |
|----|----|-----------------------|-----|-----|--|-------------------|--|
| 8 | A | 3 | 56 | 1 | 2 4 | 34 6 | 長い英文に慣れていないため、正確な情報を読みとれていない。また、ここでも曜日が定着していないことがわかる。授業内でまとまった英文を読む機会を設けたい。 |
| | B | 4 | 73 | 2 | 1 3 | 11 11 | |
| | C | 3 | 74 | 3 | 1 2 4 | 11 8 4 | |
| | D | 1, 5(順不同) | 61 | 4 | 6 3 2 4 | 17 8 6 4 | |
| 9 | a | That's all right. | 18 | 19 | You're welcome. Thank you. I'm sorry. | 22 6 4 | 答えようとする気持ちは大切にしながらも、場面に合った適切な表現を身につけさせたい。(,)、(.)、大文字、小文字などの表記については、この表現の問題では減点の対象としなくてもよいのではないかとと思われる。 |
| | b | I want water, please. | 24 | 15 | Please のスペルミス (,)や(.)使い方のミス 大文字、小文字 | 28 7 7 | |
| 10 | ① | am from / come from | 47 | 7 | be 動詞がない | 35 | 英文を構築するにあたって動詞が入っていない誤答が目立つ。また、日本語に合う正確な英語表現が身につけていないためのミスも多い。授業内で英文を書く練習を繰り返し取り入れたい。 |
| | ② | read many books | 29 | 18 | many がない some, any, many の混同 語順(many read books 等) | 11 10 7 | |
| | ③ | like my school | 48 | 13 | am my school 動詞がない | 7 6 | |
| | ④ | want friends | 27 | 17 | friend のスペルミス 動詞がない | 7 6 | |
| 放1 | a | 2 | 93 | 0 | 4 | 5 | 音声の英語情報を聞きとる力は、ほぼ定着している。 |
| | b | 3 | 99 | 0 | | | |
| | c | 2 | 95 | 0 | | | |
| 放2 | a | 3 | 99 | 0 | | | 音声の英語情報を聞きとる力は、ほぼ定着している。 |
| | b | 1 | 99 | 0 | | | |
| | c | 6 | 99 | 0 | | | |
| 放3 | a | 4 | 80 | 2 | 2 3 1 | 8 6 4 | 絵や写真情報がなくても、その場面をイメージする力をつけさせたい。 |
| | b | 1 | 78 | 1 | 2 3 4 | 9 8 4 | |
| | c | 3 | 78 | 0 | 4 2 | 16 4 | |
| 放4 | a | 6 | 98 | 0 | | | 音声の英語情報を聞きとる力は、ほぼ定着している。 |
| | b | 1 | 87 | 0 | 5 | 12 | |
| | c | 4 | 98 | 0 | | | |
| 放5 | | 4, 6(順不同) | 79 | 0 | 2 | 16 | 音声の英語情報を聞きとる力は、ほぼ定着している。まとまりのある英文でも同様であることがわかった。 |

Ⅲ. 第2学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[英語第2学年]

| 問題番号 大問/小問 | 表 | 理 | 言 | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | 無答率 |
|---------------|---|---|---|--------------|--|--------|-----|
| 1 | a | ◎ | | ①会話文の組み立て | 絵を見て状況を判断し、場面に合った適切な応答を選択することができる。 | 77 | 1 |
| | b | ◎ | | | | 88 | 1 |
| | c | ◎ | | | | 87 | 1 |
| 2 | ① | | ◎ | | 英文を読みとり、日本語に合った語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。 | 46 | 29 |
| | ② | | ◎ | | | 66 | 26 |
| | ③ | | ◎ | | | 53 | 27 |
| | ④ | | ◎ | | | 47 | 31 |
| 3 | a | | ◎ | ②語彙の知識 | 会話文の内容を読みとり、それに当てはまる適切な語句を選択することができる。 | 74 | 1 |
| | b | | ◎ | | | 62 | 1 |
| | c | | ◎ | | | 83 | 1 |
| | d | | ◎ | | | 63 | 2 |
| | e | | ◎ | | | 62 | 1 |
| 4 | a | | ◎ | ③単語の並べ替え | それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。 | 65 | 2 |
| | b | | ◎ | | | 69 | 3 |
| | c | | ◎ | | | 38 | 3 |
| | d | | ◎ | | | 32 | 3 |
| | e | | ◎ | | | 64 | 3 |
| 5 | a | | ◎ | ①会話文の組み立て | 会話の流れに注意しながら、その選択肢の内容を十分に理解し、その場面に合った対話を組み立てることができる。 | 71 | 1 |
| | b | | ◎ | | | 65 | 1 |
| | c | | ◎ | | | 83 | 1 |
| | d | | ◎ | | | 66 | 2 |
| 6 | a | | ◎ | ④説明や対話文の読みとり | パンフレットや説明文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する文や絵を選ぶことができる。 | 52 | 3 |
| | b | | ◎ | | | 40 | 3 |
| | c | | ◎ | | | 67 | 3 |
| 7 | A | | ◎ | ⑤長い文章の読みとり | 文章の内容を読みとることができる。文章の流れから、文章の概要を理解したり、話者の意図を読みとったりすることができる。 | 77 | 3 |
| | B | | ◎ | | | 56 | 3 |
| | C | | ◎ | | | 76 | 3 |
| | D | | ◎ | | | 62 | 4 |
| | E | | ◎ | | | 66 | 6 |
| 8 | a | ◎ | | | 与えられた場面の中で、適切な表現を内容が相手に伝わるように、正しく書くことができる。 | 33 | 19 |
| | b | ◎ | | | | 32 | 24 |
| 9 | ① | ◎ | ○ | ⑥英作文 | 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿ってつながりのある文章を、正しく書くことができる。 | 25 | 16 |
| | ② | ◎ | ○ | | | 34 | 24 |
| | ③ | ◎ | ○ | | | 39 | 29 |
| | ④ | ◎ | ○ | | | 30 | 28 |
| 放送1 | a | | ◎ | ⑦リスニング(絵を選ぶ) | 短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。 | 55 | 1 |
| | b | | ◎ | | | 92 | 1 |
| | c | | ◎ | | | 64 | 1 |
| 放送2 | a | | ◎ | ⑧リスニング(会話内容) | 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。 | 60 | 1 |
| | b | | ◎ | | | 57 | 1 |
| 放送3 | a | | ◎ | ⑦リスニング(絵を選ぶ) | 短い会話文を聞き、その会話内容に対する質問の答えとなる適切な絵を選択することができる。 | 96 | 1 |
| | b | | ◎ | | | 85 | 1 |
| | c | | ◎ | | | 95 | 1 |
| 放送4 | | | ◎ | ⑧リスニング(会話内容) | まとまった長い英文を聞き、その内容と同じ内容を示す日本語を選択することができる。 | 85 | 1 |
| | | | ◎ | | | 86 | 1 |

◎…主たる観点、○…従たる観点

2. 主な誤答と分析[英語第2学年]

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|--------|-----|-----|------------|-----|---|
| 1 | a | 2 | 77 | 1 | 3 | 13 | 前置詞の理解ができていない。また、前後の会話の流れを理解できていない。例えば、簡単なストーリーを個人で作らせる活動などを通して、場面に合った表現や会話の流れ、文章の組み立てなどの定着を深める時間が必要であると思われる。 |
| | b | 3 | 88 | 1 | 2 | 7 | |
| | c | 1 | 87 | 1 | 2 | 9 | |
| 2 | ① | month | 46 | 29 | manth | 5 | 音声としては理解できているようであるが、それを正しく綴ることができていない。定期的に単語の復習ができる活動を取り入れるとよいと思われる。 |
| | ② | night | 66 | 26 | 無答 | | |
| | ③ | near | 53 | 27 | need, noon | 6 | |
| | ④ | bought | 47 | 31 | broght | 6 | |
| 3 | a | 1 | 74 | 1 | 3 | 11 | 会話の前後の理解ができていないため、適切な単語が選べていない。また時制や熟語の知識の定着ができていない点が目立っている。授業導入後に再度振り返る時間や活動(ドリル的な活動)を増やす必要があると思われる。 |
| | b | 4 | 62 | 1 | 1 | 16 | |
| | c | 2 | 83 | 1 | 3 | 8 | |
| | d | 4 | 63 | 2 | 3 | 21 | |
| | e | 3 | 62 | 1 | 4 | 14 | |
| 4 | a | 42531 | 65 | 2 | 25431 | 9 | 疑問詞の位置やそれぞれ文法的に正しい並び順やルールの定着ができていない場合が多い。またイディオムの使い方など復習の時間が必要であると思われる。 |
| | b | 24135 | 69 | 3 | 24531 | 3 | |
| | c | 41352 | 38 | 3 | 13245 | 7 | |
| | d | 25143 | 32 | 3 | 24153 | 7 | |
| | e | 15423 | 64 | 3 | 13245 | 5 | |
| 5 | a | 3 | 71 | 1 | 2 | 14 | 前後の会話の情報を読みとれていないため、選択肢から正しい内容を選ぶことができていない。短い内容のものでも、授業の中で英文を読む時間を設けて、慣れることが必要であると思われる。 |
| | b | 1 | 65 | 1 | 2 | 22 | |
| | c | 2 | 83 | 1 | 1 | 11 | |
| | d | 3 | 66 | 2 | 1 | 17 | |
| 6 | a | 2 | 52 | 3 | 4 | 28 | 絵や表を参考にしながら英文で情報を読みとる活動を授業内に増やす必要があると思われる。 |
| | b | 4 | 40 | 3 | 2 | 27 | |
| | c | 1 | 67 | 3 | 4 | 12 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|--------------------------------|----------|--------|---------------------|-------------|--|
| 7 | A | 1 | 77 | 3 | 2 | 10 | 設問をすべて日本語にし、設問の前後の内容や全体の内容の理解を確認する問題であった。細かな情報を読みとる力を伸ばすためにも、物語文や説明文など、教科書以外の教材を利用して、読解の力をつける必要があると思われる。 |
| | B | 3 | 56 | 3 | 4 | 23 | |
| | C | 2 | 76 | 3 | 1 3 4 | 7 7 7 | |
| | D | 4 | 62 | 4 | 2 | 21 | |
| | E | 5, 6 (順不同) | 66 41 | 6 6 | 2 3 | 34 21 | |
| 8 | a | Don't eat food in the library. | 33 | 19 | 単語のみの表現 | 15 | 依頼の表現と許可の表現を混同している誤答が見られた。場面に合った表現の定着と知識を深め、それを活用する場面を授業内に設けることが必要であると思われる。 |
| | b | Let's go to the music room. | 32 | 24 | 命令文のみの表現 | 7 | |
| 9 | ① | thank you for | 25 | 16 | thank you ～, sank 等 | 46 | 文法や単語(イディオム)の知識が曖昧な点があり、不十分な解答が多く見られた。ライティング活動をする際に細かな個所まで添削する時間を確保し、生徒自身でその違いを気づけるようにさせたい。 |
| | ② | to see | 34 | 24 | look, looking | 12 | |
| | ③ | how many | 39 | 29 | how much | 4 | |
| | ④ | which do you like | 30 | 28 | do you like | 13 | |
| 放1 | a | 2 | 55 | 1 | 1 | 38 | 大まかな理解はできているが、細かい情報を聞きとり、答えを導く力が足りないように思われる。さまざまな場面のやりとりを聞く活動を増やし、正しい情報を聞きとる力を伸ばしたい。 |
| | b | 3 | 92 | 1 | 4 | 4 | |
| | c | 2 | 64 | 1 | 3 | 19 | |
| 放2 | a | 4 | 60 | 1 | 3 | 15 | 短い対話を聞き、その情報の理解と対話を完成させるための英文の理解が必要である。聞きとる力と読みとる力をつけるため、ALT との会話を授業内で増やし、そのやりとりを聞きとる活動を取り入れるなどの工夫が必要だと思われる。 |
| | b | 1 | 57 | 1 | 3 | 20 | |
| 放3 | a | 1 | 96 | 1 | 4 | 2 | 全体的に正答率が高く、対話の内容も質問も概ね聞きとれている。しかし、絵を見て聞きとることができない個所もあるので、問題をよく理解する力も必要だと思われる。 |
| | b | 4 | 85 | 1 | 2 | 5 | |
| | c | 3 | 95 | 1 | | | |
| 放4 | | 2, 6 (順不同) | 85 86 | 1 1 | 4 3 | 15 6 | ある程度まとまった英文を細部まで聞きとることが難しいため、教科書以外の内容(ニュースなど)を聞く活動を取り入れることで力が伸びると思われる。 |

IV. 第3学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率[英語第3学年]

| 問題番号 | | 表 | 理 | 言 | 問題の内容 | 出題のねらい | 正答率(%) | | 無答率 |
|------|----|---|---|---|--------------|--|--------|----|-----|
| 大問 | 小問 | | | | | | | | |
| 1 | a | | ◎ | | ①会話文の組み立て | 絵を見て状況を判断し、場面に合った適切な応答を選択することができる。 | | 96 | 0 |
| | b | | ◎ | | | | | 77 | 0 |
| | c | | ◎ | | | | | 90 | 0 |
| 2 | ① | | | ◎ | ②語彙の知識 | 英文を読みとり、日本語に合った語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。 | | 37 | 24 |
| | ② | | | ◎ | | | | 65 | 22 |
| | ③ | | | ◎ | | | | 62 | 17 |
| | ④ | | | ◎ | | | | 66 | 22 |
| | ⑤ | | | ◎ | | | | 21 | 41 |
| 3 | a | | | ◎ | ③単語の並べ替え | それぞれの語の意味と性質をつかみ日本語に合うように文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。 | | 68 | 0 |
| | b | | | ◎ | | | | 72 | 0 |
| | c | | | ◎ | | | | 84 | 0 |
| | d | | | ◎ | | | | 67 | 0 |
| 4 | a | | | ◎ | ④説明や対話文の読みとり | パンフレットや表などを活用しながら説明文や日記の文章などを読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する文や絵を選ぶことができる。 | | 82 | 0 |
| | b | | | ◎ | | | | 80 | 0 |
| | c | | | ◎ | | | | 57 | 0 |
| | d | | | ◎ | | | | 61 | 0 |
| | e | | | ◎ | | | | 42 | 1 |
| 5 | a | | | ◎ | ⑤長い文章の読みとり | 文章の内容を読みとることができる。文章の流れから、文章の概要を理解したり、話者の意図を読みとったりすることができる。 | | 76 | 0 |
| | b | | | ◎ | | | | 75 | 0 |
| | c | | | ◎ | | | | 62 | 0 |
| 6 | a | | | ◎ | ⑥英作文 | 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿ってつながりのある文章を、正しく書くことができる。 | | 63 | 0 |
| | b | | | ◎ | | | | 72 | 1 |
| | c | | | ◎ | | | | 63 | 2 |
| 7 | A | | | ◎ | ⑦リスニング(絵を選ぶ) | 短い英文を聞きとり、その内容を表す絵を選択することができる。 | | 51 | 0 |
| | B | | | ◎ | | | | 79 | 0 |
| | C | | | ◎ | | | | 63 | 4 |
| | D | | | ◎ | | | | 63 | 4 |
| | E | | | ◎ | | | | 55 | 4 |
| | F | | | ◎ | | | | 59 | 8 |
| 8 | a | | | ◎ | ⑧リスニング(会話内容) | 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。 | | 65 | 12 |
| | b | | | ◎ | | | | 48 | 15 |
| | ① | | | ◎ | | | | 37 | 26 |
| | ② | | | ◎ | | | | 24 | 21 |
| 9 | ③ | | | ◎ | ⑧リスニング(会話内容) | 会話文の内容を理解し、その内容に対する質問に適切に答えることができる。 | | 50 | 21 |
| | ④ | | | ◎ | | | | 39 | 25 |
| | a | | | ◎ | | | | 84 | 0 |
| | b | | | ◎ | | | | 59 | 1 |
| 放送1 | c | | | ◎ | ⑧リスニング(会話内容) | まとまった長い英文を聞き、その内容と同じ内容を示す日本語を選択することができる。 | | 81 | 0 |
| | a | | | ◎ | | | | 82 | 0 |
| | b | | | ◎ | | | | 78 | 0 |
| 放送2 | a | | | ◎ | ⑧リスニング(会話内容) | まとまった長い英文を聞き、その内容と同じ内容を示す日本語を選択することができる。 | | 65 | 0 |
| | b | | | ◎ | | | | 81 | 0 |
| | c | | | ◎ | | | | 83 | 0 |
| 放送3 | a | | | ◎ | ⑧リスニング(会話内容) | まとまった長い英文を聞き、その内容と同じ内容を示す日本語を選択することができる。 | | 55 | 0 |
| | b | | | ◎ | | | | 72 | 0 |
| 放送4 | | | | ◎ | | | | | |

◎…主たる観点、○…従たる観点

2. 主な誤答と分析[英語第3学年]

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|------------|-----|-----|--|---------------|---|
| 1 | a | 3 | 96 | 0 | | | 概ね理解できている。bの正答率が低いのは、助動詞を用いた表現が定着できていないことが原因と考えられる。特に依頼・許可の表現は、日頃の授業の中でも使用する場面が多いので、教師が繰り返し使用することで定着を図りたい。 |
| | b | 1 | 77 | 0 | 2 3 | 18 5 | |
| | c | 2 | 90 | 0 | 1 | 8 | |
| 2 | ① | culture | 37 | 24 | country calture | 8 4 | ①、⑤以外は日本語を手がかりに、適する英単語を連想することは概ねできているのだが、正しいスペルで綴る力が十分に定着しているとはいえない。音声からローマ字でスペルを綴ろうとする誤答が多くみられる。ローマ字と英単語の綴りは必ずしも一致しないことを、初期の段階でしっかりと学習させたい。foreign は音声には表れない文字を使って綴るためか、正答率が低く、無答率も高いことから定着しにくい単語であることがわかる。英語の音声と綴りの関係を系統だてて学ぶフォニックスも取り入れていきたい。 |
| | ② | understand | 65 | 22 | understood undarstand understund | 4 1 1 | |
| | ③ | answer | 62 | 17 | ansear ansure aleady | 2 2 2 | |
| | ④ | because | 66 | 22 | becouse bicause | 2 2 | |
| | ⑤ | foreign | 21 | 41 | foregin forgain famouse | 1 1 1 | |
| 3 | a | 2 | 68 | 0 | 3 4 1 | 17 11 4 | It...toへの構文は概ね定着していると考えられる。 その一方で、aでは ask の後にくる適切な代名詞を、dでは受動態を理解して選択することができていない生徒が中下位群に多くいた。英文の内容を理解したうえで、どの文法事項を使用するか見極める力が必要かと思われる。特に代名詞については、英作文の機会を活用し、正しく使用できているか個別に確認していきたい。 |
| | b | 1 | 72 | 0 | 3 2 4 | 13 11 4 | |
| | c | 4 | 84 | 0 | 1 3 | 9 4 | |
| | d | 3 | 67 | 0 | 2 4 1 | 22 7 4 | |
| 4 | a | 24513 | 82 | 0 | 15324 24531 51324 | 3 2 2 | call を使った SVOC の文型と現在完了は正答率が 80%を越え、概ね定着をしていると考えられる。 一方、cの動名詞を主語に用いた文型と、eの I think の後ろに最上級の文が続く文型は正答率が半分前後というところで、日本語を手がかりにしても正しく並べ替えることができていない生徒が多くいた。「音楽を聞くことは」を listening to music is と、「数学は」を math is と配置できない誤答例から、主語を見極めて正しく配置する文型練習が必要ではないかと考えられる。 |
| | b | 25134 | 80 | 0 | 13254 13524 25314 | 4 2 2 | |
| | c | 51243 | 57 | 0 | 52431 12543 15243 | 4 4 2 | |
| | d | 15243 | 61 | 0 | 15432 21543 15342 | 9 7 3 | |
| | e | 32541 | 42 | 1 | 34152 32514 31524 | 13 7 4 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 | (%) | 授業改善への手だて |
|----|----|------------------------|----------|-----|---------------------------------------|----------------------|---|
| 5 | a | 3 | 76 | 0 | 2 4 1 | 12 7 5 | 概ね状況に応じた文を選択できていたが、中下位群の誤答が特に多い。cについては、会話の内容を把握するも、go to bedとget upを混同してしまった生徒が多かったようである。対話文の流れを把握しながら、その状況にふさわしい表現ができるよう、アウトプットの機会を増やしていきたい。 |
| | b | 2 | 75 | 0 | 4 1 3 | 13 6 6 | |
| | c | 4 | 62 | 0 | 1 3 2 | 21 12 5 | |
| 6 | a | 4 | 63 | 0 | 3 2 | 32 4 | 上位群では正答率が高く、英文の内容をよく読みとることができた。一方、下位群は英文の読みとりが浅く、誤答が多かった。短時間で英文の内容が理解できるよう、普段の授業の中で、比較的短めの英文や対話を読みとる指導を行っていきたい。 |
| | b | 1 | 72 | 1 | 4 2 3 | 12 11 4 | |
| | c | 3 | 63 | 2 | 1 2 4 | 14 11 10 | |
| 7 | A | 2 | 51 | 0 | 3 4 1 | 18 18 13 | Bを除いて全体的に正答率が50%～60%前後であることから、長めのまとまった文章を限られた時間内で読解する力が不足していると考えられる。Aに関しては、現在完了経験用法を理解した上で、相手の応答から考えてNoで答えを導くべき問題であったが、Yesに続く選択肢を選ぶ誤答が目立った。前後の会話の理解が不十分であったと考えられる。特にFに関して無答が少なくないことから、時間内に読み解くことができなかったのではないかと考えられる。 教科書で読む短い英文だけでなく、ある程度まとまった長文を読解する学習が普段から必要であると考えられる。 |
| | B | 3 | 79 | 0 | 4 2 1 | 9 8 4 | |
| | C | 4 | 63 | 4 | 3 1 2 | 14 12 7 | |
| | D | 1 | 63 | 4 | 3 4 2 | 18 8 7 | |
| | E | 4 | 55 | 4 | 3 1 2 | 15 14 12 | |
| | F | 1, 5(順不同) | 59 61 | 8 | 3 2 4 6 | 28 14 12 10 | |
| 8 | a | I'll never forget it. | 65 | 12 | I am enjoy now. You No.1 friends. | 1 1 | 自分なりに工夫をした応答が見られた。一方、be動詞と一般動詞をそのまま同時に並べたり、不定詞のtoを忘れて一般動詞を2つ並べる間違いがあった。 |
| | b | I hope you'll like it. | 48 | 15 | Would like to eat? I like play it. | 1 1 | |

| 大問 | 小問 | 正答 | 正答率 | 無答率 | 主な誤答 (%) | 授業改善への手だて | |
|-----|----|---------------------|----------|-----|----------------------------------|----------------------|---|
| 9 | ① | which Japanese food | 37 | 26 | Japanese food which / what のみ | 9 8 | which の後に名詞が続く文型の定着率が低かった。疑問詞の後に名詞がくる文例に多く触れさせたい。また、受動態の be 動詞や不定詞の to を抜かず誤答が目立った。無答率が 4 分の 1 近い問題もあり、日頃から英作文を積極的に授業に取り入れていく必要があると考えられる。 |
| | ② | are cooked by | 24 | 21 | made is made | 7 3 | |
| | ③ | how to play | 50 | 21 | play to play | 14 2 | |
| | ④ | why don't you | 39 | 25 | shall we do you | 5 2 | |
| 放 1 | a | 3 | 84 | 0 | 2 | 11 | a と c は概ね理解できていた。b は最後の Her brother Bob was reading books in the library then. が聞きとれずに誤答を選択した生徒が下位群に多かった。選択肢である絵の状況を素早く把握しつつ、英文を最後まで聞きとり内容を的確に理解できるような練習をする必要があると思われる。 |
| | b | 1 | 59 | 1 | 3 | 39 | |
| | c | 4 | 81 | 0 | 1 | 13 | |
| 放 2 | a | 2 | 82 | 0 | 3 1 | 10 8 | 全体的に正答率が高く、前後の会話を理解して適切な応答を選ぶ聴解力が概ねついていると考えられる。会話の内容を理解した上で、応答を類推する学習を今後も取り入れていきたい。 |
| | b | 3 | 78 | 0 | 1 2 | 15 7 | |
| 放 3 | a | 3 | 65 | 0 | 2 | 32 | a は選択肢の冒頭が同じ語で始まっているので混同し、正答率が低かったと考えられる。対話の内容や質問を正確に聞きとり正解を判断できるようにしていきたい。 |
| | b | 2 | 81 | 0 | 1 3 | 17 2 | |
| | c | 1 | 83 | 0 | 2 3 | 9 8 | |
| 放 4 | | 2, 6(順不同) | 55 72 | 0 | 3 1 4 5 | 24 23 13 13 | 選択肢 2 の正答率が半数だったことから、have lived there for two years の部分の現在完了継続用法をしっかりと聞きとることができなかったのではないかと考えられる。英文の最後の部分である選択肢 6 は概ね聞きとることができていた。日頃からある程度まとまった長めの会話を聞き理解する学習が必要だと考えられる。 |

V. 全体の考察と今後に向けて[英語]

1. 全体の考察

今年度も、検査本来の目的、主旨をとらえ各問題を作成した。調査の結果から例年同様の反省が出た。昨年度よりもより観点別評価を明確にするよう工夫をした。長文読解問題（1年問8、2年問7、3年問7）に関して、設問とその選択肢をすべて日本語とし、より観点を明確にした。表現の能力の問題では、一昨年度自由英作文に近い形式の問題を出題したが、正答率が低かったことと採点基準が難しかったことから、昨年度に引き続き条件英作文と部分英作文の問題を実施した。オープンエンドの問題で、生徒の表現力を発揮しやすくした。アンケートから、作文問題の採点基準についてご意見をいただいたが、今後も各校での授業の実態に合わせた採点をお願いしたい。今後も、より妥当性が高く、個々の生徒の各観点を力を判断できるような作問を進めていきたい。

対話活動などのオーラルコミュニケーション活動と文法の説明や練習問題などを扱う時間的なバランスは難しい問題である。生徒の学習状況や文法事項に合わせて、帯活動などを工夫し4技能を高め、より高い定着率を得られるような工夫が必要である。作文問題には無解答も多いことから、自分の思いや考えを英文で表すような活動を取り入れることが重要であると考えられる。これから授業数も増えていくことになり、語彙数などの学習内容も増える。増えた時間をどのように有効に活用していくかは大きな課題となろう。中学校3年終了時に英語学習を通してどのような力を身につけさせたいのかを明確にし、様々な活動を組み込み、生徒の興味関心を持続させる工夫は絶やすことができないところである。

2. 観点ごとの考察

(1) 言語や文化についての知識・理解に関する問題について

- 1学年ー ・問2、問3ともに正答率が高かった。
 - ・問4では、一般動詞と be 動詞の違いを理解していないことによる誤答が目立った。
 - ・問5、問6では、全般的に正答率が低く、今後の課題と言える。
- 2学年ー ・問2では、特に動詞の不規則過去である“bought”の正答率が高くなかった。発音と綴りとの関係をより学習する必要があると考えられる。
 - ・問3は、概ね高い正答率であった。
 - ・問4 c、d は、正答率が低い。未来形や前置詞の位置や語順のルール of の定着が十分ではないことが理由と考えられる。
- 3学年ー ・問2、問4は中下位群の誤答および無答が目立った。スペルの長い語の知識は正確ではなかったようだ。また、問4の動名詞を用いた文や I think を使った文も正確ではなかった。

(2) 理解の能力に関する問題について

- 1学年ー ・問7では、複雑な情報を正確に読みとることができる生徒が多いことがわかった。
 - ・問8では、細かい内容は十分ではないが、概要は読みとれている生徒が多いことがわかった。
 - ・聞きとり問題では、概ね正答率が高く、日頃の指導の成果が表れていた。
- 2学年ー ・問1は正答率が高く、対話の内容を理解し、適切な語句や文を選ぶことができた。
 - ・問6では、全体的に正答率が低い。これは、文章や情報を読みとる訓練ができていないことが原因だと考えられる。
 - ・問7では、特に下位群の英文全体の把握と細かい情報の読みとりが不十分である。
 - ・聞きとり問題では、問題2の正答率が高くない。これは、ある程度まとまった英文を細部まで聞きとる練習が不十分であったことが原因であると考えられる。
- 3学年ー ・問5は、対話の内容が理解できたようで、上位群の正答率が高かった。
 - ・問6、問7では、全体的に正答率が高くなかった。誤答は、細かい部分の読みとりが不十分であったことが原因と考えられる。
 - ・聞きとり問題では、問題4の正答率が高くない。長い情報を聞きとる力をつけていく必要がある。

(3) 表現の能力に関する問題について

- 1 学年ー ・問9、問10では、正しい綴りで書くことができていない。特に中下位群では無答もあった。
 - ・問10では、動詞が入っていない文が多いのが気になる。
- 2 学年ー ・問8では、与えられた場面の中で、適切な表現を取捨選択して書くことができない生徒が多かった。
 - ・問9は、部分英作文の形だったが、文法やイディオムの知識が曖昧な生徒が多かった。
- 3 学年ー ・問8では、与えられた場面の中で自分の気持ちを運用の段階まで高められていないことがわかった。
 - ・問9は、部分英作文の形だったが、正確な文章を書くことができない生徒が多かった。日頃の授業の中で、つながりのあるまとまった文章を書かせる機会を増やしていくことが必要である。

3. 指導にあたって

平成23年度の学習診断テストの結果を分析して、学習指導の課題として見えてくると、その改善のための指導の留意点を、観点別に記したい。

(1) 言語や文化についての知識・理解

語彙の指導については、単語テストや宿題などで単語を書く作業は各学校で実施しているが、定着率は高くはないようである。これは、単語テストのために一時的に単語を覚えているだけだからではないかと思われる。より多くの単語を身につけさせるためにも、ある話題について文章を書く作業を1年次から継続する必要があると考える。また、基本文型の語順が正確に身につけていないこともうかがえる。学習で得た知識を運用まで高めるためのステップが必要であろう。3年生の誤答には、1、2年次の学習が十分ではないことが原因と思われるものが多い。文法事項や単語などをスパイラルに学習する必要がある。

(2) 理解の能力

長文読解問題では、特に細かい部分の読みとりができていなかった。全体を把握しつつ、文の前後をしっかりととらえさせる指導が必要であろう。聞きとりテストでは、文章が長くなると瞬時に情報を整理しにくくなる。日頃から教師やALTが英語で身の回りのことなどを話すなど、まとまった英文の内容を聞きとる活動を継続することが大切である。

(3) 表現の能力

一昨年度より、全学年にとっさの一言を問う問題を、昨年度より部分英作文の問題を採り入れた。どの学年とも、正答率はけっして高くはなく、特に無答率が平均20パーセント弱と、中下位群の正答の低さが目立った。何とか表現しようとする意欲を育てたい。

言語の習得過程を考えると、文字で事象を表現することは難しい作業である。日頃の授業で英作文を継続的に取り入れることは難しい一面もある。生徒が書いた文章を添削する作業に時間がかかることや生徒の能力の差が大きいことが原因の1つだと思われる。

英語学習の目的の1つである自己表現能力の向上をめざし、1文から始め、3～4文で身の回りのことを表現する能力を身につけるよう継続指導することは大切である。

4. 授業改善にむけて

よりよい授業づくりは、教え込みを中心とした授業（できる）、主体的な学びを中心とした授業（わかる）、協働的な学習を中心とした授業（わかり合う）の3点が、1時間の授業に混在しながらつくられるべきである。そしてこれまでの授業づくりで一番問題だったのは、「教えないで考えさせる」授業なのである。ここで言う「教えないで考えさせる」授業とは何か。英語科で言えば「Inputしないでintakeさせようとする」授業のことであろう。したがって「教えて、考えさせる」授業を示すことで、バランスの取れたinputをさせるとともに、outputのための土壌づくりを行うことができるのである。そこで、上述の「できる」「わかる」「わかり合う」授業観をバランスよく取り込めるように、様々な角度からの教材開発や授業デザインを考えていく必要がある。

調査の概要

1 調査の目的

川崎市の公立中学校に在籍する生徒の生活や学習についての意識や実態を把握することにより、各学校における指導方法や授業改善等に資するとともに、本市学校教育全体の充実に向けた基礎資料として活用する。

2 調査の設計

(1) 調査実施校及び対象者

市内公立中学校第2学年に在籍する全生徒 *調査当日の欠席者を除く

(2) 調査校数及び回答者数

学校数：51校 回答者数：8,680名

(3) 調査実施期日

平成23年11月8日(火) 川崎市学習状況調査の一環として各教科の調査後に実施

(4) 調査方法

記名の質問紙法調査による

(5) 調査内容及び設問数

生徒の生活と学習に関する意識と実態についての調査 45問

(6) 設問の主な観点及び視点

| | 観 点 | 視 点 |
|---|---------------|---|
| 1 | 学校生活に対する意識 | 楽しさ |
| 2 | 学習全般に対する意識 | 好感度、必要性、理由、相談相手 |
| 3 | 各教科等に対する意識 | 好感度、理解度、有用感 |
| 4 | 家庭学習の実態 | 学習時間、学習内容、通塾 |
| 5 | 家庭生活の実態 | 睡眠時間、朝食の摂取、学習の準備、 テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間 1ヶ月の読書量 |
| 6 | 各教科等に対する意識・実態 | 学習内容・方法に対する好感度 日常生活への活用や関連 等 |

3 調査結果の集計・分析に当たっての留意事項

(1) 単純集計及び分析

①2の(6)にある「設問の観点」ごとに項立てを行い、分析を行った。

②設問ごとに集計結果をグラフで表し、考察を加えた。

③一部の設問では前々年度、前年度の結果を併記して、経年比較分析を行った。

(2) クロス集計及び分析

いくつかの設問については、クロス集計という手法を用いて分析した。これは、設問Aでの選択肢ごとに設問Bの回答を集計することで、設問Aでの回答選択の違いを設問Bで説明する方法である。このことにより、設問Aと設問Bの二つの設問の間の関連や相関関係等を分析した。なお、クロス集計では無回答者を除いて集計した。

(3) 各教科の正答率との相関

いくつかの設問については、回答ごとに学習診断テストの各教科の正答率を算出した。これにより各教科の正答率と各設問の回答との間の相関関係について分析した。なお、本分析においても無回答者を除いて集計した。

(4) 各グラフには、見やすさを考慮して調査結果の割合の数値を記入しきれていないものがある。単純集計については、「資料 調査結果集計表」の該当設問の数値でご確認願いたい。

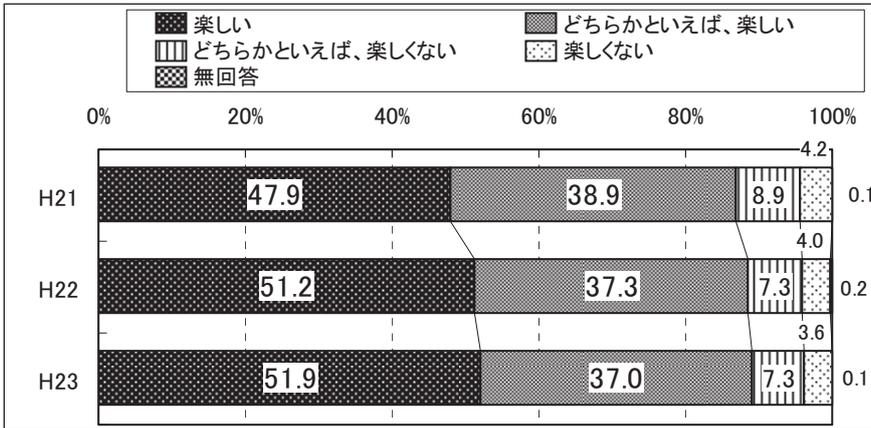
(5) 数値に関しては、小数点第2位を四捨五入し、小数第1位までで示しているため、合計が100%にならないことがある。

調査結果と分析

I 単純集計

1 学校生活に対する意識

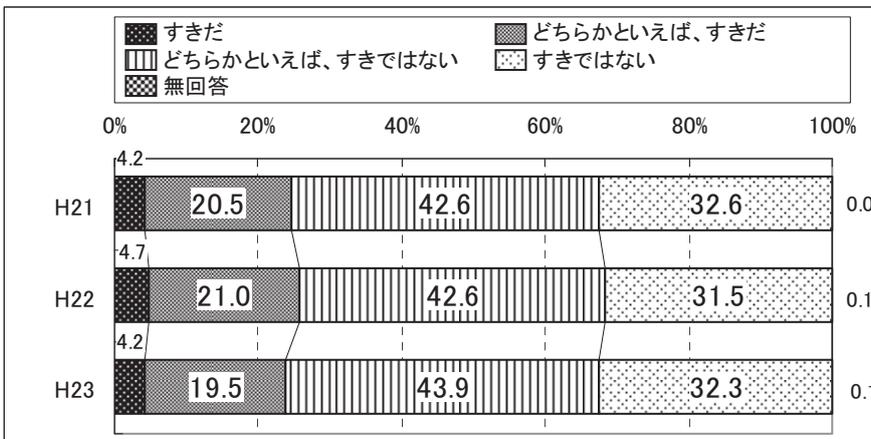
(1) 学校生活の楽しさ【問1】



○51.9%の生徒が「楽しい」と回答しており、昨年度より0.7ポイント増加している。
 ○「楽しい」と「どちらかといえば、楽しい」の合計を過去3年間で平均すると88.1%となる。

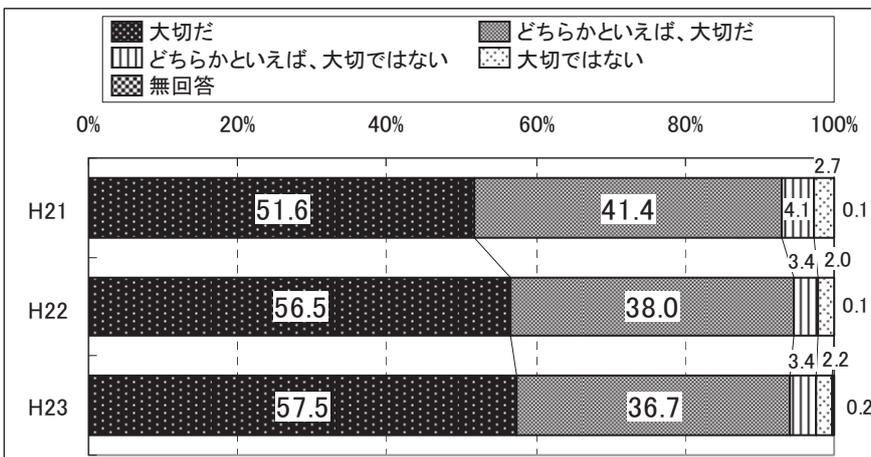
2 学習全般に対する意識

(1) 好感度【問2】



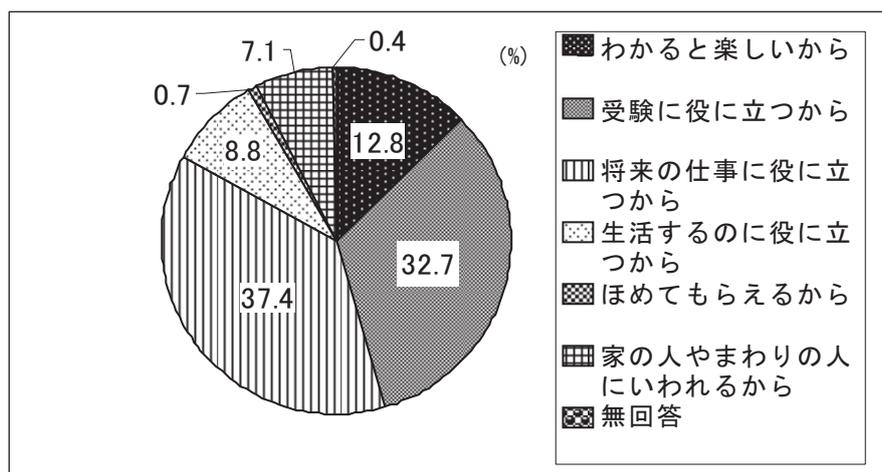
○勉強が「すきだ」、「どちらかといえば、すきだ」を合わせると23.7%となり、昨年度より2.0ポイント減少している。
 ○32.3%の生徒が「すきではない」と回答しており、「どちらかといえば、すきではない」と合わせると76.2%である。

(2) 必要性【問3】



○57.5%の生徒が勉強は「大切だ」と回答しており、昨年度より1.0ポイント、一昨年度より5.9ポイント増加している。
 ○「大切だ」、「どちらかといえば、大切だ」と回答した生徒を合わせると94.2%となり、昨年度より0.3ポイント減少している。

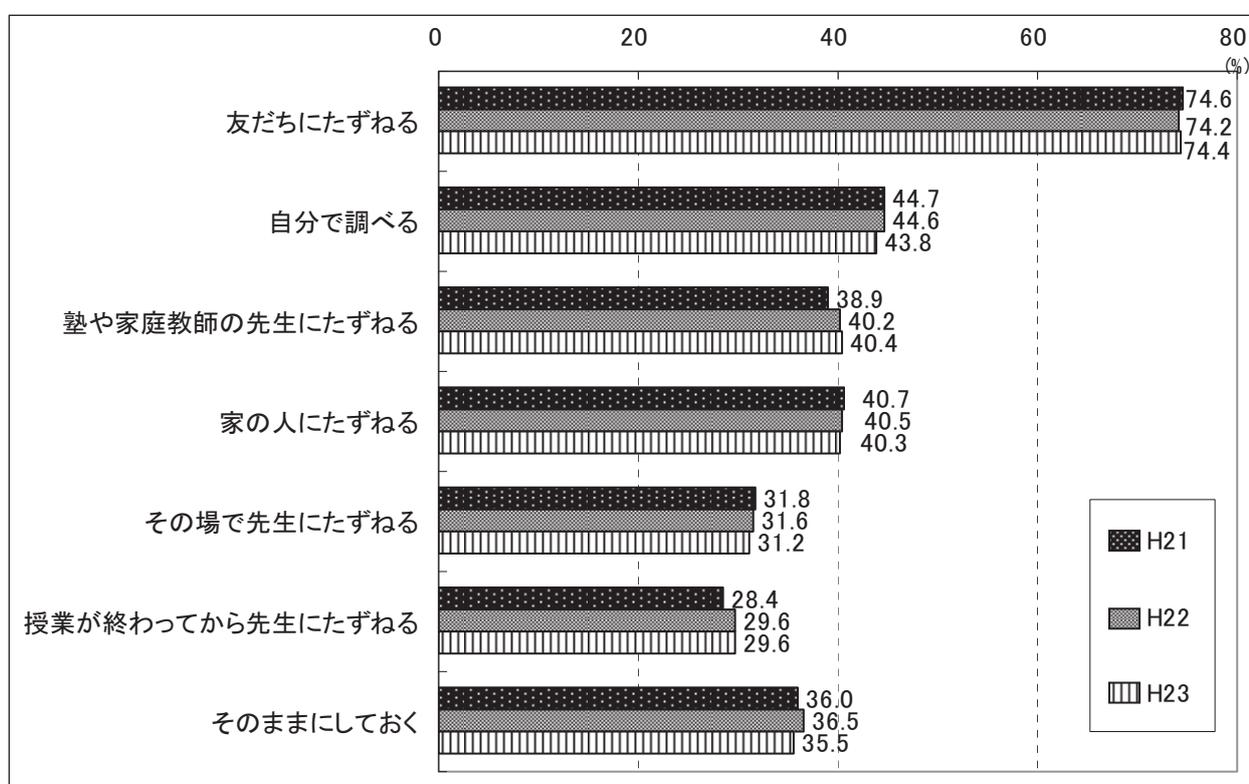
(3) 理由【問4】



○勉強する一番の理由として「将来の仕事に役に立つから」を挙げている生徒が37.4%で最も多く、次に「受験に役に立つから」が32.7%で続いている。

○「わかると楽しいから」(12.8%)、「生活するのに役に立つから」(8.8%)という回答が続いている。

(4) 相談相手【問20】(複数回答可)



○授業の中でわからないことがあったときの相談相手として、「友だち」を挙げている生徒の割合が最も高く74.4%である。

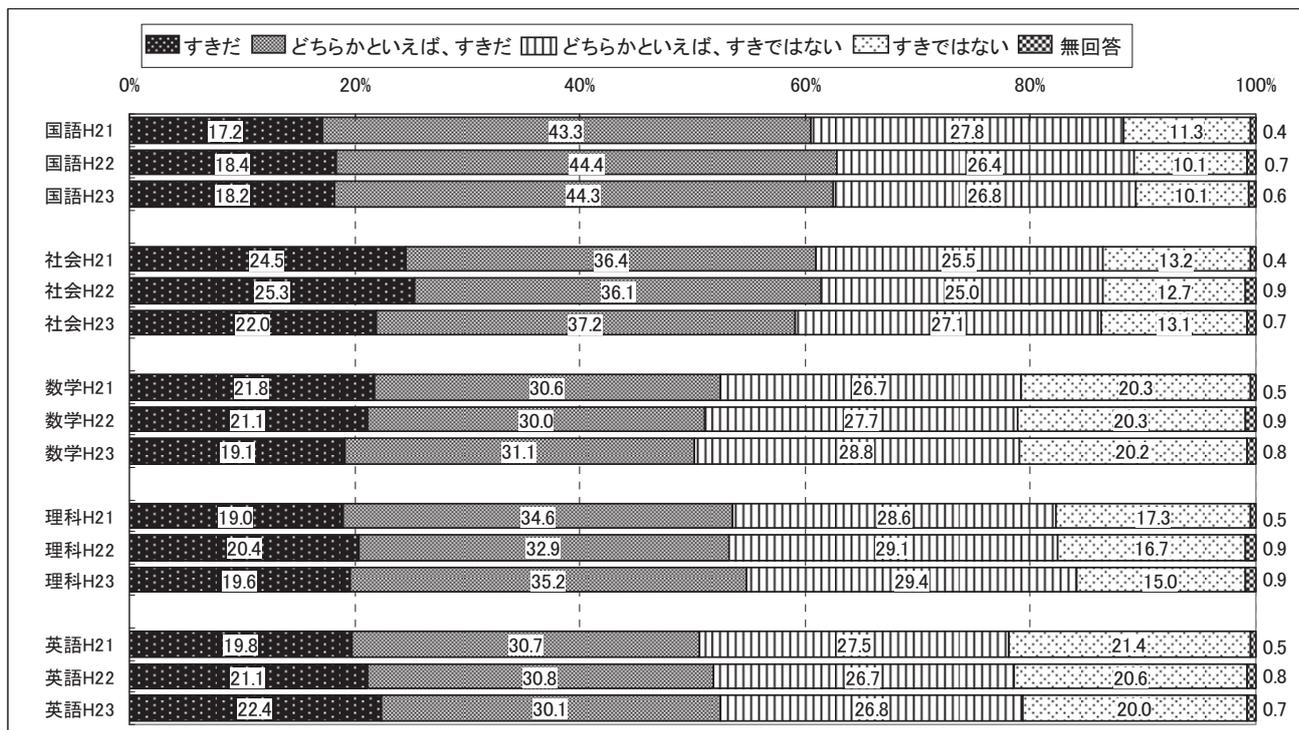
○「自分で調べる」と回答した生徒は、43.8%である。

○「塾や家庭教師の先生」、「家の人」にたずねると回答した生徒はどちらも、ここ3年間約4割程度で推移している。

○「授業が終わってから先生にたずねる」と回答した生徒は29.6%で、昨年度と同じである。

3 各教科等に対する意識

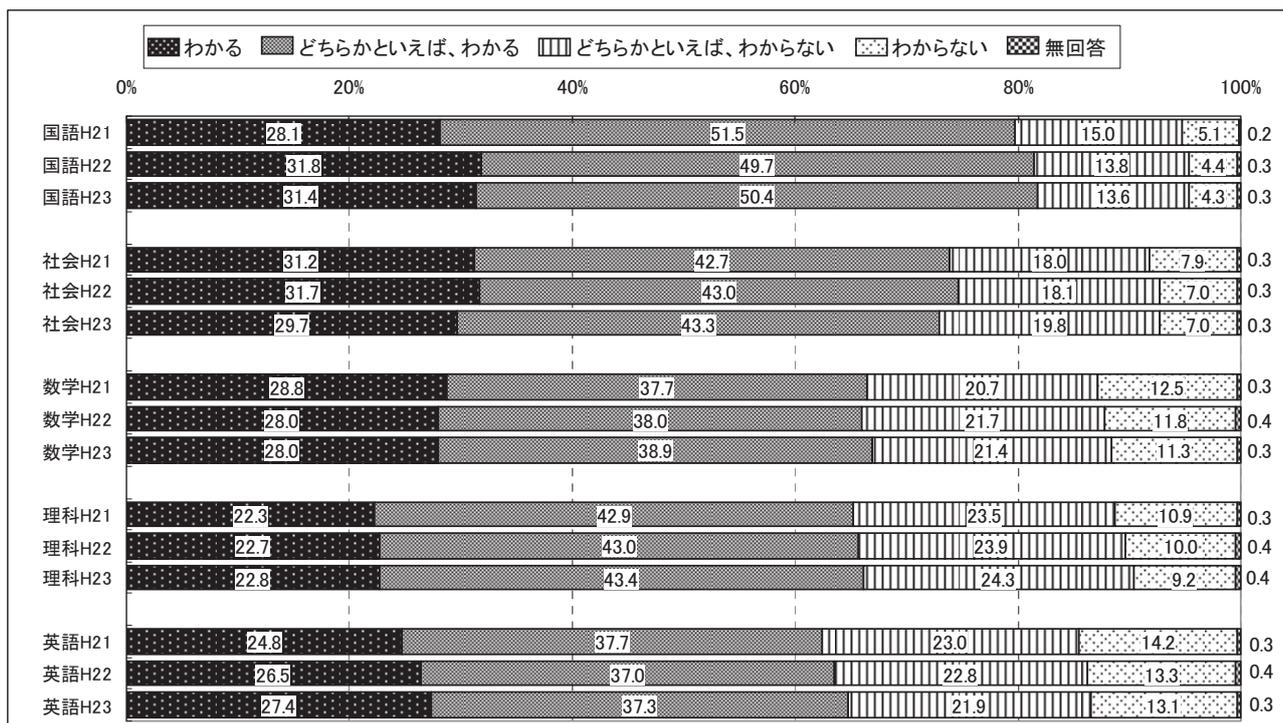
(1) 好感度【問5～9】



○授業の好感度（「好きだ」と「どちらかといえば、好きだ」を合わせた割合）が最も高いのは「国語」の62.5%で、以下、「社会」（59.2%）、「理科」（54.8%）、「英語」（52.5%）、「数学」（50.2%）となっている。

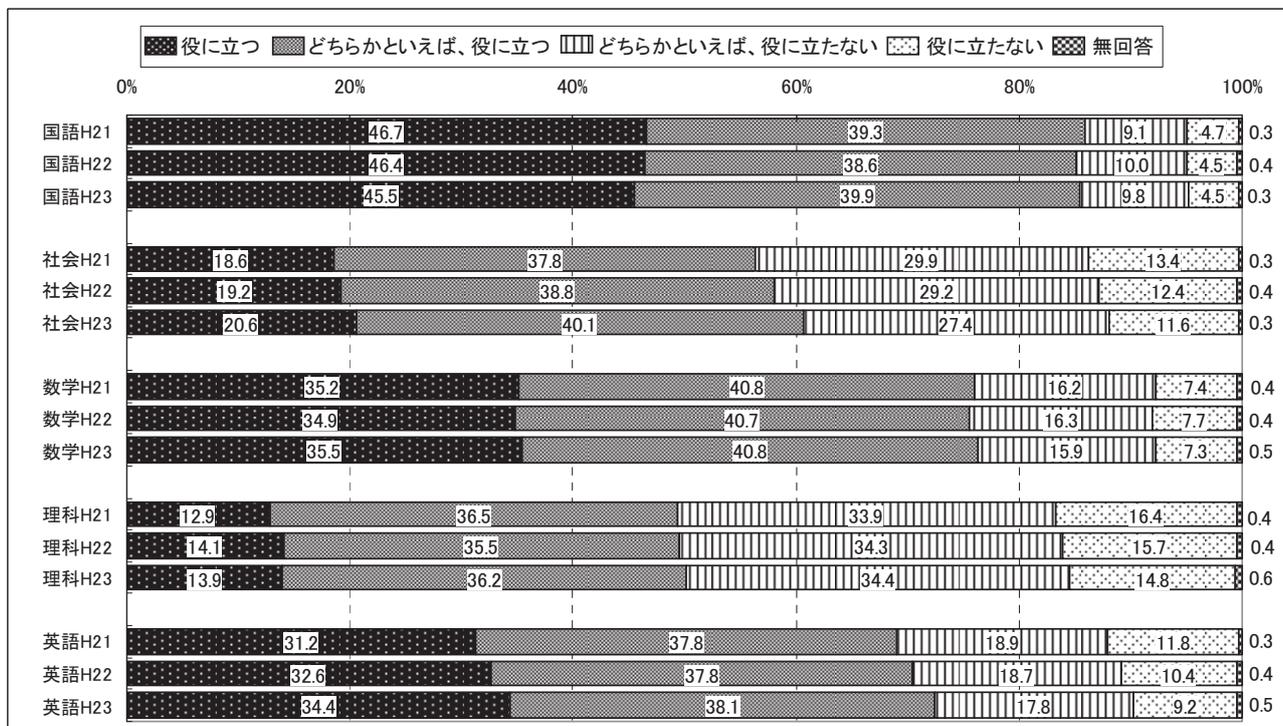
○過去3年間の各教科の好感度の平均は、「国語」は61.9%、「社会」は60.5%、「数学」は51.2%、「理科」は53.9%、「英語」は51.6%である。

(2) 理解度【問10～14】



○授業の理解度（「わかる」と「どちらかといえば、わかる」を合わせた割合）が最も高いのは「国語」で81.8%、以下、「社会」（73.0%）、「数学」（66.9%）、「理科」（66.2%）、「英語」（64.7%）となっている。
 ○過去3年間の各教科の理解度の平均は、「国語」は81.0%、「社会」は73.9%、「数学」は66.5%、「理科」は65.7%、「英語」は63.6%である。

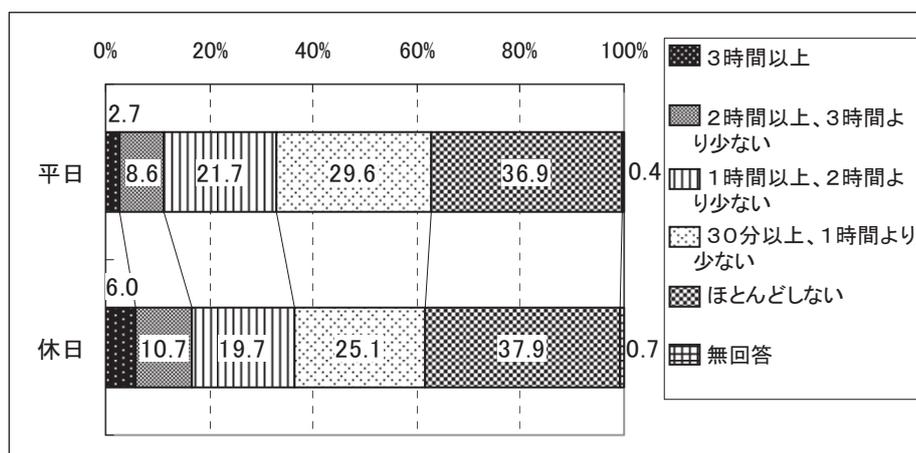
(3) 有用感【問15~19】



○学習に対する有用感（「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」を合わせた割合）が最も高いのは「国語」で85.4%、以下、「数学」（76.3%）、「英語」（72.5%）、「社会」（60.7%）、「理科」（50.1%）となっており、すべての教科で昨年度よりもポイントが増加している。
 ○過去3年間の各教科の有用感の平均は、「国語」は85.5%、「社会」は58.4%、「数学」は76.0%、「理科」は49.7%、「英語」は70.6%である。

4 家庭学習の実態

(1) 学習時間【問21~22】

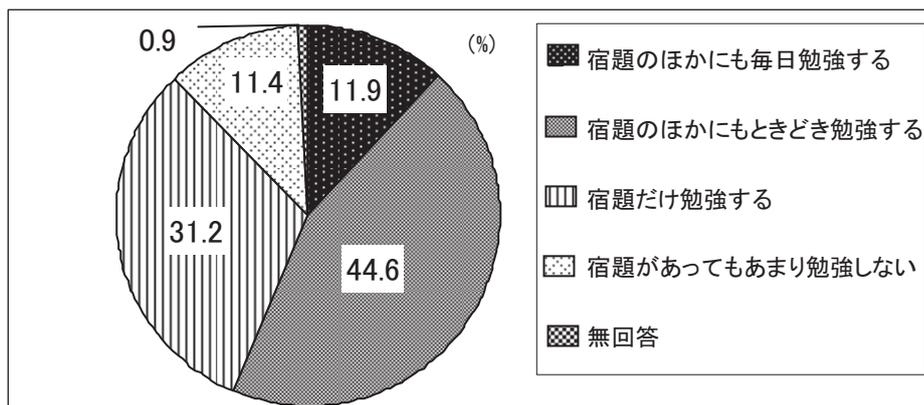


○勉強している時間では、平日、休日とも「30分以上、1時間より少ない」が最も多い。また、休日に「ほとんどしない」と回答している生徒の割合はここ3年間減少している。

*資料 意識-24 ページ
 【問21,22】参照

○平日と休日を比較すると、「30分以上、1時間より少ない」と回答した生徒の割合は、平日の方が4.5ポイント多い。

(2) 学習内容【問 23】



○「宿題のほかにもときどき勉強する」と回答した生徒が 44.6%で最も多く、次に「宿題だけ勉強する」が 31.2%で続いている。

○「宿題があってもあまり勉強しない」と回答した生徒の割合は 11.4%である。

(3) 通塾【問 24】

(%)

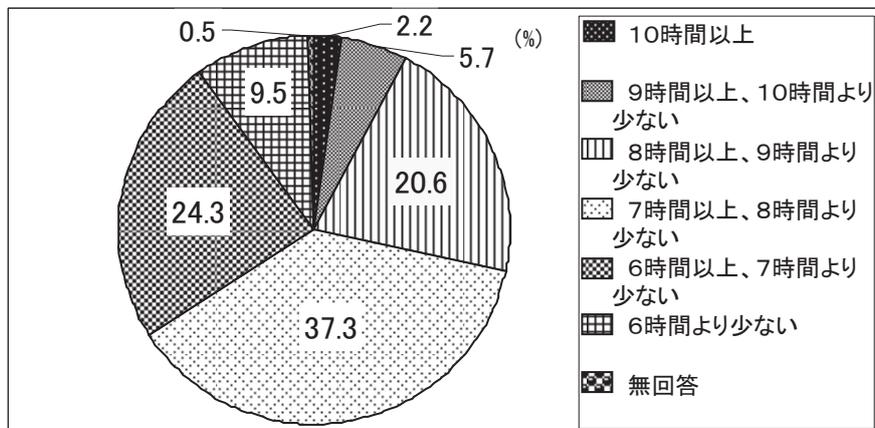
| | 通っている | 通っていない | 無回答 |
|-----|-------|--------|-----|
| H21 | 57.7 | 41.5 | 0.8 |
| H22 | 58.7 | 40.5 | 0.8 |
| H23 | 59.1 | 40.1 | 0.8 |

○学習塾に「通っている」と回答した生徒の割合は 59.1%である。

○過去 3 年間を通してみると、「通っている」、「通っていない」の割合に大きな変化はみられない。

5 家庭生活の実態

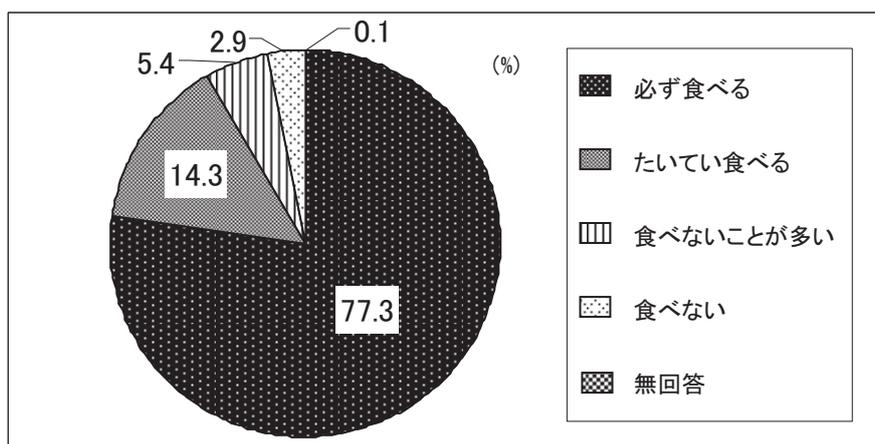
(1) 睡眠時間【問 25】



○「7時間以上、8時間より少ない」(37.3%)、「6時間以上、7時間より少ない」(24.3%)という回答が多く、6割以上の生徒の睡眠時間は「6～8時間」である。

○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した生徒は 9.5%で、ほぼ 1割である。

(2) 朝食の摂取【問 26】

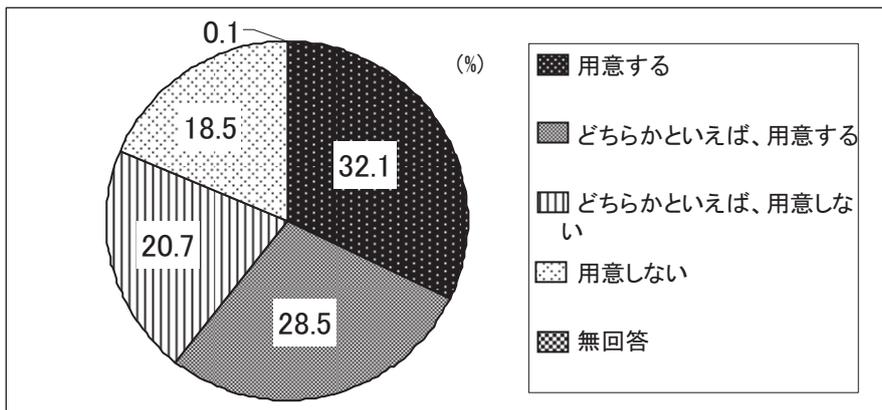


○77.3%の生徒が「必ず食べる」と回答しており、「たいてい食べる」という回答と合わせると、91.6%である。

○「必ず食べる」と回答した生徒の割合は、ここ 3 年間増加している。

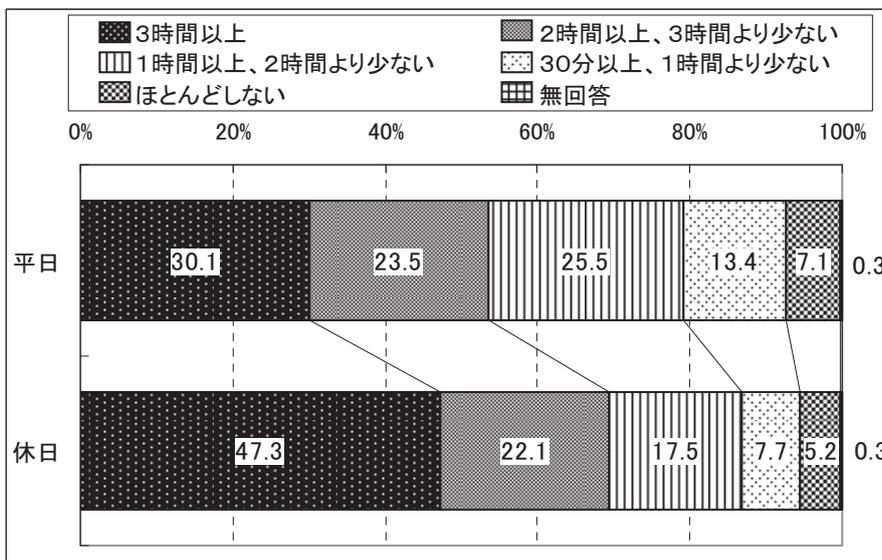
* 資料 意識-24 ページ【問 26】参照

(3) 学習の準備【問 27】



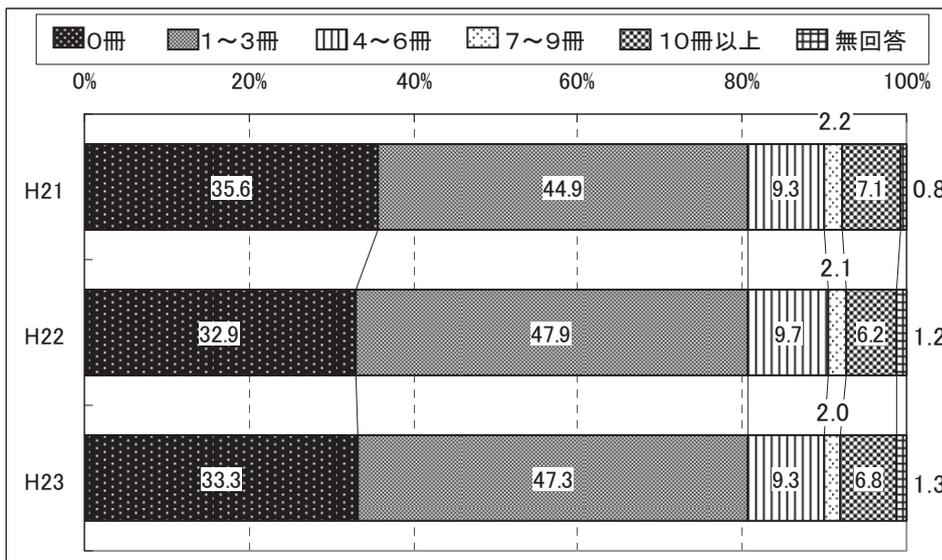
○32.1%の生徒が学校に持っていくものを前日に「用意する」と回答しており、「どちらかといえば、用意する」を合わせると、60.6%である。
○「用意しない」と回答した生徒の割合は18.5%である。

(4) テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間【問 28～29】



○平日と休日と比較すると、休日の方が、視聴・実施時間が長い傾向がある。
○平日では30.1%、休日では47.3%の生徒が、視聴・実施時間が「3時間以上」である。「2時間以上」を含めると、平日では53.6%、休日では69.4%である。

(5) 1ヶ月の読書量【問 30】



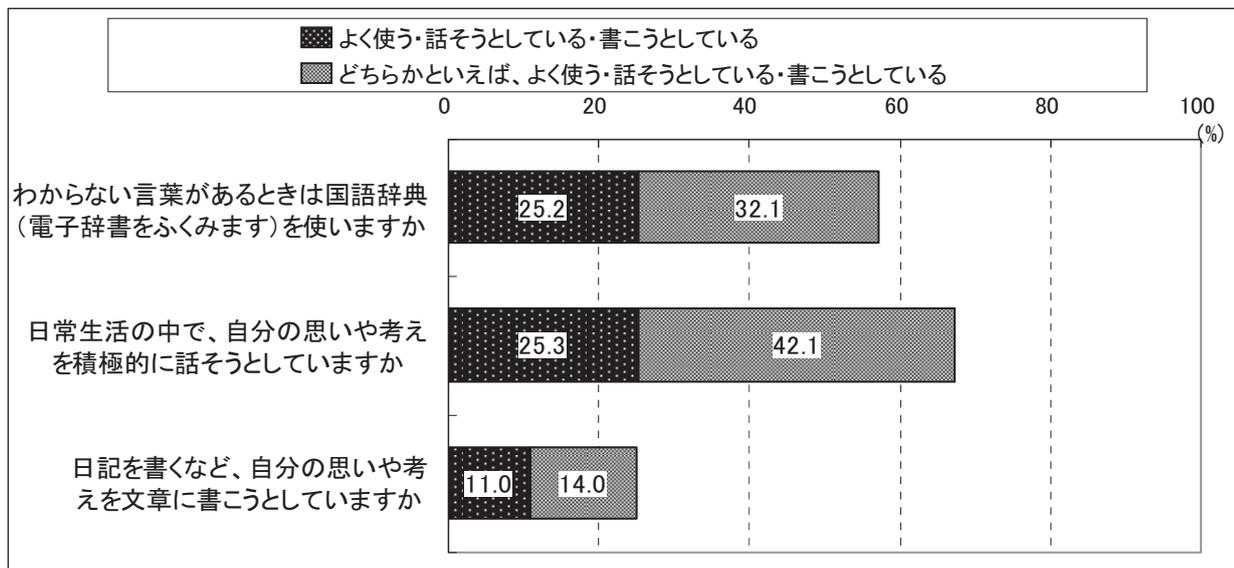
| | 平均冊数 |
|-----|-------|
| H21 | 2.4 冊 |
| H22 | 2.3 冊 |
| H23 | 2.4 冊 |

*31冊以上の回答は集計から除外しています。

○「0冊」と回答した生徒は33.3%で、昨年度よりも0.4ポイント増加している。
○昨年度と比較すると、「0冊」、「10冊以上」と回答した生徒の割合が増加し、「1～3冊」と回答した生徒の割合が減少している。

6 各教科等に対する意識・実態

(1) 国語【問 31～33】



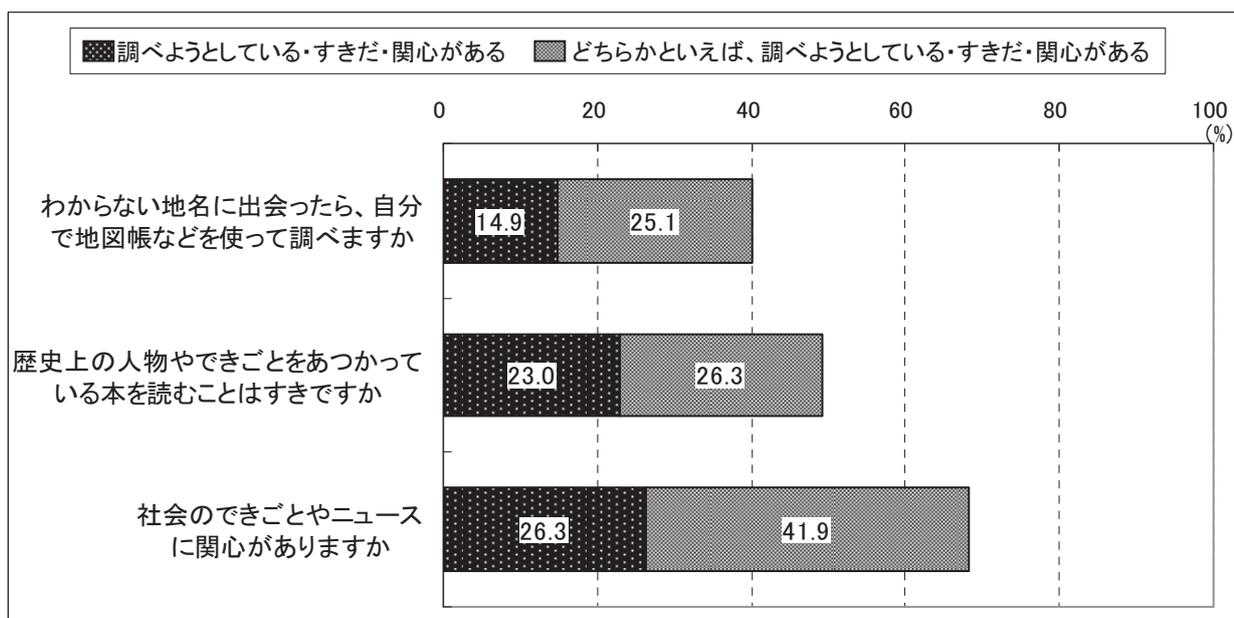
○わからない言葉があるとき、国語辞典を使う生徒は、「どちらかといえば」を含めると 57.3% である。

○「自分の思いや考え」を積極的に話そうとしている生徒、文章に書こうとしている生徒は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 67.4%、25.0% である。

○昨年度と比べると、「自分の思いや考えを話そうとしている」生徒の割合は、「どちらかといえば」を含めると 1.1 ポイント増加している。

*資料 意識-25 ページ 【問 32】参照

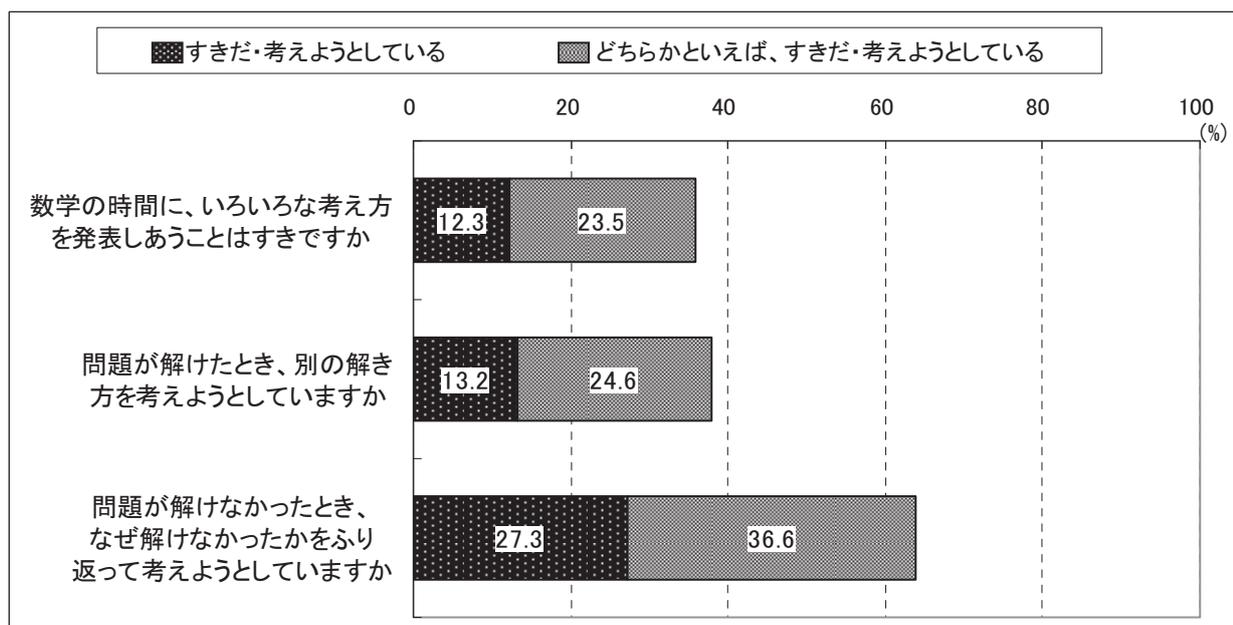
(2) 社会【問 34～36】



○自分で地図帳等を調べる生徒、歴史に関する本を読むことが好きな生徒は、「どちらかといえば」を含めるとそれぞれ、40.0%、49.3% である。

○社会のできごとやニュースに関心がある生徒は多く、「どちらかといえば」を含めると 68.2% である。

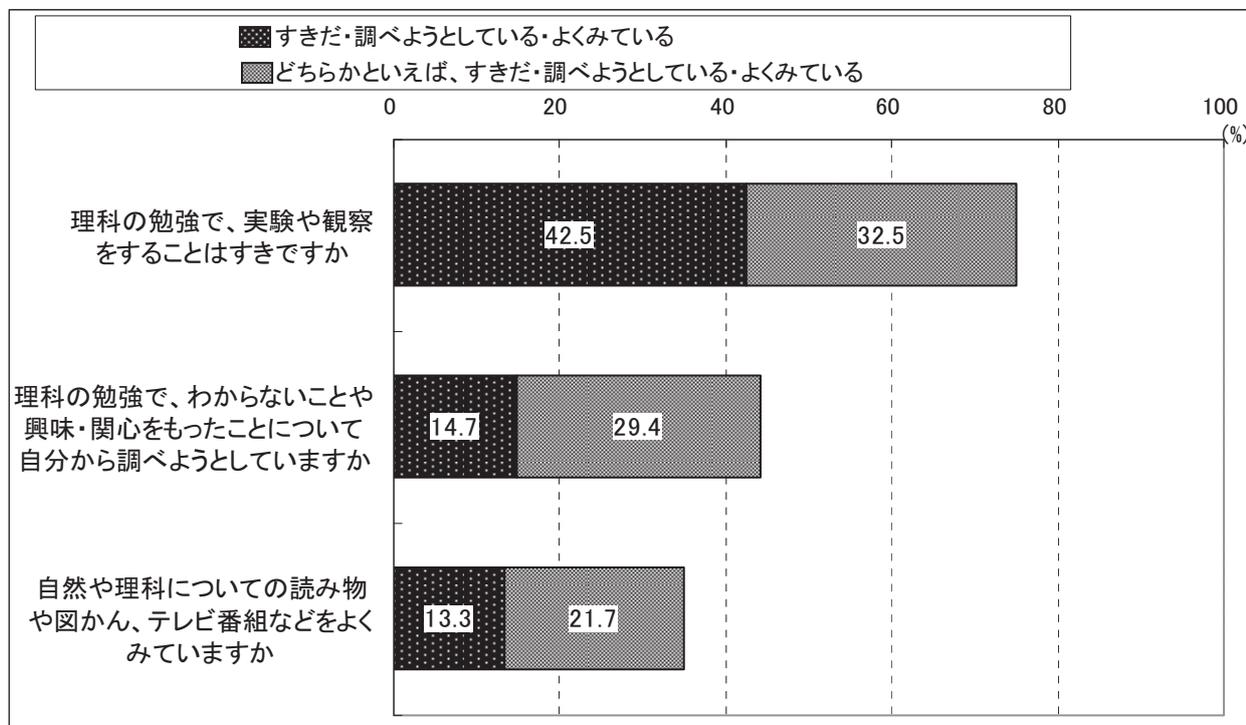
(3) 数学【問 37～39】



○いろいろな考え方を発表しあうことが好きな生徒、問題が解けたときに別の解き方を考えようとしている生徒は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 35.8%、37.8%である。

○問題が解けなかったときに、その理由を考えようとしている生徒は、「どちらかといえば」を含めると 63.9%である。3問とも「どちらかといえば」を含めた割合は、ここ3年間増加している。*資料 意識-26 ページ【問 37, 38, 39】参照

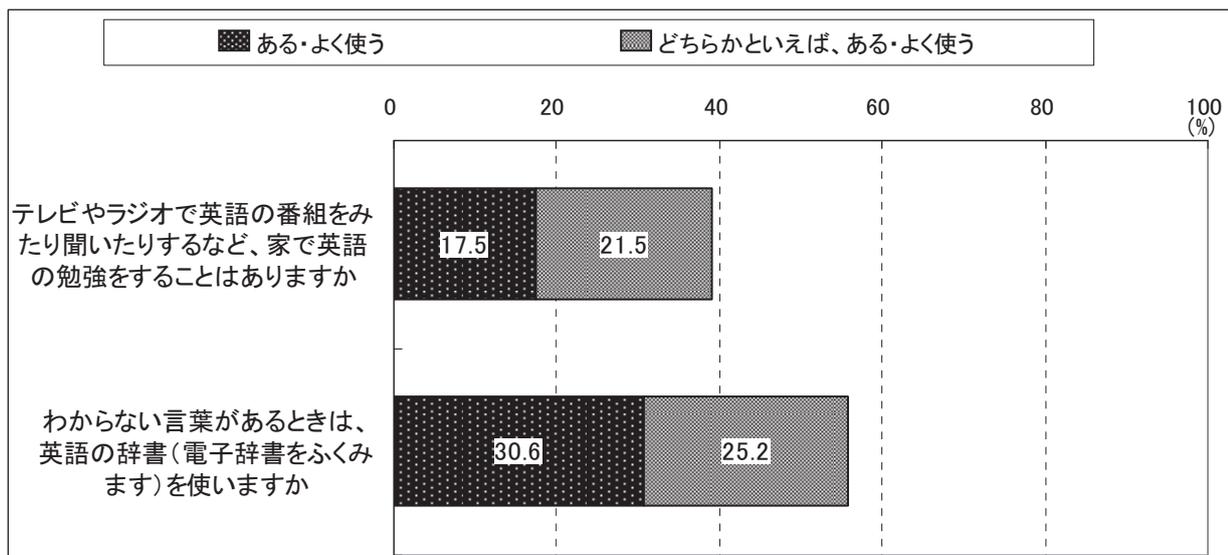
(4) 理科【問 40～42】



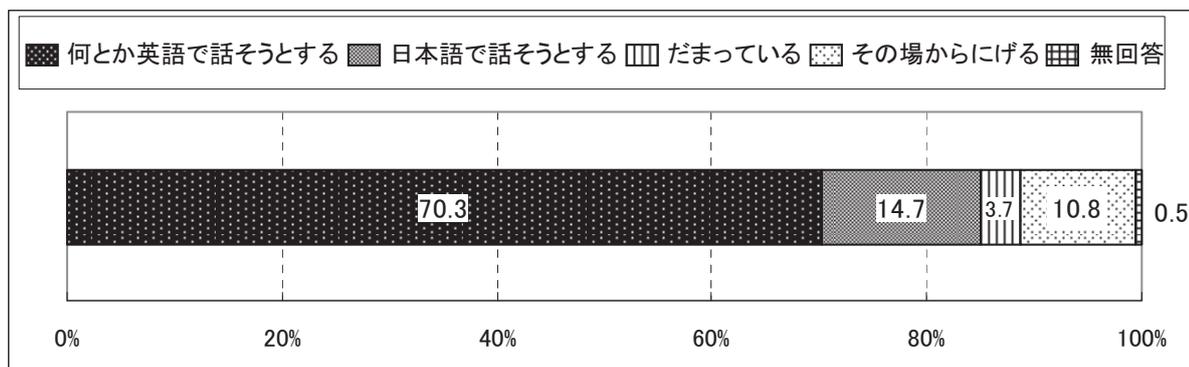
○理科の実験や観察の授業が好きな生徒は、「どちらかといえば」を合わせると 75.0%である。

○わからないことや興味・関心をもったことについて自分から調べようとする生徒、自然・理科に関する読み物や図鑑、テレビ番組等を見ている生徒は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 44.1%、35.0%である。問 40、問 41 において「どちらかといえば」を含めた割合は、ここ3年間増加している。*資料 意識-26 ページ【問 40, 41】参照

(5) 英語【問 43～45】



[道で外国人に英語で話しかけられた場合]



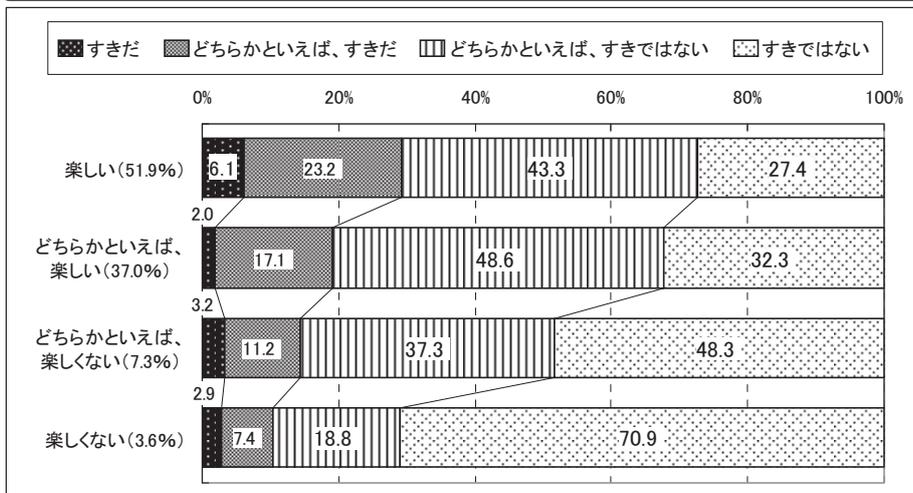
- 家でテレビやラジオをみたり聞いたりして英語を勉強している生徒、わからない言葉があるとき、英語辞書を使う生徒は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 39.0%、55.8%である。
- 道で外国人に英語で話しかけられたときに「何とか英語で話そうとする」生徒は、7割に当たる 70.3%である。一方、「だまっている」生徒は 3.7%、「その場からにげる」生徒は 10.8%であり、いずれも少ない。「だまっている」と回答した生徒の割合は昨年度と同等、「その場からにげる」と回答した生徒の割合は、昨年度より減少している。

*資料 意識-27 ページ 【問 45】参照

Ⅱ クロス集計

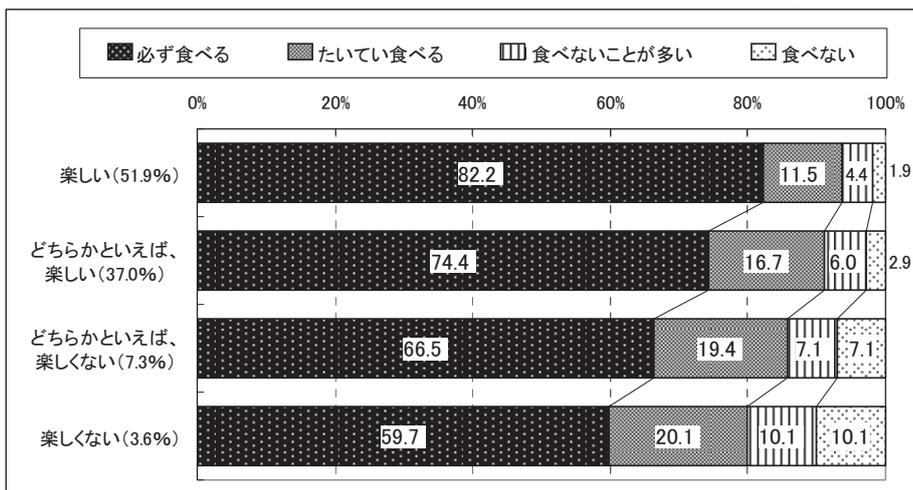
*縦軸の数値(%)は、その項目が単純集計に占める割合を示しています。

1 学校生活の楽しさ【問1】×学習に対する好感度【問2】



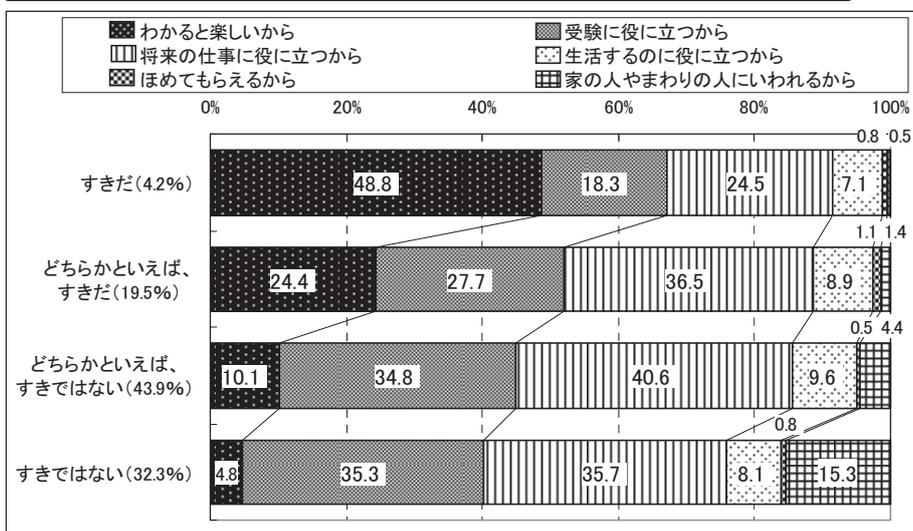
○学校生活を楽しいと感じている生徒ほど、学習に対する好感度の割合が高い。
○「好きではない」という回答は、学校が「どちらかといえば、楽しくない」では、約半数に当たる48.3%である。「楽しくない」では70.9%である。

2 学校生活の楽しさ【問1】×朝食の摂取【問26】



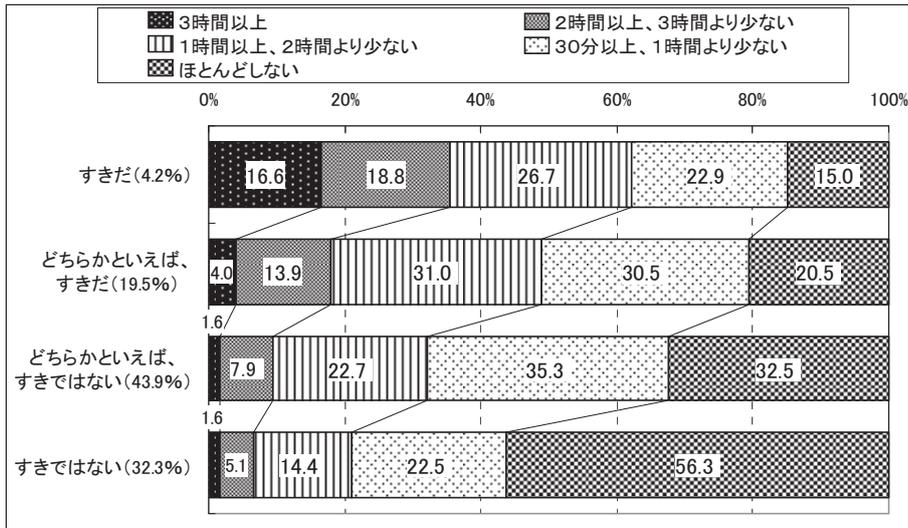
○学校生活を楽しいと感じている生徒ほど、朝食の摂取状況が良好な傾向がある。
○学校が「楽しくない」と回答した生徒では、「必ず食べる」が59.7%である一方、「食べないことが多い」と「食べない」という回答を合わせた割合は20.2%である。

3 学習に対する好感度【問2】×勉強する理由【問4】



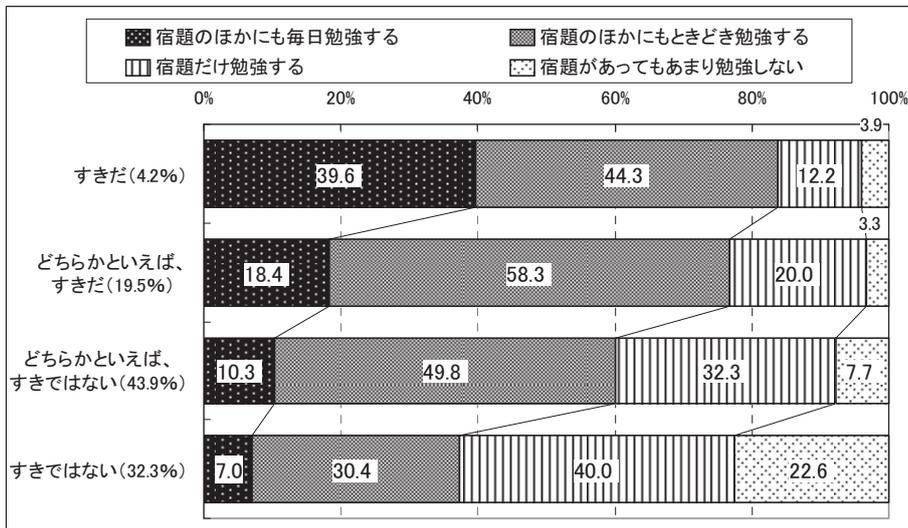
○勉強が「好きだ」と回答した生徒の48.8%が、「わかると楽しいから」を理由に挙げている。「好きだ」と回答した生徒以外は、「将来の仕事に役に立つから」を理由に挙げている割合が高い。
○学習に対する好感度が低い生徒ほど、「家の人やまわりの人にいわれるから」を理由に挙げている割合が高い。

4 学習に対する好感度【問2】×家庭学習時間（平日）【問21】



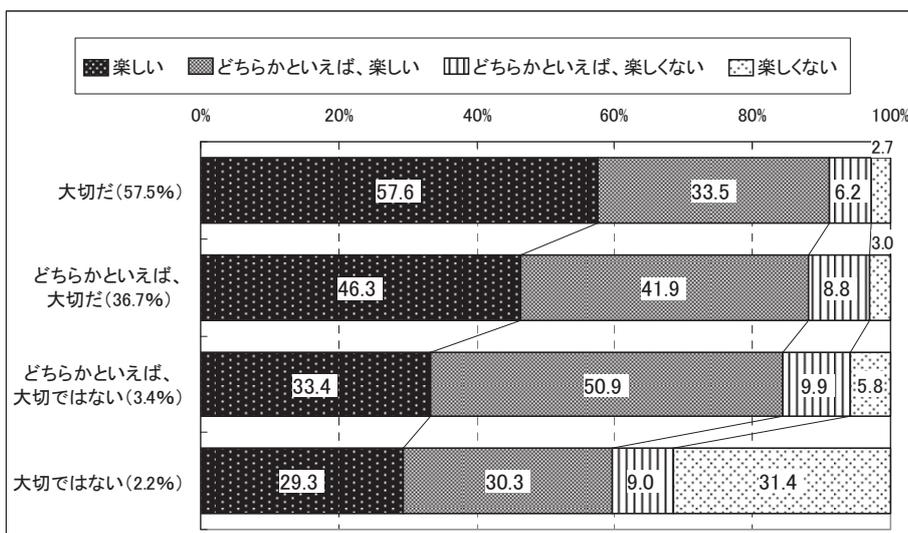
○学習に対する好感度が高い生徒ほど、平日の家庭学習時間が長い傾向がある。
○勉強が「好きではない」と回答した生徒の56.3%が、家での勉強を「ほとんどしない」と回答している。

5 学習に対する好感度【問2】×家庭学習の内容【問23】



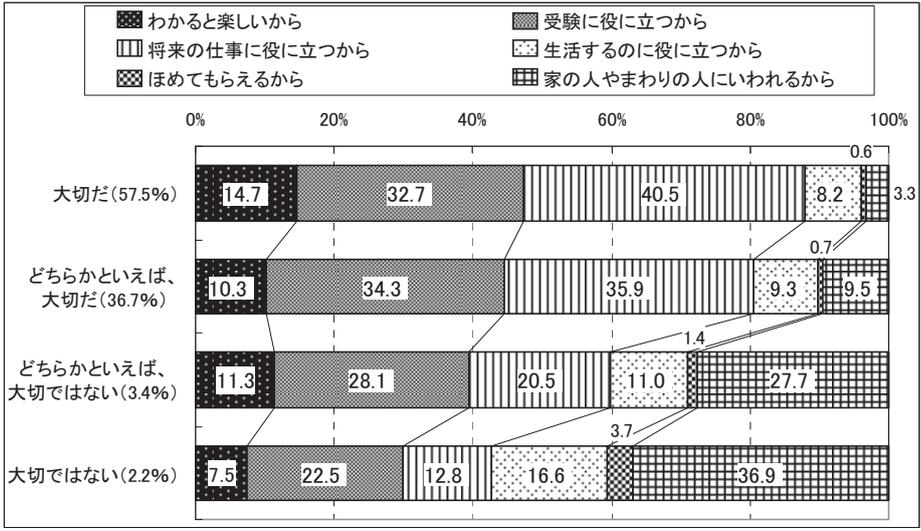
○勉強が「好きだ」と回答した生徒では、39.6%が宿題のほかに「毎日勉強する」、44.3%が「ときどき勉強する」と回答している。
○学習に対する好感度が低い生徒ほど、「宿題だけ勉強する」と「宿題があってもあまり勉強しない」と回答した生徒の割合が高くなる。

6 学習の必要性【問3】×学校生活の楽しさ【問1】



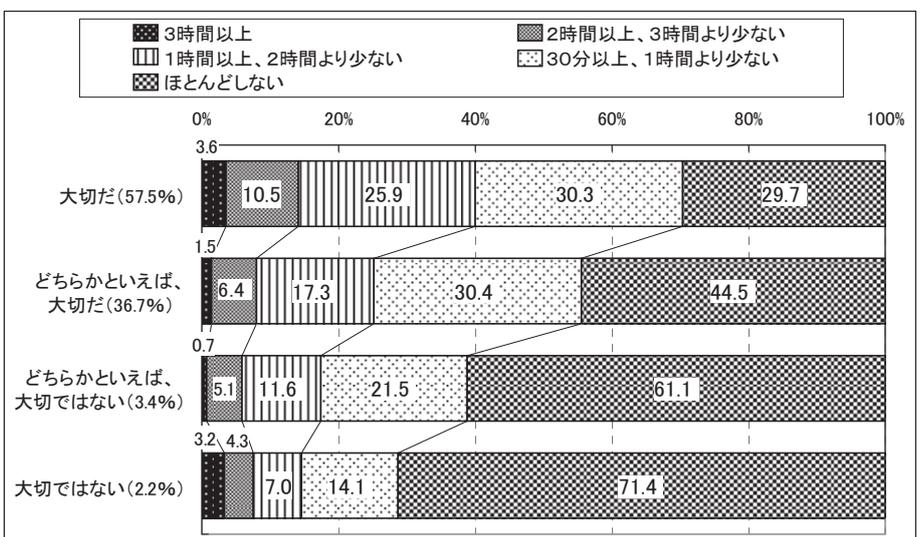
○学習に対する必要性を感じている生徒ほど、学校生活を楽しいと感じている傾向がある。
○勉強が「大切ではない」と回答した生徒の31.4%が「楽しくない」と回答しており、「どちらかといえば、楽しくない」を合わせると40.4%になる。

7 学習の必要性【問3】×勉強する理由【問4】



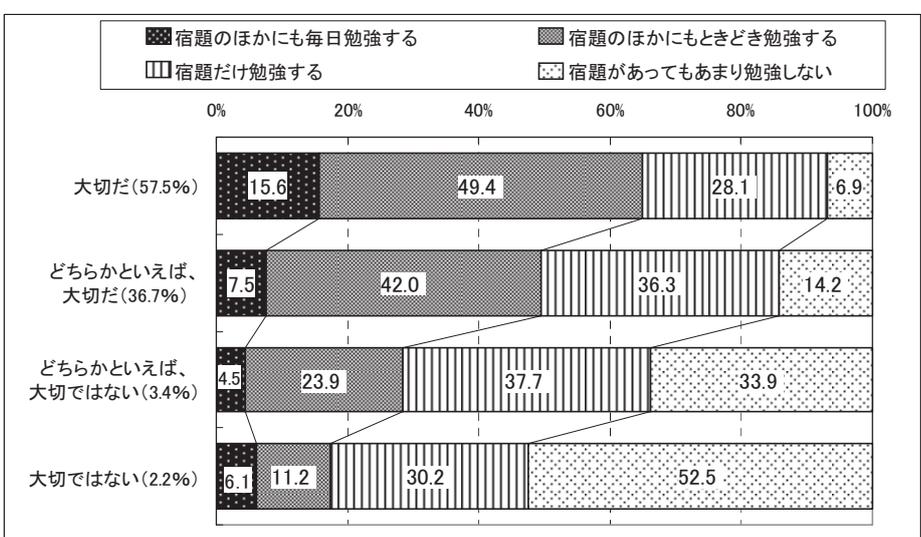
○学習に対する必要感が高い生徒ほど、「将来の仕事に役に立つから」と「わかると楽しいから」を勉強する理由に挙げている割合が高い。
 ○学習に対する必要感が低い生徒ほど、勉強する理由として「わかると楽しいから」、「将来の仕事に役に立つから」を挙げる割合が低くなり、反対に「家の人やまわりの人にいわれるから」を挙げる割合が高くなる。

8 学習の必要性【問3】×家庭学習時間(平日)【問21】



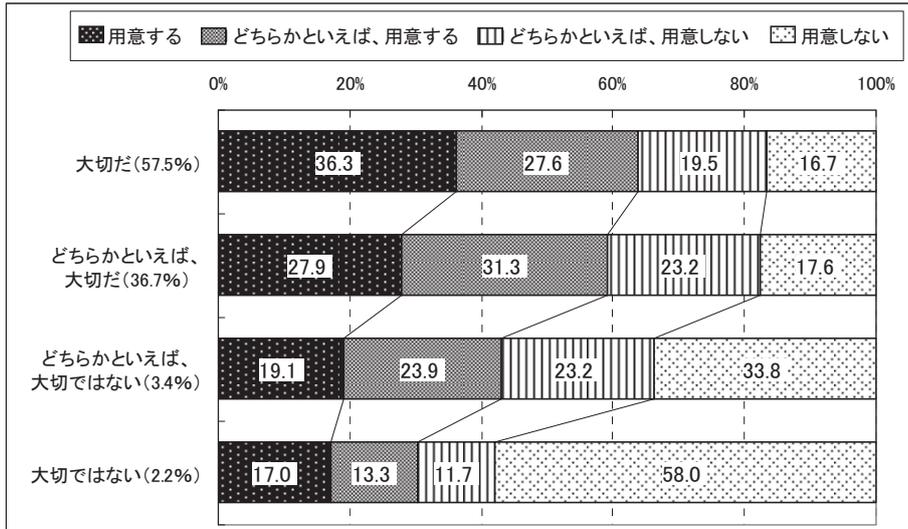
○学習に対する必要性を感じている生徒ほど、平日に家庭学習をしている割合が高い。
 ○勉強が「どちらかといえば、大切ではない」と回答した生徒の61.1%、「大切ではない」と回答した生徒の71.4%が、平日に家庭学習を「ほとんどしない」と回答している。

9 学習の必要性【問3】×家庭学習の内容【問23】



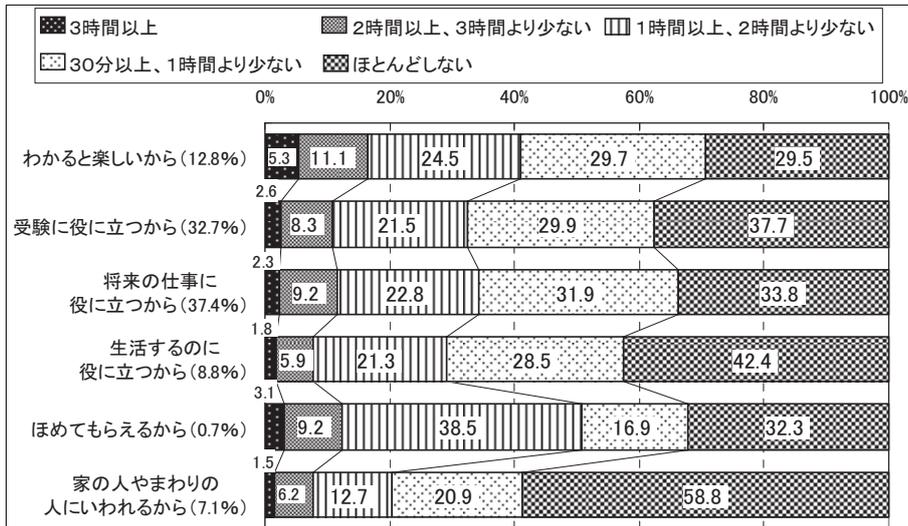
○勉強が「大切だ」と回答した生徒ほど、宿題以外にも勉強をしている割合が高い。
 ○勉強が「大切ではない」と回答した生徒の半数近くが、「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

10 学習の必要性【問3】×学習の準備【問27】



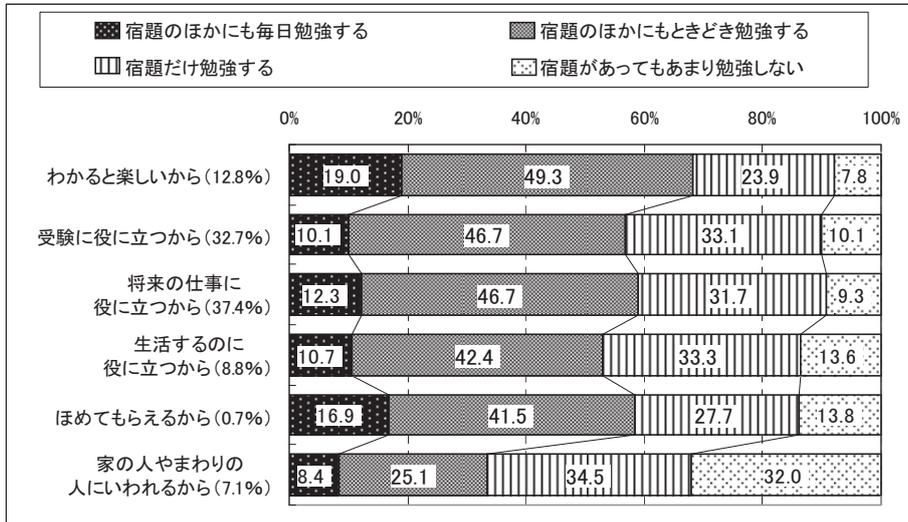
○勉強が「大切だ」と回答した生徒ほど、前日に学校の持ち物を「用意する」と回答した割合が高い。
 ○勉強が「どちらかといえば、大切ではない」と回答した生徒の33.8%、「大切ではない」と回答した生徒の58.0%は、前日には持ち物を「用意しない」と回答している。

11 勉強する理由【問4】×家庭学習時間(平日)【問21】



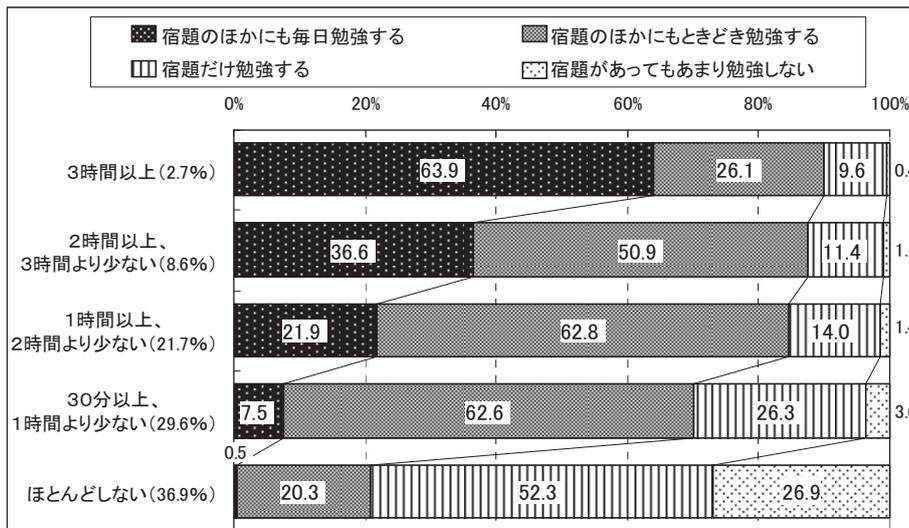
○勉強する理由を「家の人やまわりの人にいわれるから」と回答した生徒の58.8%が、家庭学習を「ほとんどしない」と回答している。
 ○勉強する理由を「わかると楽しいから」と回答した生徒の平日の家庭学習の時間の割合は、他よりも高くなっている。

12 勉強する理由【問4】×家庭学習の内容【問23】



○勉強する理由として、「わかると楽しいから」、「将来の仕事に役に立つから」、「ほめてもらえるから」を挙げている生徒は、他と比較して宿題以外にも家で毎日勉強している割合が高い。
 ○「家の人やまわりの人にいわれるから」と回答した生徒は、他と比較して家庭での学習をしていない割合が高い。

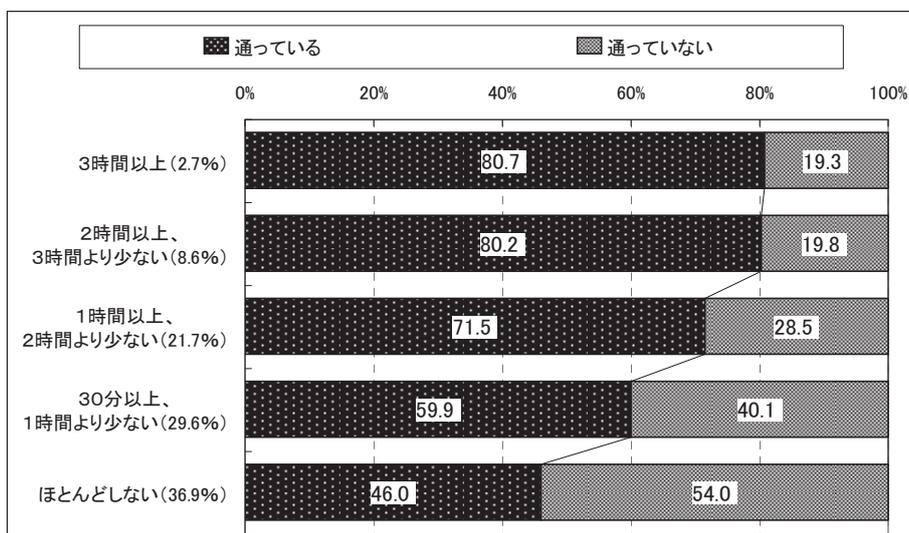
13 家庭学習時間（平日）【問 21】 × 家庭学習の内容【問 23】



○平日の家庭学習時間が長い生徒ほど、「宿題のほかに毎日勉強する」傾向がある。

○家での勉強を「ほとんどしない」と回答した生徒では、52.3%が「宿題だけ勉強する」、26.9%が「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

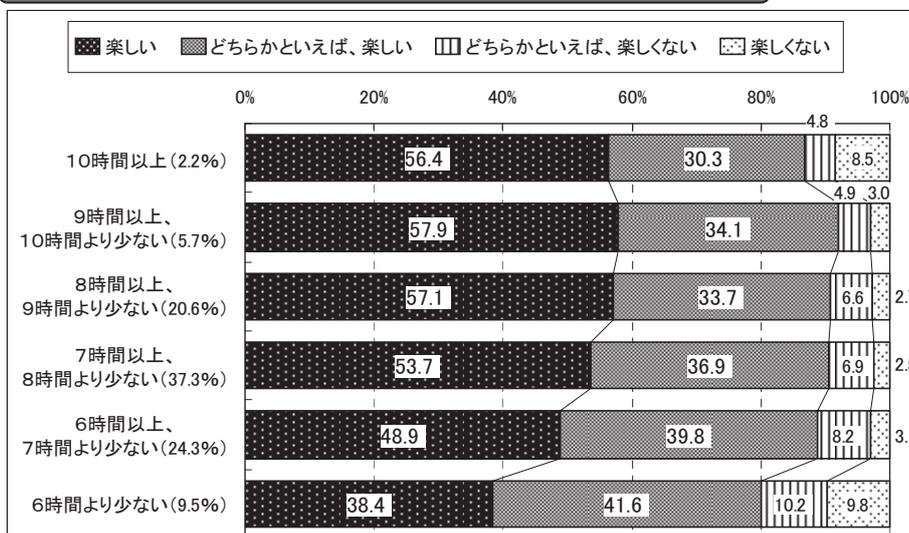
14 家庭学習時間（平日）【問 21】 × 通塾【問 24】



○平日の家庭学習時間が「2時間以上、3時間より少ない」生徒の80.2%、「3時間以上」の生徒の80.7%が学習塾に通っている。

○平日に家庭学習を「ほとんどしない」と回答した生徒の46.0%は塾で勉強している。

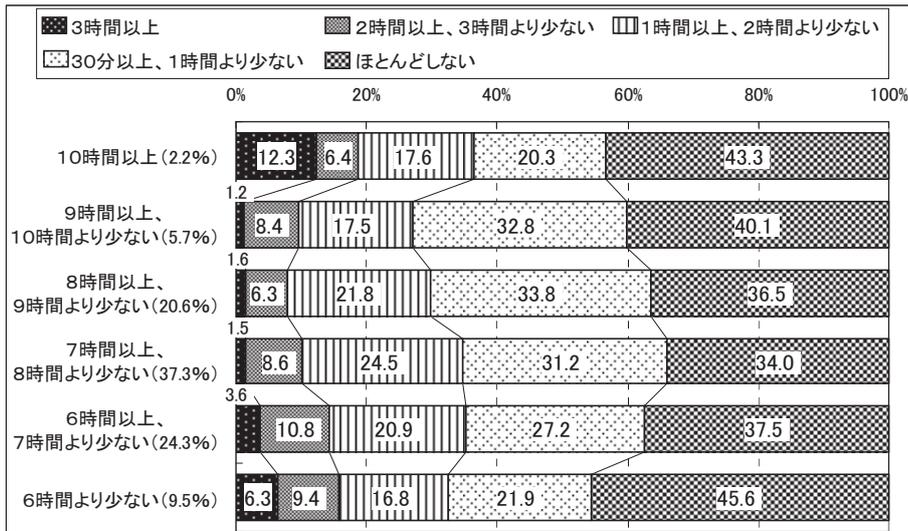
15 睡眠時間【問 25】 × 学校生活の楽しさ【問 1】



○「どちらかといえば、楽しい」までを含め、学校生活を楽しんでいる割合が高いのは、睡眠時間が「9～10時間」の生徒である。

○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した生徒では、20.0%の生徒が、学校生活が「楽しくない」、「どちらかといえば、楽しくない」と回答している。

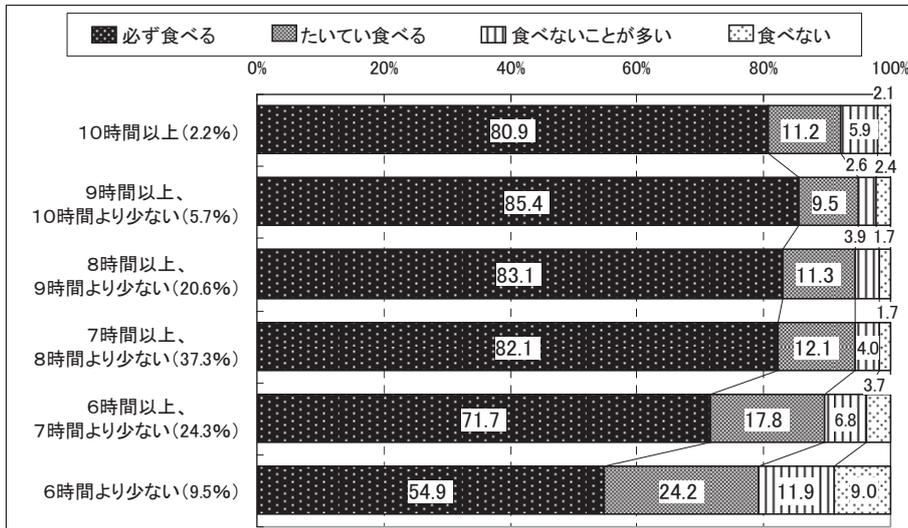
16 睡眠時間【問 25】×家庭学習時間（平日）【問 21】



○睡眠時間が「10 時間以上」と回答した生徒の 12.3%が、家庭学習時間が「3時間以上」と回答し、他と比べて割合が高い。

○睡眠時間が「6 時間より少ない」と回答した生徒の 45.6%が、家庭学習を「ほとんどしない」という回答をしている。

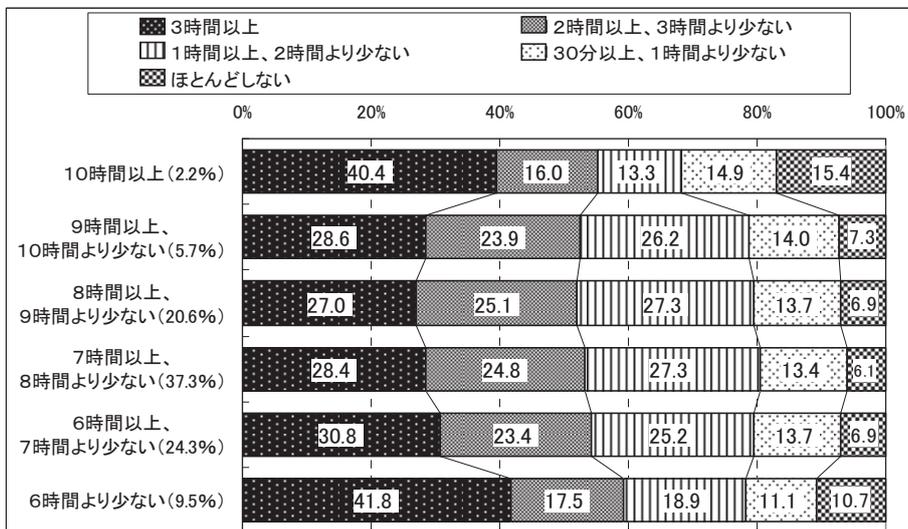
17 睡眠時間【問 25】×朝食の摂取【問 26】



○睡眠時間が「7 時間以上」の生徒の朝食の摂取状況が、比較的良好である。

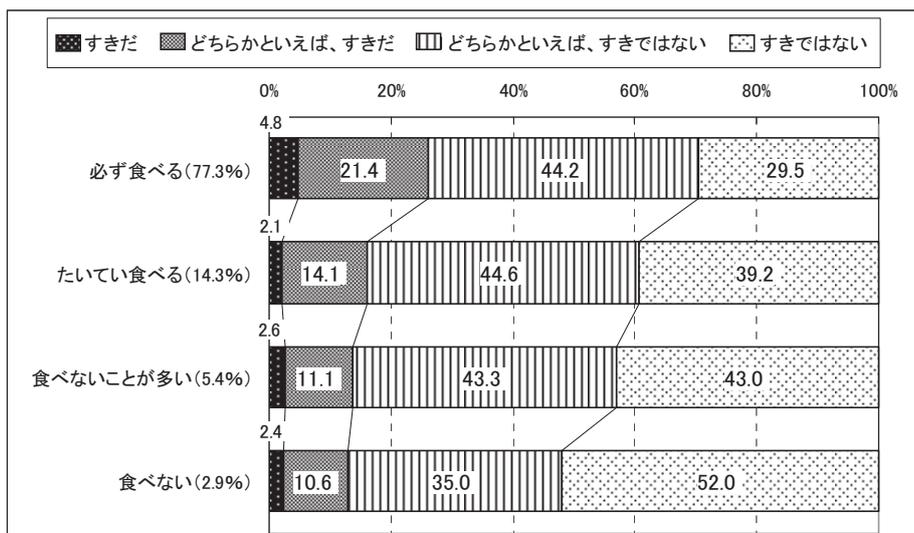
○睡眠時間が「6 時間より少ない」生徒では、「必ず食べる」という回答が 54.9%で、「食べないことが多い」と「食べない」を合わせた割合は、20.9%である。

18 睡眠時間【問 25】×テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間（平日）【問 28】



○睡眠時間が「10 時間以上」の生徒の 40.4%、「6 時間より少ない」生徒の 41.8%が、テレビ等の視聴・実施時間が「3 時間以上」と回答し、視聴・実施時間が長くなる傾向がみられる。

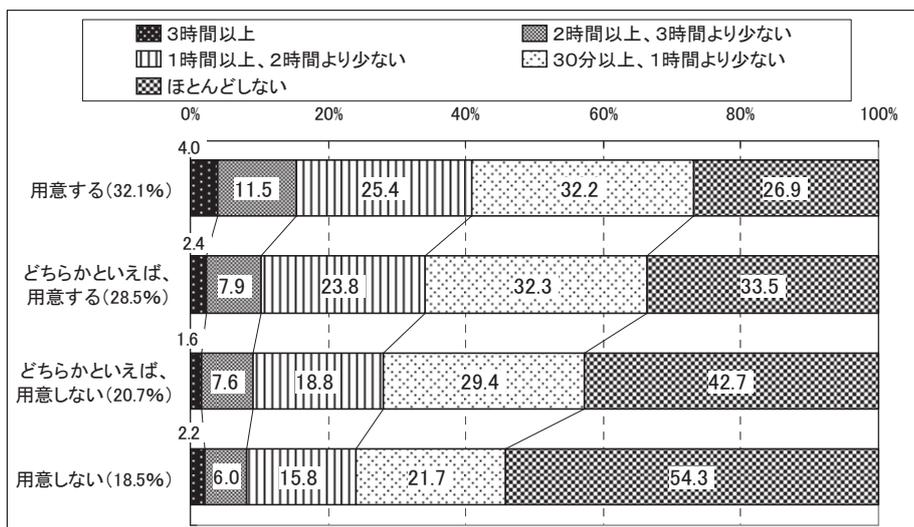
19 朝食の摂取【問26】×学習に対する好感度【問2】



○朝食を「必ず食べる」と回答した生徒が、学習を「好きだ」または「どちらかといえば、好きだ」と回答する割合が一番高い。

○朝食を「食べない」生徒の52.0%が、勉強が「好きではない」と回答しており、割合が一番高い。

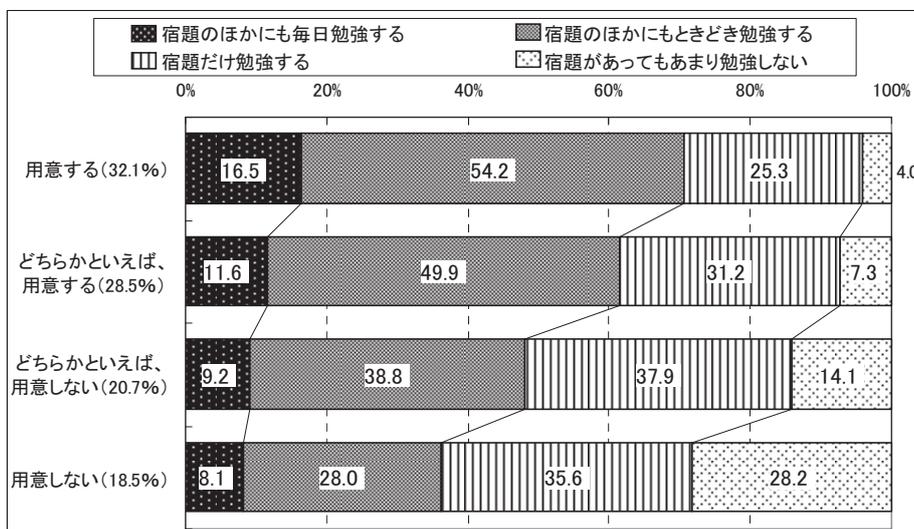
20 学習の準備【問27】×家庭学習時間(平日)【問21】



○平日に家庭学習をしている生徒の割合は、前日に学校の持ち物を用意する生徒ほど、高い傾向がある。

○「どちらかといえば、用意しない」生徒の42.7%、「用意しない」生徒の54.3%が、平日に家庭学習を「ほとんどしない」と回答している。

21 学習の準備【問27】×家庭学習の内容【問23】

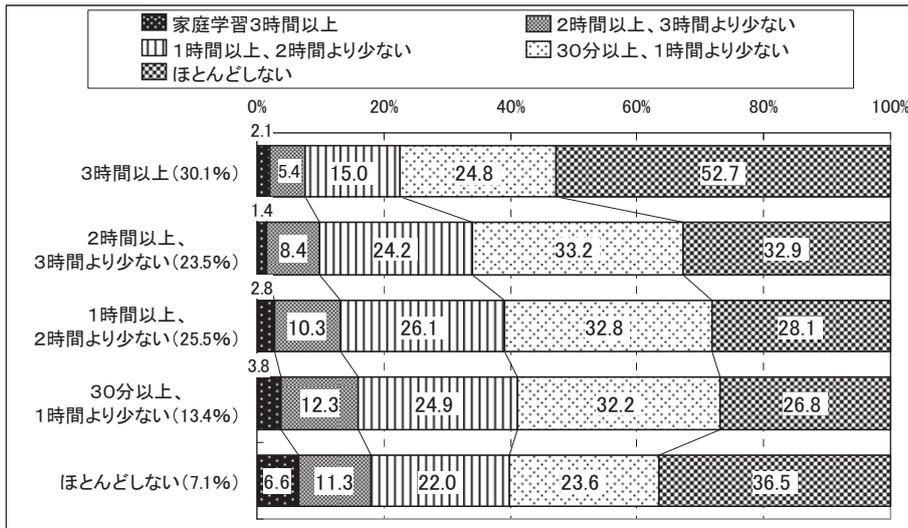


○前日に学校の持ち物を用意している生徒ほど、家庭で宿題のほかに勉強している傾向がある。

○前日に持ち物を「用意しない」と回答した生徒では、28.2%が「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

22 テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間（平日）【問 28】

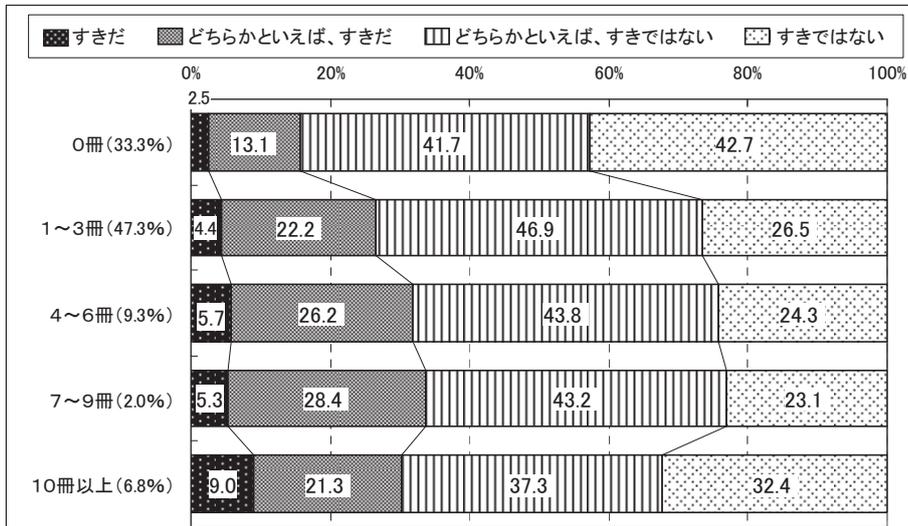
×家庭学習時間（平日）【問 21】



○テレビの視聴等をほとんどしないという生徒を除くと、視聴時間が長い生徒ほど、平日に家庭学習を「ほとんどしない」生徒の割合が高くなる傾向がある。

○テレビの視聴時間等が「3時間以上」の生徒では、半数以上に当たる52.7%が平日に家庭学習を「ほとんどしない」と回答している。

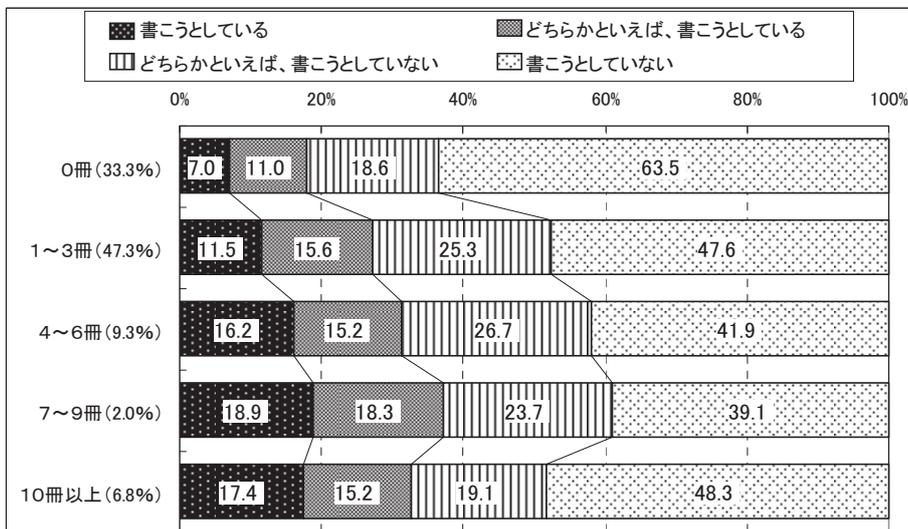
23 1ヶ月の読書量【問 30】 ×学習に対する好感度【問 2】



○1ヶ月の読書量が多いほど、学習に対する好感度が高い傾向がある。

○1ヶ月に1冊も本を読まない生徒の42.7%が、勉強が「すきではない」と回答しており、「どちらかといえば、すきではない」を合わせると84.4%である。

24 1ヶ月の読書量【問 30】 ×思いや考えを書こうとする意欲【問 33】



○読書をしている生徒は、1ヶ月に1冊も本を読まない生徒に比べ、自分の思いや考えを「書こうとしている」と回答している傾向がある。

○1ヶ月に1冊も本を読まない生徒では、「どちらかといえば」までを含めると、82.1%が自分の思いや考えを「書こうとしていない」と回答している。

Ⅲ 各教科の正答率との相関

1 学校生活の楽しさ【問1】

| 正答率 | 楽しい | どちらかといえば、楽しい | どちらかといえば、楽しくない | 楽しくない |
|-----|------|--------------|----------------|-------|
| 国語 | 65.1 | 63.3 | 60.8 | 56.3 |
| 社会 | 56.7 | 55.0 | 51.3 | 47.2 |
| 数学 | 53.4 | 50.2 | 44.8 | 40.9 |
| 理科 | 49.8 | 48.0 | 43.9 | 40.3 |
| 英語 | 64.5 | 61.5 | 56.8 | 52.3 |

○すべての教科において、学校生活が「楽しい」と回答した生徒ほど正答率が高い。

○「楽しい」と「楽しくない」と回答した生徒の間の正答率の差が最も大きい教科は「数学」で12.5ポイント、英語(12.2)、社会(9.5)、理科(9.5)の順で続き、国語(8.8)の差が最も小さい。

2 学習に対する好感度【問2】

| 正答率 | すきだ | どちらかといえば、すきだ | どちらかといえば、すきではない | すきではない |
|-----|------|--------------|-----------------|--------|
| 国語 | 70.9 | 68.8 | 63.7 | 59.9 |
| 社会 | 66.1 | 62.1 | 55.0 | 50.2 |
| 数学 | 64.9 | 60.2 | 50.6 | 44.6 |
| 理科 | 60.4 | 55.6 | 48.0 | 42.8 |
| 英語 | 75.1 | 70.8 | 62.4 | 55.6 |

○すべての教科において、学校の勉強が「すきだ」と回答した生徒ほど正答率が高い。

○「すきだ」と「すきではない」と回答した生徒の間の正答率の差が最も大きい教科は「数学」で20.3ポイント、英語(19.5)、理科(17.6)、社会(15.9)の順で続き、国語(11.0)の差が最も小さい。

3 学習の必要性【問3】

| 正答率 | 大切だ | どちらかといえば、大切だ | どちらかといえば、大切ではない | 大切ではない |
|-----|------|--------------|-----------------|--------|
| 国語 | 66.1 | 61.5 | 56.6 | 52.1 |
| 社会 | 58.3 | 52.0 | 47.4 | 44.5 |
| 数学 | 55.1 | 46.8 | 39.1 | 37.2 |
| 理科 | 51.5 | 45.0 | 39.6 | 35.9 |
| 英語 | 66.1 | 58.6 | 51.9 | 46.2 |

○全ての教科において、学校の勉強が「大切だ」と回答した生徒ほど正答率が高い。

○「大切だ」と「大切ではない」と回答した生徒の間の正答率の差が最も大きい教科は「英語」で19.9ポイント、数学(17.9)、理科(15.6)、国語(14.0)の順で続き、社会(13.8)の差が最も小さい。

4 各教科の好感度【問5～9】

| 正答率 | すきだ | どちらかといえば、すきだ | どちらかといえば、すきではない | すきではない |
|-----|------|--------------|-----------------|--------|
| 国語 | 68.1 | 64.4 | 61.8 | 58.6 |
| 社会 | 64.0 | 56.2 | 51.1 | 47.1 |
| 数学 | 67.7 | 56.7 | 44.9 | 36.1 |
| 理科 | 58.0 | 49.8 | 44.4 | 40.2 |
| 英語 | 78.2 | 67.1 | 55.6 | 47.0 |

○すべての教科において、該当教科の好感度が高い生徒ほど正答率が高い。

○「すきだ」と「すきではない」と回答した生徒の間の正答率の差が最も大きい教科は「数学」で31.6ポイント、英語(31.2)、理科(17.8)、社会(16.9)の順で続き、国語(9.5)の差が最も小さい。

5 各教科の理解度【問 10~14】

| 正答率 | わかる | どちらかとい えば、わかる | どちらかといえ ば、わからない | わからない |
|-----|------|------------------|--------------------|-------|
| 国 語 | 69.1 | 63.7 | 55.8 | 51.8 |
| 社 会 | 64.8 | 55.0 | 46.8 | 41.3 |
| 数 学 | 67.5 | 53.7 | 38.2 | 26.1 |
| 理 科 | 59.7 | 49.2 | 41.1 | 35.7 |
| 英 語 | 79.0 | 65.6 | 49.6 | 40.6 |

○すべての教科において、該当教科の理解度が高い生徒ほど正答率が高い。

○「わかる」と「わからない」と回答した生徒の間の正答率の差が最も大きい教科は「数学」で 41.4 ポイント、英語 (38.4)、理科 (24.0)、社会 (23.5) の順で続き、国語 (17.3) の差が最も小さい。

6 各教科の有用感【問 15~19】

| 正答率 | 役に立つ | どちらかとい えば、役に立つ | どちらかといえ ば、役に立たない | 役に立たない |
|-----|------|-------------------|---------------------|--------|
| 国 語 | 65.2 | 63.4 | 62.1 | 57.3 |
| 社 会 | 59.4 | 55.9 | 53.8 | 49.6 |
| 数 学 | 55.4 | 50.4 | 48.6 | 40.7 |
| 理 科 | 53.6 | 50.0 | 47.5 | 41.6 |
| 英 語 | 69.2 | 62.3 | 57.2 | 48.2 |

○すべての教科において、該当教科に有用感を感じている生徒ほど正答率が高い。

○「役に立つ」と「役に立たない」と回答した生徒の間の正答率の差が最も大きい教科は「英語」で 21.0 ポイント、数学 (14.7)、理科 (12.0)、社会 (9.8) の順で続き、国語 (7.9) の差が最も小さい。

7 家庭学習時間 (平日)【問 21】

| 正答率 | 3時間以上 | 2時間以上、 3時間より 少ない | 1時間以上、 2時間より 少ない | 30分以上、 1時間より 少ない | ほとんどし ない |
|-----|-------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------|
| 国 語 | 64.9 | 67.4 | 66.2 | 64.2 | 61.2 |
| 社 会 | 58.8 | 60.9 | 58.7 | 56.1 | 51.2 |
| 数 学 | 57.9 | 59.1 | 56.3 | 52.1 | 45.0 |
| 理 科 | 52.3 | 54.0 | 51.3 | 49.4 | 44.2 |
| 英 語 | 69.3 | 70.8 | 67.5 | 63.5 | 56.2 |

○平日の家庭学習の時間が「2時間～3時間」の生徒の正答率が最も高く、すべての教科において「ほとんどしない」と回答した生徒の正答率が最も低い。

○「30分～1時間」と「ほとんどしない」と回答した生徒の間の正答率の差が最も大きいのは英語 (7.3) で、数学 (7.1) が続いている。

8 家庭学習の内容【問 23】

| 正答率 | 宿題のほかに も毎日勉強す る | 宿題のほかに もときどき勉 強する | 宿題だけ勉強 する | 宿題があつて もあまり勉強 しない |
|-----|-----------------------|-------------------------|--------------|-------------------------|
| 国 語 | 68.8 | 66.4 | 61.9 | 53.9 |
| 社 会 | 63.1 | 58.3 | 52.6 | 43.5 |
| 数 学 | 60.4 | 55.4 | 48.2 | 33.3 |
| 理 科 | 57.0 | 51.4 | 45.6 | 35.5 |
| 英 語 | 71.3 | 66.7 | 59.7 | 44.6 |

○すべての教科において、「宿題のほかに毎日勉強する」生徒の正答率が最も高く、「宿題があつてもあまり勉強しない」生徒の正答率が最も低い。

○「宿題だけ勉強する」と「宿題があつてもあまり勉強しない」と回答した生徒の間の正答率の差が最も大きいのは、英語 (15.1) で、数学 (14.9) が続いている。

9 朝食の摂取【問 26】

| 正答率 | 必ず食べる | たいてい食べる | 食べないことが多い | 食べない |
|-----|-------|---------|-----------|------|
| 国 語 | 66.1 | 57.8 | 53.1 | 52.0 |
| 社 会 | 58.3 | 47.2 | 42.2 | 39.9 |
| 数 学 | 54.9 | 41.2 | 33.2 | 31.5 |
| 理 科 | 51.3 | 40.1 | 35.9 | 33.4 |
| 英 語 | 65.9 | 53.1 | 46.6 | 43.2 |

○すべての教科において、朝食の摂取状況の良い生徒ほど正答率が高い。

○「必ず食べる」と「食べない」と回答した生徒の間の正答率の差が最も大きい教科は「数学」で23.4ポイント、英語（22.7）、社会（18.4）、理科（17.9）の順で続き、国語（14.1）の差が最も小さい。

資料 調査結果集計表

(数字はすべて%)

【共通】

問1 学校生活は、楽しいですか。

| | 楽しい | どちらかといえば、 楽しい | どちらかといえば、 楽しくない | 楽しくない | 無回答 |
|-----|-------------|------------------|--------------------|-------|-----|
| H21 | 47.9 | 38.9 | 8.9 | 4.2 | 0.1 |
| H22 | 51.2 | 37.3 | 7.3 | 4.0 | 0.2 |
| H23 | 51.9 | 37.0 | 7.3 | 3.6 | 0.1 |

問2 勉強は、好きですか。

| | 好きだ | どちらかといえば、 好きだ | どちらかといえば、 好きではない | 好きではない | 無回答 |
|-----|-----|------------------|---------------------|--------|-----|
| H21 | 4.2 | 20.5 | 42.6 | 32.6 | 0.0 |
| H22 | 4.7 | 21.0 | 42.6 | 31.5 | 0.1 |
| H23 | 4.2 | 19.5 | 43.9 | 32.3 | 0.1 |

問3 勉強をすることは、大切なことだと思いますか。

| | 大切だ | どちらかといえば、 大切だ | どちらかといえば、 大切ではない | 大切ではない | 無回答 |
|-----|-------------|------------------|---------------------|--------|-----|
| H21 | 51.6 | 41.4 | 4.1 | 2.7 | 0.1 |
| H22 | 56.5 | 38.0 | 3.4 | 2.0 | 0.1 |
| H23 | 57.5 | 36.7 | 3.4 | 2.2 | 0.2 |

問4 勉強をする一番の理由はなんですか。

| | わかると楽し いから | 受験に役に立 つから | 将来の仕事に 役に立つから | 生活するのに 役に立つから | ほめてもらえ るから | 家の人やまわ りの人にいわ れるから | 無回答 |
|-----|---------------|---------------|------------------|------------------|---------------|--------------------------|-----|
| H21 | 12.6 | 30.7 | 36.0 | 10.7 | 0.8 | 8.6 | 0.4 |
| H22 | 13.5 | 30.9 | 37.0 | 10.3 | 0.7 | 7.2 | 0.5 |
| H23 | 12.8 | 32.7 | 37.4 | 8.8 | 0.7 | 7.1 | 0.4 |

問5～9 次の学習は好きですか。

| | | 好きだ | どちらかといえ ば、好きだ | どちらかといえ ば、好きではない | 好きではない | 無回答 |
|----|-----|------|------------------|---------------------|--------|-----|
| 国語 | H21 | 17.2 | 43.3 | 27.8 | 11.3 | 0.4 |
| | H22 | 18.4 | 44.4 | 26.4 | 10.1 | 0.7 |
| | H23 | 18.2 | 44.3 | 26.8 | 10.1 | 0.6 |
| 社会 | H21 | 24.5 | 36.4 | 25.5 | 13.2 | 0.4 |
| | H22 | 25.3 | 36.1 | 25.0 | 12.7 | 0.9 |
| | H23 | 22.0 | 37.2 | 27.1 | 13.1 | 0.7 |
| 数学 | H21 | 21.8 | 30.6 | 26.7 | 20.3 | 0.5 |
| | H22 | 21.1 | 30.0 | 27.7 | 20.3 | 0.9 |
| | H23 | 19.1 | 31.1 | 28.8 | 20.2 | 0.8 |
| 理科 | H21 | 19.0 | 34.6 | 28.6 | 17.3 | 0.5 |
| | H22 | 20.4 | 32.9 | 29.1 | 16.7 | 0.9 |
| | H23 | 19.6 | 35.2 | 29.4 | 15.0 | 0.9 |
| 英語 | H21 | 19.8 | 30.7 | 27.5 | 21.4 | 0.5 |
| | H22 | 21.1 | 30.8 | 26.7 | 20.6 | 0.8 |
| | H23 | 22.4 | 30.1 | 26.8 | 20.0 | 0.7 |

問 10～14 次の授業は、よくわかりますか。

| | | わかる | どちらかといえ ば、わかる | どちらかといえ ば、わからない | わからない | 無回答 |
|----|-----|------|------------------|--------------------|-------|-----|
| 国語 | H21 | 28.1 | 51.5 | 15.0 | 5.1 | 0.2 |
| | H22 | 31.8 | 49.7 | 13.8 | 4.4 | 0.3 |
| | H23 | 31.4 | 50.4 | 13.6 | 4.3 | 0.3 |
| 社会 | H21 | 31.2 | 42.7 | 18.0 | 7.9 | 0.3 |
| | H22 | 31.7 | 43.0 | 18.1 | 7.0 | 0.3 |
| | H23 | 29.7 | 43.3 | 19.8 | 7.0 | 0.3 |
| 数学 | H21 | 28.8 | 37.7 | 20.7 | 12.5 | 0.3 |
| | H22 | 28.0 | 38.0 | 21.7 | 11.8 | 0.4 |
| | H23 | 28.0 | 38.9 | 21.4 | 11.3 | 0.3 |
| 理科 | H21 | 22.3 | 42.9 | 23.5 | 10.9 | 0.3 |
| | H22 | 22.7 | 43.0 | 23.9 | 10.0 | 0.4 |
| | H23 | 22.8 | 43.4 | 24.3 | 9.2 | 0.4 |
| 英語 | H21 | 24.8 | 37.7 | 23.0 | 14.2 | 0.3 |
| | H22 | 26.5 | 37.0 | 22.8 | 13.3 | 0.4 |
| | H23 | 27.4 | 37.3 | 21.9 | 13.1 | 0.3 |

問 15～19 次の授業で学んだことは、生活の中で役に立っていると思いますか。

| | | 役に立つ | どちらかといえ ば、役に立つ | どちらかといえ ば、役に立たない | 役に立たない | 無回答 |
|----|-----|------|-------------------|---------------------|--------|-----|
| 国語 | H21 | 46.7 | 39.3 | 9.1 | 4.7 | 0.3 |
| | H22 | 46.4 | 38.6 | 10.0 | 4.5 | 0.4 |
| | H23 | 45.5 | 39.9 | 9.8 | 4.5 | 0.3 |
| 社会 | H21 | 18.6 | 37.8 | 29.9 | 13.4 | 0.3 |
| | H22 | 19.2 | 38.8 | 29.2 | 12.4 | 0.4 |
| | H23 | 20.6 | 40.1 | 27.4 | 11.6 | 0.3 |
| 数学 | H21 | 35.2 | 40.8 | 16.2 | 7.4 | 0.4 |
| | H22 | 34.9 | 40.7 | 16.3 | 7.7 | 0.4 |
| | H23 | 35.5 | 40.8 | 15.9 | 7.3 | 0.5 |
| 理科 | H21 | 12.9 | 36.5 | 33.9 | 16.4 | 0.4 |
| | H22 | 14.1 | 35.5 | 34.3 | 15.7 | 0.4 |
| | H23 | 13.9 | 36.2 | 34.4 | 14.8 | 0.6 |
| 英語 | H21 | 31.2 | 37.8 | 18.9 | 11.8 | 0.3 |
| | H22 | 32.6 | 37.8 | 18.7 | 10.4 | 0.4 |
| | H23 | 34.4 | 38.1 | 17.8 | 9.2 | 0.5 |

問 20 授業の中で、わからないことがあったら、どうすることが多いですか。(複数回答可)

| | その場で先生 にたずねる | 授業が終わっ てから先生に たずねる | 友だちにたず ねる | 家の人にたず ねる | 塾や家庭教師 の先生にたず ねる | 自分で調べる | そのままにし ておく |
|-----|-----------------|--------------------------|--------------|--------------|------------------------|--------|---------------|
| H21 | 31.8 | 28.4 | 74.6 | 40.7 | 38.9 | 44.7 | 36.0 |
| H22 | 31.6 | 29.6 | 74.2 | 40.5 | 40.2 | 44.6 | 36.5 |
| H23 | 31.2 | 29.6 | 74.4 | 40.3 | 40.4 | 43.8 | 35.5 |

問 21 学校のある日、家で1日どのくらい勉強しますか。

| | 3時間以上 | 2時間以上、3時間より少ない | 1時間以上、2時間より少ない | 30分以上、1時間より少ない | ほとんどしない | 無回答 |
|-----|-------|----------------|----------------|----------------|-------------|-----|
| H21 | 2.7 | 8.0 | 20.9 | 28.4 | 39.7 | 0.3 |
| H22 | 2.4 | 9.1 | 23.0 | 28.4 | 36.6 | 0.5 |
| H23 | 2.7 | 8.6 | 21.7 | 29.6 | 36.9 | 0.4 |

問 22 学校が休みの日、家で1日どのくらい勉強しますか。

| | 3時間以上 | 2時間以上、3時間より少ない | 1時間以上、2時間より少ない | 30分以上、1時間より少ない | ほとんどしない | 無回答 |
|-----|-------|----------------|----------------|----------------|-------------|-----|
| H21 | 5.6 | 9.5 | 19.4 | 24.0 | 40.8 | 0.6 |
| H22 | 5.4 | 10.3 | 20.0 | 24.2 | 39.5 | 0.6 |
| H23 | 6.0 | 10.7 | 19.7 | 25.1 | 37.9 | 0.7 |

問 23 ふだん、家でしている勉強は、どれに近いですか。

| | 宿題のほかに毎日勉強する | 宿題のほかにときどき勉強する | 宿題だけ勉強する | 宿題があってもあまり勉強しない | 無回答 |
|-----|--------------|----------------|----------|-----------------|-----|
| H21 | 11.3 | 42.5 | 31.5 | 13.6 | 1.1 |
| H22 | 12.5 | 43.7 | 30.1 | 12.8 | 0.9 |
| H23 | 11.9 | 44.6 | 31.2 | 11.4 | 0.9 |

問 24 学習塾に、通っていますか。

| | 通っている | 通っていない | 無回答 |
|-----|-------------|--------|-----|
| H21 | 57.7 | 41.5 | 0.8 |
| H22 | 58.7 | 40.5 | 0.8 |
| H23 | 59.1 | 40.1 | 0.8 |

問 25 学校がある日の、睡眠時間はどれくらいですか。

| | 10時間以上 | 9時間以上、10時間より少ない | 8時間以上、9時間より少ない | 7時間以上、8時間より少ない | 6時間以上、7時間より少ない | 6時間より少ない | 無回答 |
|-----|--------|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------|-----|
| H21 | 2.0 | 5.6 | 20.1 | 37.3 | 24.2 | 10.4 | 0.4 |
| H22 | 1.8 | 5.1 | 18.7 | 36.6 | 26.6 | 10.5 | 0.6 |
| H23 | 2.2 | 5.7 | 20.6 | 37.3 | 24.3 | 9.5 | 0.5 |

問 26 毎日、朝食を食べますか。

| | 必ず食べる | たいてい食べる | 食べないことが多い | 食べない | 無回答 |
|-----|-------------|---------|-----------|------|-----|
| H21 | 75.8 | 15.3 | 5.6 | 3.3 | 0.1 |
| H22 | 76.5 | 14.7 | 5.6 | 3.0 | 0.1 |
| H23 | 77.3 | 14.3 | 5.4 | 2.9 | 0.1 |

問 27 学校に持って行くものは、前日にきちんと用意しますか。

| | 用意する | どちらかといえば、用意する | どちらかといえば、用意しない | 用意しない | 無回答 |
|-----|-------------|---------------|----------------|-------|-----|
| H21 | 34.9 | 27.2 | 18.1 | 19.7 | 0.1 |
| H22 | 32.6 | 28.5 | 19.7 | 19.1 | 0.2 |
| H23 | 32.1 | 28.5 | 20.7 | 18.5 | 0.1 |

問 28 学校のある日、家でどのくらいテレビやビデオをみたり、テレビゲームをしますか。

| | 3時間以上 | 2時間以上、3時間より少ない | 1時間以上、2時間より少ない | 30分以上、1時間より少ない | ほとんどしない | 無回答 |
|-----|-------------|----------------|----------------|----------------|---------|-----|
| H21 | 34.2 | 24.4 | 24.5 | 11.4 | 5.4 | 0.2 |
| H22 | 33.1 | 23.5 | 24.5 | 12.6 | 6.0 | 0.2 |
| H23 | 30.1 | 23.5 | 25.5 | 13.4 | 7.1 | 0.3 |

問 29 学校が休みの日、家でどのくらいテレビやビデオをみたり、テレビゲームをしますか。

| | 3時間以上 | 2時間以上、3時間より少ない | 1時間以上、2時間より少ない | 30分以上、1時間より少ない | ほとんどしない | 無回答 |
|-----|-------|----------------|----------------|----------------|---------|-----|
| H21 | 50.3 | 22.1 | 16.5 | 6.4 | 4.3 | 0.2 |
| H22 | 49.0 | 21.8 | 17.0 | 6.8 | 5.2 | 0.2 |
| H23 | 47.3 | 22.1 | 17.5 | 7.7 | 5.2 | 0.3 |

問 30 月に何さつぐらい本（マンガ・雑誌をのぞく）を読みますか。 [*31冊以上の回答は集計から除外]

| | 0冊 | 1～3冊 | 4～6冊 | 7～9冊 | 10冊以上 | 無回答 | 平均冊数 *無回答を除く |
|-----|------|------|------|------|-------|-----|-----------------|
| H21 | 35.6 | 44.9 | 9.3 | 2.2 | 7.1 | 0.8 | 2.4 |
| H22 | 32.9 | 47.9 | 9.7 | 2.1 | 6.2 | 1.2 | 2.3 |
| H23 | 33.3 | 47.3 | 9.3 | 2.0 | 6.8 | 1.3 | 2.4 |

【国語】

問 31 わからない言葉があるときは国語辞典（電子辞書をふくみます）を使いますか。

| | よく使う | どちらかといえば、よく使う | どちらかといえば、あまり使わない | あまり使わない | 無回答 |
|-----|------|---------------|------------------|---------|-----|
| H21 | 25.5 | 30.6 | 21.9 | 21.9 | 0.1 |
| H22 | 25.3 | 32.4 | 21.2 | 21.0 | 0.2 |
| H23 | 25.2 | 32.1 | 21.4 | 21.0 | 0.2 |

問 32 日常生活の中で、自分の思いや考えを積極的に話そうとしていますか。

| | 話そうとしている | どちらかといえば、話そうとしている | どちらかといえば、話そうしていない | 話そうしていない | 無回答 |
|-----|----------|-------------------|-------------------|----------|-----|
| H21 | 23.3 | 41.3 | 24.9 | 10.4 | 0.1 |
| H22 | 25.6 | 40.7 | 23.3 | 10.1 | 0.2 |
| H23 | 25.3 | 42.1 | 23.4 | 9.0 | 0.2 |

問 33 日記を書くなど、自分の思いや考えを文章に書こうとしていますか。

| | 書こうとしている | どちらかといえば、書こうとしている | どちらかといえば、書こうしていない | 書こうしていない | 無回答 |
|-----|----------|-------------------|-------------------|----------|-----|
| H21 | 11.6 | 14.8 | 20.5 | 52.9 | 0.1 |
| H22 | 11.0 | 13.8 | 21.6 | 53.3 | 0.2 |
| H23 | 11.0 | 14.0 | 22.6 | 52.3 | 0.2 |

【社会】

問 34 わからない地名に出会ったら、自分で地図帳などを使って調べますか。

| | 調べようとしている | どちらかといえば、調べようとしている | どちらかといえば、調べようしていない | 調べようしていない | 無回答 |
|-----|-----------|--------------------|--------------------|-----------|-----|
| H21 | 12.4 | 23.0 | 28.2 | 36.3 | 0.1 |
| H22 | 12.8 | 22.8 | 28.9 | 35.3 | 0.2 |
| H23 | 14.9 | 25.1 | 28.6 | 31.2 | 0.2 |

問 35 歴史上の人物やできごとをあつかっている本を読むことは好きですか。

| | すきだ | どちらかといえば、すきだ | どちらかといえば、すきではない | すきではない | 無回答 |
|-----|------|--------------|-----------------|--------|-----|
| H21 | 22.5 | 26.4 | 25.2 | 25.8 | 0.1 |
| H22 | 22.4 | 26.5 | 24.9 | 26.0 | 0.2 |
| H23 | 23.0 | 26.3 | 25.4 | 25.0 | 0.2 |

問 36 社会のできごとやニュースに関心がありますか。

| | 関心がある | どちらかといえば、 関心がある | どちらかといえば、 関心がない | 関心がない | 無回答 |
|-----|-------|--------------------|--------------------|-------|-----|
| H21 | 31.1 | 42.5 | 17.5 | 8.8 | 0.1 |
| H22 | 28.9 | 40.7 | 19.4 | 10.7 | 0.2 |
| H23 | 26.3 | 41.9 | 21.0 | 10.5 | 0.3 |

【数学】

問 37 数学の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きですか。

| | すきだ | どちらかといえば、 すきだ | どちらかといえば、 すきではない | すきではない | 無回答 |
|-----|------|------------------|---------------------|--------|-----|
| H21 | 10.8 | 22.1 | 34.9 | 32.0 | 0.2 |
| H22 | 11.6 | 22.7 | 34.4 | 31.0 | 0.2 |
| H23 | 12.3 | 23.5 | 35.3 | 28.7 | 0.2 |

問 38 問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか。

| | 考えようとしてい る | どちらかといえば、考 えようとしている | どちらかといえば、考 えようとしていない | 考えようとしてい ない | 無回答 |
|-----|---------------|------------------------|-------------------------|----------------|-----|
| H21 | 12.2 | 23.0 | 31.9 | 32.7 | 0.2 |
| H22 | 12.9 | 24.3 | 32.0 | 30.6 | 0.2 |
| H23 | 13.2 | 24.6 | 33.7 | 28.3 | 0.2 |

問 39 問題が解けなかったとき、なぜ解けなかったかをふり返って考えようとしていますか。

| | 考えようとしてい る | どちらかといえば、考 えようとしている | どちらかといえば、考 えようとしていない | 考えようとしてい ない | 無回答 |
|-----|---------------|------------------------|-------------------------|----------------|-----|
| H21 | 26.7 | 35.1 | 20.6 | 17.3 | 0.2 |
| H22 | 28.3 | 34.3 | 20.3 | 16.9 | 0.2 |
| H23 | 27.3 | 36.6 | 20.5 | 15.3 | 0.3 |

【理科】

問 40 理科の勉強で、実験や観察をすることは好きですか。

| | すきだ | どちらかといえば、 すきだ | どちらかといえば、 すきではない | すきではない | 無回答 |
|-----|------|------------------|---------------------|--------|-----|
| H21 | 40.0 | 31.9 | 16.3 | 11.6 | 0.2 |
| H22 | 42.2 | 31.2 | 15.0 | 11.3 | 0.2 |
| H23 | 42.5 | 32.5 | 14.9 | 9.9 | 0.2 |

問 41 理科の勉強で、わからないことや興味・関心をもったことについて自分から調べようとしていますか。

| | 調べようとしてい る | どちらかといえば、調 べようとしている | どちらかといえば、調 べようとしていない | 調べようとしてい ない | 無回答 |
|-----|---------------|------------------------|-------------------------|----------------|-----|
| H21 | 12.7 | 28.7 | 34.4 | 24.0 | 0.2 |
| H22 | 14.0 | 29.2 | 33.5 | 23.0 | 0.3 |
| H23 | 14.7 | 29.4 | 35.5 | 20.2 | 0.2 |

問 42 自然や理科についての読み物や図かん、テレビ番組などをよくみていますか。

| | よくみている | どちらかといえば、 よくみている | どちらかといえば、 あまりみしていない | あまりみしていない | 無回答 |
|-----|--------|---------------------|------------------------|-----------|-----|
| H21 | 13.3 | 22.1 | 31.9 | 32.5 | 0.2 |
| H22 | 15.6 | 22.9 | 30.7 | 30.5 | 0.3 |
| H23 | 13.3 | 21.7 | 32.0 | 32.6 | 0.3 |

【英語】

問 43 テレビやラジオで英語の番組をみたり聞いたりするなど、家で英語の勉強をすることはありますか。

| | ある | どちらかといえば、 ある | どちらかといえば、 ない | ない | 無回答 |
|-----|------|-----------------|-----------------|-------------|-----|
| H21 | 14.8 | 20.3 | 27.7 | 37.0 | 0.2 |
| H22 | 16.6 | 20.1 | 27.1 | 35.8 | 0.3 |
| H23 | 17.5 | 21.5 | 26.2 | 34.6 | 0.3 |

問 44 わからない言葉があるときは、英語の辞書（電子辞書をふくみます）を使いますか。

| | よく使う | どちらかといえば、 よく使う | どちらかといえば、 あまり使わない | あまり使わない | 無回答 |
|-----|-------------|-------------------|----------------------|---------|-----|
| H21 | 29.2 | 24.3 | 17.6 | 28.7 | 0.2 |
| H22 | 30.1 | 24.4 | 17.9 | 27.4 | 0.3 |
| H23 | 30.6 | 25.2 | 16.9 | 27.0 | 0.3 |

問 45 もし、道で出会った外国人に英語で話しかけられたら、どうしますか。

| | 何とか英語で話そ うとする | 日本語で話そうと する | だまっている | その場からにげる | 無回答 |
|-----|------------------|----------------|--------|----------|-----|
| H21 | 67.3 | 14.9 | 4.1 | 13.2 | 0.5 |
| H22 | 68.0 | 15.6 | 3.7 | 12.1 | 0.6 |
| H23 | 70.3 | 14.7 | 3.7 | 10.8 | 0.5 |

